

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2022年度

2023年3月

研究部担当理事校

立正大学図書館

目 次

《2022年度研究部活動報告》	
1. 運営委員会	1
2. 運営委員・委託業者合同会議	2
3. 研修委員会	3
4. 研修会	4
5. オンデマンド研修	4
《2022年度研修会活動報告》	
1. 初任者研修	5
2. PB (Project/Problem Based) 研修	5
3. スキルアップ研修	5
(1) 和漢古典籍コース	6
(2) 学習環境コース	6
(3) RDA3Rコース	6
4. 研修報告大会	6
《研究講演会》	7
《研修会》	
2022年度研修会の開催について	11
《2022年度研修委員会報告》(研修委員長 和田 貴敏)	13
《オンデマンド研修》	
1. 「雑誌コース」のご案内	16
2. 「雑誌コース」実施要項	17
3. 「図書コース」のご案内	20
4. 「図書コース」実施要項	21
《2022年度東地区部会研究部決算報告・監査報告書》	24
《2023年度東地区部会研究部活動計画(案)》	25
《2023年度東地区部会研究部予算(案)》	26
《関係規程》	
研究部細則	27
研究分科会申し合わせ	29
研修委員会規則	32
《別紙1：2022研修報告大会資料》	
《別紙2：2022研究講演会資料》	
《別紙3：2022研修会資料》	

《2022 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

委 員	細本 有理子	（成蹊大学）
	藤 順一	（早稲田大学）
	久留宮 健	（法政大学）
	仲田 隆美	（法政大学）
	田邊 豊	（亜細亜大学）
	西條 智架	（慶應義塾大学）
	飯泉 慎也	（専修大学）
	杉山 友美	（関東学院大学）
	森 浩生	（玉川大学）

研究部担当理事校 立正大学

第1回 2022年4月22日(金) 10:00～11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度運営委員について
2. 2021 年度研究部決算報告について
3. 2022 年度研究部予算と研究部活動計画について
4. 2022 年度研修分科会特別助成金申請について
5. 2021 年度研究分科会活動報告について
6. 2021 年度研修委員会活動報告について
7. 2022 年度第 1 回運営委員・研修委託業者合同会議について
8. 2022 年度研修会について
9. 2022 年度東地区部会研究講演会について
10. 2022 年度オンデマンド研修について
11. 2022 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
12. その他

第2回 2022年5月27日(金) 10:00～11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度研修会体制について
2. 2022 年度特別助成金について
3. 2022 年度東地区部会研究講演会について
4. 2022 年度研オンデマンド研修（雑誌コース）について（予定）
5. 2022 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
6. 運営委員交代について
7. 2022 年度第 1 回運営委員・研修委託業者合同会議について
8. その他

第3回 2022年7月14日(木) 10:00～11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度東地区部会研究講演会について
2. 2022 年度オンデマンド研修（雑誌コース）について
3. 2021 年度東地区部会研究部報告書について
4. 2022 年度研修体制実施状況について
5. 2022 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
6. その他

第4回 2022年10月25日(火) 10:00~11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2021 年度東地区部会研究部報告書について
2. 2022 年度オンデマンド研修（図書・雑誌コース）について
3. 研修委員会実施研修会報告（10/17（月））
4. 私立大学図書館協会東地区部会研究部マニュアル改訂について
5. 2022 年度研修会報告大会について
6. 私立大学図書館協会東地区部会研究部 YouTube チャンネル作成について
7. 第2回運営委員会・研修委託業者合同会議について
8. 2022 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
9. その他

第5回 2023年3月16日(木) 10:00~11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度オンデマンド研修報告
2. 2022 年度研修会報告
3. 2022 年度研修報告大会報告
4. 2022 年度中間決算報告、2023 年度予算報告
5. 2023 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
6. 2023 年度以降の研修会体制について
7. 2023 年度研究部主催研究講演会調整状況報告
8. 次期（2023-24）研究部運営委員会体制、業務分担について
9. その他

2. 運営委員・委託業者合同会議

第1回 2022年5月27日(金) 11:00~12:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度研究部活動計画について
2. 2022 年度研修体制について
3. 2022 年度研修5月報告（大学図書館支援機構様）
4. 2022 年度研修報告大会について
5. 2022 年度研修報告資料について
6. その他

第2回 2022年11月18日(金) 10:00~11:00 (Web 会議: Zoom)

1. 2022 年度研修体制実施報告（研究部より）
2. 2022 年度研修体制実施報告（大学図書館支援機構様より）

3. 2022 年度研修体制に関する中間評価
4. 2022 年度研修報告大会について
5. 2023 年度研修体制の検討
6. その他

3. 研修委員会

研修委員（任期 2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

委員長 松下 裕 （明治大学）

委員 丸山 雄太 （大正大学）

南川 真貴子 （中央大学）

篠田 一成 （早稲田大学）

今井 星香 （慶應義塾大学）

吉水 拓哉 （立正大学）※事務局（2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

オブザーバー 古賀理恵子（慶應義塾大学）

第 1 回 2022 年 4 月 22 日（金）13：00 ～ 15：00（Web 会議：Zoom）

1. 2022 年度研修委員会について
2. 2022 年度研修会のテーマについて
3. その他

第 2 回 2022 年 5 月 23 日（月）15：00 ～ 17：00（Web 会議：Zoom）

1. 2022 年度研修会の共有ツールについて
2. 2022 年度研修会のテーマについて
3. その他

第 3 回 2022 年 6 月 23 日（木）10：00 ～ 12：00 於：立正大学

1. 2022 年度研修会のテーマについて
2. その他

第 4 回 2022 年 7 月 26 日（火）15：00～17：00 於：早稲田大学

1. 2022 年度研修会のテーマについて
2. その他

第 5 回 2022 年 9 月 20 日（火）15：00～17：00 於：明治大学

1. 2022 年度 研修会について
2. その他

第 6 回 2022 年 12 月 8 日（木）15：30～17：30（Web 会議：Zoom）

1. 2022 年度 研修会について（振り返り）
2. 2023 年度研修会について

3. その他

第7回 2023年3月6日(月) 10:00~12:00 於:立正大学

1. 2023年度研修会テーマについて
2. その他

4. 研修会

日時 2022年10月17日(月) 13:00~16:00 (オンライン開催)

参加者 107名 (オンデマンド視聴 435回(11/1~11/30))

テーマ 「電子ブックの活用を考える」

講師 文教大学附属図書館 蔵本 祐史氏

慶應義塾大学メディアセンター本部 藤本 優子氏

NPO法人HON.jpの理事長 鷹野 凌氏

国立国会図書館 利用者サービス部サービス企画課 福林 靖博氏

5. オンデマンド研修

①「雑誌コース」の開講

実施期間:2022年7月28日(木)~10月26日(水)

受講者数:35名(うち34名修了)

②「図書コース」の開講

実施期間:2022年11月3日(木)~2023年2月1日(水)

受講者数:21名(うち20名修了)

《2022 年度研修会活動報告》

新たな研修体制として、2021 年度まで実施してきた研修分科会、研究分科会は、その内容と体制を見直し、大きく 3 つの研修体制（初任者研修、PB 研修、スキルアップ研修）として 2022 年度より開始した。実施に当たっては大学図書館支援機構に業務を委託している。

1. 初任者研修

これまでの研修分科会を踏襲した内容で実施。主に図書館勤務初年次職員を中心に大学図書館の様々な業務を知る場とする。オンライン形式（状況に応じて対面）で実施。24 名受講。

- 第 1 回 2022 年 6 月 3 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：VUCA の時代に育む企画力～私立大学図書館でのキャリア形成に向けて
- 第 2 回 2022 年 7 月 1 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：デジタル化資料送信サービス
- 第 3 回 2022 年 8 月 5 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：バーチャルライブラリーツアー動画試写会
- 第 4 回 2022 年 10 月 28 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：大学図書館の連携
- 第 5 回 2022 年 11 月 18 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：コロナ以降の図書館サービス
- 第 6 回 2022 年 12 月 9 日（金）（実施形式：オンライン）
テーマ：大学図書館職員の DX～図書館は利用者と情報資源をつなぐ～

2. PB (Project/Problem Based) 研修

参加者が持っている業務に関する問題・課題を参加者同士で共有し、ファシリテーターと共に解決方法を習得し、実践を通して解決・改善していける場とする。オンライン形式（状況に応じて対面）で実施。9 名受講。

- 第 1 回 2022 年 5 月 20 日（金）（実施形式：オンライン）
- 第 2 回 2022 年 6 月 24 日（金）（実施形式：オンライン）
- 第 3 回 2022 年 7 月 22 日（金）（実施形式：オンライン）
- 第 4 回 2022 年 10 月 21 日（金）（実施形式：オンライン）
- 第 5 回 2022 年 11 月 11 日（金）（実施形式：オンライン）
- 第 6 回 2022 年 12 月 2 日（金）（実施形式：オンライン）

3. スキルアップ研修

図書館業務個別の問題・課題に対して、発展的に学び、知見とノウハウを深めていく。更に、主体的に問題を解決し、効果的に成果を公開する能力を身につける場とする。2022 年度は和漢古典籍コース、学習環境コース、RDA3R コースの 3 コースで開催する。オンライン形式（状況に応じて対面）で実施。

(1) 和漢古典籍コース (6名受講)

- 第0回 2022年5月23日(月) (実施形式: オンライン)
- 第1回 2022年6月20日(月) (実施形式: 対面)
- 第2回 2022年7月11日(月) (実施形式: 対面)
- 第3回 2022年10月17日(月) (実施形式: 対面)
- 第4回 2022年11月21日(月) (実施形式: 対面)
- 第5回 2022年12月19日(月) (実施形式: 対面)
- 第6回 2023年1月23日(月) (実施形式: 対面)
- 第7回 2023年2月20日(月) (実施形式: 対面)

(2) 学習環境コース (8名受講)

- 第1回 2022年6月17日(金) (実施形式: オンライン)
- 第2回 2022年7月15日(金) (実施形式: オンライン)
- 第3回 2022年9月16日(金) (実施形式: オンライン)
- 第4回 2022年10月7日(金) (実施形式: オンライン)

(3) RDA3R コース (5名受講)

- 第1回 2022年6月10日(金) (実施形式: オンライン)
- 第2回 2022年7月8日(金) (実施形式: オンライン)
- 第3回 2022年9月9日(金) (実施形式: オンライン)
- 第4回 2022年9月30日(金) (実施形式: オンライン)

4. 研修報告大会 (研修報告大会資料は別紙参照)

2022年12月16日(金) 13:30~16:30

方 法: オンライン開催・オンデマンド配信 (立正大学)

録画映像公開期間: 2023年1月16日(月) ~3月31日(金)

参加者: 84名

報 告: 研修報告

- ①初任者研修
- ②PB (Project/Problem Based) 研修
- ③スキルアップ研修 (和漢古典籍コース)
- ④スキルアップ研修 (学習環境コース)
- ⑤スキルアップ研修 (RDA3R コース)

《研究講演会》（研究講演会資料は別紙参照）

2022年3月17日

2022年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究講演会開催

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学

例年、私立大学図書館協会東地区部会研究部主催の研究講演会は、集合形式で私立大学図書館協会東地区部会総会と同日・同会場にて行われていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点と、役員校の業務負担軽減のため、昨年度より、集合形式からオンライン・オンデマンド形式の講演会を実施しております。昨年度の開催では、オンライン・オンデマンド形式での参加者（視聴者）が集合形式での参加者を上回り、アンケート結果では、遠方からでも移動することなく参加できるといった利点等、オンライン・オンデマンド形式での実施を望む声が多く聞かれました。更に、オンデマンド形式にすることにより、東地区部会の加盟校のみならず、西地区部会の加盟校の方々にも講演を視聴いただく機会を設けることができました。これらの結果より、2022年度もオンライン・オンデマンド形式での開催とさせていただきますことに決定いたしました。

開催方式：オンライン・オンデマンド形式併用（日程を決めてオンラインで講演会を開催し、講演会を録画・編集し、期間限定で所属館より閲覧可能とする）

開催日時：6月10日（金）13:30～17:00

録画映像公開期間：6月17日（金）～7月31日（日）

開催テーマ：大学図書館が担う教育のためのインストラクショナルデザイン（仮題）

1. 開会の辞（約2分）

司会者（研究部運営委員）

立正大学図書館 佐々木綾花

2. 挨拶（約5分）

研究部担当理事校

立正大学図書館長 小浜ふみ子

3. 講演

1) インストラクショナルデザインとは（約45分）

早稲田大学教授 向後千春 氏

2) 大学図書館でインストラクショナルデザインが必要とされる背景（約45分）

青山学院大学教授 野末俊比古 氏

3) 大学図書館でのインストラクショナルデザイン活用事例 (約 45 分)

九州大学図書館 兵藤健志 氏、星子奈美 氏

4. 質疑応答

各講演での質疑応答 (約 30 分)

講演会の準備・実施方法

- (1) 案内は **Forms** を利用して受け付ける。
- (2) 当日参加希望者 (**Forms** から申請した方) に当日の **URL** メールでお知らせする。
- (3) 上記 1. ～ 4. は、**ZOOM** で実施し、録画する。
- (4) 講演は録画し、録画した映像を編集 (タイトル等の付加等、必要に応じて) し、**YouTube** にて限定公開する。
- (5) 限定公開した **URL** を私立大学図書館協会加盟校にメールにてお知らせする。
- (6) 講演の感想・意見を **Forms** でお知らせして収集する。

事務局

私立大学図書館協会東地区部会

研究部担当理事校 立正大学図書館

事務局 (島田・水上・佐々木)

E-mail : eastlib@ris.ac.jp

以上

大学図書館が担う 教育のための インスタラクショナル デザイン

1) インストラクショナルデザインとは

早稲田大学教授 向後 千春 氏

2) 大学図書館でインスタラクショナルデザインが必要とされる背景

青山学院大学教授 野末 俊比古 氏

3) 大学図書館でのインスタラクショナルデザイン活用事例

九州大学附属図書館 兵藤 健志 氏
星子 奈美 氏

2022年6月10日(金)13:30~17:00

オンライン・オンデマンド形式併用

録画映像公開期間

2022年6月17日(金)~7月31日(日)

※視聴用URLは別途、メールにてお知らせします



お申込みはこちら

<https://forms.office.com/r/am6490RVnm>

大学図書館が担う教育のための インストラクショナルデザイン

6月10日(金) 13:30~17:00 録画映像公開期間 6月17日(金)~7月31日(日) ※オンライン・オンデマンド形式併用

大学図書館の機能として「教育活動への直接の関与」*が明確に求められるようになって10年以上が経過しました。この間、教育のパラダイムシフトやコロナ禍を経て、新たな学びが模索されています。本講演を通して、大学図書館がインストラクショナルデザインを踏まえた教育を行うことの必要性や背景、事例を知っていただき、今後の様々な活動の参考としていただければ幸いです。

* 文部科学省「大学図書館の整備について（審議のまとめ）-変革する大学にあって求められる大学図書館像-」、2010年



1. 開会の辞 13:30

司会者 研究部担当理事校 立正大学図書館 佐々木 綾花

2. 挨拶 13:35

研究部担当理事校 立正大学図書館長 小浜 ふみ子

3. 講演 13:40 ※テーマは当日までの調整により若干変更になる可能性があります

1) インストラクショナルデザインとは (約45分)

早稲田大学教授 向後 千春 氏

早稲田大学人間科学学術院教授。博士（教育学）（東京学芸大学）。専門は教育工学、教育心理学、アドラー心理学。著書に『世界一わかりやすい教える技術』（2020）、『伝える文章を書く技術』（2019）、『上手な教え方の教科書』（2015）、『人生の迷いが消える アドラー心理学のススメ』（2016）、『アドラー“実践”講義』（2014）、『統計学がわかる』（2007）、『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』（2008）、『身につく入門統計学』（以上、技術評論社、2016）、『教師のための教える技術』（明治図書出版、2014）など。

2) 大学図書館でインストラクショナルデザインが必要とされる背景 (約45分)

青山学院大学教授 野末 俊比古 氏

青山学院大学教育人間科学部教授、図書館長、アカデミックライティングセンター長、革新技術と社会共創研究所副所長。現在、日本教育情報学会理事、日本図書館協会図書館利用教育委員会委員長なども務める。専門分野は図書館情報学、教育情報学。著書に『情報の達人』（DVD+テキスト、全3巻、紀伊國屋書店、テキスト執筆・共同監修、2007）、『専門資料論』（新訂版、日本図書館協会、共編著、2010）、『新しい時代の図書館情報学』（新訂版、有斐閣、分担執筆、2016）など。

3) 大学図書館でのインストラクショナルデザイン活用事例 (約45分)

九州大学附属図書館 兵藤 健志 氏

2003年4月より九州大学附属図書館に勤務。相互利用、参考調査、情報リテラシー教育支援などに従事。インストラクショナルデザインをテーマとする研修など、図書館職員の学習支援スキル向上を目的とした研修を度々企画してきた。

九州大学附属図書館 星子 奈美 氏

2002年4月より九州大学附属図書館に勤務。機関リポジトリの運用や、キャンパス移転に伴う新中央図書館開館準備等の業務に携わる。2018年10月より、学習・研究支援係長として、図書館の情報リテラシー教育支援に係る講習会や、図書館TA(Cuter)の大学院生と協働した教育支援に従事している。

4. 質疑応答 16:25 (約30分)



《研修会》（研修会資料は別紙参照）

私大図協・東・研・2022-51

2022年9月20日

私立大学図書館協会東地区部会
加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長 小浜 ふみ子
研究部研修委員会
委員長 松下 裕
[公印省略]

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2022 年度研修会の開催について（お知らせ）

拝啓 時下、貴台にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます

さて、標記研修を下記の通りオンラインにて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

つきましては、この機会に多くの方にご参加いただきたく、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

テーマ：電子ブックの活用を考える

講演：

- ・電子図書館制度の導入に関する講演
文教大学 蔵本 祐史 様
- ・DDA（需要駆動型購入方式）に関する講演
慶應義塾大学 藤本 優子 様
- ・デジタル出版市場の現状と流通事情 について
NPO 法人 HON.jp 理事長 鷹野 凌 様
- ・国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスとその周辺
国立国会図書館 福林 靖博 様

1. 日 時：2021年10月17日（月） 13：00 ～ 16：00（Zoom ウェビナー方式）
 2. 対 象：私立大学図書館協会東地区部会加盟大学図書館に勤務する専任職員
 3. 定 員：480名
- ※1 大学複数名の申込も可能です。必ず1名ずつお申し込みをお願い申し上げます。
- ※申込者が多数の場合、別機関の方を優先させていただく場合がございます。
4. 費 用：受講無料
 5. 動 画：オンデマンドによる動画配信（申込不要）
録画公開期間：11月1日（火）～11月30日（水）
視聴方法については改めてご連絡いたします。
 6. 参加申込：<https://forms.office.com/r/6HUjSpiuvS>
※申込後、「受付完了メール」が自動配信されます。

【注意事項】

1. 申込期間：9月26日（月）～10月14日（金） 17:00 まで
2. 研修中の録音および録画はご遠慮ください。
3. ご提供いただいた個人情報は、当研修会の実施に関する連絡等に利用します。
取得した個人情報は、上記の目的以外で利用する事はありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

以 上

連絡先：私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館 品川学術情報課（吉水）
Tel：03-3492-6615 Fax：03-5487-3349
E-mail：eastlib@ris.ac.jp

《2022 年度研修委員会報告》

2022 年度研修委員会活動報告

東地区部会研究部研修委員会
委員長 松下 裕 (明治大学)

1. 研修委員 (任期 2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

委員長 松下 裕 (明治大学)
委員 丸山 雄太 (大正大学)
南川 真貴子 (中央大学)
篠田 一成 (早稲田大学)
今井 星香 (慶應義塾大学)
吉水 拓哉 (立正大学) ※事務局 (2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)
オブザーバー 古賀理恵子 (慶應義塾大学)

2. 委員会活動概況

年間 7 回(4、5、6、7、9、12、3 月)の委員会を開催した。

初回には今年度研究部の活動について、研究部担当理事校の立正大学島田課長より説明があった。前年度研修委員会が検討したテーマ案を参考とし、「電子ブック」をテーマとすることを確認した。委員会開催についてはオンラインを中心とし、議題に応じて対面での開催とすることとした。

第 2 回 (5 月) および第 3 回 (6 月) は具体的なプログラムの検討に入り、各委員による情報収集、課題抽出等の意見交換を行い、プログラムの絞り込みを進めた。

第 4 回 (7 月) にはプログラム候補を確定した。今年度は前年度のように基調講演を設けず、電子ブックに関する様々な角度からの講演で構成することで、参加館に広く興味を持っていただき、活用が促進できるプログラムとした。プログラム候補に従って、9 月までに講師の内諾を取り、当日の役割分担、リハーサル日程等の調整を進めることとした。

第 5 回 (9 月) では、講師から内諾状況をもとにプログラムの最終確定、役割分担の確認、当日の進行方法についての意見交換を行い、リハーサルに向けて各自の担当業務の準備を進めることとした。

また、研修委員会の開催と並行して、情報共有ツールを活用し、シナリオ、スライド、各館周知内容の確認、アンケートフォーマット等の検討も同時に進めた。

10 月 3 日 (月) にリハーサルを実施、講師への説明と当日の進行や研修会終了後のオン

デマンド視聴期間の確認等を行、10月17日(月)の研修会当日を迎えた。

研修会終了後は、オンデマンド視聴結果を含めた研修実施の概況、アンケート結果を各委員が確認し、次年度のテーマの検討を行い、第6回(12月)では、研修会の振り返りと次年度テーマおよび研修会の実施方法等の意見交換を行った。

第7回(3月)は、今年度アンケート結果から抽出したテーマの絞り込みについて意見交換を行い、多くの大学で共通に興味があると思われる、「文献検索・入手」を中心としたプログラムを選定し、加えて基調講演としての位置付けと考えられる講師を絞り、早速講師の依頼等の打診をすることとした。

3. 2022 年度研修会

(1) 実施概要

- ・テーマ：「電子ブックの活用を考える」
- ・日程：2022年10月17日(月)13:00~16:00
- ・オンライン開催
- ・参加者数：107名(オンデマンド視聴435回(11/1~11/30))
- ・参加役員：松下、丸山、南川、篠田、今井
古賀(オブザーバー)、事務局：吉水

(2) 開催趣旨/概要

電子ブックについては、新型コロナウイルス感染症拡大による在宅授業等の制限が行われる以前から普及が進んでいるが、コロナをきっかけにさらなる普及、そして活用が進んでいることと思われる。これから導入を検討される図書館、またすでに導入されている図書館において、さまざまな事例、展望に触れることで、各館での発展の一助としたいと企画した。テーマは『電子ブックの活用を考える』と題し、「大学図書館での導入事例」、「DDAの取組」、「出版・流通業界事情」、そして「国会図書館の取組」と4つの角度からの講演とした。

(3) タイムスケジュール及び講演内容

10月17日(月)

13:00 開会挨拶・事務連絡

13:07 「電子図書館サービス LibrariE 活用事例」

文教大学附属図書館 蔵本 祐史氏

13:42 「慶應義塾大学における DDA の取り組み」

慶應義塾大学メディアセンター本部 藤本優子氏

14:30 「デジタル出版市場の現状と流通事情について」

NPO 法人 HON.jp の理事長 鷹野 凌氏

15:05 「国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスとその周辺」

15:55 閉会挨拶

(4) 特記事項

- ・研修会実施日程は、前年のスケジュールを参考にし、図書館総合展等他のセミナーとの重複を回避することを考慮した。
- ・事務局である立正大学に研修会の会場と端末等の設備をご提供いただいた。また、動画編集・HP掲載においてもご協力いただいた。
- ・私立大学図書館協会が契約した Zoom Webinar (同時アクセス上限 500)のアカウントを借用して実施した。
- ・昨年に引き続きオンライン開催としたが、申込件数、実参加件数は概ね好調であり、特にアンケート回収率が高かった。
- ・アンケート結果からは、開催方式についてオンライン形式が参加しやすいとの回答が多く見られた。

4. 2023 年度研修会

研修会参加者のアンケート内容を基に委員で意見交換を行い、規模を問わず参加しやすいという点に着目をし、次年度は「文献調査・入手」をテーマとして進めることとした。

研修委員会委員は次年度も継続となるが、事務局が交代となるため、引継ぎが行われたことを確認した。

なお、早稲田大学から 2023 年度から委員の交代の申し出があった。

5. その他 (次年度以降に向けた今後の課題等)

今期の委員会は、コロナによる感染拡大防止等の観点からオンラインを中心とし、研修会準備、リハーサル等内容に応じて対面で開催した。

前年に引き続き、情報共有の方法が課題となり、当初は Slack を活用し、意見交換、情報共有、資料提示等の場とした。しかしながら無料版には保存期間等の制限があり、資料の保存など次年度の記録としては使えないことが明らかになった。そのため研修委員校である慶應義塾大学のご厚意で Google ドライブのシステムを一時的に利用させて頂いた。特に研修会シナリオの作成にあたっては、各委員の資料更新が頻繁に行われることから、メールによるファイル共有ではバージョン管理が不向きであり、研修委員会としてのストレージサービスの整備は不可欠と考える。次年度予算の配慮をお願いしたい。

研修会アンケートでも、オンラインによる開催を望む声が多く寄せられた。オンラインでの開催方法を工夫し、より充実した研修会の開催方法を検討していきたい。

以上

《オンデマンド研修》

私大図協・東・研・2022-38

2022年7月1日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長 小浜 ふみ子
[公印省略]

2022年度東地区部会オンデマンド研修「雑誌コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度も東地区部会ではオンデマンド研修「雑誌コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (<https://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2022/>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講期間 2022年7月28日(木)～2022年10月26日(水)の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講対象 (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
(2) 所属機関長の承認を得ていること
4. 申込方法 URLより申込フォームにアクセスいただき必要事項をご入力ください。
申込フォーム：<https://forms.office.com/r/e7a8MN2UWT>
5. 締め切り **2022年7月20日(水)**
6. 問い合わせ 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館（担当：島田、水上、佐々木）
Tel 048-536-6017
E-mail eastlib@ris.ac.jp

以上

2022 年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「雑誌コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第1週～第4週： 雑誌業務概説

雑誌の定義と雑誌業務の概要を説明します

第5週～第8週： 総合目録データベースの仕組みと所蔵登録

NACSIS-CAT のデータベースの仕組みと、所蔵登録について説明します

第9週～第12週： 雑誌書誌登録

雑誌の書誌作成・修正の考え方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約8時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッションなどが含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2022年7月28日(木)～10月26日(水)の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講対象者

- (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
- (2) 所属機関長の承認を得ている者

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

受講希望者は以下 URL より申込フォームにアクセスいただき必要事項をご入力ください。

申込フォーム：<https://forms.office.com/r/e7a8MN2UWT>

申込期限 2022年7月20日(水)

12. 受講者の決定

受講者の決定については7月中旬に各所属機関長（図書館長等）と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

立正大学図書館（担当：島田、水上、佐々木）

Tel 048-536-6017

E-mail eastlib@ris.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行される ID やパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

オンデマンド研修

2022年7月28日(木)～10月26日(水)

25名
限定

第1週～第4週

雑誌業務概説

第5週～第8週

総合目録データベースの仕組みと所蔵登録

第9週～第12週

雑誌書誌登録

受講希望者はQRコードまたは以下のURLよりお申し込みください。



申込期限 2022年7月20日(水)

<https://forms.office.com/r/e7a8MN2UWT>

問い合わせ先 私立大学図書館協会 東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館 E-mail: eastlib@ris.ac.jp

2022年9月28日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館
館長 小浜 ふみ子
[公印省略]

2022年度東地区部会オンデマンド研修「図書コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度も東地区部会ではオンデマンド研修「図書コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (<https://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2022/>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講期間 2022年11月3日(木)～2023年2月1日(水)の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講条件 (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
(2) 所属機関長の承認を受けていること
4. 申込方法 URLより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。
申込フォーム：<https://forms.office.com/r/OuK6Rppspj>
5. 締め切り **2022年10月21日(金)**
6. 問い合わせ 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
立正大学図書館（担当：島田、水上、佐々木）
Tel 048-536-6017
E-mail eastlib@ris.ac.jp

以上

2022 年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「図書コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第2週～第4週： 目録の基礎 目録の基本的な考え方を学びます

第5週～第8週： 和図書の目録 和図書の目録の録り方を説明します

第9週～第12週： 洋図書の目録 洋図書の目録の録り方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約9時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッション等が含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2022年11月3日(木)～2023年2月1日(水)の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講条件

- (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
- (2) 所属機関長の承認を受けていること

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

URL より申し込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。

申込フォーム：<https://forms.office.com/r/0uK6Rppspj>

申込期限 2022年10月21日(金)

12. 受講者の決定

受講者の決定については10月24日(月)以降に選考を行ったうえで、改めて各所属機関長(図書館長等)と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

立正大学図書館(担当:島田、水上、佐々木)

Tel 048-536-6017

E-mail eastlib@ris.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行されるIDやパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。(但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。)

オンデマンド研修

2021年11月4日(木)～2022年2月2日(水)

2021 図書コース
25名限定

申込期限

2021年10月22日(金)

第1週～第4週：目録の基礎

第5週～第8週：和図書の目録

第9週～第12週：洋図書の目録

受講希望者は以下のURLまたはQRコードより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。

申込フォーム <https://forms.office.com/r/ZjSjeNKQQe>

問い合わせ先 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 立正大学図書館
E-mail: eastlib@ris.ac.jp



2022年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部

決算報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	2,499,295	2,499,295	0	2022年度研究部事業予算に対し、前年度繰越金を差引いた額
研究会(報告大会)参加費収入	0	0	0	
研修会参加費収入	0	0	0	
雑収入	500	27	473	預金利息、研修会からの戻入等
小計	2,499,795	2,499,322	473	
前年度繰越金	1,634,305	1,634,305	0	
合計	4,134,100	4,133,627	473	

支出の部

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	150,000	100,000	50,000	講師謝礼(50,000円×2名分)
研究部(報告大会)開催費	0	0	0	2021年度で終了
研究会(交流会)開催費	0	0	0	2021年度で終了
研修活動報告会開催費	150,000	0	150,000	研修報告大会はオンラインにて実施
研修会開催費	150,000	58,630	91,370	研修会開催費他
研修会(地域研修)開催費	0	0	0	
オンデマンド研修費	450,000	469,040	△ 19,040	システム・ネットワーク費
運営委員会費	50,000	26,400	23,600	Zoomアカウント契約費用
運営委員会・研修事業委託業者合同会議開催費	10,000	0	10,000	年2回(5月・11月)オンラインにて実施
分科会助成金	390,000	335,000	55,000	
内訳				
基本助成	90,000	90,000	0	@30,000円×3研修会
割増助成会員	300,000	245,000	55,000	2022年度会員数54名(初任者研修:25名+PB研修:10名+スキルアップ研修:19名)×@5,000円(割増助成金の上限は1団体100,000円)
特別助成金	2,459,100	1,816,432	642,668	
内訳				
研究分科会支援金	0	0	0	2021年度で終了(PB研修、スキルアップ研修に移行)
研修分科会支援金	0	0	0	初任者研修に移行
初任者研修支援金	493,000	493,662	△ 662	IAALより超過分の2円を清算済
PB研修支援金	903,000	607,660	295,340	理事校が講師を務めたため予算額より減少
スキルアップ研修支援金	1,063,100	715,110	347,990	3コース(和漢古典籍・学習環境・RDA)各6回の予定が4回に変更となった
研修委員会費	100,000	0	100,000	
研究部活動費	50,000	0	50,000	研究部活動(運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	0	0	0	
内訳				
研究部報告書	0	0	0	2018年度を以って電子化
研究部用封筒印刷代他	0	0	0	
通信費	25,000	380	24,620	切手代
運営事務費	50,000	4,114	45,886	振込手数料、引継ぎ用USB
小計	4,034,100	2,809,996	1,224,104	
予備費	100,000	0	100,000	
合計	4,134,100	2,809,996	1,324,104	
東地区部会への戻入額	0	1,323,631	△ 1,323,631	
総計	4,134,100	4,133,627	473	

上記のとおり報告いたします。

2023年 3月31日
 私立大学図書館協会東地区部会 研究部担当理事校
 立正大学図書館

2022年度に係る決算報告書及び付属書類について、その信憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2023年4月1日
 私立大学図書館協会東地区部会 監事校
 國學院大學図書館

2023 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画(案)
(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

- (1) 研究活動 (2) 研修活動

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動を行う。年 5 回程度開催。

(2) 運営委員・研修委託事業者合同会議

研修会活動計画、運営その他について協議する。

5 月、11 月下旬～12 月上旬の年 2 回開催。

(3) 研究講演会及び研修活動報告会

- 1) 「研究講演会」の開催。

6 月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

- 2) 「研修活動報告会」の開催。

11 月～12 月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年 8 回程度開催。

(5) 研修会

研修委員会による研修会。

11 月～12 月にオンライン開催・オンデマンド配信にて開催予定。

(6) 研修会活動

これまで実施してきた研修分科会および研究分科会の活動を以下の通り 3 つの研修活動として実施する。

- ①初任者研修

- ②PB (Project/Problem Based) 研修

- ③スキルアップ研修

(7) オンデマンド研修

双方向型のラーニングデザインによるインタラクティブな研修を実施する。

- 1) 「雑誌コース」 7 月下旬～10 月下旬に開講。

- 2) 「図書コース」 11 月初旬～1 月下旬に開講。

(8) 研究部報告書

2022 年度の研究部活動記録を 6 月に発行する。

以上

2023年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部
 予算(案)
 (2023年4月1日～2024年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	23年度予算(A)	22年度予算(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	4,801,500	2,499,295	2,302,205	2016年度より支出に応じた交付
研究会(報告大会)参加費収入	0	0	0	
研修会参加費収入	0	0	0	
雑収入	500	500	0	預金利息等
小計	4,802,000	2,499,795	2,302,205	
前年度繰越金	0	1,634,305	△ 1,634,305	
合計	4,802,000	4,134,100	667,900	

支出の部

科目	23年度予算(A)	22年度予算(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	150,000	150,000	0	講師謝礼等(3名分)
研修報告大会開催費	150,000	150,000	0	
研修会開催費	150,000	150,000	0	研修会開催費他
研修会(地域研修)開催費	0	0	0	
オンデマンド研修費	450,000	450,000	0	システム・ネットワーク費、研修運営費(受講者25名想定)
運営委員会費	150,000	50,000	100,000	オンライン業務環境サービス関連契約費用等(ZOOM、Microsoft365等)
運営委員会・研修事業委託業者合同会議開催費	10,000	10,000	0	年2回(5月・11月)
研修会助成金	390,000	390,000	0	
内訳				
基本助成	90,000	90,000	0	@30,000円×3研修会
割増助成会員	300,000	300,000	0	2023年度会員予定数75名(初任者研修:25名+PB研修:20名+スキルアップ研修:30名)×@5,000円(割増助成金の上限は1団体100,000円)
特別助成金	2,627,000	2,459,100	167,900	
内訳				
初任者研修支援金	410,000	493,000	△ 83,000	
PB研修支援金	333,000	903,000	△ 570,000	
スキルアップ研修支援金	1,884,000	1,063,100	820,900	6コース想定
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動(運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	0	0	0	
内訳				
研究部報告書	0	0	0	2018年度を以って電子化
研究部用封筒印刷代他	0	0	0	封筒、チラシ作成他
通信費	25,000	25,000	0	
運営事務費	50,000	50,000	0	振込手数料他
小計	4,302,000	4,034,100	267,900	
予備費	500,000	100,000	400,000	事務資料デジタル化等
合計	4,802,000	4,134,100	667,900	
東地区部会への戻入額	0	0	0	
総計	4,802,000	4,134,100	667,900	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)

(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)

(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)

(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)

(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)

(2000 年 6 月 9 日 改訂)

(2004 年 6 月 18 日 改訂)

(2017 年 6 月 9 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下「会則」という。）第 28 条第 1 項第 3 号、第 33 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下「東地区部会」という。）に研究部を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下「研究部担当理事校」という。）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 33 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は、研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は、東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は、当該研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は、第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名

- ② 運営委員 8名
(東地区部会役員校3名 東地区加盟校5名)

第7条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第8条 運営委員は、隔年4月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、その運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他研究部の運営に関する事項

第11条 研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は、別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。
- 9 本改訂細則は2017年4月1日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を申請するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更年度の前年 12 月までに示さなければならない。

付録 I

- 第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。
- 第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。
- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。
- 第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。
- 第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月 25 日までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。
- 3 本申し合わせは、2015年4月1日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和 56 年 4 月 1 日制定)

(平成 2 年 4 月 1 日改正)

(平成 8 年 3 月 28 日改正)

(2016 年 12 月 9 日改正)

第 1 条 この規則は、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下「研究部」という。）に設置する研修委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 条 委員会は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、次の活動を行う。

- ① 研修会等に関する情報の収集、提供
- ② 研修会等の企画、実施
- ③ 関連する機関、団体との連絡・協力
- ④ その他目的達成のために必要な活動

第 3 条 委員会は、6 名以上 8 名以内の委員をもって構成し、うち 1 名もしくは 2 名は研究部担当理事校（以下「担当理事校」という。）から選出する。

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は、担当理事校の担当期間とする。

第 5 条 委員に欠員が生じた場合はこれを補充するものとし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 6 条 委員会に、委員長 1 名及び副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議事を進行する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

第 7 条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第8条 委員長及び委員は、東地区加盟館から研究部担当理事（以下「担当理事」という。）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

2 第6条に定める副委員長は、委員長が指名する委員をもって充てる。

第9条 委員長は、委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、必要に応じて実費を徴収することができる。

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については、研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

1 この規則は平成8年4月1日より施行する。

2 この改正規則は2017年4月1日より施行する。

《別紙1：2022研修報告大会資料》



発表者

初任者研修について,
第1回,第2回
深瀬 充央 (獨協大学)

第3回, 第4回
森谷 優香 (日本体育大学)

第5回, 第6回,まとめ
清本 有美子 (帝京大学)

初任者研修について

【会員】 24名

【開催日】 2022/6/3(金),7/1(金),8/5(金),10/28(金),11/18(金),12/9(金)

【開催方法】 Zoomミーティング

【時間】 13:00~17:00

【活動内容】 聴講、ワークショップ、グループディスカッション等

研修目標

- ・ 現場で活躍できる人材
 - ・ 変化、成長し続けられる人
= 主体的で能動的な学習者
-

スケジュール

回次	日付	テーマ
第1回	6/3(金)	企画力
第2回	7/1(金)	デジタル化資料送信サービス
第3回	8/5(金)	バーチャルライブラリーツアー動画試写会
第4回	10/28(金)	大学図書館間の連携
第5回	11/18(金)	コロナ以降の図書館サービス
第6回	12/9(金)	大学図書館職員という「人」の力

第1回 テーマ：企画力

■開催日 6/3(金)

■全体の構成

・講演：岡本真氏(アカデミック・リソース・ガイド株式会社(arg)代表取締役)

「VUCAの時代に育む企画力

— 私立大学図書館でのキャリア形成に向けて —

・ワークショップ：キャリア形成に向けた将来像の創出



第1回 テーマ：企画力



■要点

- ・ VUCAの時代における**企画力**の育成と**キャリア形成**について
…変化の予測と将来像の創出

■気づき

- ・ 企画力 = 創造力
…VMSOメソッドの活用、大学図書館の未来を創造することへの意欲

■今後の課題等

- ・ 物事の習慣化 = 企画の実現に必要な努力
-

第2回 テーマ：デジタル化資料送信サービス

■開催日 7/1(金)

■全体の構成

- ・ 事前課題発表、ディスカッション
- ・ 講演：福林靖博氏(国立国会図書館 サービス企画課)



「国立国会図書館の

個人向けデジタル化資料送信サービスとその周辺」

第2回 テーマ：デジタル化資料送信サービス



■要点

- ・各大学図書館におけるデジタル化の取り組みについて
- ・**資料のデジタル化**の推進とデジタル化資料の**個人送信**サービスについて

■気づき

- ・オンライン学習の普及 = 資料、サービスのデジタル化が必須

■今後の課題等

- ・デジタル化の推進→大学図書館に求められる機能の変容
-

第3回 テーマ： バーチャルライブラリーツアー動画試写会

■開催日：8/5（金）

■事前課題

- ・各研修生が所属する図書館の紹介動画を作成する。
- ・動画の対象者：
各自で設定する(新生、新任教職員、学外者、一般広報、他大学等)
- ・時間：5分～7分間

■最優秀賞：立正大学熊谷図書館



動画作成のメリット・デメリット

■メリット

- 一度作成すれば使い回しが可能。
- 大学HPに掲載して広報につなげる。

■デメリット

- 動画作成の知識がないと時間を要する。
-

まとめ

- 紹介動画の対象者によってアプローチが変わってくることがわかった。



- 学生

動画視聴に慣れている。より短時間で多い情報量を求める傾向

視覚的情報を優位とする学生のために、字幕をいれる

- 子ども(学外者)

親しみやすさのために、大学のキャラクターを使用する

- だれにでもわかりやすい情報提供は前提だが、利用者によって求めている情報の質は多様である。ニーズによって情報提供できることが望ましい。
-

第4回 テーマ：大学図書館間の連携・協力

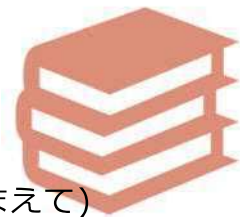
■開催日：10/28（金）

■事前課題

各研修生が所属する図書館が、どのような大学図書館の連携に参加しているか調べてくる。

■全体の構成

- ・講演「大学図書館の共同・連携の意義と事例」
東北大学附属図書館事務部長 小陳左和子氏



- ・ワークショップ：グループ討議(事前課題、講演を踏まえて)
-

講演



■要点

- ・全国的な組織
- ・地域内での組織
- ・複数大学間での協力体制
- ・正規の枠組みを超えた繋がり

■気づき

- ・図書館間で、気軽に悩みを共有できるアプリのようなものがあったら面白い。
-

まとめ



■ 連携や協力において人と人とのつながりは不可欠。

→ どうやってつながるのか？

コロナ禍において、対面に関わる機会は減ってしまったが、オンラインで顔を合わせるような場を設ける必要がある。

■ 問題や課題を悲観的に捉えるのではなく、どう解決していくかという前向きな姿勢で捉えることで、連携や協力体制に繋がる。

第5回 テーマ：コロナ以降の図書館サービス

■ 開催日：11/19（金）

■ 全体の主な構成

講演

「早稲田大学のオンラインレファレンスの導入と現状」

早稲田大学図書館 利用者支援課長 鈴木 努 氏

グループ討議

「講演を聞いてのグループディスカッション」



第5回 テーマ：コロナ以降の図書館サービス

■要点



◎早稲田大学の「オンラインレファレンス」とは
メールやZOOMによるサービスを実施。

◎「オンラインレファレンス」の開始と背景

先行してILLや購入希望の受付がオンライン化されていたため、大学が提供していたポータルサイトに組み込まれている「申請用フォーム」を利用し、同じ仕組みで2008年5月開始。

◎現状と運営の工夫

質問毎に2名体制で対応。調査の経過も含め記録をBasecampに残している。定期的に事例を振り返り、課員内で情報共有。利用者の質問の頻出語の分析。

第5回 テーマ：コロナ以降の図書館サービス



◎コロナ禍に見舞われて

利用事例は数える程度。コロナが落ち着いてきて来館が容易になってきたのか。そもそも需要が少ないのか。利用者数は多くはないが、それぞれ有意義だったのではないか。

◎今後の課題

質問の難化や、多種多様化する質問に対してサービス提供の困難。また、スキルの維持（経験不足）、職員数減少のため、一大学でできることの限界がきている。館種を超えた協力体制の整備が必要。

■講演での気づき

日々のレファレンス対応だけでなく、質問内容を振り返り、結果を共有し分析することにより、また新たなサービスにつながる。

第6回 テーマ：大学図書館職員という「人」の力

■開催日:12/9（金）

■全体の主な構成

講演

「大学図書館職員のDX

ー図書館は利用者と情報資源をつなぐものー」

IAAL 高野 真理子氏

グループ作業

研修報告大会に向けての作業・リハーサル



第6回 テーマ：大学図書館職員という「人」の力

■要点

- ◎未来の図書館像あれこれ
- ◎デジタル化・ネットワーク社会における大学図書館の情報提供機能について考える
- ◎利用者・社会のニーズという文脈でとらえた図書館員のスキル

■講演での気づき

図書館の評価はそれを支える「人」による。

図書館のファンが広がっていくことで、大学としての評価につながるということ。

ツールを使いこなし、利用者が求めているものを入手までサポートできるかが「人」の力。利用者を手づらで帰らせないという意識がサービス向上につながる。



初任者研修まとめ



■ 研修で学んだこと

各大学では、コロナ禍の混乱の中で、それぞれ新しいスタイルでのサービスを検討し、有意義なサービスを次々と生み出してきた。

その中で、時代に合わせて進化し続けることも重要だが、本質的な価値を見失わないようにすることも大切だと感じた。

未来を見据え、サービスをどうデザインしていくか、利用者の立場に立ち、館種を超えた協力でより良いサービスを提供してけるよう取り組みたい。



2022 初任者研修報告書

—「コロナ後の大学図書館サービスを考える」—



私立大学図書館協会東地区部会研究部

2022 初任者研修

2022 初任者研修報告書

—「コロナ後の大学図書館サービスを考える」—

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2022 初任者研修 編集

2022 年 12 月 16 日発行

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2022 初任者研修参加者

慶應義塾大学 日吉メディアセンター	朝比奈 華子
立正大学 品川図書館	榎本 絵莉香
立正大学 熊谷図書館	岡田 悦子
獨協大学 図書館	荻野 翔子
文教大学 図書館	柏 優果
東京都市大学 図書館	木村 莉杏
文教大学 図書館	久須美 紀子
明星大学 図書館	酒井 優季
大東文化大学 図書館	佐々木 麻衣子
相模女子大学 附属図書館	島田 知砂
大東文化大学 60周年記念図書館	菅原 智美
帝京大学 メディアライブラリーセンター	清本 有美子
亜細亜大学 図書館	高橋 英樹
多摩大学 図書館	寺山 浩子
慶應義塾大学 メディアセンター本部	常澤 なお
明治学院大学 図書館	直井 いろは
大正大学 附属図書館	林 恵理
成城大学 図書館	林 洋平
獨協大学 図書館	平田 彩奈
獨協大学 図書館	深瀬 充央
専修大学 図書館	水本 啓右
日本体育大学 図書館	森谷 優香
文化学園大学 図書館	吉野 佳代
和光大学 図書館	渡邊 未来

目次

はじめに.....	1
第1回「企画力」.....	2
第2回「デジタル化資料送信サービス」.....	5
第3回「バーチャル ライブラリー ツアー 動画試写会」.....	8
第4回「大学図書館間の連携」.....	10
第5回「コロナ以降の図書館サービス」.....	13
第6回「大学図書館職員という「人」の力(コロナ以降の大学図書館サービスを考える)」.....	16
おわりに.....	18

はじめに

いわゆる「コロナ禍」の状況になってから、2022年で早くも3年目となった。さまざまなサービスや行動が規制を強いられるなか、私たちは徐々に新型コロナウイルスとの付き合い方を習得していった。大学も例に漏れず、大学としての規制が徐々に緩和され、学生たちの活動も元に戻りつつある。大学図書館でも来館サービスを再開し、感染症対策に細心の注意を払いながら図書館を運営している。

このように「ウィズコロナ」の時代となったことをきっかけに、図書館員としてのこれからの在り方を再検討する機会が出てきた。それと同時に、「ポストコロナ」と呼ばれるような「コロナ禍」が収束した後の状況下で、どのような図書館サービスが必要か再検討する必要性が高まった。

このような背景から 2022 年度初任者研修は、第 1 回「企画力」、第 2 回「デジタル化資料送信サービス」、第 3 回「バーチャル ライブラリー ツアー 動画試写会」、第 4 回「大学図書館間の連携」、第 5 回「コロナ以降の図書館サービス」、第 6 回「大学図書館職員という「人」の力（コロナ以降の大学図書館サービスを考える）」をテーマにすべてオンラインで開催された。参加するにあたり、研修目標として「主体的で能動的な学習者」となることを意識し、「教えてもらう」という姿勢とは少し異なる、問題意識を持って解決に向けて考える PBL（問題解決型学習）の思考を念頭に置きながら研修に臨んだ。この研修を通じて、図書館員としてのこれからの在り方や、コロナが収束した後の大学図書館サービスについて深く考えることができたのではないだろうか。

本報告書では、それぞれの研修の「テーマの趣旨」「講演内容」「実習（課題）・ディスカッションの内容」「学びと考え」をまとめる。あわせて、この報告書を作成する過程でこれからの大学図書館職員としての在り方、コロナ後の大学図書館サービスについて改めて考え、私たちが今後修得すべき知識や技術、考え方はどのようなものかという点に関して改めて思索する機会としたい。

文責 朝比奈 華子（慶應義塾大学）

榎本 絵莉香（立正大学）

第1回「企画力」

① テーマの趣旨

大学図書館の業務は、蔵書の構築・書誌情報登録などの情報管理から利用者対応などの人的サービスまで多岐に及んでいる。利用者や大学当局に、そうした図書館の機能は伝わりにくい。電子化が進む状況下で、図書館の役割はより多様化していくことが予測される。本講演では、大学図書館におけるサービスのミッションやビジョンを捉えなおし、図書館職員に求められる「企画力」を養うことを目的とする。

② 講演内容

タイトル『VUCAの時代に育む企画力—私立大学図書館でのキャリア形成に向けて』

講演者 岡本真氏（アカデミック・リソース・ガイド株式会社（arg）代表取締役/プロデューサー）

現代は、コロナウイルスや急速な電子化によって世の中の予測が立てにくく、VUCAの時代といわれている。実際に、コロナ禍では大学の機能停止が生じ、大学図書館の在り方も問われた。このような時代において重要なことは、自身に何ができるか、何を行ってきたかという点である。講演では、私立大学図書館でのキャリア形成をテーマに、自身や図書館が置かれている現状の分析と将来像の設定を行った。

まず、今後自身が何を続けたいのかを念頭に、時間軸で何を積み上げ、どのような自分になっていきたいのかをクリアにするために、キャリアの過去、現在、未来を概観した。

続けて、大学を取り巻く変化を予測していくことが大切であることから、近い将来から3年後、5年後、10年後と、変容していく社会や環境を予測した。併せて、不完全、不確実な将来像の予測以上に、創造（企画）することが肝要であるという点を確認した。

将来像に向けて創造力を働かせる、すなわち創造(企画)する時間が設けられ、企画において重要なメソッド VMSO (V は Vision 「実現すべき未来」、M は Mission 「達成すべき使命」、S は Strategy 「実施すべき戦略」、O は Objectives 「到達すべき目標」を指す) に沿って「予測した環境への適応」について各自で考え、議論した。

変化を予測し、企画するために前述の VMSO を活用していくが、考えて終わりにするのではなくその企画を実現するためにも、必要な努力を「日々習慣化すること」が重要だとされた。未来に向けて継続して努力していくための手段や、未来をつくるために仕事をしているという思考を習慣にする方法について言語化し、整理した。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：なし

ディスカッション：私立大学図書館でのキャリア形成に向けて、各自ワークショップに取り組んだ。各テーマと挙げられた意見は以下の通りである。

1. キャリアの過去・現在・未来を概観する：自身のキャリアの振り返りと展望
2. 取り巻く環境・変化を予測する：大学設置基準見直しや災害等
3. 予測した環境・変化に適応する：電子化の進展や非来館型サービスの充実等
4. 将来像を自ら創り出す(企画する)：VMSO メソッドに重ねて各自検討
5. 事前の備えを育むために習慣化する：一人ではなく共同で取り組む等

④ 学びと考え

私立大学図書館におけるキャリア形成として、過去と未来の自分自身を分析し、図書館が置かれる環境を予測することで、これからの図書館職員の在り方について考えを深めることができた。

コロナ禍だけでなく、歴史的な円安や戦争の勃発など、本講演以降も予測しえない事態は発生しており、我々が VUCA の時代に生きていることは明らかである。このようなとき、予測しえない変化に順応し、都度対処していくことばかりに目が向きがちだが、「予測し、備え、未来を創造していく」という意識の必要

性にも気づかされた。

また、未来の変化への備えを蓄えるために必要とされるのが物事の「習慣化」であり、習慣化した事柄をもとに自身の経験値を高めることであらゆる環境への適応力を育むことが出来ると実感した。

常に新しいことを創造できるよう検討を続けること、また未来を予測し、その変化に対応できるよう学びを習慣化することで、今後の図書館の発展と自身のキャリア形成に繋がりたい。

文責 荻野 翔子（獨協大学）

柏 優果（文教大学）

木村 莉杏（東京都市大学）

第 2 回 「デジタル化資料送信サービス」

① テーマの趣旨

新型コロナウイルスはさまざまところでデジタル化を加速させた。教育機関でも遠隔授業が普及し、従来の「講義を教室で聞いてから課題に取り組む」という形態から「オンライン学習をしてから授業に臨む」という形態へと学び方が変化しつつある。学術情報をオンラインで入手することが大学教育の必須要件となってきたと考えると、まさに今は大学図書館の役割を見直すターニングポイントである。

そこで、第 2 回研修では、論文や講演、各大学におけるデジタル化の取り組みの発表を通して、デジタル化資料送信サービスへの理解を深め、今後の大学図書館運営に必要な幅広い視野を養うことを目指す。

② 講演内容

タイトル『国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスとその周辺』

講演者 福林靖博氏（国立国会図書館サービス企画課）

1) 国立国会図書館とそのビジョン

国会に属する国立の図書館である国立国会図書館では、国会活動の補佐、資料・情報の収集・整理・保存、情報資源の利用提供、各機関との連携協力の他、今後 5 年間の重点事業として「デジタルシフト」を推進する予定である。

2) 所蔵資料デジタル化の推進

2021 年からの 5 年間で国内刊行の所蔵資料 100 万冊以上のデジタル化を目指し、「国立国会図書館デジタルコレクション」にて提供していく。

3) デジタル化資料の個人への送信

コロナ禍で研究者・学生等から来館せず利用できる図書館サービスへのニーズの高まりをうけ、2022 年 5 月 1 日の著作権法の改正により、デジタル化した資料のうち絶版等により入手困難な（市場で流通していない）ものについて、国立国会図書館登録利用者のうち国内在住かつ当該サービス利用規

約に同意した者へのデジタル資料の送信（国立国会図書館デジタルコレクションにアクセスして利用）が可能となった。

4) デジタル化資料の利活用 ―全文テキストとイメージ

「国立国会図書館デジタルコレクション」に掲載されているほぼすべてのデジタル化資料の全文テキスト化を行い、2022年12月より本文の検索も可能となった。

5) ジャパンサーチ

さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携し、日本の多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームとして、国立国会図書館がシステムの開発と運用を担当している。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題： 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスに関する論文を読む。

所属する図書館で行っているデジタル化の取組みを発表スライドにまとめる。

ディスカッション：ひとり3分でプレゼンを行った。デジタル化の取組みは各大学の特色があったが、どの大学でも学生への周知・利用促進が課題という意見が多くみられた。

① 学びと考え

講演では、国立国会図書館についての役割などの基本情報を知ることができた。また、近年の所蔵資料のデジタル化はコロナ禍もあり、一層加速していることが分かった。先日サービスが開始された個人送信サービスや、イメージバンク、ジャパンサーチなど、大学図書館職員として利用者に提供できる手段について学んだ。

課題発表では、参加者の所属大学のデジタル化についての取組みはもちろん、現在のデジタル化の課題や、大学図書館内での運用について、参加者皆で共有することができた。

VUCAの時代における大学図書館で、デジタル化について知り、実践することは利用者に対し、いかに良いサービスを提供できるかの鍵となるであろう。

文責 久須美 紀子 (文教大学)

酒井 優季 (明星大学)

佐々木 麻衣子 (大東文化大学)

第3回「バーチャル ライブラリー ツアー 動画試写会」

① テーマの趣旨

以前の研修会では、実際に図書館に足を運ぶ夏季見学ツアーを行っていた。しかし、コロナ禍が収束せず、対面で図書館見学ツアーを行うことができなかった。そのため、第3回の研修では、各自の図書館紹介動画を作成し Zoom の画面共有機能を用いて鑑賞することで「バーチャル ライブラリー ツアー」を行うこととなった。昨今は、さまざまなコンテンツがネットで見られるようになったため、冗長な説明は視聴者が飽きてしまう。そこで、短時間の動画で各自の図書館の魅力を伝えられるテクニックを磨くことを目標とした。

② 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：図書館を紹介する対象者（新入生、新任教員、学外者、他大学図書館など）をそれぞれで設定し、各自の図書館を紹介する「図書館案内」を動画で作成する。
実習内容：ひとりひとりが5分から7分の図書館紹介動画を共有し、視聴後は各自1分間解説を行った。動画を作成したツールやナレーションのつけ方にそれぞれの特徴があり、情報交換を行うことができた。

最後に「バーチャル ライブラリー ツアー賞」を決定。1位に輝いたのは岡田悦子さん（立正大学）の作品であった。

③ 学びと考え

視聴した動画は、案内役としてマスコットキャラクターを登場させたり、動画ソフトを利用してデザインを工夫したり、動画酔いを考え写真を使用して作成するなど、各自の創意工夫と個性が詰まっていた。今回の動画作成および視聴を通して、動画技術や作品のなかで紹介されている各大学の図書館の利用制度を学べたことは大きな収穫であった。

Z世代と呼ばれる人たちはタイパ（タイムパフォーマンス）を重要視する世代であり、短い動画でいかに図書館の魅力を伝えるかが肝要である。それを象徴す

るように「若い人たちは動画を早送りで見るとある傾向があるため、はじめから倍速で動画を作りました」と、創意工夫のポイントを解説した参加者もいた。大学図書館を利用する世代も Z 世代が多いことを考えると、今回の動画作成の経験を活かし、短時間ながらも質の良い動画を発信するため、今後も高い技術と表現力を継続的に修得していく必要があると感じた。また、新型コロナウイルスなどの不測の事態であっても図書館サービスを停止させないために、動画配信やオンラインサービスを充実させていく必要性を強く感じた。不安定な情勢のなか、各大学で各種動画を充実させ、大学図書館を広く周知していければと考える。

文責 島田 知砂（相模女子大学）

菅原 智美（大東文化大学）

高橋 英樹（亜細亜大学）

第 4 回 「大学図書館間の連携」

① テーマの趣旨

大学図書館界では、他部署とは異なり、図書館間のネットワークによる連携、複数の大学図書館から成る共同体による相互協力が日常的に行われている。図書館に求められている役割が多様化している一方で、近年ではその運営が難しくなっている共同体や、共同体への積極的な関わりに困難を抱える、共同体による恩恵を受けにくいという図書館もある。これらの課題を踏まえ、大学図書館間の連携や相互協力の意義、また今後の柔軟かつ永続的な連携を考えるため、東北大学附属図書館の小陳佐和子氏に話を伺った。

② 講演内容

タイトル『大学図書館の共同・連携の意義と事例』

講演者 小陳佐和子氏（東北大学附属図書館事務部長）

大学図書館の連携について、全国・地域・複数大学間・正規の枠組みを超えた繋がり の 4 つの枠組みの事例をご紹介いただいた。また、講師の方のご経験も踏まえたそれぞれの特色や連携による強み、課題について学んだ。

1) 全国的な組織

国公立大学図書館協力委員会

2) 地域内での組織

国立大学図書館協会 内、東北地区協会

東北地区大学図書館協議会

3) 複数大学間での協力体制

国内 4 大学（東北大学、東京工業大学、総合研究大学院大学、東京理科大学）と Wiley 社において電子ジャーナル転換契約を締結。他大学の事例として、早慶和書電子化推進コンソーシアム、千葉大学・お茶の水女子大学・横浜国立大学間の和書電子書籍 PDA 実験が紹介された。

4) 正規の枠組みを超えた繋がり

・ saveMLAK（自然災害等の発生時に、博物館・美術館（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）・公民館（Kominkan）の被災状況共有、救援調整を実施する）

・ MULU みちのく図書館員連合（図書館を楽しくするためにメーリングリストにて情報交換、図書館総合展へのブース出展、図書館で働きたい人のため就活講座開催など）

図書館間の連携は必須であるが、その意義をきちんと説明できること、また連携を担うのは人であり、相互扶助の意識を持つことが重要であるとのことだった。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容課題

課題：事前課題として大学図書館間の連携について、5種類（資料購入のためのコンソーシアム、目録の共同、相互貸借、地域間の連携、専門図書館等との連携）に分け、各研修生が所属する図書館の参加状況について調べた。なお、各自が事前に回答したアンケート結果では、資料購入のためのコンソーシアム（JUSTICE等）、図書館相互利用（ILL等）への加入率は100%だったが、地域の大学図書館間の連携になると77%、専門図書館との連携は22.7%であった。

ディスカッション：冒頭で、各館の現状についてひとりずつ共有しながら事前課題で回答した内容を持ち寄り、「大学図書館の連携」について話し合った。

後半は連携に限定せず、開館状況や利用サービス、担当業務についても情報交換を行った。日頃の疑問や業務上の悩みについて話すことができ、現場担当者としての職員同士の繋がりや有用性を実感する機会になったと同時に、継続した関係性構築を求める意見があがった。

④ 学びと考え

大学図書館間の連携は各館の業務に浸透し、不可欠な存在として利用しているが、改めてその連携の意義について考える機会となった。講演者の小陳氏が「東日本大震災を経験したことで、日頃からの近隣との交流の大切さを実感した」と仰っていたとおり、災害に限らず、いざというときに、助け合える関係を

築いておくことは、図書館に求められる役割がさらに多様化していくなかで非常に重要だと考える。

図書館業界は、館種に関わらず使用される用語が類似しており、理想とする利用者サービスの姿も共通である。そうした「共通言語」があるからこそ、連携の基盤が備わっていると考えられる。この特性を活かし、利用者に有益な連携を維持しつつ、さらに進化させられるかは、今後の図書館職員の力次第であろう。

文責 寺山 浩子（多摩大学）

常澤 なお（慶應義塾大学）

林 恵理（大正大学）

第 5 回 「コロナ以降の図書館サービス」

① テーマの趣旨

2022 年度の初任者研修では、直面する課題として、「コロナ時代への対応」が各回に共通していた。第 5 回研修では、コロナ禍以降の図書館サービスの中心のひとつとなるであろう「オンライン図書館サービス」について取り上げた。オンラインレファレンスサービスの事例報告をもとに、資料のオンライン提供にとどまらない、さまざまな図書館サービスおよび人的サービスのオンライン化について考えることを目的とした。

② 講演内容

タイトル『早稲田大学のオンラインレファレンスの導入と現状』

講演者 鈴木努氏（早稲田大学図書館利用者支援課長）

1) 概要

早稲田大学では、オンラインでの ILL や購入希望の受付を先行して行っていたポータルサイトを活用し、コロナ禍以前の 2008 年 5 月よりテキストベースでのオンラインレファレンスを開始した。

2) 運用方法

申請された質問ごとに担当者を 2 名割り振り、個人情報除去した状態で「Basecamp」上に記録を残している。1 件につき 1 週間程度を回答の目安とし、申請時に利用者にもその前提を伝えている。これらの活用方法として、2 ヶ月に 1 回程度、事例の振り返りと課内での共有を行い、レファレンス協同データベースに事例の登録を継続するほか、オンラインレファレンスに対する回答の満足度を利用者にアンケートをとる工夫も行っている。また、「Google Form」の機能で、履歴を蓄積していることで頻出語の分析も可能となり、そこから要望の多い分野を特定し、新たなパスワードを作成するなどの活用方法がある。

3) 特徴

対面に比べてやりとりが難しく質問の真意を捉えにくい、というオンラインレファレンス（テキストベース）ならではの課題がある。

4) コロナ禍において

2021年1月よりZoomによるレファレンスも開始。現在、来館が容易になったためか利用頻度は高くないが、通信課程履修生や社会人学生など来館する機会の少ない学生の要望をかなえられたと見られる。

また学外アクセスの利用が定着しつつあり、直近では、早慶協同で電子ブックの利用を促進するためのプロジェクトが立ち上げられた。その結果、書店各社協力のもと利用できる電子ブックのタイトルが格段に増え、電子ブック利用促進に繋げる環境が整備された。

5) 課題

簡単なことは自分で調べられる環境が日々整い、レファレンスに寄せられる質問が難化している。また自分でどこからでも情報を入手できる環境が進むにつれいつでも対応できるサービスを期待されるが、どの図書館でも職員の数が減ってきている現状では、対応するスキルや体制など一大学でできることの限界が見え始めており、他館との連携が望まれる。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

課題：なし

3グループに分かれ、2022 初任者研修報告書の執筆分担についての打合せを行い、残った時間で自由に交流をした。

講演会のテーマであったレファレンスを中心に各図書館の現状が紹介され、それぞれの図書館の規模や所属する大学の学問体系、職員の人員配備等、環境の違いやそれによる図書館サービスの質、量の差などを情報交換・情報共有した。

また、別のグループでは、それぞれの図書館が実施しているオンラインレファレンスサービスについて問題点・課題を出し合った。フォームによるレファレンスサービス、利用案内動画やバーチャルツアーの作成等、コロナ禍となったことを機にさまざまなオンラインサービスの充実を図っているものの、十分に活用できていないという声が目立った。

結論を求める実習ではなかったが、グループ内での共通の意見として、他の図書館や図書館職員との交流を密にして協力・連携体制を持つことが現状の問題

解決に繋がるという点が一致し、初任者研修参加者同士の縁を今後に繋げるため、名刺交換に代わる連絡先の共有を希望し、実現された。

④ 学びと考え

コロナ禍となり、どの館も非来館型のサービスを新たに始め、電子ブックや電子ジャーナルの利用促進等も試みてきた。

コロナ禍以前の生活へ戻りつつあるなかで、コロナ禍以前の図書館へ戻るのではなく、コロナ禍でのサービスをブラッシュアップしながら、時代に即した新しいスタイルへとシフトしていく大切な局面を迎えていると考えられる。

また、コロナ禍を経て、「待ち受け型」サービスに限界が来ており、利用者のニーズの多種多様化を自館のみで解決することが難しくなっている。ILLに限らず、協働企画や人的交流など、今後は自館のみで対応することに縛られず、これまで以上に横の繋がりを活用し、各館の図書館サービス向上のための連携体制を強化することが求められていると考える。

文責 直井 いろは (明治学院大学)

林 洋平 (成城大学)

平田 彩奈 (獨協大学)

第6回「大学図書館職員という「人」の力(コロナ以降の大学図書館サービスを考える)」

① テーマの趣旨

図書館間の共同・連携、さまざまなオンラインサービスを利用した、コロナ以降の大学図書館サービスについてイメージする。

資料の電子化や利用者支援のこれからを考えると、大学図書館の役割として重要なのは、利用者と情報資源を繋ぐ人の力（有機体）なのではないか。

第6回初任者研修として、コロナ以降の大学図書館サービスを考えるとともに、これまでの講演や議論をまとめる。

② 講演内容

タイトル『大学図書館員のDX—図書館は利用者と情報資源をつなぐ—』

講演者 高野真理子氏 (IAAL)

1) 未来の図書館像あれこれ

インターネットの普及や電子化などによる資料の多様化により、利用者や図書館を取り巻く情報環境は変化し続けている。パフォーマンスよりインパクトがより重視される傾向もあるなかで、利用者の求めに応じるためには、情報を組織化し、それを扱うナビゲート力をこれから身に付けていく必要がある。

2) デジタル化・ネットワーク化社会における大学図書館の情報提供機能について

デジタル化が進むことによって、図書館の現状と利用者や大学が図書館に求めるものの内容にギャップが生じている。そのギャップを埋めるためには、学習支援機関として変化していくことが求められている。

3) 利用者・社会のニーズという文脈で捉えた図書館員のスキル

情報サービスを支えるスキルはメタの知識と経験であり、そのスキルを図書館員が保持しなくなると情報源の組織化が難しくなる。またデジタル化・ネットワーク化により利用できる情報が増加した結果、利用者に混乱

をもたらすことにもなっている。これらに対応するためには、目録作成やレファレンスなど役割に応じたスキルを常にアップデートし、個々の業務を連携させることが重要である。図書館の評価は最終的にそれを支える「人」で決まる。大学図書館というものの機能を客観的に俯瞰しつつ、その役割を継承し、また時代に即して変化させていかなければならない。

③ 実習(課題)・ディスカッションの内容

今までの講演や議論の振り返り、研修報告会に向けてのグループ作業を行った。

④ 学びと考え

インターネット社会になることによって、図書館が利用者に価値のある支援をするために、これまでの目録業務やカウンター業務などとは異なるスキルが求められている。スキルを身に付けるために、館内にある資料だけでなく、データベースや目録などの情報を理解し、それをもとに利用者が求める情報を提供することが必要となってくる。

これからのデジタル化社会における図書館員として、所蔵している図書資料がどんなもので、どこにあるのかなどをすべて知っている自大学図書館のエキスパートではなく、CiNii Research や OPAC、データベース、ILL などのツールを使いこなすことによって、利用者が求める資料を見つけ出し、情報を提供できることが今後はより必要となってくると考えた。また必要な情報の検索の仕方や情報を選別するスキルは、将来図書館以外の部署で仕事することになっても腐ることのないスキルであるため、図書館員初任者としてまずは身に付けたい。

文責 水本 啓右 (専修大学)

吉野 佳代 (文化学園大学)

おわりに

2022年度より、私立大学図書館協会東地区部会の研修制度は大きくリニューアルされた。「研修分科会」は「初任者研修」に再編され、「PB研修」「スキルアップ研修」とともに新たな一歩を踏み出した。

依然として新型コロナウイルス感染症への警戒が続く情勢を鑑み、全6回の初任者研修は、いずれもZoomによるオンライン形式での開催となった。各回の講義も、大学図書館における諸問題にくわえ、その解決策のひとつとしてのオンラインサービスがテーマとなるが多かった。たとえば第2回「デジタル化資料送信サービス」では事前課題として各館のデジタル資料活用例などを調査し、研修会において発表した。オンラインでのプレゼンテーションに戸惑う場面もあり、「ウィズコロナ」での学修支援を担う大学図書館職員として、必要な経験が得られたのではないかと思う。続く第3回「バーチャルライブラリー ツアー 動画試写会」では、事前に製作した各館紹介動画を視聴した。各参加者ともさまざまな動画作成アプリ等を活用し、それぞれ個性あふれる魅力的なバーチャルライブラリー ツアーが提供された。また第5回「コロナ以降の図書館サービス」ではオンラインレファレンスの実例を中心に、各館で現在実施している新たな図書館サービスについて具体的な意見交換をした。

このような定期的な研修活動を通して、参加者間には同じ課題に悩む者同士としての連帯感が芽生えていった。初任者研修の目的のひとつ「初任者同士の横のつながりを創出する」の体現である。そしてそれは第4回「大学図書館間の連携・協力」にも通じている。大学図書館は各館で完結するものではなく、協働して課題解決にあたるのが可能なのである。課題解決のための具体的な施策を取るにあたっては、第1回「企画力」で得たメソッドVMSOなどの知見を活用することが必要となるだろう。個の力と他者との連携、どちらも育むことが大学図書館職員にとっては重要であると、全6回の研修を通じて実感している。

不測の事態に対応しうるオンラインサービスと、課題の根本解決に資する大学図書館間の連携、それらを実行するためのキャリア育成と企画力——「コロナ後の大学図書館サービスを考える」というテーマに立ち返ったとき、初任者研修への参加自体が、その課題解決への一歩であったことに思い至る。

最後に、このような機会を設けてくださった私立大学図書館協会東地区部会研究部の関係者の皆さま、お忙しいなかご講演いただきました講師の皆さま、実施・運営を担われた大学図書館支援機構の高野様・米澤様、多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

文責・編集総括

岡田 悦子（立正大学）

2022 初任者研修報告書

「コロナ後の大学図書館サービスを考える」

2022 年 12 月 16 日

編集・発行 私立大学図書館協会東地区部会研究部 2022 年初任者研修

<https://www.jaspul.org/index.html>

A グループ

参加者： 稲垣 侑華 (慶應義塾大学)
鈴木 絵里香 (実践女子大学)
尾崎 亜希 (新潟工科大学)
湯本 志朗 (成城大学)
佐々木 綾花 (立正大学)

テーマ： 図書館が主催する講習会・イベントについて、個人単位の参加率を上げるため、方法論の検討および具体的な企画の提案を行う。

対象者： 日常的に図書館を利用しない学生

ねらい： 「らしくない図書館」にすることで、日常的に図書館を利用しない学生に向けたイベントを企画し、学生協働や学生団体との連携も図る。

1. イベントを考えた背景

- ・ **ゲーミフィケーション要素**
- ・ 学生からの要望として、**非日常感を味わえる空間**を実現
- ・ 「**らしくない図書館**」の演出
- ・ **景品に頼らない**内容の充実性
- ・ **図書館知識**を絡めた問題作成
- ・ **職員×学生協働団体×学生団体** (ミステリーサークル等) のコラボレーション
- ・ 図書館を**日常的に利用しない学生**を対象 (男女問わず全学部へのヒット)
- ・ 開催日時や時間帯も考慮
- ・ **参加型 (実働型・体験型)** イベントを検討
- ・ **ハイブリッド形式**で開催 (対面：授業終わりの学生/オンライン：自宅参加/オンデマンド：後日体験)

2. 具体的な企画案

ハイブリッド型のイベント

『夜の図書館からの脱出～真夏の秘密の3日間～』

3. 企画の概要(1/4)

①開催時間

- 開始時間：20時
 - 授業終わりが19時半と想定
- ※他部署との連携が必要

②開催回数

- 授業終わりを考慮し曜日を分けて数回開催 1日1回 3日間限定！
- 一度に5チーム（1チーム3人～5人）程度のチーム戦（図書館の規模による）
- オンラインはブレイクアウトルームなどを開きながら参加
- 少人数のグループを統合できる

③景品の有無

- 無（景品がなくても来てもらえるようイベント内容を充実させる）

④結果

- チーム制とし、チーム名・時間・順位をHP・SNS等で公開する（競争をねらう）

3. 企画の概要 (2/4)

⑤所要時間

- MAX1時間半 (時間内にクリアできるか、順位含める)
- 20時～21時半

⑥脚本

- 図書館利用案内にならないよう一般的なストーリーとする
 - ⇒学生協働スタッフ(図書館要素)×ミステリーサークル(ストーリー)のコラボ
 - ⇒監修は職員(コンプライアンスなどのチェックを行う)
 - ⇒学生同士・学生と職員との交流も深められるし、学生の今後の経験にもなる

⑦内容

以下のように図書館の要素を色々入れ込む=図書館に親しみを持つ

※必ずほぼすべての参加者が時間内に脱出できるような内容にする

- 学修要素 (古文漢文など? 参考図書で調べる)
- 施設要素 (「●●室の机を確認せよ」⇒MAPを確認し直接施設に行く)
- 本に触れる (ヒントを本に挟むなど (本も謎解きで探す) 『●●』に挟んだ⇒OPAC検索)
- 電動書架を活用する (電動書架を動かさないと解けない問題・閉架書庫内にも入れるようにする)

3. 企画の概要 (3/4)

⑧広報方法について

- ・Googleフォーム等、各大学に沿った方法で申込みフォームは対面用とリモート用と2種類が必要
- ・Twitterやインスタ、Webサイトにて広報
- ・インスタだと、準備の過程も見せられるので、(写真・動画で作業風景等も投稿し期待感を持たせる)
- ・食堂等にポスターや可能であれば学内放送での広報もありかも?
- ・学生の季刊誌、ポータルメールなど

⑨効果(仮)

- ・学生協働による効果
 - ⇒イベントを職員とやることによって経験値が上がる (社会性、企画力を身に着ける)
 - ⇒利用者は参加することによって図書館の利用を楽しみながら覚えられる
 - ⇒人脈の広がり
 - ⇒図書館への入館のハードルが下がる (入りやすくなる)
 - ⇒図書館の作業内容を他部署に理解してもらえる
- ・横の繋がりで他部署、教員との連携 (授業で周知など)

3. 企画の概要 (4/4)

⑩ 評価取得方法

- ・参加者からのアンケート
 - ➔非参加者からの意見を求める場合はどのような方法が考えられるか
 - ➔協働学生による学生同士の評価
- ・学内からの図書館の評価が上がるのか
 - ➔聞き取り調査
- ・教員などから図書館の頑張りが伝わるのか（評判）
 - ➔聞き取り調査
 - ➔参加していない教員がいても調査がPRになる⇒次回に繋がる
- ・協働学生からの評価

4. 企画するのに大変だったこと、時間をかけたこと

- 景品の有無
- 企画の参加方法（チーム制？個人戦？）
- 学生協働について
- 評価測定の方法

課題

- 開催期間について※テスト期間後は学生集めが難しい？
 - 参加者数が見込まれるタイミングと企画開催のタイミングのすり合わせ
機関ごとでの調整が必要。一般的には決められない
- 他部署、教員との連携、協力
 - 広報手段や設備調整に留まらない連携が必要

B グループ テーマ

「より効果的な、学生の文脈に沿った授業支援とは？」

B グループメンバー

宮澤 小野花（専修大学）
鋤形 七海（和光大学）
佐々木 桂（埼玉工業大学）
諸星 未佳（帝京大学）
高野 聡（新潟青陵大学）

授業支援（学修支援）に関する文献調査

① 授業支援とは何か

- ・授業と連携して教育・学習を支援する取り組み。情報リテラシー教育として各大学で様々な方法で実施されているが、効果的な支援という意味では課題があるのが現状。

② 授業支援の効果的な方法

- ・一方的な講義・演習形式の方法ではなく、アクティブラーニングの手法を取り入れる。PBL等の実際の授業内の課題等で活用できる内容であることやインストラクショナルデザインを踏まえてプログラムを設計することも必要。

③ 授業支援に対する評価

- ・来館頻度や貸出冊数等の図書館利用データではなく、図書館利用によるアウトプットとの関連から評価（アウトカム評価）する必要がある。満足度等の主観的な評価ではなく、学生の実際の探索行動等から評価（パフォーマンス評価）する必要がある。

④ 授業支援の効果や評価の指標

- ・アンケート形式の評価手法が多くとられていて、学生の主観的な満足度や達成度に関する評価が多い。評価指標としては代表的なものとして国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の「高等教育のための情報リテラシー基準2015年版」がある。

⑤ 効果的な授業支援のあり方

- ・「効果的」とは学生にとって「授業課題の役に立つ」「学習スキルが身につく」必要があり、学生のニーズを把握した上でプログラムを検討する必要がある。実施に当たっては、学生の文脈に沿って実施した上で、成果や効果を評価しPDCAサイクルを回すことで効果を高める。

より効果的な、 学生の文脈に沿った授業支援とは？

問題意識・議題

学生の文脈とは何か

・学生が実際に置かれている学びの状況（大学DP、授業目標、学習環境、学習行動等）
→カリキュラムとの関連、単位修得、就職活動に直結した内容

・学生の動機やニーズにつながるもの（授業、講習等への自主的・主体的な参加を促す）
→学生にとって効果的 = 役に立つ・身につく授業（学修）支援

学生に効果的な
授業支援を行うには

・**学生のニーズ（学び手+文脈）の有無を十分に検討**してコースを設計し、学生の自発的な参加を促すように計画する（習った知識を現実の学習で活用できるようにする）
→魅力的な方法論、インストラクショナルデザイン、持続性の視点からの見直し
（例：スカベンジャーハント（状況に埋め込まれた学習）、学生協働（メンター）など）
→教員の授業計画と図書館の支援計画の連携
→キャリア支援など学生生活全体、教員に対する図書館からのアプローチ

授業支援の効果を測定・
評価するためには

・学生のカリキュラムや情報リテラシー教育のルーブリック（到達目標）による評価
※学習者検証の原則：学習者の成果そのものによって評価

・「満足度調査」「自己評価」といった学生の主観的な評価では限定的なため、実際の行動に則したパフォーマンス評価（オーセンティックな評価）で評価をする必要がある。
・学習成果だけでなく、学習体験の測定から講座自体の魅力を評価することも必要。

各大学の事例と課題・目標 -現場にどう落とし込むか

埼玉工業大学

●学修支援事例

・図書館利用ガイダンス（1年生対象）

…教員による申込。5学科中、全学生対象は1学科のみ、申込0が3学科。

・文献検索法（3・4・大学院生対象）

…教員による申込。申し込みは毎年数件。

●効果測定・評価方法

・学生へのアンケートを実施

●課題・目標

- ・1年生全員に何らかの形でガイダンスを実施する
- ・各学科の基礎演習のような授業担当の教員との対話・相談
- ・文献検索法を申し込まない教員への聞き取り
（評価されていないのか、必要がないのか。図書委員に伝え、学科に持ち帰って意見を聞いてもらうなど）
- ・現在は教員による申込のみのため、学生申込も設ける

専修大学

●学修支援事例

・図書館利用案内（基礎・応用コース）

…【基礎】図書館の基本的な利用方法をYouTube配信。「入門ゼミナール」「リテラシー演習」。

…【応用】文献の探し方、各種データベース利用を案内。教員要望によりカスタマイズ。教員申込。

・専修大学図書館検定

…入退館方法、図書の探し方などをオンラインクイズで学ぶ。学生自由参加。

・20分でポイントチェック！ライブラリーウォーク

…昼休み時間に図書館スタッフが館内を案内。学生自由参加。

・情報検索講習会

●効果測定・評価方法

・一部講習会で学生アンケート実施

●課題・目標

- ・自主的に図書館を活用する学生を増やす。
- ・学生同士の繋がり、学修やアクティブラーニングの場としての図書館の有益性のアピール。

各大学の事例と課題・目標 -現場にどう落とし込むか

帝京大学

●学修支援事例

①図書館ガイダンスの開催（対面、オンライン併用）

1年生：4月新入生ガイダンス、
必須科目でのガイダンス（スカベンジャーハント）、情報探索初級編

2年生～：情報探索中級編、レポート作成支援、院生ガイダンス

②講習会の開催（対面、オンライン併用）

データベースを用いた講習会、教員によるレポート作成支援講習会

③学習支援デスク（学生協働）の管理・運用

④共読ライブラリー

●効果測定・評価方法

①②→参加者アンケート

③→相談者アンケート

④→指標なし？

●課題・目標

①ガイダンスを受講しても実際利用する学生少ない？

⇒学んだことを継続して利用するような意識づけ、教員との連携

②参加率の増加→告知方法、内容の見直し（興味を持つ内容にする）

③「学習支援デスク」認知度の向上、相談件数の増やす

④「共読ライブラリー」認知度の向上、図書館の魅力を伝える

新潟青陵大学

●学修支援事例

・初年次教育

…大学・短大の初年次教育授業の1コマで1年生全員を対象に授業を実施。

【大学】図書館利用、OPAC、CiNii等を使った文献検索。

【短大】図書館利用、OPAC

…コロナ禍からは遠隔授業でも対応できるように動画を作成して対応

・特別研究・卒論・修論・ゼミ

…データベースを使った文献検索とRefWorksを使った文献管理の方法について、講習会を実施。

●効果測定・評価方法

・卒業学年の学生への学習成果の達成度（自己評価）

●課題・目標

・教員と学生の授業支援に対するニーズの把握

・学生の実際の学習目的・学習行動に沿った授業・講習内容の見直し（学生に「使える」と言ってもらえるように）

・事前・事後テストのような成果が明確にわかる評価

各大学の事例と課題・目標 -現場にどう落とし込むか

和光大学

●学修支援事例

・卒論講習会・レポート作成ミニ講座

…図書館主催の講習会

・ゼミ講習会

…図書館主催。教員からの要望を聞き、ゼミに出向いて行う講習会

・学生のための情報活用法

…経済経営学部の科目を教員と図書館で担当

●効果測定・評価方法

・受講学生へのアンケート（選択式/自由記述）

●課題・目標

・長期的な効果測定の実施

・新たな講習会のデザイン

（座学だけでなく実習、ゲーム性など）

●共通の課題・目標

・ニーズの把握ができていない

→参加者の増加、継続的な参加につなげる

より効果的な、 学生の文脈に沿った授業支援とは？

結論

効果的な学修支援に必要なこと

学生の文脈とニーズの把握
※文脈があって
学生のニーズが生まれる

- ・学生全体へのアンケートの実施
→ポータルサイト、Googleフォーム等の活用
→アルバイト、サポーター学生への聞き取り

- ・学生のモチベーションと、ディプロマポリシーとの摺り合わせ
→教員との連携

授業支援のデザイン
図書館員のスキル

- ・持続性のある講習会
→4年間（+社会人）の継続したプログラムを組み合わせる
知識・スキル・態度を継続的に育成/習慣化する

- ・図書館を評価してくれる先生を巻き込んだ授業支援
→チーム・ティーチング
→先生と連携する力（交渉スキル）

学生の学習成果と
授業支援の効果の可視化

- ・参加者に感想/フィードバックを求める
→学生・教員へのアピール、成果の可視化が可能になる
→教員への直接の聞き取り/アンケートとの使い分け

- ・評価の方法論の導入、数値化

Cグループテーマ

「業務委託のメリットの活かし方」

<メンバー>

諸星 未佳 (帝京大学)
高野 聡 (新潟青陵大学)
佐々木 綾花 (立正大学)
宮澤 小野花 (専修大学)

課題の検討

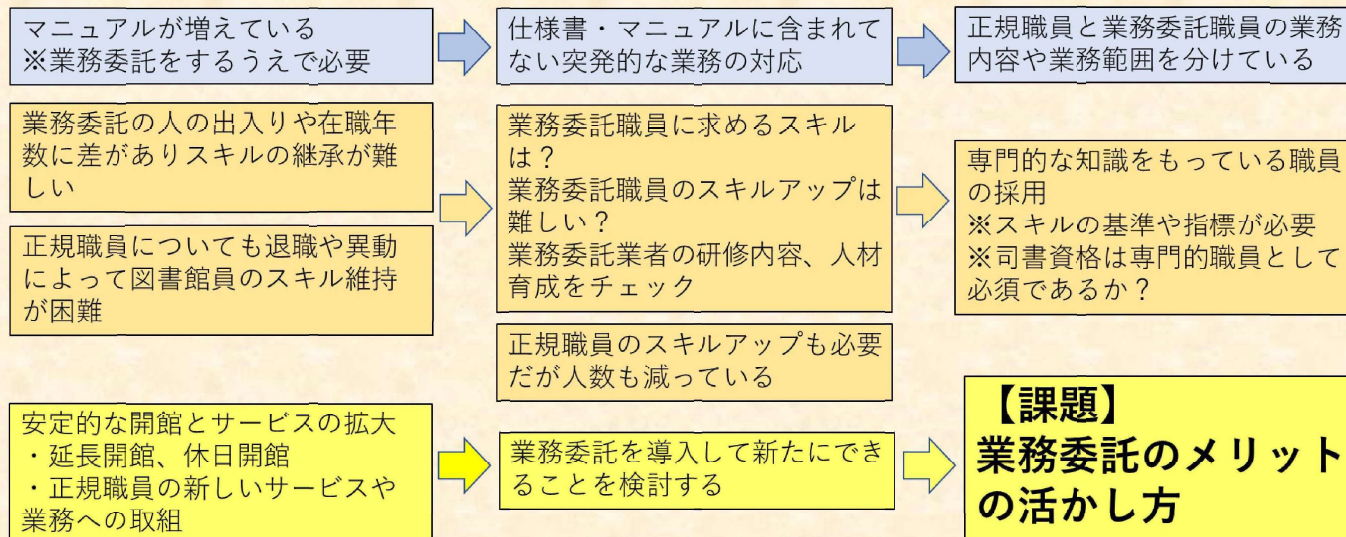
業務委託の導入=運営費・人件費の削減だけ?
※現在の図書館としてはなくてはならない

仕様書にもとづく契約と費用の算出

業務をスムーズに進めるうえでの業務委託職員との法的な位置づけ
※直接指示してはいけない

業務委託と派遣の違い
※図書館の仕事は派遣に当たらない

非常勤職員の種類
・学生アルバイト
・短期採用職員
・派遣職員
・業務委託職員



【課題】 「業務委託のメリットの活かし方」

調査方法

学術情報基盤実態調査で業務委託状況を調べる

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm

他大学の導入事例を調べる

※PB研修の参加大学等からアンケート

次回までの課題

アンケートの設問の検討
※他の調査ではわからない部分を重視する

私立大学図書館協会総会資料（承合事項）広島女学院大学図書館の調査等を参考にして設問を検討するが、メリットを活かす方法に関する設問にする

私立大学図書館協会会員校限定ページ

<https://www.jaspul.org/ind/pw/soukai83.html>

スケジュール

11月11日
アンケート完成・依頼
※11月25日回答締め切り

11月28日～12月1日
アンケート結果・発表内容の概要を検討

12月2日
発表内容・資料作成・精査

学術情報基盤 実態調査

専任職員数（人）	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2012と2021の比較
国立	1672	1672	1667	1635	1617	1589	1559	1524	1518	1523	91%
公立	301	275	268	259	248	252	251	266	275	287	95%
私立	3552	3476	3424	3275	3134	3070	2988	2922	2866	2807	79%
全体	5525	5425	5359	5169	4999	4911	4798	4712	4659	4617	84%

業務委託職員数（人）	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2012と2021の比較
国立		179	188	233	254	239	268	233	222	252	141%
公立		106	139	159	198	214	255	257	257	276	260%
私立		3492	3634	3837	3825	4072	4358	4400	4382	4431	127%
全体		3777	3961	4229	4277	4525	4879	4890	4861	4959	131%

全面委託	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2011と2020の比較
国立	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	43%
公立	6.0%	6.2%	6.8%	7.5%	8.1%	7.3%	9.2%	10.6%	11.6%	11.1%	185%
私立	6.4%	7.4%	7.6%	8.4%	8.1%	9.3%	9.8%	10.3%	10.5%	11.1%	173%
全体	5.2%	5.9%	6.1%	6.8%	6.6%	7.3%	7.9%	8.4%	8.7%	9.1%	175%

一部委託	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2011と2020の比較
国立	81.6%	81.3%	80.7%	82.3%	82.3%	84.2%	84.6%	86.7%	85.4%	84.4%	103%
公立	79.7%	79.8%	75.0%	73.9%	72.8%	75.2%	71.8%	71.1%	69.9%	67.3%	84%
私立	70.0%	69.9%	69.4%	69.5%	70.6%	69.5%	68.6%	67.7%	68.1%	66.2%	95%
全体	73.1%	73.0%	72.0%	72.4%	73.1%	72.8%	72.0%	71.6%	71.5%	69.7%	95%

部分委託業務（種）	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2011と2020の比較
目録所在情報データベースの作成	328	324	331	337	341	335	334	340	345	354	109%
一次情報データベースの作成	82	73	78	88	85	83	90	90	93	104	142%
電算機の運用	283	250	245	248	246	242	227	221	227	226	90%
複写	171	190	214	228	345	246	258	265	280	289	152%
製本	700	679	674	690	685	683	680	668	661	637	94%
装付・閲覧	335	323	339	345	352	351	360	375	388	390	121%
清掃	824	804	830	840	838	841	835	836	846	859	107%
警備	627	640	640	663	647	658	646	643	660	676	106%
時間外開館業務		309	346	372	388	401	407	415	422	404	131%
その他	169	170	160	150	146	153	158	172	179	180	106%

専門性・スキル

専門的なスキルを持ったスタッフが確保できる

専任職員のスキルも上がる

専門知識・スキルの維持

スタッフの専門性の維持が困難（専任・委託とも）

専任職員の育成ができない

大学職員としてのスキルや役割の遂行が困難

サービス

専任スタッフの人事異動により業務やサービスの質が低下することがない

安定したサービスの提供が可能

利用者ニーズの把握が困難

サービスの質の維持が困難

業務

外部からの提案や業務改善が可能

マニュアルの作成・業務の標準化が可能

専任職員の目録・カウンター業務からの解放

新規発生業務・緊急時の対応が困難

委託した業務のブラックボックス化

業務の硬直化

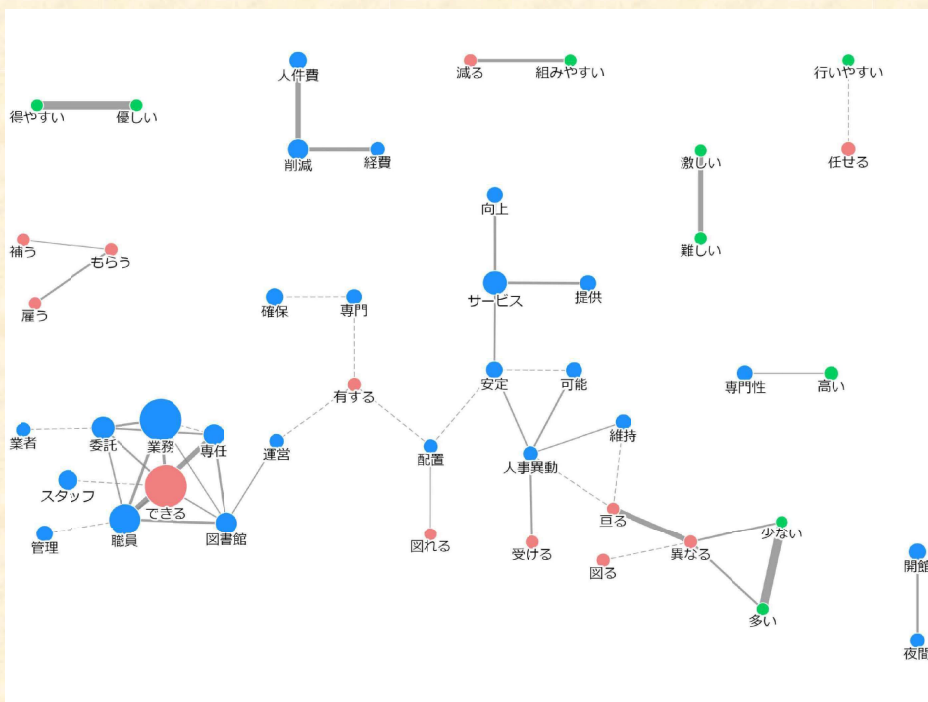
管理

人事・労務管理の軽減

委託業者との関係・契約が煩雑

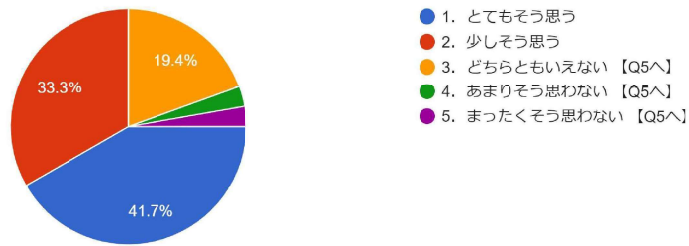
業者変更の対応が必要

メリット（テキストマイニング共起キーワード）



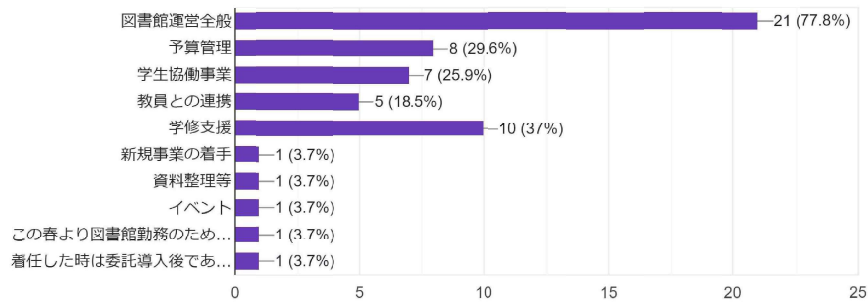
Q3. 業務を委託化することで専任職員の業務負担は軽減したと思いますか。

36件の回答



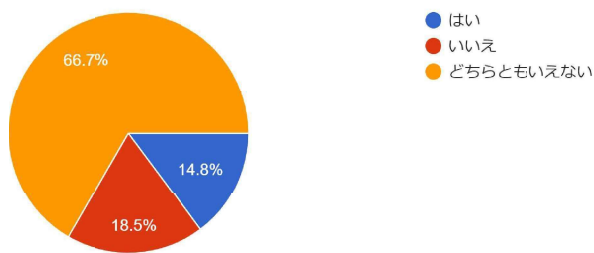
Q3-2.業務が軽減して専念できるようになった業務をお答えください。 ※複数選択可能

27件の回答



Q4. 図書館業務以外で大学職員としてスキルアップ等に時間を割けるようになりましたか。

27件の回答



Q4で「1. はい」と回答した方

Q4-2. 具体的にスキルアップに取り組んだ事例を教えてください。

様々な研修に参加する時間ができている

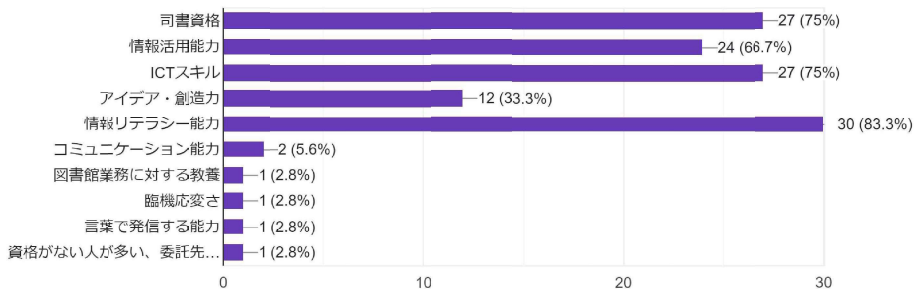
現時点で具体的な取り組みはないが、スキルアップに取り組める時間は確保しやすく、これから取り組みを検討している。

語学(英語)

カウンターを任せられることができるようになったので、専任職員全員が学内の教職員研修に参加できるようになった

Q5. 業務委託職員に必要と感じるスキル・能力を教えてください。 ※複数選択可能

36件の回答



Q6. 委託職員の業務が円滑に進むための工夫があれば教えてください。（定例会は除く）

偽装請負の兼ね合いもあり、委託スタッフの方とのコミュニケーション自体にはハードルがあるため、委託先管理者とのコミュニケーションを積極的にとることが重要かと思えます。

大きな工夫ではないが、日々、業務委託のリーダーとコミュニケーションを取り、お互いの認識等を確認しあい、円滑に図書館運営ができるようにしている。

委託職員が職員とコミュニケーションを取りやすいようにする。

コミュニケーションや仲間意識の醸成、業務ではなく人と人としての関係性の構築

普段からコミュニケーションを取り、些細なことでも相談・報告しあえる関係を築く

常に相談できる環境整備（直接相談、チャットでの相談のどちらもOK）

毎朝の引き継ぎ、社内メールの利用

こまめな情報共有

Teamsの共有（情報公開の範囲は制限すべき）

報告・連絡・相談を密に行う。委託職員に任せきりにしない。

職員と委託職員の連絡事項や書類の提出などは、web上のスペース（Garoon使用）を利用している。誰が発信しても、全員（職員と委託職員）が閲覧（発信も可）でき、記録にもなる。

業務報告書による専任、臨時、業務委託職員間の情報共有。

業務マニュアルの整備

業務マニュアルは可能な限りシンプルにする、指示系統を統一する

マニュアル作成、日常的な情報共有、指示系統の統一

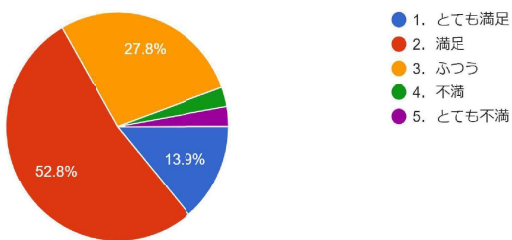
勤務当番表は委託先企業が作っていますが、本学が「この人にはこの日出勤してほしい」と思っても、希望が通らないことがあります。委託先企業に代わり、勤務当番表を本学で作れば円滑に進むと思います。

試行錯誤中で、こちらが教えて頂きたいです

メリットよりも、デメリットの法が大きい、ILLの振込先金額を間違ったり、リーダーが長続きしない、即効性能力も持っていない、社員教育されていない等

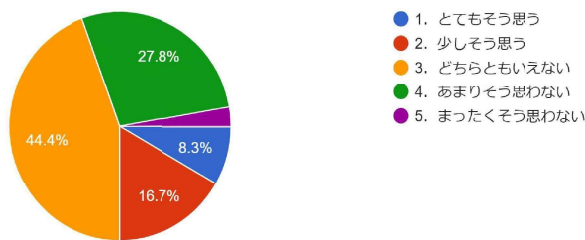
Q7. 業務委託への満足度を教えてください。

36件の回答



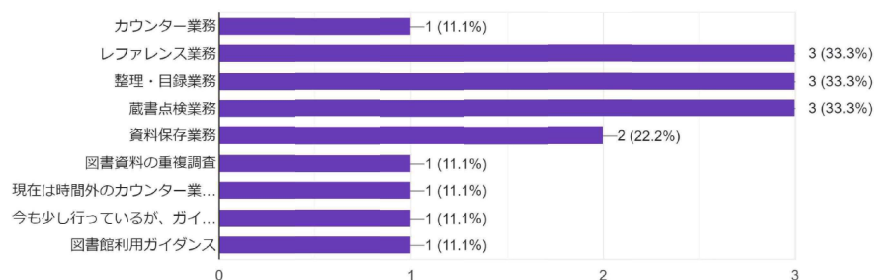
Q8. 業務委託の範囲を拡大したいと思いますか。

36件の回答



Q8-2. 委託化したい業務をお答えください。 ※複数選択可能

9件の回答



Q9.これまでの質問内容以外で、業務委託を導入したことによるメリットを図書館運営や実際の業務等に活かしている事例がありましたら教えてください。

定期的な人事異動。専門知識を持つ職員の育成は難しくなるが、司書資格のある職員を図書館に固定化しなくてもよいので、複数部署での経験を積むことができる。

職員が法人の決めた就業時間に合わせて勤務できる。急な休みや退職があった場合の補充がスムーズ。委託職員は学内会議や行事に参加しないため、安定的にカウンター業務ができる。委託職員は異動がないため図書館業務の経験を重ねられる。デメリットもたくさんありますが、人件費の削減以外のメリットをあまり考えておりませんでした。メリットについて、もっと考えてみたいと思います。ありがとうございます。

専門性の高いスタッフがカウンター等で対応しているため、利用者に安定的なサービスを提供できる。専任職員も広い視野で図書館運営に目を配ることができる。

入職時より現行の業務委託が導入されていたため、専任職員の業務負担の軽減については比較できず「どちらでもない」とした。業務委託の導入により、特に日常関わりの深い目録業務担当の方々に関しては、細かな点まで気が付いてくださるので大変助かっている。カウンタースタッフについても、導入により専任職員が当番でカウンターへ立つ必要が無いので別の業務に時間を割くことができる。また、カウンタースタッフはシフト制で勤務してくださるため、専任職員の勤務時間の変更等なく9時以前や17時以降の開館も可能となっている。

通常は時間外開館の業務委託をお願いしているが、月1回日中のカウンター対応をお願いして、大学直雇用の専任・臨時職員全員で館内研修と打ち合わせの時間を設けている。

人事異動で職員の人数が減っているため、導入せざるを得ないのが現状です。

本学の場合、昨今の業務委託の流れに反して、直接雇用を進めている状況です（嘱託職員）。もちろん嘱託職員故のメリットもありますが、指導・監督をしなければならない点も多く、業務軽減につながっているとは思えない部分もあるのが本音です。

ガイダンス業務、学生協働の拡大、業務継続性の担保

アンケート調査結果からわかったこと

仮説

業務委託の導入により、職員が図書館運営、予算管理、学生協働、教員との連携に専念できる。

スキルの高い業務委託スタッフによって新たなサービスが可能となる。

結果

カウンター業務、整理目録業務を中心に、図書館業務を委託化することにより、専任職員の業務負担は軽減されている。



安定的な図書館運営が可能

図書館を運営していく上で重要な人材育成や予算、教員連携、学生協働、学修支援等の業務に専念できるようになっている。

図書館の新規事業やイベント、大学職員としてのスキル獲得といった既存の図書館業務以外の事にも専任職員が取り組める環境はできている。

業務委託スタッフには司書資格とともにICTや情報リテラシーに関する能力が必要と考えているが、委託化したい業務は従来の図書館業務に限定されている。

メリットを活かす方法

図書館

3つのWin!

委託業者

専任職員の業務負担の軽減による図書館運営への注力と安定的なサービスの提供

両輪となって図書館を運営

業務委託のノウハウの蓄積とスタッフのスキルアップによる新規委託先の獲得

図書館に新たに求められるサービスへの対応が必要
・学修支援、研究支援
・デジタルコンテンツ、オンラインサービスなど

マニュアル整備、情報共有と業務委託職員とのコミュニケーションが必要
・信頼関係の構築による双方のスタッフの意欲向上
・双方にとって働きやすい職場の環境・体制が構築される
※Teams等のチャット機能のような、伝達事項の記録を残し共有することが重要

利用者への還元

図書館に対する信頼と期待

利用者

専任職員と業務委託による図書館運営によって、質の高い安定的なサービスを受けられる

大学図書館における電子ブックの利用促進を考える

PB研修[Dグループ]

司会：湯本 (成城大学)

発表：佐々木 (埼玉工業大学)

連絡調整：鋤形 (和光大学)

タイムキーパー：尾崎 (新潟工科大学)

記録：稲垣 (慶応義塾大学)

電子資源についての課題

電子ジャーナル(原価)の値上がりや円安(為替の影響)による予算不足

書庫狭隘化なので電子ブック購入を優先したいが、和書は電子媒体の刊行が少ないので、結局冊子体資料を購入せざるを得ない状況

電子ブックの選書の方法が確立されていないため積極的な電子ブック購入が難しい

電子資源があまり利用者に知れ渡っていない可能性があるため広報方法の検討が必要

利用率と雑誌の重要度が必ずしもイコールではないため、購読中止候補の検討が難しい

冊子が電子、どちらで購入するかの基準があいまいで難しい

電子資源についての課題は



どの大学も共通！

そもそも各大学の電子資料の導入状況は？

成城大学

- ・電子ジャーナル、電子ブックいずれも導入済み。
電子ブックについては2013年度～導入しはじめたこともあり、現在はその拡大を試みている。

慶応義塾大学

- ・電子ジャーナルも電子ブックいずれも導入済み。
電子ブックについては2017年～DDA制度を導入し、現在運用中。

和光大学

- ・電子ジャーナル、電子ブックいずれも導入済み。
電子ブックについては2020年度～導入開始したこともあってか、まだ認知度が低い印象。

埼玉工業大学

- ・洋雑誌はほぼ電子ジャーナルで購入しているが、電子ブックは未導入。

電子ジャーナルは(規模の差はあるものの)全館導入済みだが

電子ブックの導入状況には図書館によってかなりの差があることが分かった

これらの課題や各館の導入状況から電子ブックについて

利用者に必要とされている
資料とは？

利用促進のための
効果的な広報とは？

の2点について着目し、検討

各大学の電子ブックの事例と状況

<慶應義塾大学(湘南藤沢メディアセンター)の場合>

●選書方針

- ・電子ブックは基本的にリクエスト(DDA)ベース

●広報

- ・冊子体資料とともにOPACに掲載する
- ・研究会ごとのセミナーや図書館スタッフが行う授業内での紹介

●課題

- ・書庫狭隘化により、電子ブックを優先して購入したいが、和書は紙の刊行より電子の刊行が遅い（もしくは電子化されない）ため、和書は紙を購入しがちとなっていること
- ・電子ブックで購入すべき資料と冊子体資料で購入すべき資料の見極め方

各大学の電子ブックの事例と状況

<成城大学の場合>

●選書方針

- ・選書委員会にて購入図書を決定
- ・電子もある図書については電子を優先的に購入する

●広報

- ・図書館Webサイト上にプラットフォーム毎にバナーを貼っている
- ・新着資料やテーマ毎に図書の表紙が表示されているものを利用

●課題

- ・和書の場合、冊子より高い、冊子より遅れて電子版が出るなど全てが電子化されるわけではない

各大学の電子ブックの事例と状況

< 和光大学の場合 >

● 選書方針

- ・ シラバス指定図書で電子資料があるもの
- ・ 所蔵している冊子体資料で利用の多いもの
- ・ MeL、EBSCOの試読サービスで利用(アクセス数)が多かったもの
- ・ 問い合わせがあったものなど、学生の利用が見込まれるもの

● 広報

- ・ 図書館公式Twitterで分野ごとに購入した電子ブックを紹介
- ・ QRコード付きのポスターを館内に掲示

● 課題

- ・ 認知度が低く、全体的な利用が少ない

検討過程①

どのような資料が利用者に必要とされているか、
どのような資料を購入したらより利用されるのか？



参考：MeL アクセスランキング(一部/加工済) ※参考資料はMaruzen eBook Libraryに関するアクセス数ランキングならびにOS別利用状況(丸善雄松堂株式会社より提供)

ランキング	ジャンル	発売開始	書名	著編者	出版社
1		2012年12月	■化学大辞典 全10巻セット(分売不可)	化学大辞典編集委員会	共立出版
2	人文科学	2013年10月	Around the world in eighty days (Macmillan readers 1, starter level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス
3	人文科学	2013年10月	A Christmas carol (Macmillan readers 3, elementary level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス
4	社会科学	2022年1月	就職四季報総合版 2023年版	Jules Verne	東洋経済新報社
5	人文科学	2013年10月	Frankenstein (Macmillan readers 3, elementary level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス
6	人文科学	2013年10月	Anna and the fighter (Macmillan readers 2, beginner level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス
7	人文科学	2014年12月	Come home (Page turners Headwords levels 1)	Jules Verne	センゲージラーニング
8	人文科学	2013年10月	A tale of two cities (Macmillan readers 2, beginner level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス
9	人文科学	2015年12月	Bad dog? Good dog! (Foundations reading library Level 1)	Jules Verne	センゲージラーニング
10	人文科学	2013年10月	The wizard of Oz (Macmillan readers 4, pre-intermediate level)	Jules Verne	マクミランランゲージハウス

OS	割合
Windows	59.2%
Macintosh	20.2%
iOS	17.5%
Android	2.9%
Linux	0.1%
Chrome OS	0.1%

参考：MeL OS別利用状況

検討過程②

他大学の電子資料の利用状況は？(発表論文から考える)



(“児玉 芽生ほか / COVID-19パンデミック下の大学図書館における電子書籍の利用状況”より)

論文の概要：電子ブックのニーズを把握するために、コロナ禍前とコロナ禍中の九州大学の利用ログを対象に利用傾向を分析した結果がまとめられている。

- ・利用傾向の1つとして、コンピュータ系のものがランキングに入っているのが興味深く感じた。
- ・辞典辞書など利用頻度が高くてかさばるもの等、電子ブックの方が使いやすいものがあるようだ。
→書庫狭隘化の問題の解消の手立てにもなることや、同時アクセス1でも活用方法次第では授業利用にも有用になることが考えられる。

⇒ **電子ブックのコストパフォーマンスの良さ等のメリットを伝えていく**のが今後の大学図書館の課題、腕のみせどころなのでは？

参考文献：児玉 芽生ほか,COVID-19パンデミック下の大学図書館における電子書籍の利用状況,大学図書館研究,2021,119,p.2123-1-2123-11,<https://doi.org/10.20722/icul.2123>

検討過程③

電子資料の効果的な広報方法は？(発表論文から考える)



(“吉野 知義 / 大学図書館における電子書籍の活用方法”より)

論文の概要：電子ブック利用促進のために行った広報の事例をまとめ、紹介されている。

- ・代本板として書架に出すことで、電子ブックも冊子体資料と同じようにブラウジングしているような雰囲気を出すのは広報に効果的だと感じた。
- ・論文に記載されている図書館内における広報事例も有効だとは思いますが、教員と連携して授業で使う資料を優先的に電子ブックで購入することも1つの広報手段ではないだろうか。
→教員に電子ブックを体験してもらい、その便利さを感じてもらえば、授業内で紹介してもらうこともできて学生への電子ブック利用促進にもなるのではないかと。

⇒効果の大小にかかわらず、

とにかく広報の場を作っていくことが大事なのではないか。

参考文献：吉野 知義,大学図書館における電子書籍の活用方法,短期大学図書館研究第,2022,40-41,p.1-6,<http://id.nii.ac.jp/1092/00001886/>

<埼玉工業大学の場合> ※電子ブックを導入した際の展望

●選書方針

- ・シラバスやレポート作成に指定されている図書で電子化されているもの
- ・MeLや過去の冊子体の貸出利用統計で、利用が多いタイトル（学術書）
- ・就職関係資料など、学生が必要としていて、手軽に部分利用をしたい資料
- ・電子ブック導入を推進する教員が薦めるタイトル

●広報

- ・教員に協力してもらい、QRコードを載せたチラシを授業で配布してもらう
- ・代本板(もしくはそれに代わるもの)を書架の該当の場所にも置く
- ・就職課のガイダンスで周知する。

●課題

- ・そもそも利用者は電子書籍を必要としているのか。
積極的に導入する必要があるのか。

<おまけ>今回の検討以外にその他話題に出たこと

・和書は洋書に比べて電子ブックのコンテンツが充実していない

(個人向けはともかく機関購入(図書館向け)に開かれてない)

→洋書(アメリカの出版社)と和書(日本の出版社)の電子ブック化の速度の決定的な違いは著作権などのライセンスが原因。

→和書の電子ブック化が進まない原因の1つとして和書が安すぎることも原因なのでは？

⇒和書の電子ブック化をさらに進めるためには早慶和書プロジェクトのような、**出版社や大学同士との協力が必要**なのではないか。

・選書形態が変化してきている

従来の図書館員が選書を行う方式とは異なる利用者によるリクエスト方式の台頭(PDA(Patron-Driven Acquisitions)/DDA(Demand-Driven Acquisition))

→利用者が本当に必要としている資料をピンポイントで購入できるため、経費の削減にもつながっている。

→利用者が今必要としている資料のみを購入していくのは確かに便利ではあるが、(利用者が必要としていなくても)図書館として保存しておくべき資料についてや、図書館員の選書する力が落ちていくという懸念がある。

まとめ

今回、他館で行われている様々な事例を参考に検討を進めていった。その中で、電子資源の普及や近年の世情により、図書館や利用者、研究のあり方が変わってきていることがわかった。

図書館もこの変化に合わせていく必要があるものの、現在は冊子体から電子の過渡期にあるため、すぐの転換は難しいかもしれない。

まずはできることから取り入れていき、時代の流れに合わせていくのが良いと感じた。

個々の図書館の事情や方針に合わせた方法で電子ブックの導入/利用促進を行い、これからも大学図書館として学生や研究者に寄与していきたい。

2022年度研修報告大会 スキルアップ研修

和漢古典籍コース

2022.12.16

発表内容

1. 研修の目的
2. 活動報告
3. 活動内容のご紹介

1. 研修の目的

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成の方法を習得することを旨とする

2. 活動内容

▶調書の作成・添削

和漢古典籍資料の現物を見ながら調書を作成し、講師が添削を行う。

▶工具書・データベースの利用方法を学ぶ

和漢古典籍資料の調書をとるために必要な工具書・データベースの利用方法を学ぶ。

3. 活動内容のご紹介

正確な書誌作成方法を習得するために、調書をとる演習を行っています

The form is a library catalog card with the following sections:

- 書名目録** (Title Record)
- ◎ 本文書目録** (Main Text Record)
- ◎ 形式** (Form): Includes fields for binding (e.g., 函装, 綴じ), paper type (e.g., 紙, 布), and other physical characteristics.
- ◎ 巻数** (Volume Count)
- ◎ 巻別目録** (Volume Record): A table for recording individual volumes.
- ◎ 刊記** (Publication Record): Fields for publisher, place, and date.
- ◎ 所蔵** (Collection): Fields for the library name and location.
- ◎ 備考** (Remarks): A large area for additional notes.

書名	著者	編者	発行所	発行年	発行地	発行日	巻数	冊数
----	----	----	-----	-----	-----	-----	----	----

【書名】 書誌データを採っていく



立正大学古書資料館所蔵

【菜根譚】

中国の雑学書。明の洪応明著。警句ふうの短文357条からなる語録で、仕官中の保身の術や退官後の山林閑居の楽しみを、儒教・仏教・道教の思想をまじえた立場で述べたもの。中国より日本で愛好された。

"さいこんたん【菜根譚】", デジタル大辞泉, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2022-11-25)



立正大学古書資料館所蔵

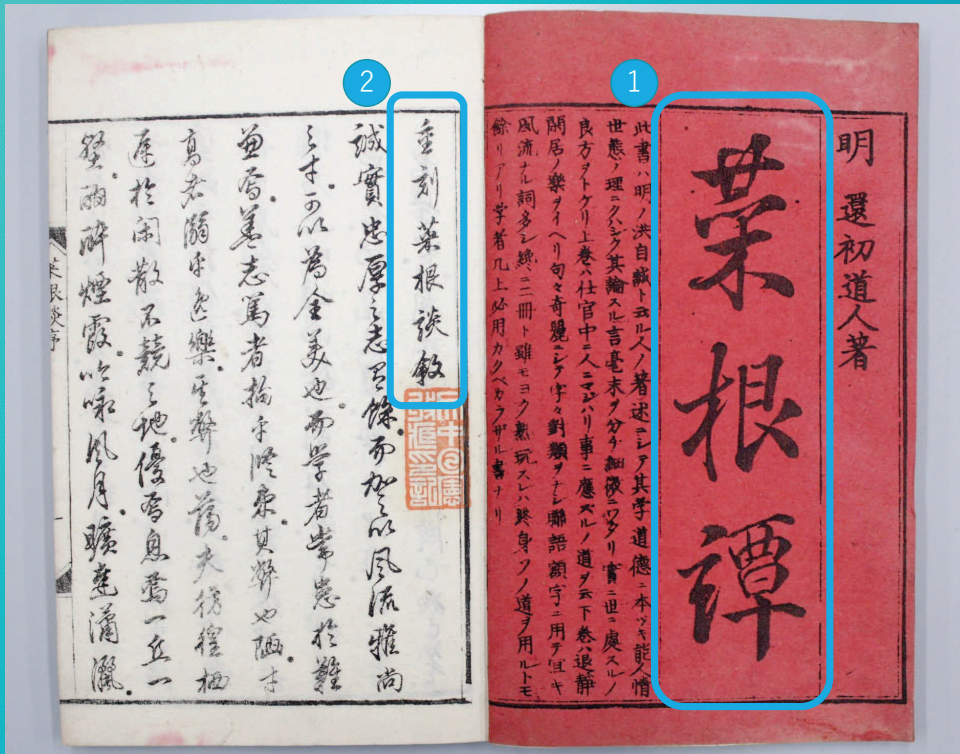
【書名】

外題/題簽題
「菜根譚」

▶外題

書物の表紙や巻き物の巻き終わりの部分に貼った、短冊形の紙に書かれた表題。また、その紙。表紙をめくった内側に書いてある内題に対していう。題簽。

"げ - だい【外題】", 日本国語大辞典, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2022-11-25)



【書名】
①見返しの書名
「菜根譚」

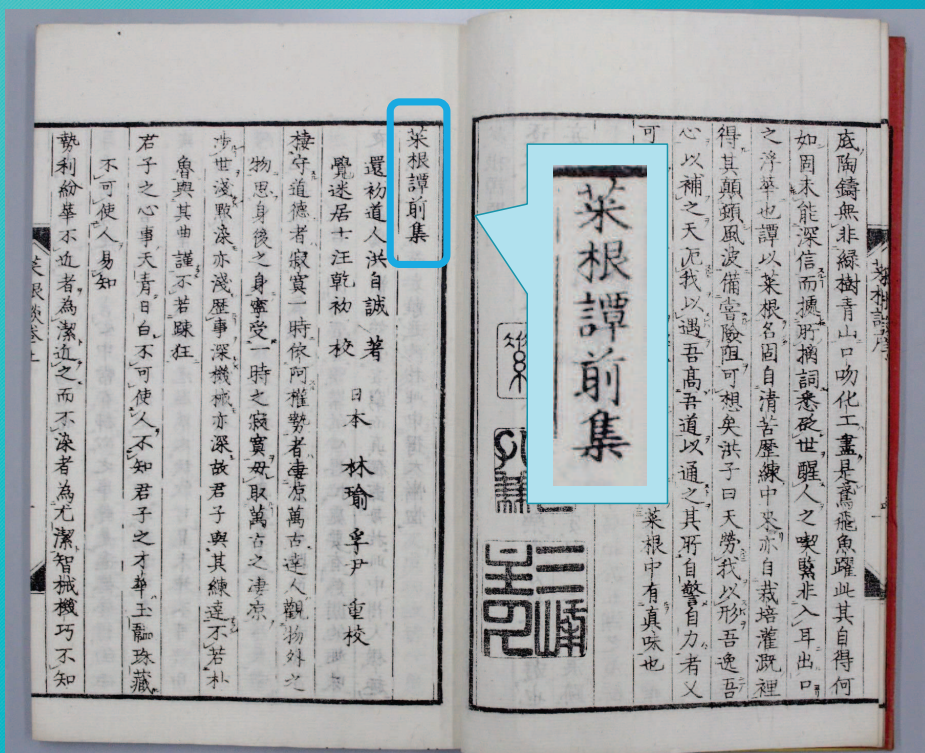
②叙首の書名
「重刻菜根談」

・じよ 【叙】
「じよ (序)」に同じ。

・じよ 【序】
詩文や書物のはじめにその述作の趣旨などを述べた文章。はしがき。序文。叙。

"じよ【叙】", 日本国語大辞典,
"じよ【序】", 日本国語大辞典,
JapanKnowledge,
<https://japanknowledge.com>, (参照 2022-11-30)

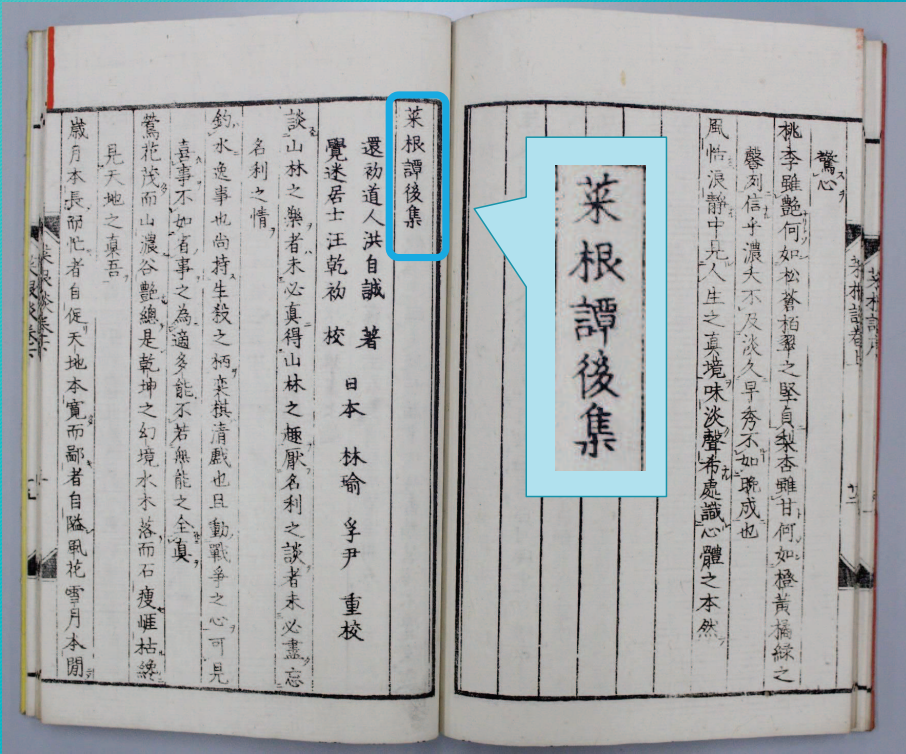
使用画像はすべて立正大学古書資料館所蔵『菜根譚』 (125.5/Ko95)



【書名】
卷頭（前集）の書名
「菜根譚」

立正大学古書資料館所蔵

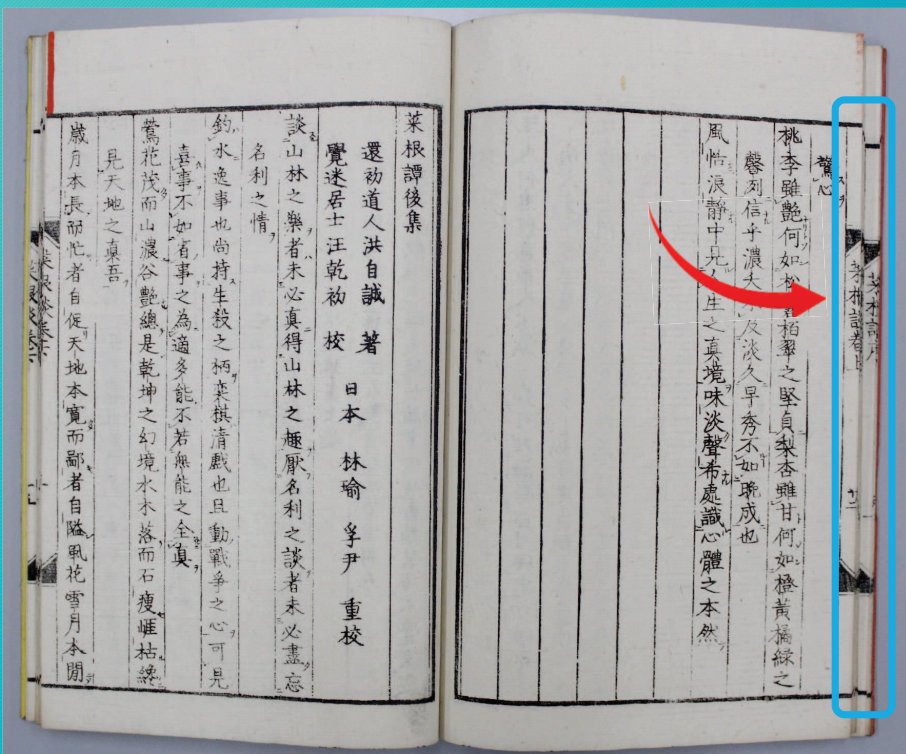
【書名】
 卷頭（後集）の書名
 「菜根譚」



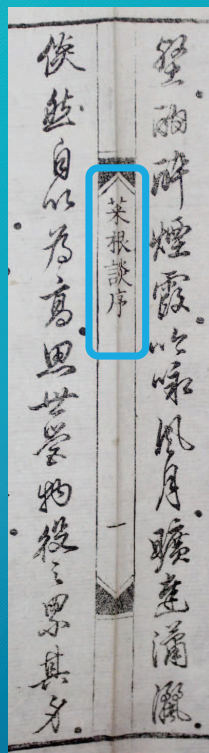
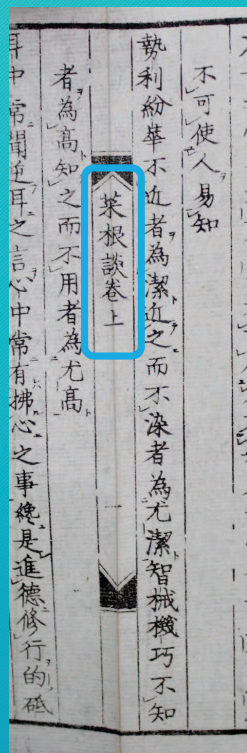
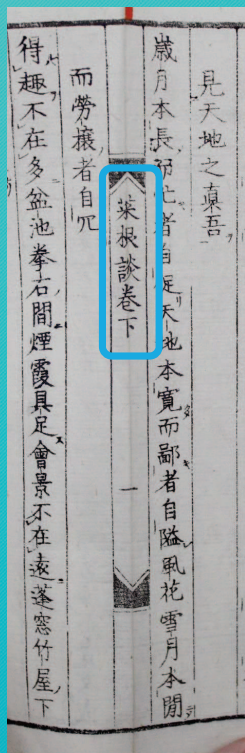
立正大学古書資料館所蔵

▶版心
 印刷された書物を二つ折した折り目にあたる部分で、柱ともいう。ここには、書名またその略称、巻数・丁数、時には出版者の書齋号や商号…などが刻記されている

"はんしん【版心】", 国史大辞典, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2022-11-29)



立正大学古書資料館所蔵

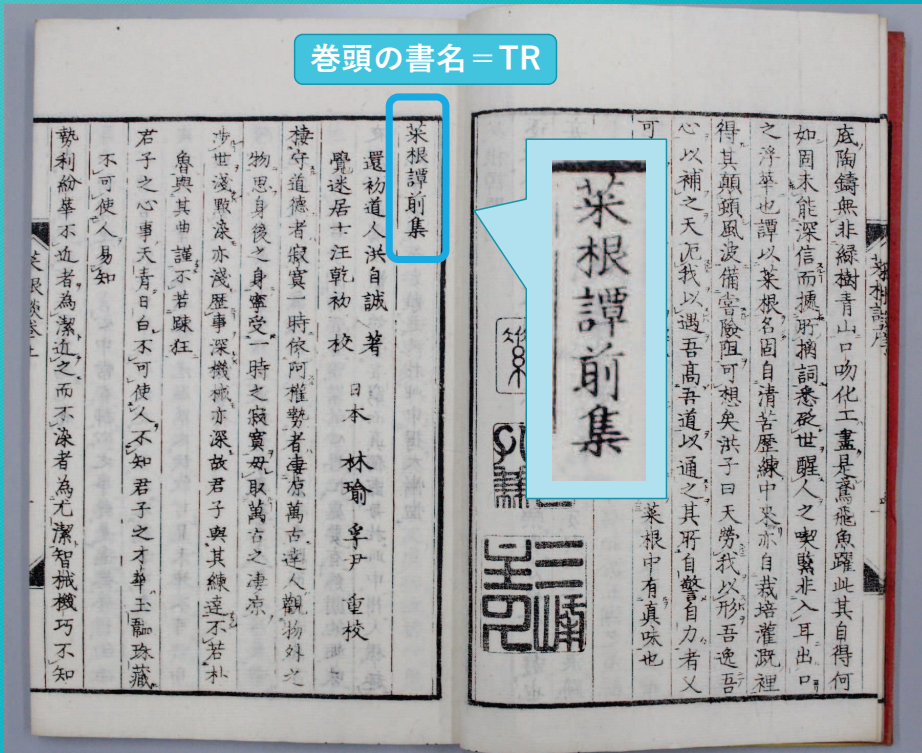


【書名】
版心の書名
「菜根談」

立正大学古書資料館所蔵

【書名】 NIIの記述に落とし込む

巻頭の書名 = TR



【書名】

原則として記述対象資料全体を情報源とするが、その中でも比較的有効である情報源は下記の通りとする。

(1) 巻頭、題簽、外題…

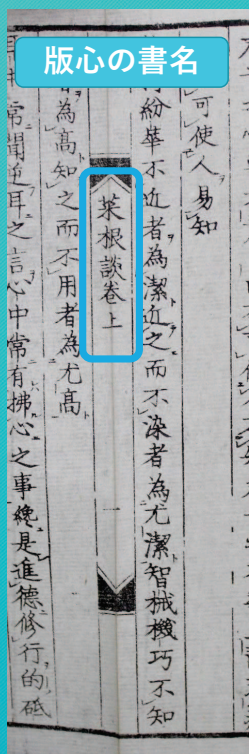
タイトルについては、**巻頭以外を情報源とした場合にはNOTE**フィールドにその情報源を示す。

コーディングマニュアル
(和漢古書に関する抜粋集)

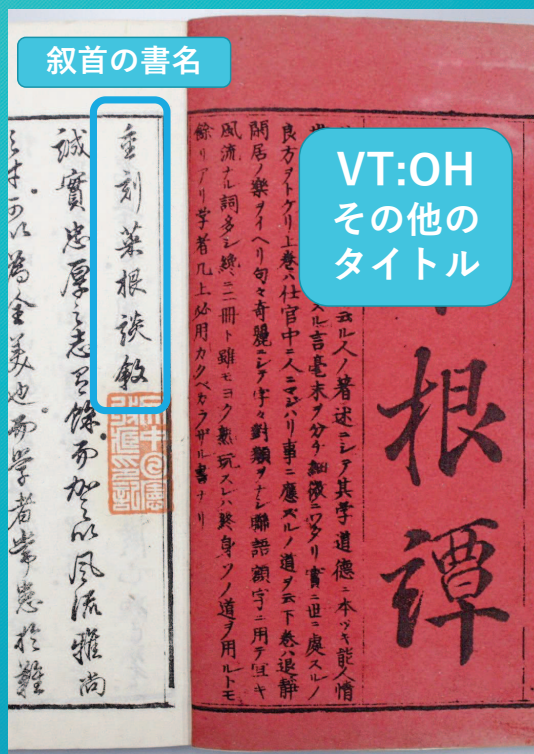
4. タイトル及び責任表示に関する事項 TR 2.2.1E

立正大学古書資料館所蔵

版心の書名



叙首の書名



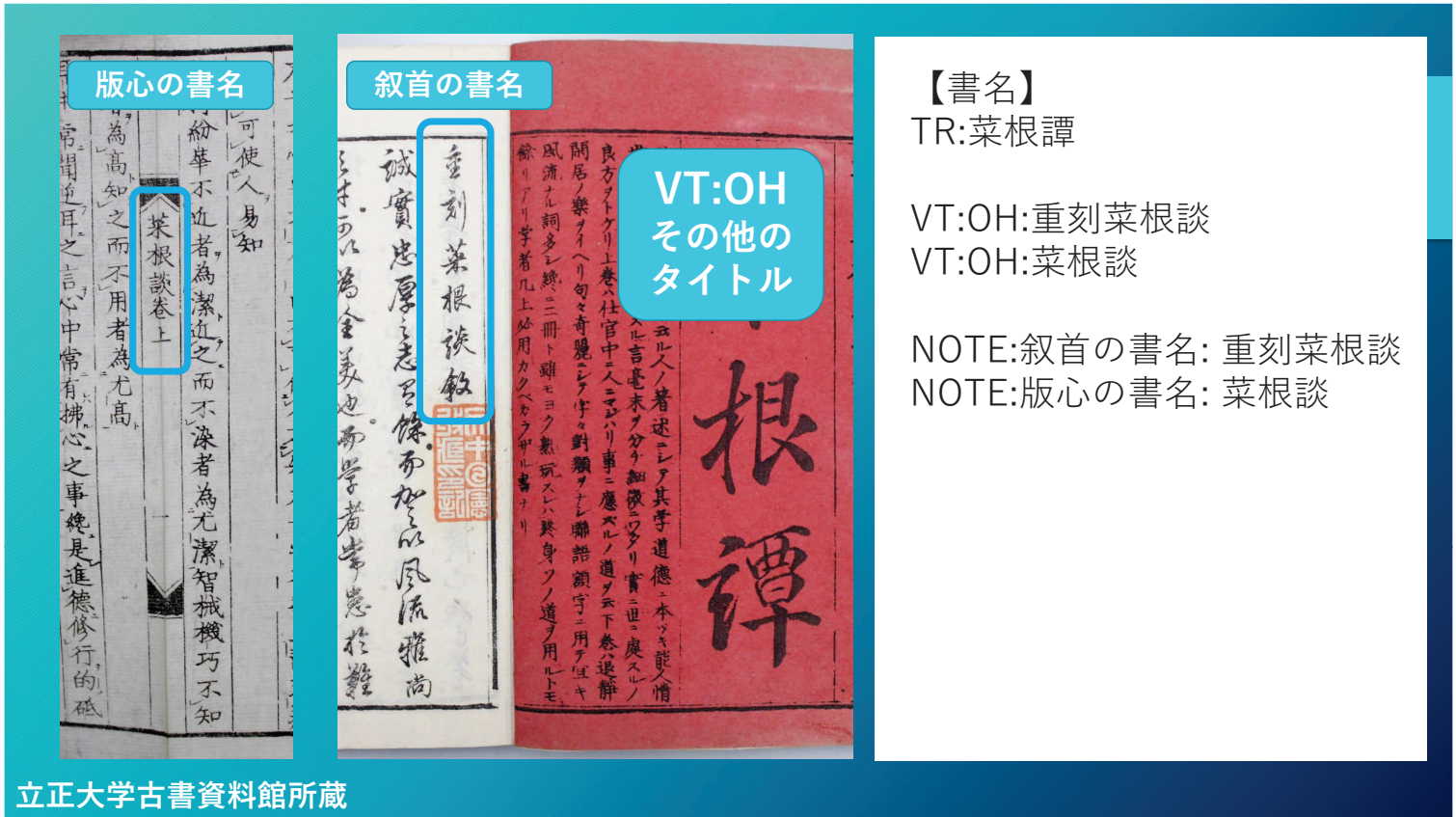
【書名】

資料中の各所に表示されたタイトルをVT フィールドに記録する場合、タイトルの種類コード「OH(その他のタイトル)」とともに記録し、同時にその表示箇所についての説明をNOTE フィールドに記録する。

コーディングマニュアル
(和漢古書に関する抜粋集)

7. その他のタイトル VT

立正大学古書資料館所蔵



【書名】

TR:菜根譚

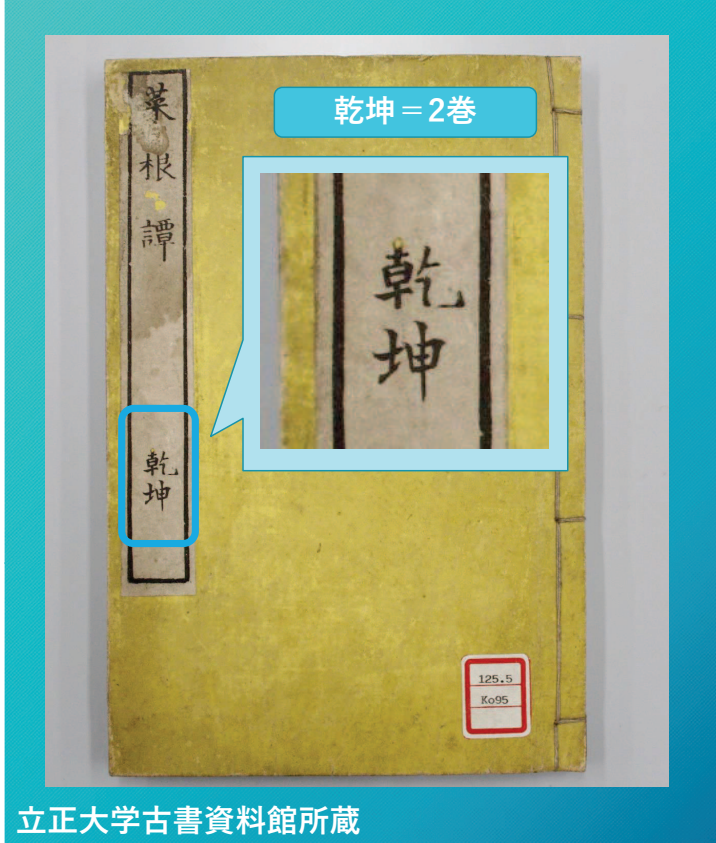
VT:OH:重刻菜根談

VT:OH:菜根談

NOTE:叙首の書名: 重刻菜根談

NOTE:版心の書名: 菜根談

立正大学古書資料館所蔵



【書誌的巻数】

「乾坤」

【書誌的巻数】

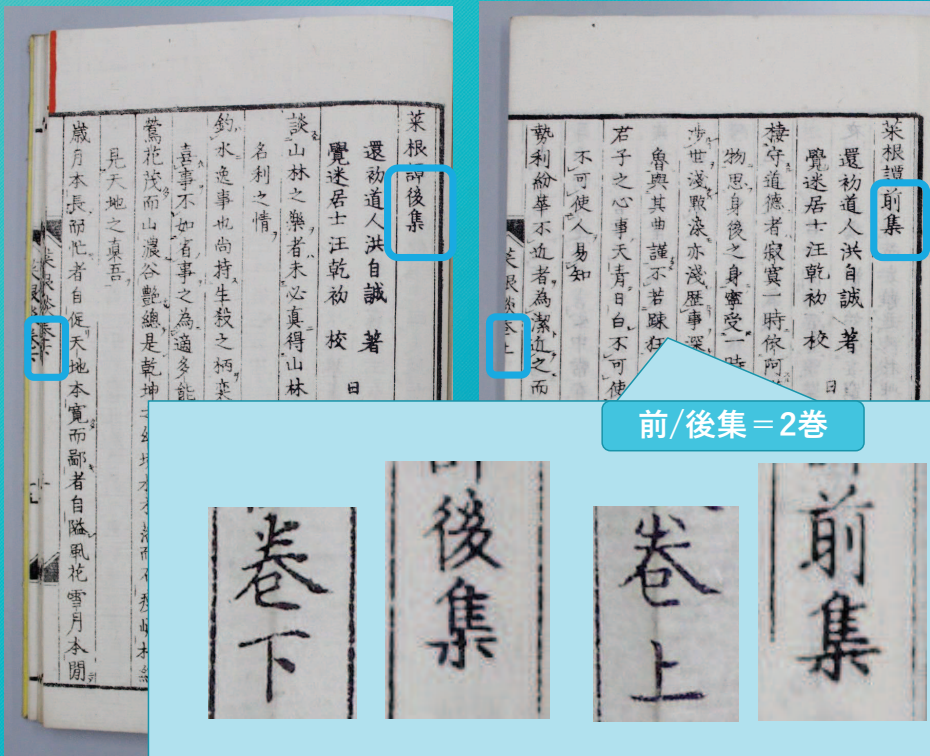
和漢古書の伝統的な目録法においては著作の成立時、あるいは初期の刊行(製作)時の巻数を書名に続けて記録する慣習がある。この巻数を、物理的な現況にもとづく巻数と区別して言う場合に書誌的巻数という。

和漢古書に関する取扱い及び解説

3. 書誌的巻数の記録方法

https://catdoc.nii.ac.jp/pdf/wakan_toriatsukai.pdf

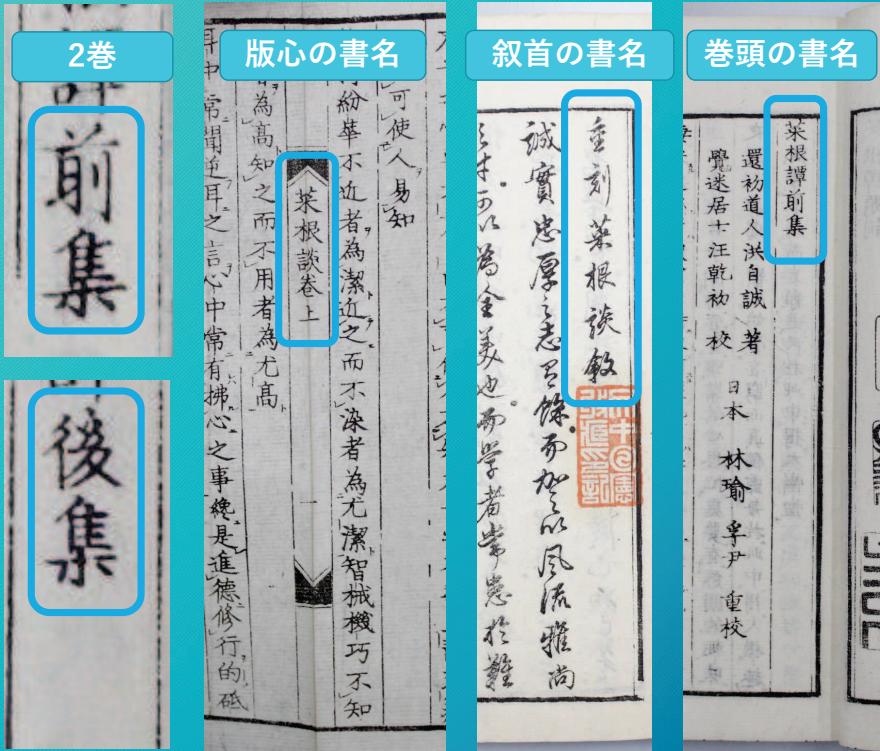
立正大学古書資料館所蔵



【書誌的卷数】
 書誌的卷数の記録方法
 書誌的卷数をタイトルの一部として、タイトルの後スペースに続けて、アラビア数字に置き換えて記録する。

コーディングマニュアル
 (和漢古書に関する抜粹集)
 4. タイトル及び責任表示に関する事項 TR
 [本タイトル及びタイトル関連情報] 章立て未定 (新設)

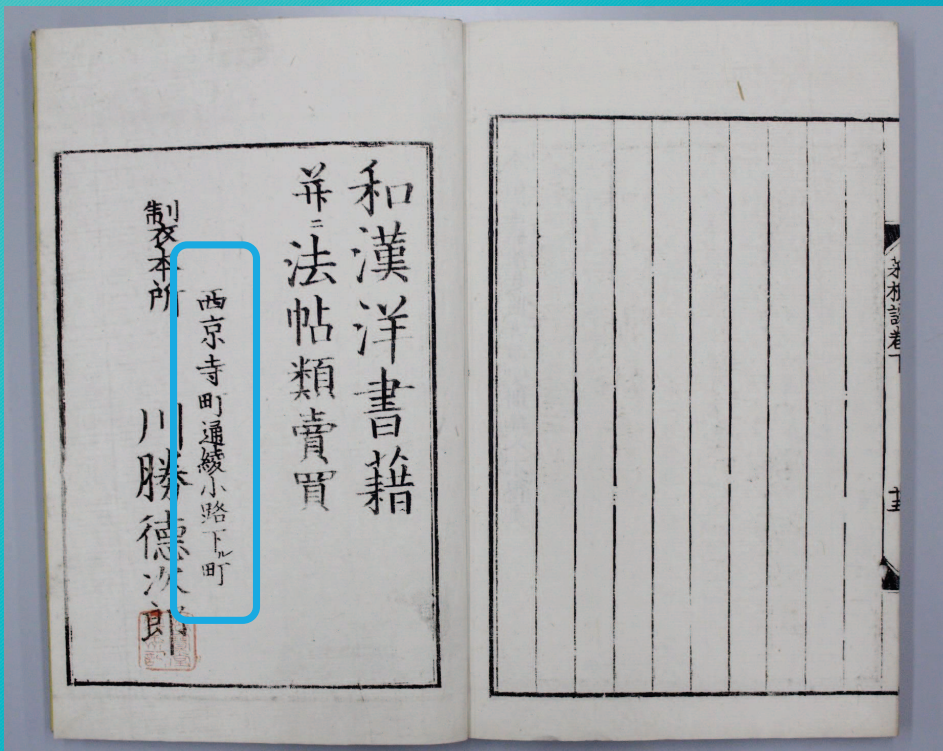
立正大学古書資料館所蔵



【書名】
 TR:菜根譚 2卷
 VT:OH:重刻菜根談
 VT:OH:菜根談
 NOTE:叙首の書名: 重刻菜根談
 NOTE:版心の書名: 菜根談

立正大学古書資料館所蔵

【出版に関する事項】

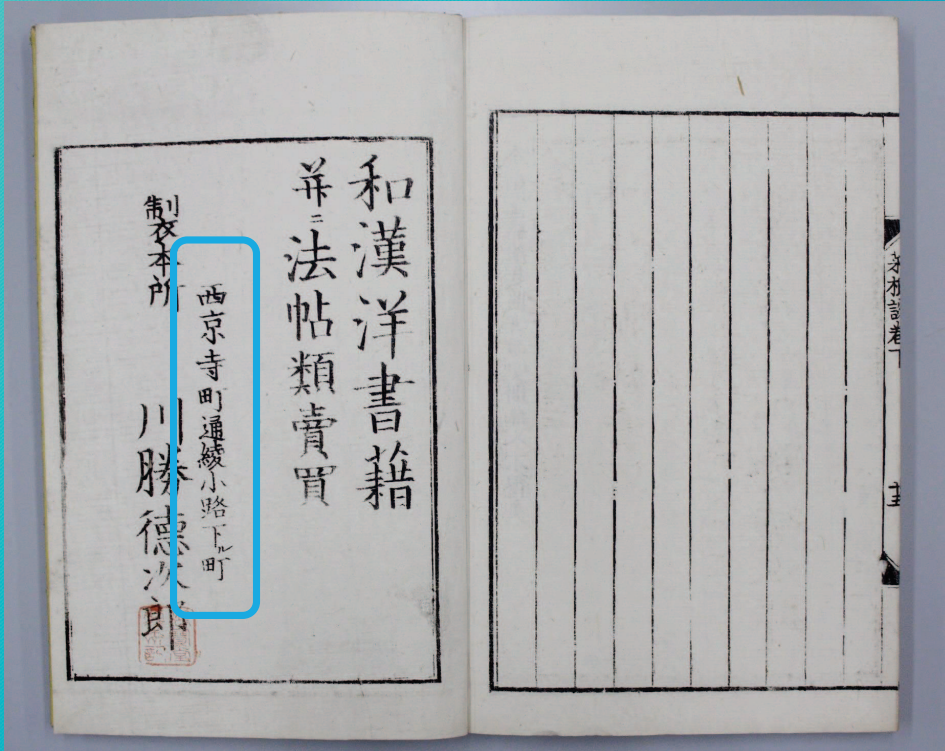


【出版地】

西京寺町通…

▶京都は「平安、京師、京城、西京、皇都…」など様々な表記をされる。

『図書館のための和漢古書目録法入門』伊藤 洪二著
樹村房 2019.11, p. 109



立正大学古書資料館所蔵

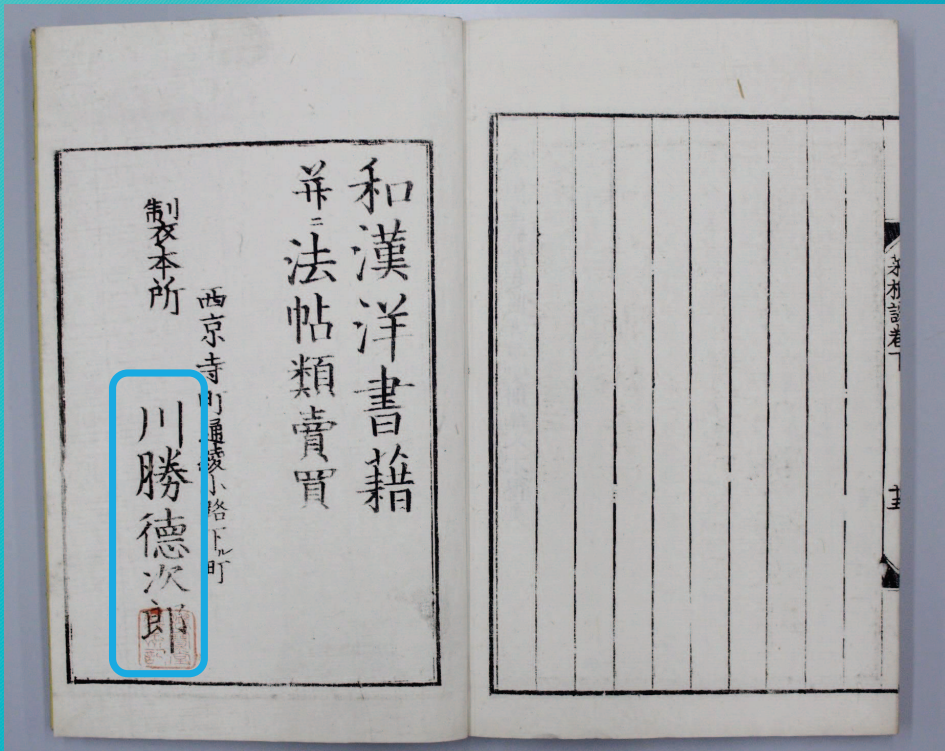
【出版地】
西京 [京都]

▶出版地に記録する古地名は、所定の情報源に表示されている出版地をそのまま記録する。必要があるときは地名の別称が表記されている場合は通行のものを補記する。

和漢古書に関する取扱い及び解説

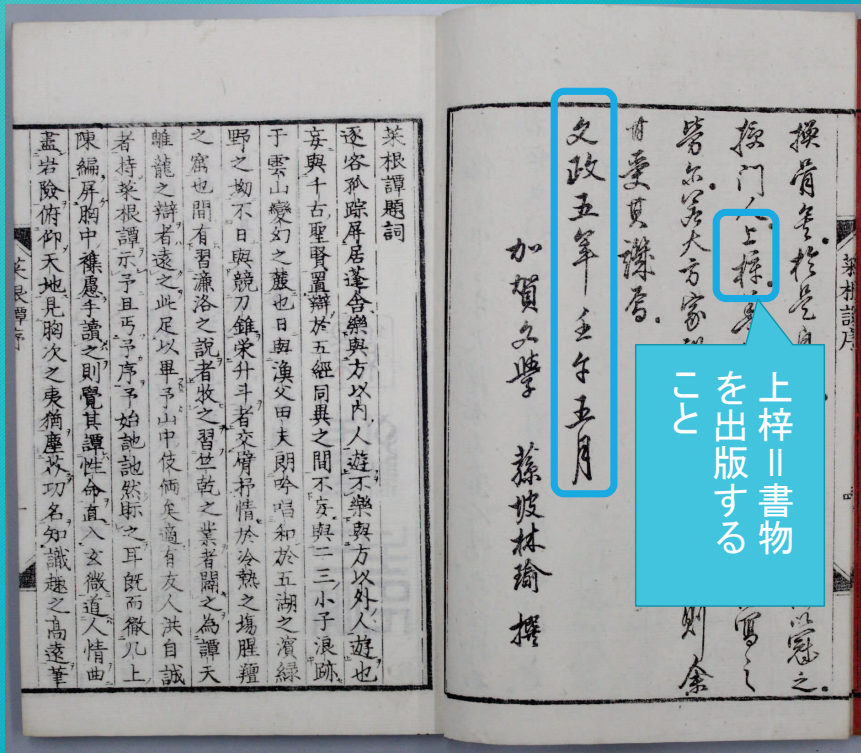
6. 出版・頒布等に関する事項の取扱い

6.2 古地名の記録 (出版地)



立正大学古書資料館所蔵

【出版者】
川勝徳次郎



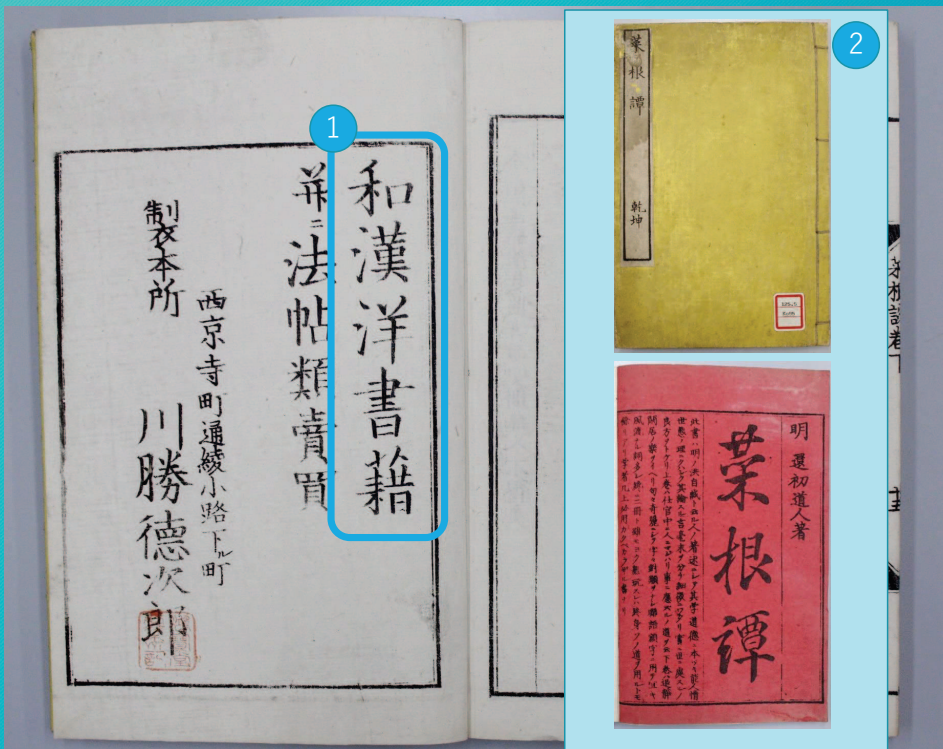
立正大学古書資料館所蔵

【出版年】
叙の文末 文政5年

・既刊の版本の版木をそのまま用いて後に印刷する後刷が多く行われていたため、その見極めが難しい。

"後刷", 図書館情報学用語辞典 第5版, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2022-11-30)

上梓の書物を出版すること



立正大学古書資料館所蔵

【出版年】
①和漢洋
洋書を扱っている？
②表紙や見返しの色

↓
明治の出版？

「文政5序刊 明治印、京、川勝徳次郎」とあり

『和刻本漢籍分類目録』
長澤規矩也著 増補補正版
汲古書院 2006.3, p. 133

川勝徳次郎は明治の書肆か？

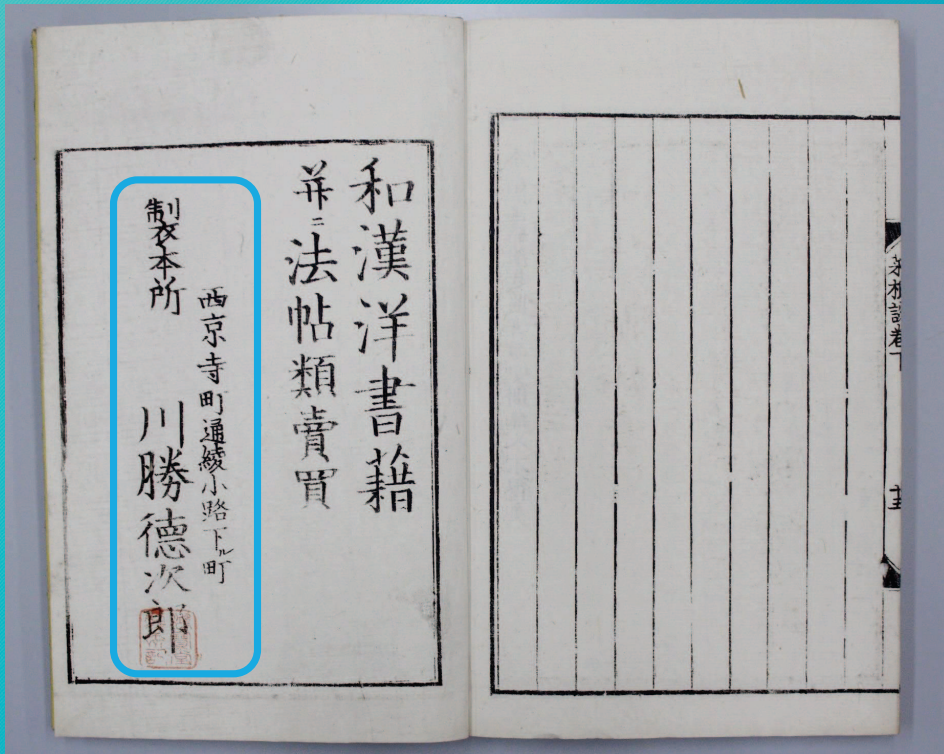
国文学研究資料館「近代書誌・近代画像データベース」にて検索 [〈https://base1.nijl.ac.jp/~kindai/〉](https://base1.nijl.ac.jp/~kindai/)

- 「其粉色陶器交易」 明治6年
売捌所の「京都書林」中に「川勝徳次郎」あり
- 「藤樹全書」明治32年
発行元「川勝鴻宝堂」、発行兼印刷者「川勝徳次郎」

「国立国会図書館デジタルコレクション」で「川勝鴻宝堂」を検索



- ①川勝鴻宝堂の『書籍目録』3号（明治30年）
〈DOI：10.11501/897202〉
「弊舗は書籍販売業を以て数十年連綿として」
* 発行者「川勝徳次郎」、印刷者「川勝友次郎」
- ②川勝鴻宝堂が明治33年に刊行した『菜根譚』の活字本
〈DOI：10.11501/755569〉
* 発行者兼印刷者「川勝友次郎」



【出版年】
 出版年:[明治期印]
 NOTE:文政5年序刊の後印本

▶初刷でないことは明らかだが、印行年(刷年)が不明な場合は、「後印本」と記録する。

コーディングマニュアル
 (和漢古書に関する抜粋集)
 9. 注記 NOTE
 2.2.7F出版に関する注記

立正大学古書資料館所蔵



TR:菜根譚 2巻

VT:OH:重刻菜根談

VT:OH:菜根談

PUB:西京 [京都] : 川勝徳次郎, [明治期印]

NOTE:叙首の書名: 重刻菜根談

NOTE:版心の書名: 菜根談

NOTE:文政5年序刊の後印本

立正大学古書資料館所蔵



立正大学古書資料館所蔵

原則として、和古書は 1868 年以前、漢籍は 1912 年以前のものを和漢古書とする。

また、明治期／民国以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などの場合は、和漢古書扱いとする。

▶和漢古書扱いをするかどうかは館の判断となる

記述対象資料毎に別書誌レコードを作成する場合は、その旨を最初の注記として記録する。

例) NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成

和漢古書に関する取扱い及び解説

1. 適用範囲・書誌レコード作成単位

参考文献

- ▷ 『和刻本漢籍分類目録』
長澤規矩也著
増補補正版 汲古書院 2006.3
- ▷ 『図書館のための和漢古書目録法入門』
伊藤 洪二著
樹村房 2019.11

研修を受けての感想

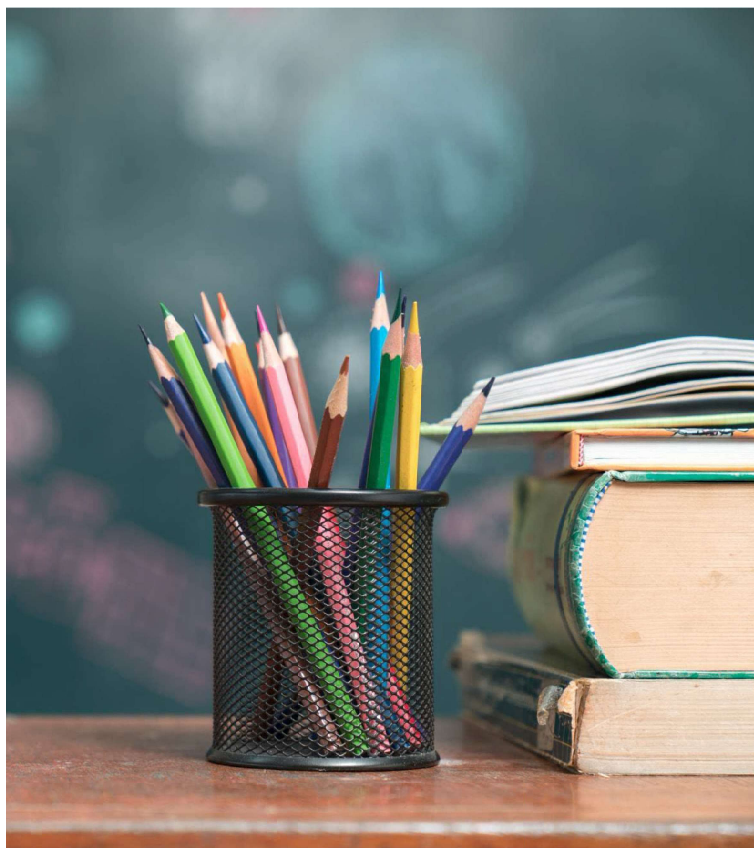
- ・ 初心者でも一から和漢古典籍について学ぶことができる
- ・ 資料の確認すべきポイントや調査に使用するデータベースについて学ぶことができる
- ・ 自館で作成に悩む資料などを相談できて助かった

和漢古典籍にご興味のある方は受講をお勧めします！

2022年度 私立大学図書館協会 研修報告大会

スキルアップ研修 (学習環境)

立正大学図書館 松原昂希



スキルアップ研修 (学習環境) 研修の目的

ラーニング・コモンズの歴史や現状を顧みて、ラーニング・コモンズとその背景にある「学び方」の思想を再考すること

大学図書館における「これからの学習支援」のあり方や可能性を同じ大学図書館員の仲間と議論・共有して探ること

各受講者が所属する大学における学習環境の向上や学習支援サービスの充実に資すること

テーマ（1）

「『知識の創出』また『自主的学習』とは、
どのようなものなのか、自分の身の回りで
それに該当す事例は何か？」

課題文献：

「動向レビュー：インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ」
米澤誠. カレントアウェアネス. 2006. No289
<https://current.ndl.go.jp/ca1603>

図書館の変化： インフォメーションコモンズの始まり

PC、インターネットの普及による来館者減少への危機感



デジタル機器を設置、グループ学修、ソフトウェアなどへの自由なアクセスを整備



これらの機器、ネットワークを利用できる環境、利用指導の体制を急ピッチで進めた

大学教育の変化： 学生中心の自主的学習へ

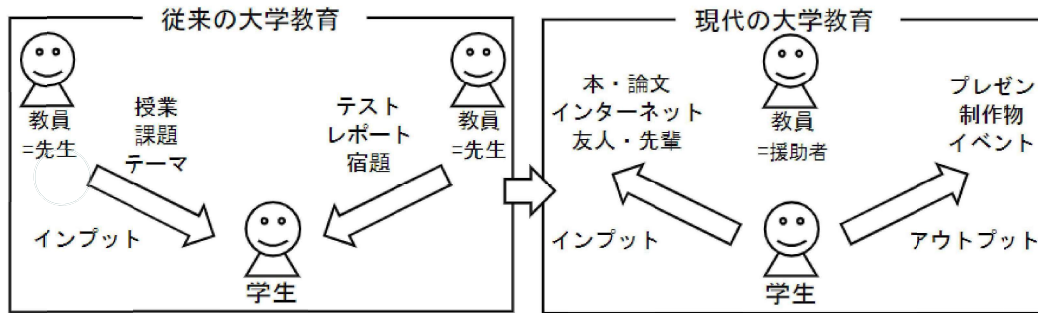
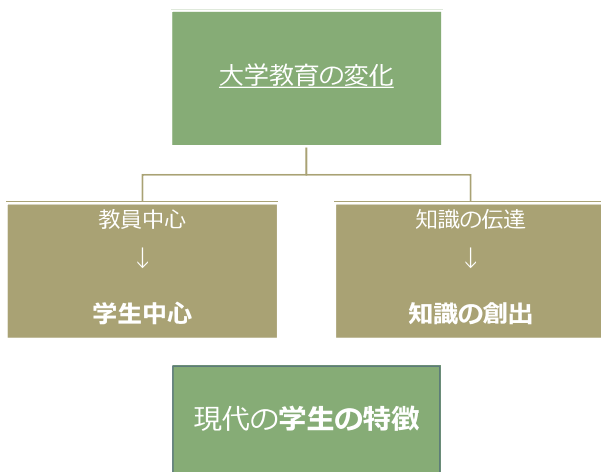


Figure 1 教育観の変化による学生のインプット・アウトプットの変化

出典：奥田雄一郎. 心理学から見た我が国のラーニング・コモンズにおける学びの動向と今後の課題. 共愛学園前橋国際大学論集. 2012, (12), p. 91-103

大学教育の変化： 学生中心の自主的学習へ



学生が主体的に知識を活用
できる場が必要
・・・ラーニングコモンズ

インフォメーションコモンズから ラーニングコモンズへ

主体的な学習を可能にする場（設備）の提供

- 開放的な空間、自由にレイアウト可能な机やイスの整備

人を介するサービス

- 学生の主体的学習活動を支援するためのサービス

テーマ（2）

「ラーニング・コモンズは、どのような『学び』の支援を行ってきたのか？そしてこれからは、どのような『学び方』の支援が考えられるのだろうか？」

課題文献：

「研究文献レビュー：学びを誘発するラーニング・コモンズへ」

米澤誠. カレントアウェアネス. No317. 2013

<https://current.ndl.go.jp/ca1804>

これまでのラーニングコモンズでの 学び方の支援

図書館の利用方法

データベースに関する講習会

論文・レポートの書き方

図書館が主導のサービス

これからのラーニングコモンズでの 学び方の支援

キャリア支援のイベント

ピアサポート的な体制の確立

創造的学習スペースの整備

全学的で多様なサービス

「施設設備」を重視してきた

物理的、仮想的、文化的コモンズに分類され、それぞれの人的資源が対応関係で表せるが、とくにわが国の場合、箱物として「インフォメーション・コモンズ」を議論する傾向が強く、物理的コモンズだけが注目されがちである。

出典：「心理学からみた我が国のラーニング・コモンズにおける学びの動向と今後の課題」奥田雄一郎。共愛学園前橋国際大学論集。2012, (12), p. 91-103

ラーニングコモンズにかかる最大の課題は、その本質は場ではなくてそこで展開される活動・・・そこでの学生の学習活動を促し、大学図書館員がそれを支援するような活動を展開する観点から大学図書館員にどのようなスキルが必要なのか検討することが求められる。

出典：「大学図書館機能の変化に対応する新しい大学図書館員の育成に関する考察」竹内比呂也，國本千裕。大学図書館研究第114号。2020

多様なスキルをもつ図書館職員へ

最近の大学においては、学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館にも求められている。近年、整備が進められているラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援は、このような要請に応える方策といえる。

出典：大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像。科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会。2010年12月。

図書館職員は**教育への直接的な関与**が求められている

参考文献

- 「動向レビュー：インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」 米澤誠. カレントアウェアネス, 2006, No289 <https://current.ndl.go.jp/ca1603>
- 「研究文献レビュー：学びを誘発するラーニング・コモンズへ」 米澤誠. カレントアウェアネス, No317, 2013 <https://current.ndl.go.jp/ca1804>
- 「心理学からみた我が国のラーニング・コモンズにおける学びの動向と今後の課題」 奥田雄一郎. 共愛学園前橋国際大学論集, 2012, (12)
- 「大学図書館機能の変化に対応する新しい大学図書館員の育成に関する考察」 竹内比呂也, 國本千裕. 大学図書館研究第114号, 2020
- 「大学図書館における新しい「場」 インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ」 永田治樹. 名古屋大学附属図書館研究年報, 2008, (7)
- 「大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像」 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会, 2010. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu_4/toushin/1301602.htm (参照 2020-02-20)

私立大学図書館協会東地区部会 スキルアップ研修 RDA/3Rコース 報告

2022.12.16 私立大学図書館協会東地区部会研究部 研修報告大会

国立音楽大学附属図書館 二塚 恵里

文化学園大学図書館 八巻 豊史

成城大学図書館 吉田 博貴

神奈川大学図書館 井口 知子

国際基督教大学図書館 砂田 ゆとり

コース概要

■ 内容： RDA 3Rについて学ぶ

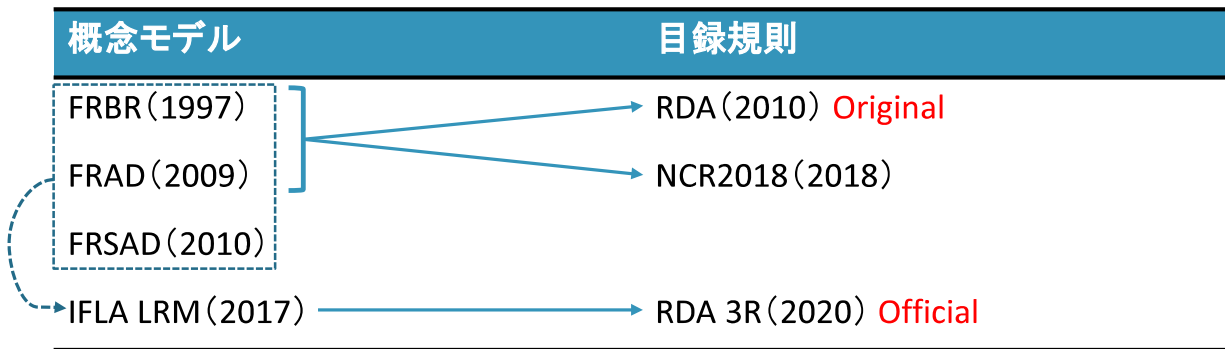
* RDA： Resource Description and Access

* 3R： 3Rプロジェクト (the RDA Toolkit Restructure and Redesign Project)
によって再構築され、2020年12月に公式版となった現行のRDA Toolkit

■ 講師： 高野 真理子 氏 (IAAL 特定非営利活動法人 大学図書館支援機構)

■ 参加者： 5名

オリジナルRDAとRDA 3R



- * FRBR: Functional Requirements for Bibliographic Record (書誌レコードの機能要件)
- * FRAD: Functional Requirements for Authority Data (典拠データの機能要件)
- * FRSAD: Functional Requirements for Subject Authority Data (主題典拠データの機能要件)
(上記3モデルはIFLA LRMに統合されて廃止になった)
- * IFLA LRM: IFLA Library Reference Model (IFLA 図書館参照モデル)

参考文献 (テキスト)

- Introducing RDA: A Guide to the Basics After 3R. Second edition. Chris Oliver (ALA Editions special reports) American Library Association, 2021
- IFLA図書館参照モデル: 書誌情報の概念モデル Pat Riva, Patrick Le Boeuf, Maja Žumer著 ; 和中幹雄, 古川肇訳者代表 樹村房, 2019.12
- Teaching RDA After 3R. August 19, 2019
<https://www.slideshare.net/ALAElearningSolutions/teaching-rda-after-3r>

研修内容

講義「RDA 3Rの世界・世界のRDA 3R」+ 各自課題への取り組み・発表

日程	講義	課題
第1回 2022/6/10(金)	1. RDAの世界観 ▪RDAって何？ ▪RDAの背景: AACR2からRDAへの進化	課題設定
第2回 2022/7/8(金)	▪LRMをベースとした概念モデル	方法確認
第3回 2022/9/9(金)	2. RDAのポイントと使い方 ▪RDA 3Rの主要なポイント	中間発表
第4回 2022/9/30(金)	▪世界標準 ▪RDAを使ってみよう	最終発表

課題内容

- ◆ 関連で表わすとはどういうことかを説明する（国立音楽大学附属図書館 二塚）
- ◆ デジタル文献への適用の利点を説明する（文化学園大学図書館 八巻）
- ◆ 逐次刊行物の捉え方を説明する（成城大学図書館 吉田）
- ◆ NACSIS-CATのRDA3Rの整合性を概観する（神奈川大学図書館 井口）
- ◆ YouTubeにあるRDAの入力例を日本語化する（国際基督教大学図書館 砂田）

私立大学図書館協会東地区部会 2022年度
スキルアップ研修 RDA3Rコース
課題 最終発表

RDA 3R デジタル文献への適用の利点

文化学園大学図書館
八巻 豊史

課題の内容について

RDA 3Rのデジタル文献への適用の利点を説明する

1. 紙の資料とデジタル資料の統合的発見環境を形成する上でのRDA 3Rの利点
2. 粒度の異なる図書・雑誌と論文単位のメタデータ、テキスト本文データを扱う上でのRDA 3Rの利点

デジタル文献の定義

図書館を通して利用可能な資料

- ・ 図書館内で利用できるCD-ROM媒体
- ・ 利用者が自分のスマホで自宅から利用可能な電子書籍
- ・ 図書館内のPCから利用できるデータベース
- ・ 取り寄せできる論文（他の機関のデータベース）
- ・ 機関リポジトリ
- ・ デジタルアーカイブ

統合的発見環境 資料の種類

昔（紙の資料のみ）

紙の図書、紙の雑誌

現在（紙の資料とデジタル資料）

紙の図書、紙の雑誌

機関リポジトリで公開される論文データ（pdf）

データベースに収録された電子書籍

図書館が契約する電子ジャーナル

統合的発見環境 資料の検索

昔

紙の二次資料（書誌、目録、事典、雑誌記事索引等）
図書館に行って書架をブラウジング

現在

インターネットOPACで所蔵資料を検索
専門のデータベースを検索する
(例：国立民族学博物館 身装文献データベース)
CiNiiで検索

統合的発見環境 問題点 1

紙の資料とデジタル資料をまとめて一度に検索できない
電子書籍やデータベース等を個別に検索する必要がある

関連する資料をすべて検索できない

現在のキーワード検索
データ項目の単語が一致する（タイトル、著者名）
データベースの本文に含まれる単語が一致する
必ずしも関連する資料とは限らない
本当に関連する資料を検索できない

統合的発見環境 問題点2

紙の資料とデジタル資料の識別（書誌の区別）が難しい

資料A（紙の資料）

- ①資料Aをそのまま電子化（紙と同じISBN）複製版？
- ②資料Aに加筆修正して電子化（紙と違うISBN）別の版？

資料B（ボーンデジタル）

- ①デジタルのみ存在する資料（ISBNなし）
- ②資料Bをオンデマンド出版した紙の資料（ISBNなし）

コンテンツ

【追加】

RDAにおけるContent Type（NCR2018では表現種別）

text テキスト（紙の本も電子書籍も基本的にこのタイプ）

notated music 楽譜

cartographic image 地図

still image 静止画

three-dimensional moving image 三次元動画

performed music 演奏

sounds 音声

computer program コンピュータ・プログラム

メディア

【追加】

RDAにおけるMedia Type (NCR2018では機器種別)

audio オーディオ

computer コンピュータ (電子書籍)

video ビデオ

microform マイクロ

unmediated 機器不用 (紙の本)

キャリア

【追加】

RDAにおけるCarrier Type (NCR2018ではキャリア種別)

film cassette フィルム・カセット

audiocassette オーディオカセット

computer disc コンピュータ・ディスク (CD-ROM等の電子書籍)

computer disc cartridge コンピュータ・ディスク・カートリッジ

online resource オンライン資料 (ネットワーク上の電子書籍)

videodisc ビデオディスク

microfiche マイクロフィッシュ

microfilm roll マイクロフィルム・ロール

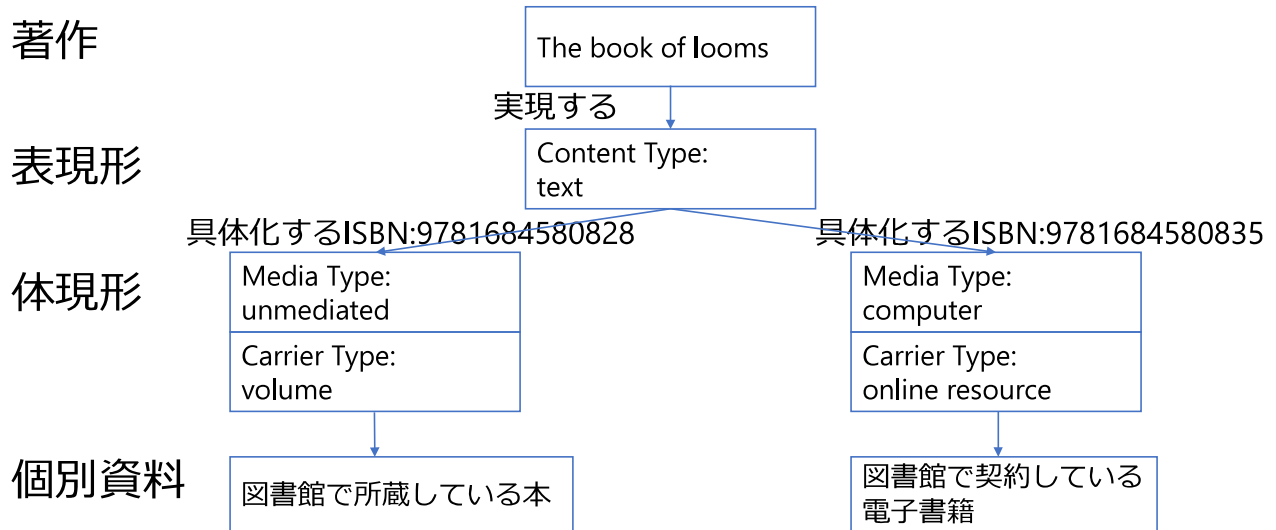
volume 冊子 (紙の本)

sheet シート

roll 巻物

紙資料

デジタル資料



統合的発見環境の形成におけるRDA 3Rの利点

RDA 3R

- ・階層構造（著作、表現形、体現形、個別資料）
- ・ひとつの著作に対する表現形、体現形、個別資料がそれぞれ関連を持っている

→ひとつの著作について、紙の資料とデジタル資料をまとめて検索することが可能になる

→紙とデジタルそれぞれの個別資料を発見・識別することが可能（区別して書誌を作成できる）

統合的発見環境の形成におけるRDA 3Rの利点

関連する資料を検索できる

単純なキーワード検索では探せない関連資料も網羅できる

関連のない資料を除くことができる

同じタイトル、同姓同名の著者など

粒度の異なる資料を扱う場合の利点

粒度の異なる図書・雑誌と論文単位のメタデータ，テキスト本文データを扱う上でのRDA 3Rの利点

カード目録の時代

図書1冊 = 1つの目録

雑誌1タイトル = 1つの目録 + 所蔵巻号

論文・雑誌記事 → 雑誌記事索引等の二次資料（紙）

専門書の参考文献・引用文献（紙）

OPACの時代

CiNiiで論文を検索

インターネットOPACで図書・雑誌（紙）の所蔵を調べる

機関リポジトリで論文・雑誌記事のpdfを利用する

専門のデータベースで論文・雑誌記事を検索（書誌情報または本文テキスト）

粒度の異なる資料 現在の目録の問題点

OPACの目録情報は図書1冊単位
雑誌は1タイトル+1冊の所蔵情報

論文単位の情報は別扱い
(機関リポジトリに収録されていればCiNiiで検索できる)

論文単位の関連は識別しにくい。どこで読めるか分かりにくい
(査読前、査読後、雑誌掲載論文(学術雑誌、一般雑誌))

粒度の異なる資料を扱う場合の利点

RDA 3Rでは**集合体現形**で粒度の異なる資料をモデル化できる

1つの論文 → 1つの表現形
論文集(図書) → 複数の表現形(論文)を具体化した1つの体現形
学会誌(雑誌) → 複数の表現形(論文)を具体化した1つの体現形

それぞれの粒度の書誌情報(メタデータ)を作成できる
(1冊の図書、1冊の雑誌、1つの論文)

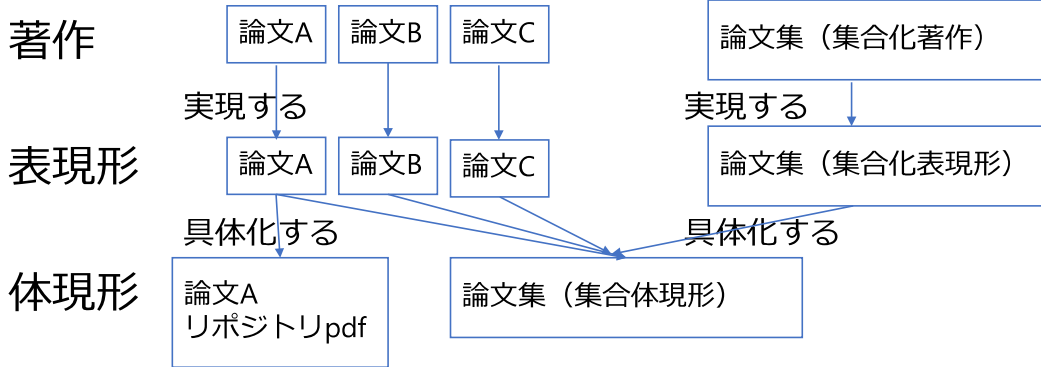
それぞれの個別資料との関連から、利用可能な
テキストデータへアクセスすることができる
(1冊の電子書籍、1冊の電子ジャーナル、1つの論文pdf)

集合化著作

【追加】

複数の著作の集合

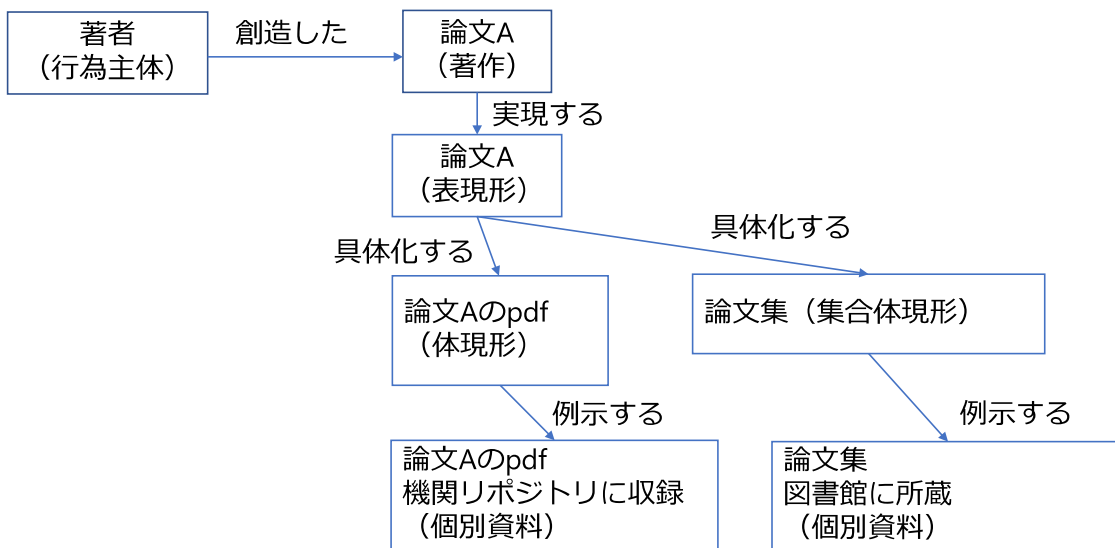
1つの著作（集合化著作）



関連から検索する

【追加】

著者の関連から検索する場合



まとめ

課題： RDA 3Rのデジタル文献への適用の利点を説明する

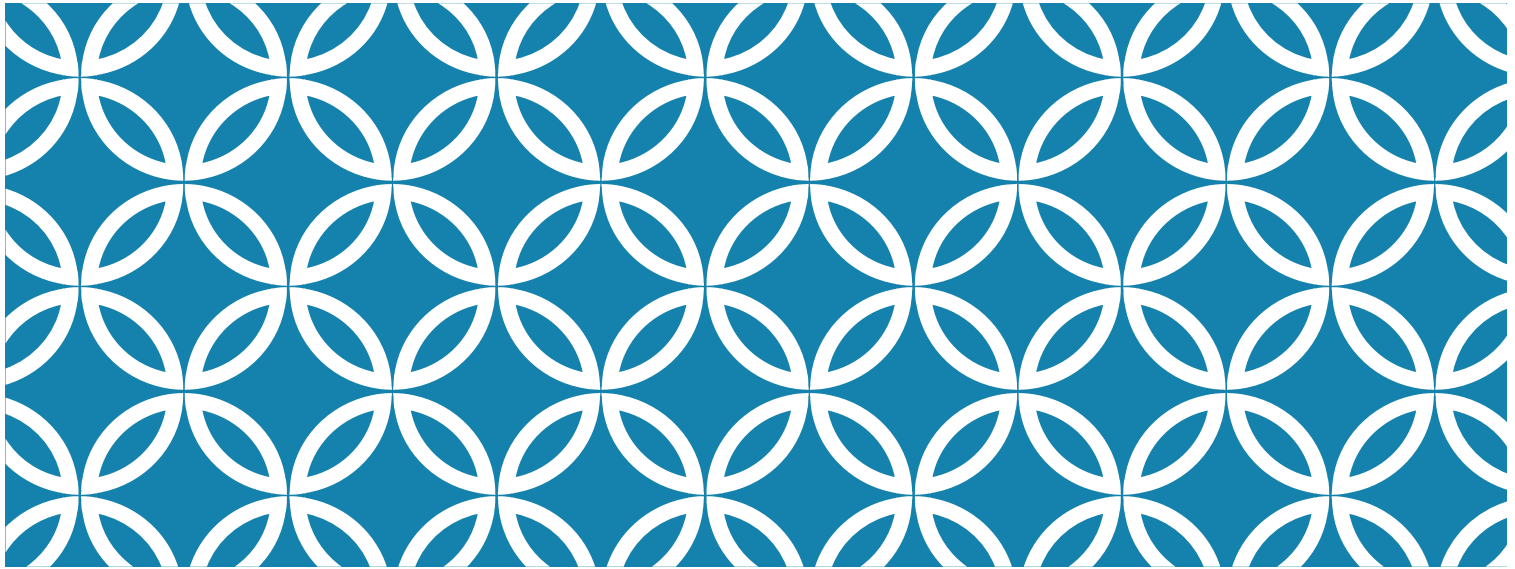
1. 紙の資料とデジタル資料の統合的発見環境を形成する上でのRDA 3Rの利点

関連する資料を一度にまとめて検索できる

2. 粒度の異なる図書・雑誌と論文単位のメタデータ、テキスト本文データを扱う上でのRDA 3Rの利点

現在のOPACでは本1冊、雑誌1冊単位の書誌情報

論文単位の書誌情報と本文データへのアクセス情報も本1冊、雑誌1冊の書誌情報と同等に扱うことが可能



最終発表
YOUTUBEにあるRDAの入力例を日本語化する

国際基督教大学図書館
砂田 ゆとり

動画について

動画タイトル: 「NARDAC Update Forum – April 25,2022」

Members of the North American RDA Committee (NARDAC)

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=mBbyuc8ZH2Y>

発表タイトル: How to use the Toolkit with the Documentation

発表者: Melanie Polutta & Bob Maxwell (Library of Congress)

49:12-1:15:43(約26分間)

用語の整理

用語	翻訳語
Policy Statements	ポリシー
Manifestation	体现形
MGD	Resource Description & Access (RDA) Metadata Guidance Documentationのこと https://www.loc.gov/aba/rda/mgd/
LC-PCC	https://www.loc.gov/aba/pcc/ 米国議会図書館の共同目録プログラムのこと https://www.loc.gov/aba/pcc/
Original RDA /Official RDA	RDA /RDA 3R のこと?
RSC	RDA Steering Committeeのこと
Element	エレメント

用語の整理

用語	翻訳語
RSC	RDA Steering Committeeのこと
BibFrame	MARC21に代わる新しい書誌データモデル。 https://www.loc.gov/bibframe/
Title proper	本タイトル
Transcribe / transcription	転記
Other title information	その他のタイトル
Statement of Responsibility	責任表示

翻訳動画

画面共有で再生します

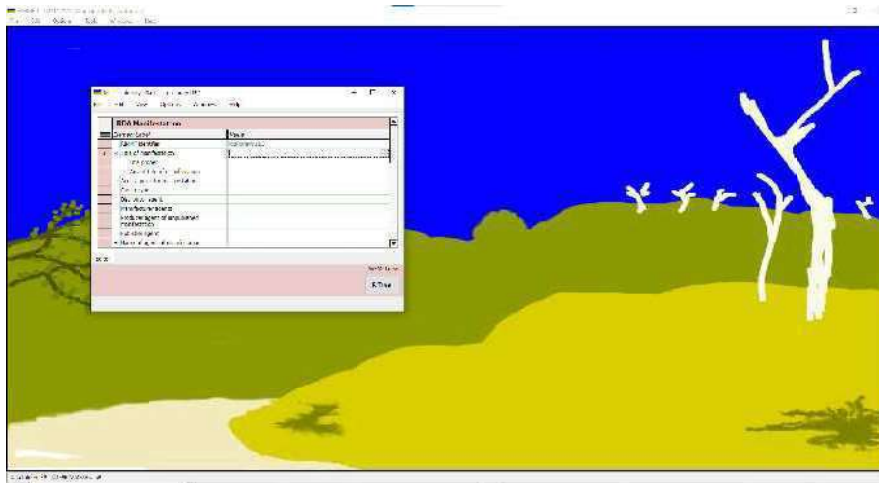
日本語化動画をつくるには

- 翻訳元動画を見ると、RDAには目録法のみしか書いておらず、実際の目録作業についてはとてもわかりにくいと感じる。
- RIMMF(RDA in Many Metadata Formats)で実際に目録作業をすることができる
- ベータ版のRIMMF4では、RDA 3Rに対応している(開発中なのでUIはいまいち)

(<https://rimmf.com/w/doku.php?id=rimmf4:start>)

- RIMMFを使ったRDAのドキュメンテーション動画を日本語で作る
- その様子を解説する動画を作る

実際のRIMMF4の画面



感想

- 長い動画の翻訳は大変！
- 字幕に収まるような自然な訳にならない
- 長い動画はPCのスペック不足で編集が難しくなる
- 動画制作を通じて実際にRDAを使う方法がなんとなく理解できた
- 次はRIMMFを使用して、実際にRDA 3Rの目録法を解説する動画を作る？

関連で表わすとはどういうことを説明する

具体例をあげて，RDA 3RもしくはIFLA LRMの世界観を図解する

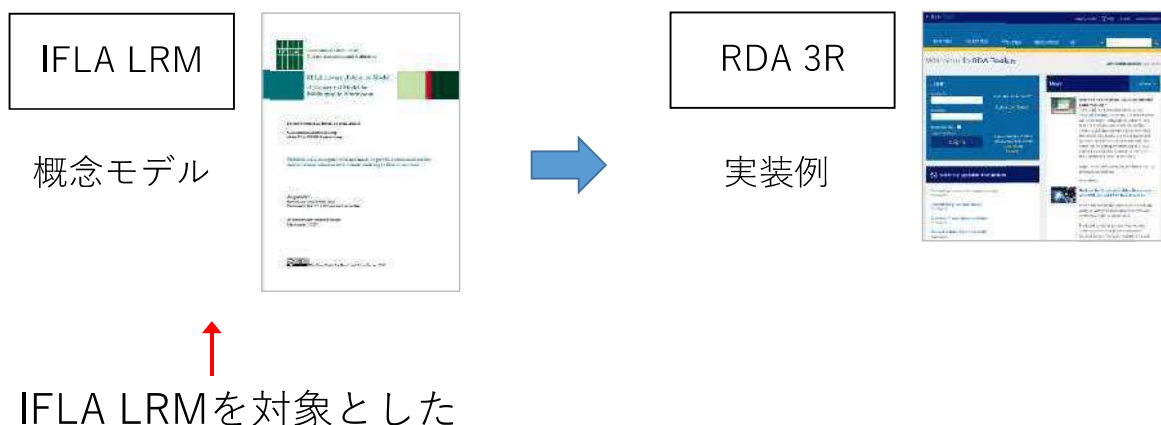
国立音楽大学附属図書館 二塚恵里



課題内容

関連で表わすとはどういうことを説明する

具体例をあげて，RDA 3RもしくはIFLA LRMの世界観を図解する



「関連で表わす」とは

IFLA LRM (IFLA Library Reference Model)

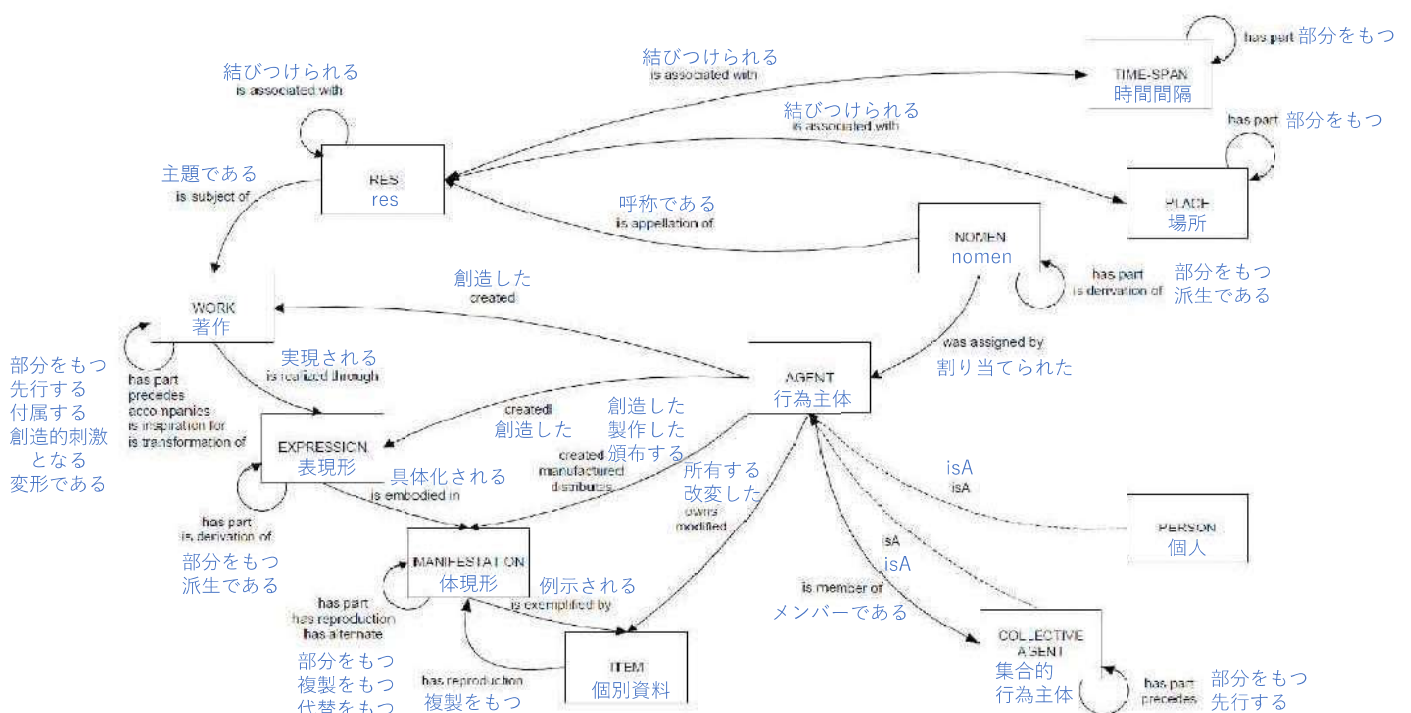
邦訳：図書館参照モデル ←実体**関連**分析による概念モデル
書誌情報*の世界を実体と**関連**と属性で表現する



書誌情報*を要素に分解して、長方形、矢印などの図で表す
線をつながる世界 = 書誌的宇宙 bibliographic universe
リンクを辿って探索、発見などが可能になる

* 書誌データ・典拠データ全て含む

IFLA LRMの関連の概観図



※"IFLA Library Reference Model: a conceptual model for bibliographic information"(2017)の「Figure 5.6 Overview of Relationships」に『IFLA図書館参照モデル：書誌情報の概念モデル』（樹村房, 2019）による日本語訳を追加

IFLA LRMの図解：はじめに

図の作成にあたって

- IFLA LRMの世界を具体例によって概観することを目的とする
- LRMの一部を簡潔に表したもので、完全に忠実な再現ではない
- 国立音楽大学附属図書館の所蔵資料を中心に構成
- 全ての資料を網羅しているわけではない
(作品研究、エディション研究の意図はない)

題材

G.ホルスト作曲：組曲《惑星》”The Planets”

7曲から成る組曲



平原綾香の歌う《Jupiter》

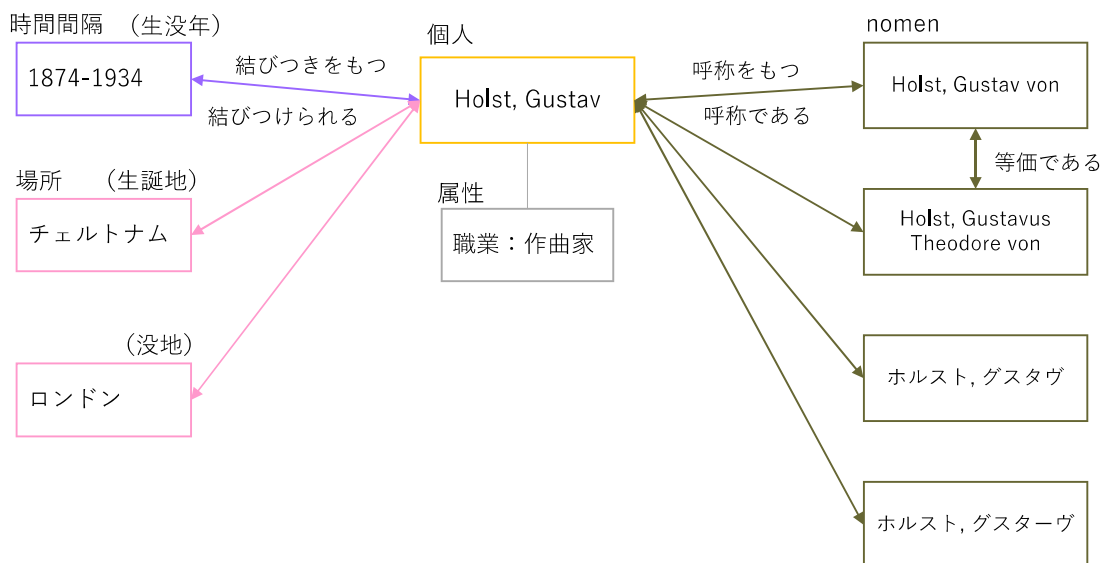
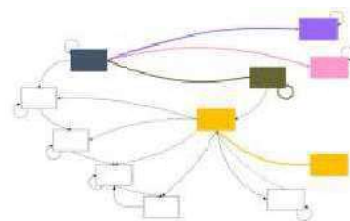
《木星》の一部分に歌詞を付けて編曲したもの



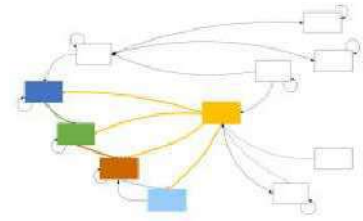
例1：

グスタヴ・ホルスト


行為主体（個人）と関連

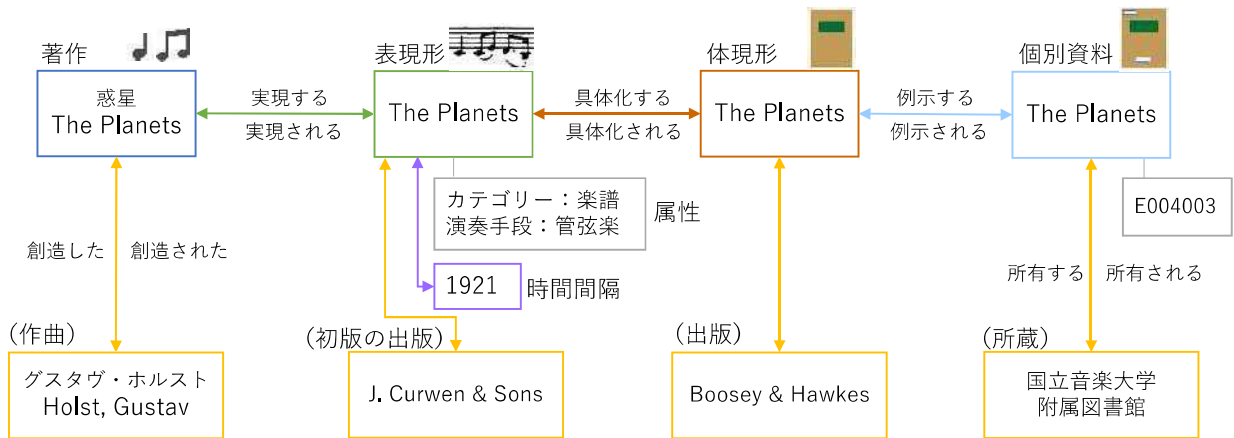


例2：
《惑星》のある楽譜1冊
著作～表現形～体現形～個別資料の関連

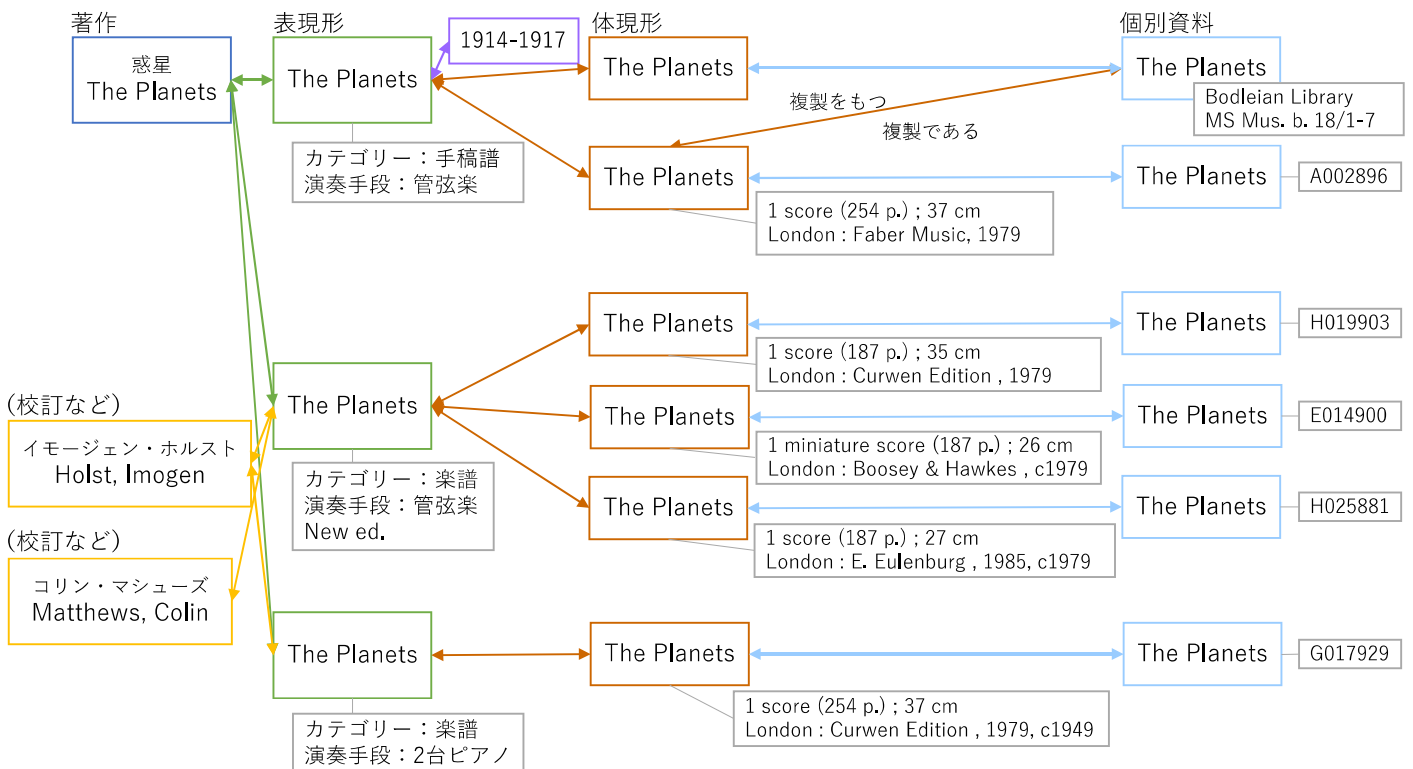
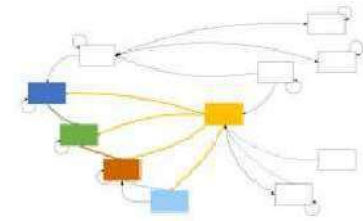


The planets : suite for large orchestra / Gustav Holst
 London : Boosey & Hawkes , c1921
 1 miniature score (187 p.) ; 19 cm
 B. & H. 15970
 国立音楽大学附属図書館資料ID : E004003

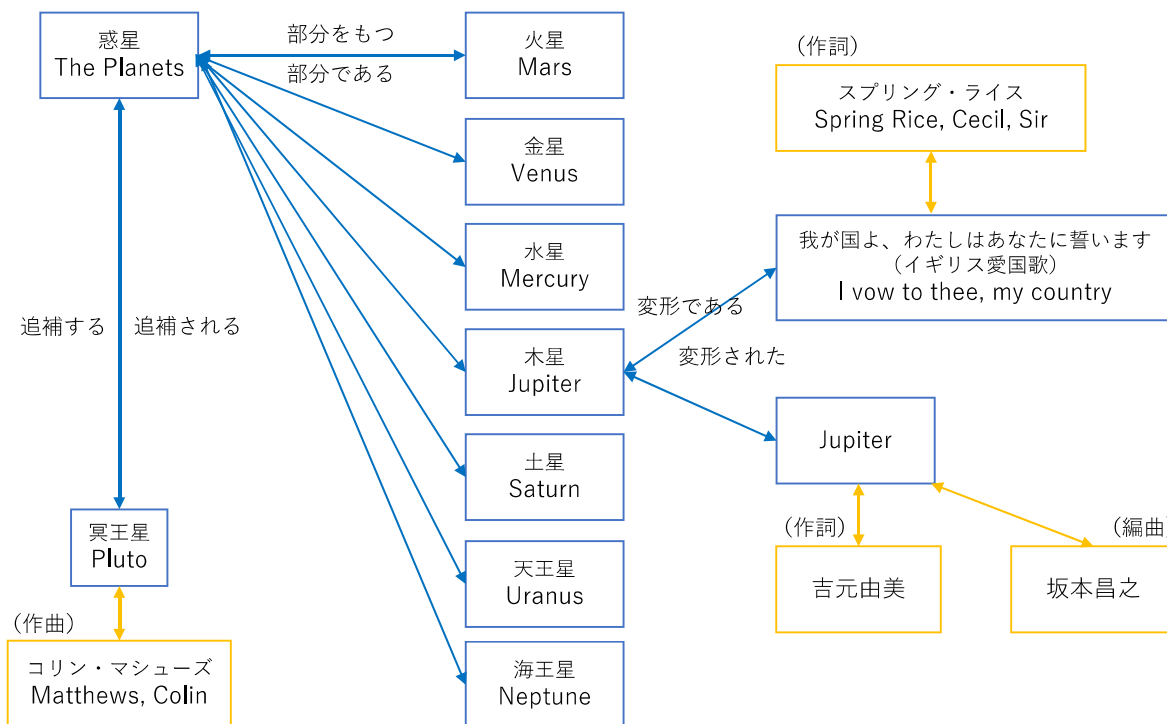
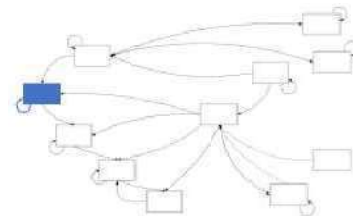




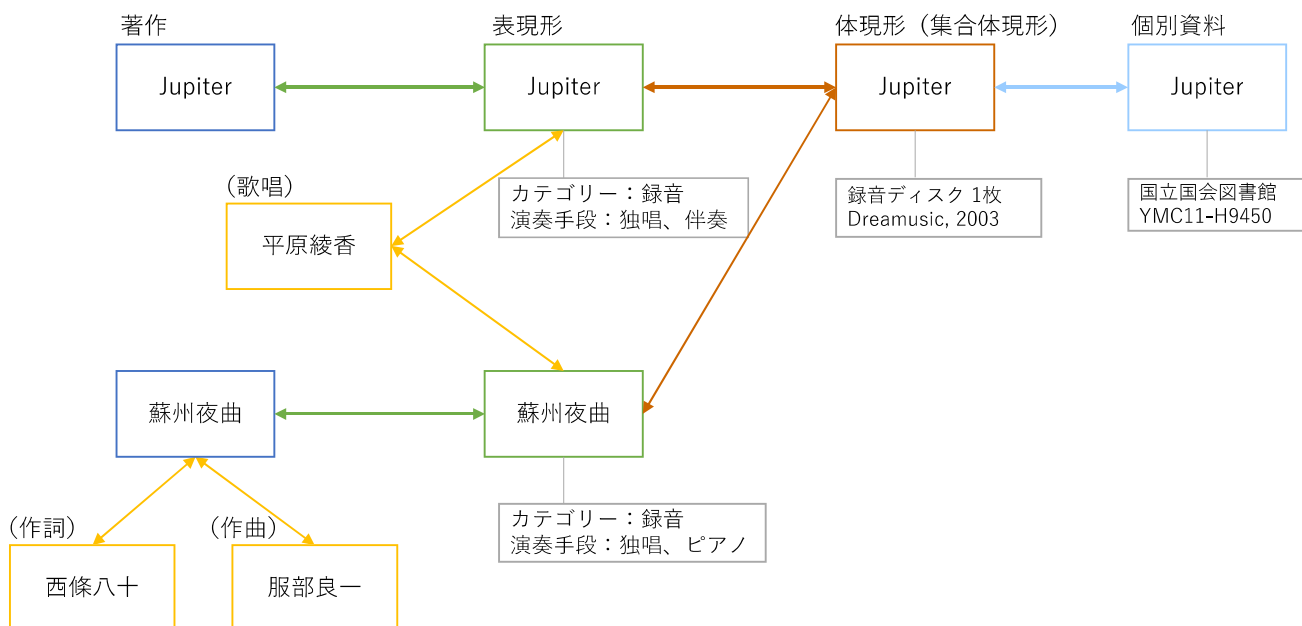
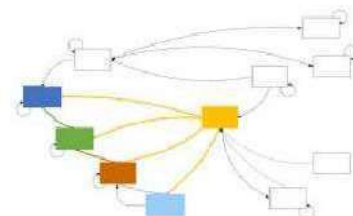
例3：
《惑星》の様々な楽譜
楽譜の種類を関連で整理する



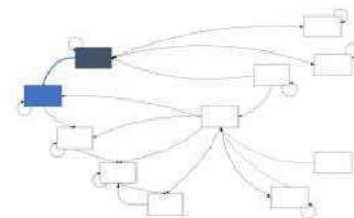
例4：
《惑星》から《Jupiter》へ
著作同士の間連



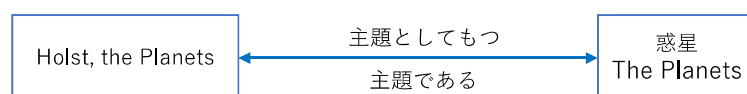
例5：
《Jupiter》のCD
集合体現形（複数の表現形の集合）



例6：
《惑星》の研究書
主題の関連



Holst, the Planets / Richard Greene
Cambridge : Cambridge University Press , 1995
ix, 99 p. : ill. ; 23 cm
国立音楽大学附属図書館資料ID : J080638



利用者タスクとの対応

• 発見

《惑星》の楽譜を全て発見する

→例3 著作のタイトルによって検索

• 識別

発見された楽譜の中から、《惑星》のイモーゲン・ホルストらによる校訂版を識別する

→例3 上から2番目の表現形に基づく体現形を識別する

• 選択

識別された楽譜の中から、自宅に持ち帰りやすいミニチュアスコアを選択する

→例3 Boosey & Hawkes出版のミニチュアスコアを選択する

• 入手

選択した楽譜を入手する

→例3 国立音楽大学附属図書館でE014900を借り出す

• 探索

平原綾香の《Jupiter》の原曲を探索する

→例4 変形の元となった《木星》、《木星》を含む組曲《惑星》を探索する

cf. 典拠コントロールとの違い

• 識別において

例2、例3の上2つの表現形に基づく楽譜の統一タイトルは全て
Holst, Gustav, 1874-1934 -- Planets
→表現形の違いは、書誌データを見比べて判断する

• 探索において

平原綾香の《Jupiter》に統一タイトルを付与する場合（AACR2）
Holst, Gustav, 1874-1934 -- Planets. Jupiter. Selections; arr.
→原曲を探す場合は、Holst, Gustav, 1874-1934 -- Planets
で再検索

まとめ

- 関連で表わすことで、利用者タスクに対応した多様な探し方が可能となる
- 単なる目録規則の変更（記述のルール変更）以上の意味を持っている
- ただし、現状ではLRMの実装であるRDAを適用していても、MARC21などの書誌データ、典拠データのフォーマットを用いたOPACシステムでは関連が活かしきれしていない



NACISIS-CATのRDA3Rの整合性を概観する

神奈川大学図書館資料サービス課 井口知子

私立大学図書館協会東地区部会

2022年度スキルアップ研修RDA3Rコース課題（2022.9.30）

1

課題内容

課題内容：

- 『目録情報の基準』とRDA 3Rを照合し、構造的な類似点（親和性）と相違点を検証する

課題への取り組み：

- 「目録情報の基準(第5版)」および「目録システムコーディングマニュアル（CAT2020対応版）」と「IFLA-LRM」「RDA Toolkit」を比較する
- NACISIS-CATは従来の図書館資料を記録対象しているため、RDA 3RはManifestationを中心に確認した

目次：

1. NACISIS-CATの構造
2. IFLA-LRM 実体・属性・関連の階層構造
3. RDA 3RをNACISIS-CATで表す
4. RDA ToolkitとNC Policy Statement

2

1. NACSIS-CATの構造

- NACSIS-CAT [2020.8版]
- AACR2(1988年改訂、1993年修正)、NCR(1987年版改訂3版)に準拠
- 「**目録情報の基準**」で基準を示し、具体的な記述方法などは「**コーディングマニュアル**」を参照
- **媒体**や**資料内容**による個別の取扱いは、**各種資料取扱いマニュアル**を別途作成
- **図書と雑誌**の、**書誌・典拠・所蔵**について、各項目ごとに記載
- **従来**の**図書館資料**を記録対象とする

■ 参照資料：NACSIS-CAT関連マニュアル <https://catdoc.nii.ac.jp/index.html>

3

NACSIS-CATのマニュアル(目次抜粋)

目録情報の基準(第5版)	目録システムコーディングマニュアル(CAT2020対応版)	各種資料取扱いマニュアル・他
第1部 総合目録データベースの構成 1 総合目録データベースの概要 2 総合目録データベースの構造 3 総合目録データベースの運用	第0章 総則 0.1 データセット 0.2 データの作成単位 0.3 データ間の関係 0.4 新規データ作成の指針 第1部 データ記入 第1章 データ記入総則 第2章 和図書書誌データ 第3章 和図書書誌データ(親書誌) 第4章 洋図書書誌データ 第5章 洋図書書誌データ(親書誌) 第6章 和雑誌書誌データ 第7章 洋雑誌書誌データ 第8章 著者名典拠データ(日本名:個人名) 第9章 著者名典拠データ(日本名:団体名) 第10章 著者名典拠データ(日本名:会議名) 第11章 著者名典拠データ(日本名以外:個人名) 第12章 著者名典拠データ(日本名以外:団体名) 第13章 著者名典拠データ(日本名以外:会議名) 第14章 統一書名典拠データ(日本名) 第15章 統一書名典拠データ(日本名以外) 第16章 図書所蔵データ 第17章 雑誌所蔵データ 第2部 データ修正 第3部 流用入力 第4部 参照データセット 第5部 目録規則、目録規則適用細則	多言語対応 中国語資料の取扱い 韓国・朝鮮語資料の取扱い アラビア文字資料の取扱い タイ文字資料、デーヴァナーガリー文字資料の取扱い 特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い 各種資料 和漢古書の取扱い 教科書の取扱い 展覧会カタログの取扱い 視聴覚資料の取扱い リモートアクセスされる電子ブックの取扱い 日本語の古典作品についての統一書名典拠作成について(コーディングマニュアル14章改訂) その他 目録システム利用マニュアル NACSIS-CAT/ILLニュースレター総目次

4

NACISIS-CATのデータセット構成

目録情報の基準 2.1 データセット構成

書誌データセット (BOOK, PREBOOK, SERIAL)

所蔵データセット (BHOLD, SHOLD)

典拠データセット (NAME, TITLE)

タイトル変遷データセット (CHANGE)

RELATIONデータセット (RELATION)

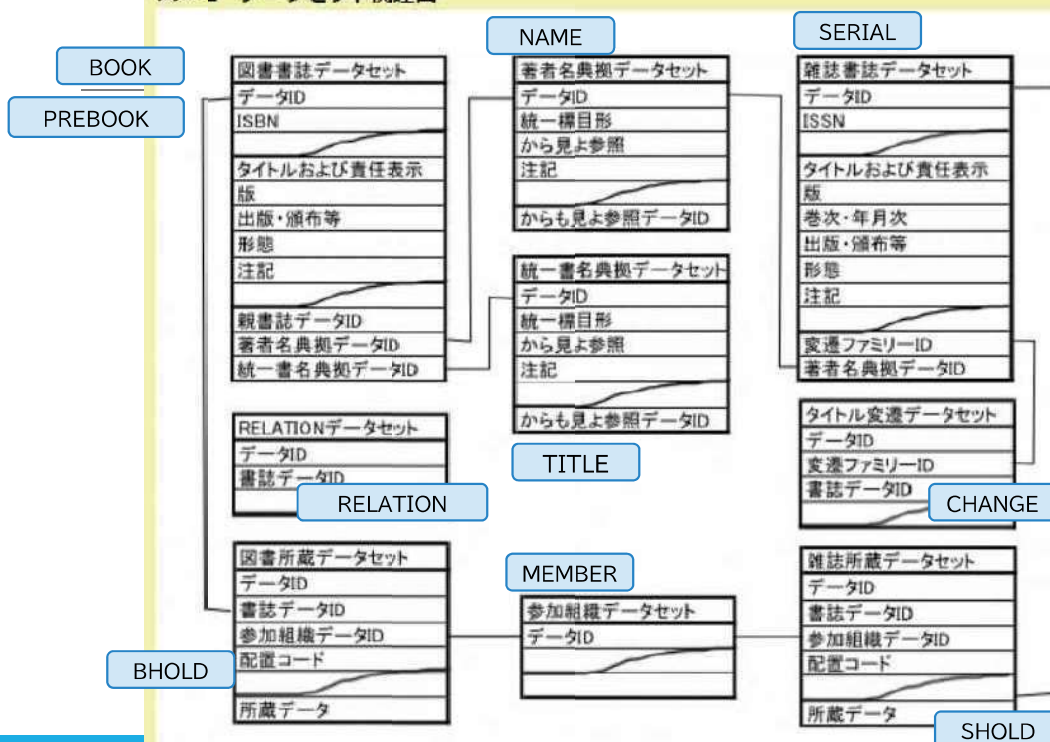
参加組織データセット (MEMBER)

図2-1のように、相互に関連しつつ、目録所在情報を表現する

→ それぞれの「データID」で他のデータにリンクして表現

NACISIS-CATのデータセット構成

図2-1 データセット関連図 基準:2.1 総合目録データベースの構造 データセット構成



2. IFLA-LRM 実体・属性・関連の階層構造

*IFLA-LRMより表を抜粋

(英語版のLRMから抜粋し、翻訳版から意味を追記)

- 実体：IFLA-LRM Table 4.1:Entity Hierarchy(実体の階層構造)
- 属性：IFLA-LRM Table 4.3:Attribute Hierarchy(属性の階層構造)
- 関連：IFLA-LRM Table 4.6:Relationship Hierarchy(関連の階層構造)

■参考資料：

- RDA Toolkit <https://www.rdatoolkit.org/>
- IFLA図書館参照モデル：書誌情報の概念モデル / Pat Riva, Patrick Le Boeuf, Maja Žumer 著；和中幹雄, 古川肇訳者代表. 樹村房, 2019.12
- IFLA Library Reference Model: A Conceptual Model for Bibliographic Information / Riva, Pat, Le Boeuf, Patrick, Žumer, Maja. IFLA, 2017.12
<https://repository.ifla.org/handle/123456789/40>

7

実体 IFLA-LRM Table 4.1:Entity Hierarchy(実体の階層構造)

Top Level	Second Level	Thrid Level	意味
LRM-E1 Res			(Thing)
--	LRM-E2 Work		著作
--	LRM-E3 Expression		表現形
--	LRM-E4 Manifestation		体现形
--	LRM-E5 Item		個別資料
--	LRM-E6 Agent		行為主体
--	--	LRM-E7 Person	個人
--	--	LRM-E8 Collective Agent	集合的行為主体
--	LRM-E9 Nomen		名称
--	LRM-E10 Place		場所
--	LRM-E11 Time-span		時間

8

属性 IFLA-LRM Table 4.3:Attribute Hierarchy(属性の階層構造)

Entity Top Level	Entity Lower Levels	Attribute Top Level	Attribute Lower Level	意味
LRM-E1 Res		LRM-E1-A1 Category		
--	LRM-E2 Work	--	LRM-E2-A1 Category	
--	LRM-E3 Expression	--	LRM-E3-A1 Category	
--	LRM-E4 Manifestation	--	LRM-E4-A1 Category of carrier	
--	LRM-E9 Nomen	--	LRM-E9-A1 Category	
--	LRM-E10 Place	--	LRM-E10-A1 Category	
LRM-E1 Res		LRM-E1-A2 Note		
--	LRM-E2 Work	LRM-E2-A2 Representative expression attribute		代表表現形属性
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A2 Extent		数量
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A3 Intended audience		対象利用者
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A4 Use rights		利用権
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A5 Cartographic scale		縮尺
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A6 Language		言語
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A7 Key		調
--	LRM-E3 Expression	LRM-E3-A8 Medium of performance		演奏手段

9

属性 IFLA-LRM Table 4.3:Attribute Hierarchy(属性の階層構造)

Entity Top Level	Entity Lower Levels	Attribute Top Level	Attribute Lower Level	意味
--	LRM-E4 Manifestation	LRM-E4-A2 Extent		数量
--	LRM-E4 Manifestation	LRM-E4-A3 Intended audience		対象利用者
--	LRM-E4 Manifestation	LRM-E4-A4 Manifestation statement		体現形表示
--	LRM-E4 Manifestation	LRM-E4-A5 Access conditions		アクセス条件
--	LRM-E4 Manifestation	LRM-E4-A6 Use rights		利用権
--	LRM-E5 Item	LRM-E5-A1 Location		所在
--	LRM-E5 Item	LRM-E5-A2 Use rights		利用権
--	LRM-E6 Agent	LRM-E6-A1 Contact information		連絡先情報
--	LRM-E6 Agent	LRM-E6-A2 Field of activity		活動分野
--	LRM-E6 Agent	LRM-E6-A3 Language		言語
--	-- LRM-E7 Person	LRM-E7-A1 Profession / Occupation		職業

10

属性 IFLA-LRM Table 4.3:Attribute Hierarchy(属性の階層構造)

Entity Top Level	Entity Lower Levels	Attribute Top Level	Attribute Lower Level	意味
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A2 Nomen string		文字列
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A3 Scheme		スキーマ
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A4 Intended audience		対象利用者
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A5 Context of use		使用の文脈
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A6 Reference source		参考資料
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A7 Language		言語
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A8 Script		文字種
--	LRM-E9 Nomen	LRM-E9-A9 Script conversion		文字種変換法
--	LRM-E10 Place	LRM-E10-A2 Location		所在
--	LRM-E11 Time-span	LRM-E11-A1 Beginning		始期
--	LRM-E11 Time-span	LRM-E11-A2 Ending		終期

関連 IFLA-LRM Table 4.6:Relationship Hierarchy(関連の階層構造)

Top Level	定義域	関連名	意味	値域	
LRM-R1	RES	is associated with	結びつけ	RES	
Second Level	定義域	関連名	意味	(図書・雑誌等で例示)	値域
LRM-R2	WORK	is realized through	実現		EXPRESSION
LRM-R3	EXPRESSION	is embodied in	具体化	出版する	MANIFESTATION
LRM-R4	MANIFESTATION	is exemplified by	例示	請求記号など	ITEM
LRM-R5	WORK	was created by	創造	原著の著者	AGENT
LRM-R6	EXPRESSION	was created by	創造	翻訳、改訂、上演	AGENT
LRM-R7	MANIFESTATION	was created by	創造	出版者	AGENT
LRM-R8	MANIFESTATION	was manufactured by	製作	印刷会社、写本	AGENT
LRM-R9	MANIFESTATION	is distributed by	頒布	頒布	AGENT
LRM-R10	ITEM	is owned by	所有	所蔵する	AGENT
LRM-R11	ITEM	was modified by	改変	蔵書票の貼付、再製本、修復	AGENT
LRM-R12	WORK	has as subject	主題	件名	RES
LRM-R13	RES	has appellation	呼称	件名の呼称	NOMEN
LRM-R14	AGENT	assigned	割り当て	団体がISBN・請求記号を割り当てる？	NOMEN
LRM-R15	NOMEN	is equivalent to	等価	略語、翻字、訳語、略称、分類番号	NOMEN
LRM-R16	NOMEN	has part	部分	件名の氏名・生年、略称	NOMEN
LRM-R17	NOMEN	is derivation of	派生	略語、翻字	NOMEN
LRM-R18	WORK	has part	部分	協奏曲の楽章、連詩内の詩、短篇集、三部作	WORK

関連 IFLA-LRM Table 4.6:Relationship Hierarchy(関連の階層構造)

Second Level	定義域	関連名	意味	(図書・雑誌等で例示)	値域
LRM-R19	WORK	precedes	先行(後継)	TVシリーズ、シリーズ小説の順番(逐次刊行著作ではない)	WORK
LRM-R20	WORK	accompanies / complements	付属/追補	イラスト集、教師用と学生用、序文、Supplement (付録)	WORK
LRM-R21	WORK	is inspiration for	創造的刺激	戯曲とミュージカル、絵画と楽曲	WORK
LRM-R22	WORK	is a transformation of	変形	逐次刊行著作の合併(吸収)、児童向け翻案、戯曲化・小説化、パロディ	WORK
LRM-R23	EXPRESSION	has part	部分	No. 1はOp. 25の部分、録音集の一部分	EXPRESSION
LRM-R24	EXPRESSION	is derivation of	派生	新版のフランス語訳、三島由紀夫著作の英語訳のフランス語訳、楽譜から演奏	EXPRESSION
LRM-R25	EXPRESSION	was aggregated by	集める	モノグラフシリーズ・作品集	EXPRESSION
LRM-R26	MANIFESTATION	has part	部分	セットものの一部	MANIFESTATION
LRM-R27	MANIFESTATION	has reproduction	複製	復刻、複製、リプリント、再発行	MANIFESTATION
LRM-R28	ITEM	has reproduction	複製	複製ソースとMフィッシュ、自筆原稿と出版物	MANIFESTATION
LRM-R29	MANIFESTATION	has alternate	代替	複数形態(LPとCD)、異なる国・出版者で同時リリース	MANIFESTATION
LRM-R30	AGENT	is member of	メンバー	組織・協会に所属(個人も団体も)、家族に所属	COLLECTIVE AGENT
LRM-R31	COLLECTIVEAGENT	has part	部分	分科会	COLLECTIVE AGENT
LRM-R32	COLLECTIVEAGENT	precedes	先行(後継)	合併、分離	COLLECTIVE AGENT
LRM-R33	RES	has association with	結びつき	演奏場所、出版地、所在地、出身地	PLACE
LRM-R34	PLACE	has part	部分	国と州、山脈と山塊	PLACE
LRM-R35	RES	has association with	結びつき	構想創作時期、演奏日付時間、出版日付、生年月日・生年・没年、所有期間、有効期間	TIME-SPAN
LRM-R36	TIME-SPAN	has part	部分	世紀と年代	TIME-SPAN

13

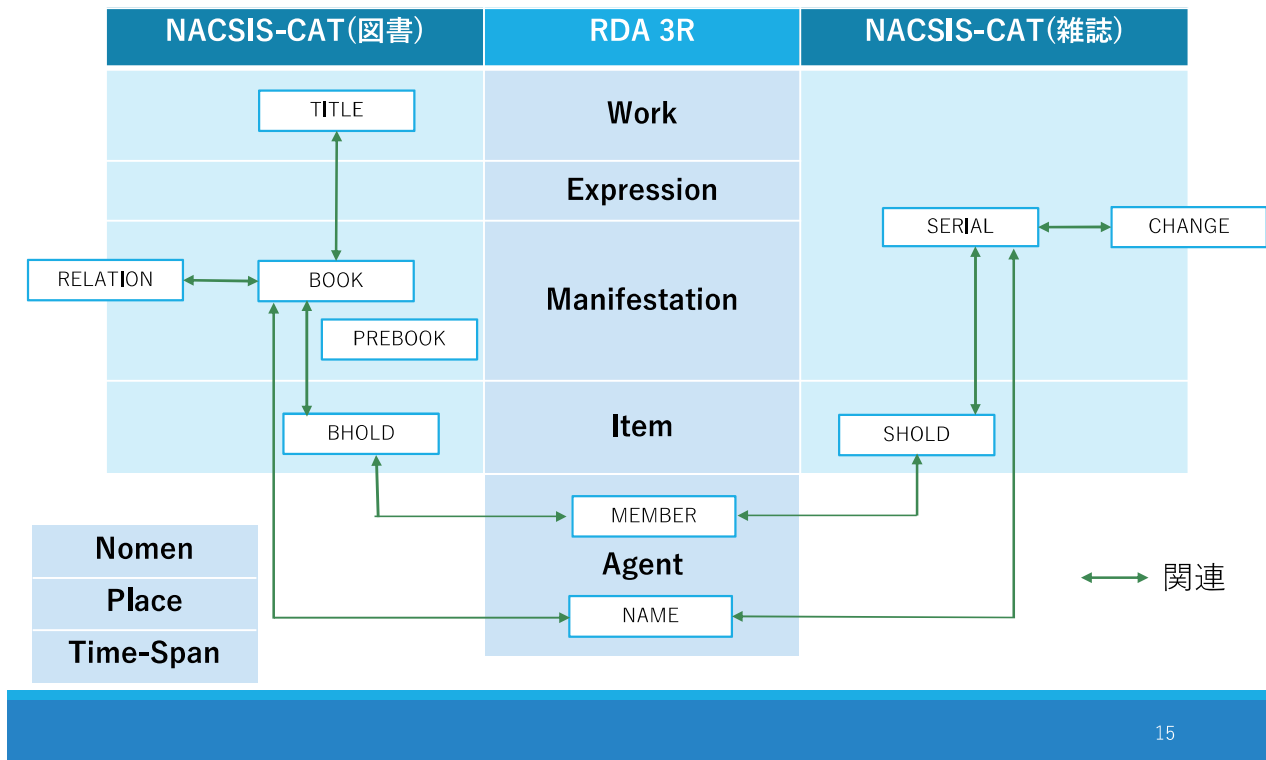
3. NACSIS-CATをRDA 3Rで表す

*NCをRDAのEntityやIFLA-LRMの考え方で表す

- RDA 3RとNACSIS-CAT[FILE]の関連図
- RDA 3R<IFLA-LRM>とNACSIS-CATの入力フィールド[Field]

RDA 3RとNACISIS-CAT[FILE]の関連図

参照:スライド6(NCデータセット)、スライド8(LRM実体)



15

RDA 3R<IFLA-LRM>とNACISIS-CATの入カフィールド[field]

*NCの入カフィールドを、IFLA-LRMの用語と属性・関連で表す

- 書誌データ
 - ID&コードブロック
 - 記述ブロック
 - リンクブロック
 - 主題ブロック
 - 変遷ブロック
- 所蔵データ
- 典拠データ

*表は以下の略語で表す

- LRM- (省略)
- Work→W
- Expression→E
- Manifestation→M
- Item→I
- Agent→A
- Nomen→N
- ex1. WORK was created by AGENT→W was created by A
- ex2. Item Location→I-Location
- E, Mのみ“表現形”“体現形”に訳す
- E4-A4 Manifestation statement→MS

*NCは体現形表示の記録を主とするため別項で表示

16

IFLA-LRMとNC---ID&コードブロック

参照:スライド9-11(LRM属性 表4.3)
スライド12-13(LRM関連 表4.6)

E実体-A属性 (トップ)	E-A属性(下位)	MS	NC	説明	R関連
			NDLCN・LCCN	体现形の識別子	
		MS	GMD	一般資料種別 メディアタイプ(機器種別)	
E4-A1 M-Category of carrier		MS	SMD	特定資料種別 キャリアタイプ(キャリア種別)	
		MS	CNTRY	体现形の出版国	R33 RES has association with PLACE(結びつき)
	E9-A7 N-Language	MS	TLL	体现形の本タイトルの言語	
	E3-A6 E-Language		TXTL	表現形の言語	
	E9-A7 N-Language		ORGL	元となった体现形の言語	
		MS	REPRO	体现形の複製	R27 M has reproduction M(複製)
		MS	VOL(巻号)	体现形の一部	R26 M has part M(部分)
		MS	VOL(付録)	体现形の付属	R20 W accompanies / complements W(付属/追 補)
		MS	VOL(形態)	体现形の形態の種類	
		MS	ISBN・XISBN ISSN	体现形の識別子	
		MS	PRICE	体现形の価格	
		MS	YEAR	体现形を創造・頒布したTime Span	R35 RES has association with TIME(結びつき)

MS : LRM-E4-A4
Manifestation
Statement

IFLA-LRMとNC---記述ブロック1

参照:スライド9-11(LRM属性 表4.3)
スライド12-13(LRM関連 表4.6)

E実体-A属性 (トップ)	A属性(下位)	MS	NC	説明	R関連
		MS	[雑]VLYR(巻次)	逐次刊行著作の体现形の初号と 終号の巻号次	
		MS	[雑]VLYR(年月 次)	逐次刊行著作の体现形の初号と 終号の年月次	R35 RES has association with TIME(結びつき)
E9-A1 N- Category	E2-A2 W- Representative expression attribute (代表表現形属性)	MS	TR(タイトル)	体现形の本タイトル/代表表現 形の場合はWORK・表現形のタ イトル	*参照 : R18 W has part W(部分)、 R19 W precedes W(先行(後継))
E6~8 A		MS	TR(責任表示)	体现形のAGENT	
E6~8 A		MS	TR(原著者)	元となったWORK・表現形の AGENT	*参照 : R5 W was created by A(創造)
E6~8 A		MS	TR(翻訳者ほか)	表現形のAGENT	R6 E was created by A(創造)
		MS	ED	表現形の改訂	
		MS	PUB(出版地)	体现形が出版されたPLACE	R33 RES has association with PLACE(結びつき)
		MS	PUB(出版者)	体现形を創造したAGENT	R7 M was created by A(創造)
		MS	PUB(印刷会社 等)	体现形を印刷等したAGENT	R8 M was manufactured by A(製作)
		MS	PUB(頒布者)	体现形を頒布したAGENT	R9 M is distributed by A(頒布)
		MS	PUB(出版日付)	体现形を創造・頒布したTime Span	R35 RES has association with TIME(結びつき)

MS : LRM-E4-A4
Manifestation
Statement

IFLA-LRMとNC---記述ブロック2

参照:スライド9-11(LRM属性 表4.3)
スライド12-13(LRM関連 表4.6)

E実体-A属性 (トップ)	A属性(下位)	M S	NC	説明	R関連
	E4-A2 M-Extent	MS	PHYS	表現形の数量	
E9-A1 N-Category			VT(OR)	元となった表現形のタイトル	*表現形の派生の場合: R24 E is derivation of E(派生)
E9-A1 N-Category		MS	VT(OR以外)	表現形の選定タイトル以外のタイトル	*翻字・略語・訳語の場合: R15 N is equivalent to N(等価) R17 N is derivation of N(派生)
E9-A1 N-Category		MS	CW	集合化表現形	R25 E was aggregated by E(集める)
	E1-A2 RES-Note		NOTE	注記	*付録の場合: R20 W accompanies / complements W(付属/追補)
			IDENT	電子リソースのアクセス先=表現形のPLACE?	R33 RES has association with PLACE(結びつき)

MS: LRM-E4-A4
Manifestation
Statement

19

IFLA-LRMとNC---リンク・変遷・主題ブロック/所蔵データ

E実体-A属性 (トップ)	A属性(下位)	M S	NC	説明	R関連
E6~E8 A			AL	AGENT典拠へのリンク+表現形の役割表示	
E9-A1 N-Category	E2-A2 W-Representative expression attribute (代表表現形属性)	MS	PTBL	表現形の本タイトル/代表表現形の場合はWORK・表現形のタイトル	R18 W has part W(部分)、R19 W precedes W(先行(後継))
E2 W			UTL	図書のWORK典拠へのリンク	
			[雑]BHNT	逐次刊行著作の合併・吸収(WORKを変形したWORK)	R22 W is a transformation of W(変形)
			CLS	WORKが持つ主題の呼称と等しい番号	R15 N is equivalent to N(等価) [R12 W has as subject RES(主題) +R13 RES has appellation N(呼称)]
			SH	WORKが持つ主題の呼称	R12 W has as subject RES(主題) +R13 RES has appellation N(呼称)
【所蔵データ】 -----					
	E5-A1 I-Location		LOC	Itemの所蔵場所→[MEMBER]はItemを所蔵するAGENT	R4 M is exemplified by I(例示) →R10 I is owned by A(所有)
	E5-A1 I-Location		CLN	Itemの請求記号	R4 M is exemplified by I(例示)
	E5-A1 I-Location		RTGN	Itemの登録番号	R4 M is exemplified by I(例示)
	E5-A2 I-Use rights		LDF	Itemの利用権(所蔵館が定義する情報)	

参照:スライド9-11(LRM属性 表4.3)
スライド12-13(LRM関連 表4.6)

20

E実体-A属性(トップ)	A属性(下位)	NC	説明	R関連
【著者名典拠データ】 -----				
E6~E8 A		HDNG(名称)	AGENTの名称	
E6~E8 A	E6-A2 A-Field of activity	HDNG(付記事項)	個人(生没年・世系等・専攻分野・職業など) 団体(団体の設立年・創設年・所在地など)	
E6~E8 A		TYPE	AGENTの属性(個人、団体、会議)コード	
E6~E8 A		PLACE	個人の出身地、団体の所在地・設立地、会議の開催地	R33 RES has association with PLACE(結びつき)
E6~E8 A	E6-A2 A-Field of activity	NOTE	注記	R30 A is member of COLLECTIVE A(メンバー) R31 C-A has part C-A(部分) R31 C-A precedes C-A(先行(後継))
E6~E8 A		DATE	個人の生没年、団体の設立・廃止年、会議の開催年	R35 RES has association with TIME(結びつき)
【統一書名典拠データ】 -----				
E2 W		HDNG(名称)	NOMENの名称 (古典作品、聖典、音楽作品)	
E6~E8 A		HDNG(付記事項)	著者標目	R5 W was created by A

4.RDA ToolkitとNC Policy Statement

*RDA ToolkitのOptionについて「NACISIS-CATのPolicy Statementが表示されていたら」を仮定し、適用についてなるべくコーディングマニュアルと共に示す

- 転記
 - 数字、序数
- 体現形
 - タイトル(誤植、長い、情報源にない、共通、軽微な変化、並列本タイトル)
 - 識別子
 - 出版地(2つ以上、情報源にない)
 - 版(表示なし、並列版表示)
- 注記

転記

基準: 11.1.2 転記の原則

Guidance > Transcription guidelines > Guidelines on normalized transcription

Guidelines on normalized transcription

Table of contents

- Capitalization → 大文字使用法
- Diacritical marks → 音表符号
- Language and script → 言語とスクリプト
- Letters or words intended to be read two or more times → 略語
- Numbers → 数字
- Punctuation → 句読記号
- Punctuation of initials and acronyms → イニシャルと頭字語の句読記号
- Spacing of initials and acronyms → イニシャルと頭字語のスペース
- Symbols → シンボル

11.1.2 転記の原則

- 原則
記述対象資料に表示されている事項を転記するときは、原則として、資料に表示されているままの字体等を使用する。
- 書体の違い
楷書体と草書体、明朝体とゴシック体、ラテン文字の筆記体とイタリック体、ドイツ語の亀の甲文字等の書体の違いは無視し、「同じ」文字として扱う。
- 字形のわずかな違い
同一字体、同一音訓、同一意義の漢字の字形のわずかな違いは無視し、目録システム用文字セットの字形を使用する。「JIS X 0208 6.6.3 漢字の字体の包摂規準」に示される例は同一のものとして扱う。

転記 (数字)

Guidance > Transcription guidelines > Guidelines on normalized transcription

Guidelines on normalized transcription

Numbers

OPTION
メタデータ作成者が好む形式の数字に置き換える
Transcribe a numeral in a form preferred by an agent who creates the metadata unless the result is unclear.

Example
tome 3
Recording method: unstructured description
Numbering within series on source of information reads: tome III

OPTION
Transcribe a numeral as it appears and in an equivalent form preferred by an agent who creates the metadata.

Example
780, ٧٨٠
Recording method: unstructured description
tome III [3]
Recording method: unstructured description
Numbering within series on source of information reads: tome III

⇒ NC PS : 巻次等の記述の場合は、原則適用 (アラビア数字に置き換える)

*CM : 2.1.11F1.1, 4.1.11E1.1 VOL

F1.1
巻次等に該当するものには、仮名、アルファベット、数字、記号等によって構成されており、当該資料群に対して単に順序付けの意味程度しか持ち得ないと判断されるものも含む。
VOL:天 VOL:地
VOL:あ~こ VOL:さ~と VOL:な~ん

E1.1
巻次等の記述のうち、数字については、原則としてすべてアラビア数字に置き換えるものとする。ただし、それぞれ異なる字種等の数字の組み合わせによって構成されている場合は、この限りではない。

E1.1
巻次等の記述のうち、数字については、原則としてすべてアラビア数字に置き換える。ただし、それぞれ異なる字種等の数字の組み合わせによって構成されている場合は、この限りではない。
VOL: 11-2

転記 (数字)

Guidelines on normalized transcription Numbers

OPTION 省略された最初と最後を補う

Transcribe the first and last of a set of inclusive numbers in full.

Example

1967-1972

Recording method: unstructured description

Source of information reads: 1967-72

⇒NC PS : YEARの記述の場合は適用
(4桁の西暦年を記入)

*CM : 2.1.5D1、4.1.5D YEAR

2.1.5D (データ記入及び記入例)

D1

刊年1、及び刊年2には、4桁の西暦年を記入する。
出版年不明の場合は、推定できる範囲までは数字で記録し、推定不能箇所はハイフンを記入する。まったく推定不能の場合のみ4桁ともハイフン「----」を記入する。

4.1.5D (データ記入及び記入例)

D1

刊年1及び刊年2には、4桁の西暦年を記入する。
出版年不明の場合は、推定できる範囲までは数字で記録し、推定不能箇所はハイフンを記入する。まったく推定不能の場合のみ4桁ともハイフン「----」を記入する。

転記 (数字/序数)

Guidelines on normalized transcription Numbers

CONDITION 英語の体現形→1stなど

A manifestation statement includes an ordinal number.
The language of a manifestation statement is English.

OPTION

Transcribe the number as the ordinal form (e.g., 1st, 2nd, 3rd, etc.).

⇒NC PS : 適用

CONDITION 英日中韓以外→数字を書き写し、その言語の規則を使用して序数であることを示す

A manifestation statement includes an ordinal number.
The language of a manifestation statement is not English, Chinese, Japanese, or Korean.

OPTION

Transcribe the number as a numeral and indicate that it is ordinal using the convention for the language.

Example

1^{er}, 1^{re}, 2^e, 3^e, etc.

Recording method: unstructured description

French

⇒NC PS : 非適用

転記 (数字/序数)

Guidelines on normalized transcription Numbers

CONDITION 日中韓の体現形→数字を書き写し、数字が序数であることを示す
 A manifestation statement includes an ordinal number.
 The language of a manifestation statement is Chinese, Japanese, or Korean.

OPTION
 Transcribe the numeral and add a character indicating that numeral is ordinal.

Example

第8

Recording method: unstructured description

8th in Chinese

⇒NC PS：非適用（そのまま、またはアラビア数字に置き換える）

*CM：2.1.11F1.1, 4.1.11E1.1 VOL

体現形 (タイトルの誤植)

Entities > Manifestation > title of manifestation

title of manifestation

Titles that contain errors

CONDITION

A value of Manifestation: **title of manifestation** includes an obvious typographical error.

OPTION

Record a value that includes a typographical error.

Example

Heirarchy in organizations

Recording method: unstructured description

OPTION 修正して記述して、注記する

Record a value that corrects a typographical error.

Example

Hierarchy in organizations

Recording method: unstructured description

Source of information reads: Heirarchy in organization

⇒NC PS：非適用（情報源にあるとおりに記録し、それに続けて[sic]と記録するか、又は、i.e.及び正しい形を角括弧に入れて記録）

CM：2.0Dウ-エ)、4.0Dエ-オ) 通則

ウ) 誤記、誤植

誤記、誤植が明らかなき、正しい形に訂正し、訂正したことがわかるように記録する。また、NOTEフィールドにその旨を記録する。

TR:重要文化財矢田[坐]久志玉比古神社本殿・八幡神社社殿修理工事報告書 / 奈良県文化財保存事務所編 | ジュウヨウブンカザイ ヤタニイマス クシタマヒコ ジンジャ ホンデン・ハチマン ジンジャ シヤデン

エ) 脱字

脱字が明補記する

タイトルよう、正ルドに記

オ) 脱字

脱字が明補記する

TR

Tsit

タイトル

う、正し

ドに記録

誤記、誤植のある語は、情報源にあるとおりに記録し、それに続けて[sic]と記録するか、又は、i.e.及び正しい形を角括弧に入れて記録する。

TR:Indian economy : probelas [sic] & prospects / R.L. Nagpal

TR:Love and freindship [i.e. friendship] and other early works / Jane Austen ; illustrated by Suzanne Perkins ; introduced by Geraldine Killalea

TR:Marketing research : selected readings / edited by Joseph Seibert & Gordon [i.e. Gordon] Wills

タイトルに誤表示がある場合は、検索の便宜のために、正しい形をVTフィールドに記録することができる。

脱字が明らかなき、その字を角括弧([])に入れて補記する。

TR:Archae[ology] of Northern Mesosome[ica] / Gordon F. Ekholm, Ignacio Bernal.

タイトルに脱字がある場合は、検索の便宜のために、正しい形及び誤って表示された形をVTフィールドに記録することができる。

体現形 (長いタイトル)


Entities > Manifestation > title of manifestation

title of manifestation

Abriding long titles of manifestations

CONDITION

A value of Manifestation: **manifestation title and responsibility statement**

 includes a long title.

OPTION 最初の5語以上を記録し、省略マークを使う

Record a value of the first five or more words followed by a mark of omission (...) if there is no loss of essential information.

Example

Wir danken dir, Gott, wir danken dir, BWV 29, Ratswahl-Kantate, für Soli SATB, Chor SATB und Orchester ...

⇒NC PS：非適用（原則短縮は行わない）

CM：4.2.1F1.2 TR

F1.2

本タイトルが長い場合でも、システム上の不都合(フィールド長不足等)が生じない限りは、原則として本タイトルの短縮は行わない。やむを得ず短縮を行う場合は、その部分を省略符号で示し、短縮した内容をNOTEフィールドに記録する。(→ AACR2 1.1B4)

29

体現形 (情報源にないタイトル)


Entities > Manifestation > title of manifestation

title of manifestation

Devised titles of manifestations

CONDITION タイトルを補記して、NOTEに記録する

A value of Manifestation: **title of manifestation**  cannot be found in a manifestation that is being described.

A value of Manifestation: **title of manifestation**  cannot be found in a source that is not a manifestation that is being described.

OPTION

Record a brief value that includes one or more of the following:

- an indication of the nature of the resource (e.g., map, literary manuscript, diary, advertisement)
- an indication of the subject of the resource (e.g., names of persons, corporate bodies, objects, activities, events, geographical area and dates)
- the opening words of a text, etc.
- a phrase that characterizes the resource
- a title that is based on a related resource

Record a Manifestation: **note on title**  to indicate that a title has been devised.

⇒NC PS：適用

CM：2.2.1F1.5, 4.2.1F1.3 TR

F1.5

所定の情報源のどこにも本タイトルがないか、所定の情報源自体がない場合は、目録作成者の判断によって、資料の内容や種類などを表す簡潔な語句が本文の冒頭の一部分を用いて、本タイトルを補記する。このとき、補記した本タイトルが目録対象資料中であればその箇所を、なければ目録作成者が決定したことをNOTEフィールドに記録する。

F1.3

主たる情報源以外から本タイトルを補記する場合は、その情報源又は参考資料等についての注記をNOTEフィールドに必ず記録する。

30

体現形 (共通タイトル)

Entities > Manifestation > title of manifestation

title of manifestation

Titles of manifestation of units and iterations

CONDITION

A manifestation is a unit or iteration of a manifestation.

A value of Manifestation: **title of manifestation** includes a *common title*.

⇒NC PS：共通タイトル以外が固有のタイトルであればTRに記録し、共通タイトルをPTBLに記録する。固有のタイトルでなければVOLに記録し、共通タイトルをTRに記録する。

OPTION 共通タイトルを含めて記録

Record a value that includes a *common title*.

Example

Advanced calculus. Student handbook

OPTION 共通タイトルを省略して記録

Record a value that omits a *common title*.

Example

Student handbook

Recording method: unstructured description

Source of information includes common title: Advanced calculus

31

体現形 (タイトルの軽微な変化)

Entities > Manifestation > title proper

title proper

Change in a title proper

CONDITION 他の体現形に表示される値と異なる

A manifestation embodies a unit, issue, or iteration of a *diachronic work*

A value of Manifestation: **title proper** varies from the values that appear on other manifestations that embody units, issues, or iterations of a diachronic work in the following cases:

- a difference in the representation of a word, words, or other component (i.e., a character or group of characters) anywhere in the title, including:
 - change in the form of the character
 - one spelling vs. another
 - abbreviated word or sign or symbol vs. spelled-out form
 - arabic numeral vs. roman numeral
 - number or date vs. spelled-out
 - hyphenated word vs. unhyphenated
 - one-word compound vs. two-word
 - hyphenated or not
 - acronym or initialism vs. full name
 - change in grammatical form

OPTION 新しい体現形として記録しない

Do not record a new Manifestation: **title proper** for the manifestation that embodies the diachronic work.

OPTION 注記する

Record a Manifestation: **note on title** to indicate the source of a title proper.

- the addition, deletion, or change of articles, prepositions, or conjunctions (or, in languages which do not use those, analogous parts of speech that have little lexical meaning but express grammatical relationships) anywhere in the title
- a difference that involves the name of the same corporate body and elements of its hierarchy or their grammatical connection anywhere in the title (e.g., the addition, deletion, or rearrangement of the name of the same corporate body, the substitution of a variant form)
- the addition, deletion, or change of punctuation, including initialisms and letters with separating punctuation vs. those without: separating

32

体現形 (タイトルの軽微な変化)

⇒NC PS : 適用 (軽微な変化はタイトル変遷としない)
CM:6.0.1A1.2 タイトル変遷

A1 (本タイトルの変化)

本タイトルの変化に関しては、NCR87R3 第13章継続資料に準拠する。本タイトルの変化には重要な変化と軽微な変化があり、軽微な変化に該当しない重要な変化の場合にタイトル変遷と判断する。

A1.2 軽微な変化

- (1) 助詞等の変化
NCR87R3の13.1.1.3Bア)に従い、助詞、接続詞、が他の語に変化したり、追加または削除された場合は、軽微な変化とみなす。
中国土地改良 → 中国の土地改良
- (2) 記号の変化
NCR87R3の13.1.1.3Bイ)に従い、重要な意味を持たない記号が変化したり、追加または削除された場合は、軽微な変化とみなす。
飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報 → 飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報
- (3) 逐次刊行物の種別を示す語の変化
NCR87R3の13.1.1.3Bウ)に従い、逐次刊行物の種別を示す語が類似の語に変化したり、追加または削除された場合は、軽微な変化とみなす。
- (4) 語順の変化
NCR87R3の13.1.1.3Bキ)に従い、語順の変化、語の追加または削除が主題の変化につながらない場合は、軽微な変化とみなす。ただし、語順の変化、語の追加または削除は、名

A1 (本タイトルの変化)

本タイトルの変更に関しては、AACR2R2002 21.2A1の条項に準拠する。タイトルの変化には重要な変化と軽微な変化があり、軽微な変化に該当しない重要な変化の場合にタイトル変遷と判断する。

判断に迷う場合は、軽微な変化とする。ただし、出版者によるタイトルの変更の意思を示す証拠がない場合に限る。各条項番号およびその採否については、以下のとおり。

CM:6.0.1A1.2軽微な変化

- (1) 助詞等の変化
- (2) 記号の変化
- (3) 逐次刊行物の種別を示す語の変化
- (4) 語順の変化
- (5) イニシアルまたは頭字語と完全形の変化
- (6) 顕著に表示されているタイトルの交替
- (7) 文字種の変化
- (8) 本タイトルに含まれる団体名の表記の変化
- (9) 主要でない語の変化

33

体現形 (並列本タイトル)

Entities > Manifestation > parallel title proper

parallel title proper

CONDITION オリジナルタイトル

An original title is in a language different than that of a title proper.

An original title is presented as an equivalent parallel title proper.

OPTION 並列本タイトルとして記録

Record the original title as a *parallel title proper*.

⇒NC PS : 非適用 (VT:ORに記録)

CM : 2.2.1F2.3、4.2.1F3.2 TR

F2.3

本タイトルと同等の意味内容のものであっても、目録対象資料が翻訳書で、その原書名であることが明らかな場合は、並列タイトルとはせず、VTフィールドに原書名コードORを付して記録する。

F3.2

主情報源に表示されている原タイトルは、AACR2の1.1D3の指示によって記録する。ただし、第4文の指示については、記録先はNOTEフィールドではなく、VTフィールドに原書名コードORを付して記録する。(→ 4.2.5 VI)

付録1.4 タイトルの種類コード表

(11) OR(原タイトル)

目録対象資料が翻訳、複製、改訂等である場合の、当該資料中に表示されている原本のタイトル。
翻訳、複製、改訂等が原本以外から行われている場合は、翻訳、複製、改訂等の直接の対象となったテキストのタイトルをも原タイトルとみなす。
目録対象資料中に表示されている原タイトルについては、コード「OR」を使用する。

34

体現形 (並列本タイトル)

Entities > Manifestation > parallel title proper

parallel title proper

CONDITION 本タイトルとは別の情報源

A parallel title proper is taken from a different source of information than a title proper.

⇒ NC PS : 非適用 (VTに記録)

CM : 2.2.1F1.3、4.2.1F3.3 TR

OPTION 注記

Record the source of the parallel title proper as a Manifestation: [note on manifestation](#).

F1.3

複数の情報源でタイトルが異なっている場合、TRフィールドに記録しなかったタイトルについては、それを該当するコードを付してVTフィールドに記録する。

F3.3

主情報源以外の個所に表示されている並列タイトルは、表示されていた箇所を示すコードを付してVTフィールドに記録する。

35

体現形 (識別子)

Entities > Manifestation > identifier for manifestation

identifier for manifestation

Recording

Record this element as a value of Nomen: [nomen string](#) or as an instance of [Nomen](#).

OPTION Vocabulary encoding schemeの指定通り

Record a value in a specified display format for a specific identifier vocabulary encoding scheme (e.g., ISBN, URN).

G1.1

ISBNフィールドには、10桁または「978」又は「979」で始まる13桁の番号（アラビア数字とX）及びハイフン以外を記入してはならない。

ただし、ハイフンについては、目録システム登録後に正規化処理が行われ、削除される。（→ [付録 2.2 正規化処理](#)）

ハイフンを記入しない場合は、ハイフンの代わりにスペースその他の記号等を記入してはならない。

G1.2

ISBNの説明語句をISBNフィールドに記録してはならない。このような語句は、必要に応じてVOLフィールドに記録する。（→ [4.1.11 VOL](#)）

(正) VOL.: pbk ISBN:0792396529
(誤) ISBN:0792396529(paperback)

⇒ NC PS : 適用 (アラビア数字とX以外は記入しない)

CM : 2.1.12G1.1、4.1.12G1.1 ISBN

OPTION 情報源の表示通り

Record a value in a form that appears on the source of information.

⇒ NC PS : 非適用

OPTION 製本タイプを含む値を記録

Record a value that includes the identifier followed by a type of binding or format, if considered important for identification.

⇒ NC PS : 非適用 (形態情報などはVOLに記録)

CM : 2.1.12G1.2、4.1.12G1.2 ISBN

36

体現形 (識別子が正しくない)

Incorrect identifiers

CONDITION

An identifier is known to be incorrectly represented in a manifestation.

OPTION 表示通り

Record an identifier as it appears.

OPTION 正しくないことを示す

Indicate that an identifier is incorrect, cancelled, or invalid, as appropriate.

⇒NC PS : 適用 (XISBN
に表示通りに記録)

CM : 4.1.12G2 ISBN
4.1.14 XISBN

G2

番号が不正である場合、あるいは番号以外のものが記入されている場合は、エラーメッセージが表示される。(→ [付録 2.1 データチェック](#))

目録対象資料等に表示されている不正なISBNについては、XISBNフィールドに記録する。

37

体現形 (出版地/2つ以上)

Entities > Manifestation > place of publication

place of publication

CONDITION 出版地が2つ以上

Two or more values for this element appear in the *source of information*.

OPTION 最初の値

Record the value that appears first.

OPTION 順序・レイアウト・タイポグラフィで示される順/別々に記録

Record one or more values separately in the order indicated by the sequence, layout, or typography of the *source of information*.

⇒NC PS : 適用 (顕著なもの、最初のものの順で1つ以上)

CM : 2.2.3F1、4.2.3F2.4 PUB

F1 出版地、出版者等

出版地、出版者等が複数表示されている場合は、顕著なもの、最初のものの順で、記録する。また、古刊本の場合、NCR87R3 2.4.2.1(出版者,頒布者とするものの範囲)の規定により、奥付に表示されている最後の出版者か、見返しに表示されている最初の出版者から記録する。

PUB:江戸 : 須原屋伊八

F2.4

1つの出版者・頒布者等に対して2個所以上の地名が目録対象資料に表示されている場合は、最初に表示されている地名を記録する(→AACR2 1.4C5)。

また、情報源上でレイアウトによって強調されている地名があれば、それも記録することができる。以上に国内の地名が含まれていない場合は、さらに、目録対象資料中に含まれている国内の地名のうちの最初のものを追加して記録することができる。

NCR87R3(2.4.1.1B、2.4.2.1C)においては一つを選択して記録することとしているが、本システムにおいては、2番目以降の出版地、出版者等は、NOTEフィールドにではなくPUBフィールドに、記述文法に従って複数記録することができる。ただし、2番目以降の出版地、出版者等の入力レベルは「選択」である。

38

体現形 (出版地/情報源にない)

CONDITION 情報源にない

A value of Manifestation: **place of publication** cannot be found in a manifestation that is being described.

OPTION 別の情報源

Record a value for a place that is known from another *source of information*.

Record a value for a city, town, etc. and include a name of a larger place if necessary for identification.

OPTION 可能性のある場所

Record a value for a probable place.

Record a value for a city, town, etc. and include a name of a larger place if necessary for identification.

OPTION 可能性のある場所+疑問符[?]

Record a value for a probable place followed by a question mark.

Record a value for a city, town, etc. and include a name of a larger place if necessary for identification.

⇒NC PS：適用 (他の参考資料・推定・各括弧、または[**不明])

CM：2.2.3F1.6、4.2.3F2.5 PUB

F1.6

出版地、頒布地等と出版者、頒布者等が所定の情報源上に表示されていない場合は、他の参考資料を基に調査、あるいは推定し、角括弧([])に入れて記録する。具体的な情報が記録できない場合は、それぞれ「[出版地不明]」、「[出版者不明]」と記録する。

PUB: [出版地不明] ; [出版者不明] ; [19--]

F2.5

出版地等が確認できない場合については、AACR2の規則1.4C6に準拠する。なお、日本語版刊行後の改訂により、推定によって地名を補記する場合は、英語形があればその形を使用する。

F2.6

AACR2の1.4C7の任意規定は採用しない。出版者・頒布者等の住所を、地名への付記事項としてPUBフィールドに記録してはならない。必要に応じて、これをNOTEフィールドに記録することができる。

体現形 (版/表示なし)

Entities > Manifestation > edition statement

edition statement

CONDITION 版表示はないが重要な変更が含まれる

A manifestation lacks an edition statement but is known to contain significant changes from other editions.

⇒NC PS：適用

CM：2.2.2H1、4.2.2H2 ED

OPTION 記録して注記

Record a supplied edition statement.

Indicate that the information is taken from a source that is outside the manifestation that is being described. For general guidance, see Guidance: Data provenance. [Recording a source of metadata](#).

2.2.2H 《注意事項》

H1

表示されている、版や刷を意味する情報が本当に版表示であるかどうかは慎重に判断しなければならない。

奥付に版の表示があっても、それが単に「刷」を意味するようなものであるならば、その情報はEDフィールドに記録してはならない。

一方、「刷」と表示されていても、内容的に変更があったことが他の情報源、あるいは本文中等から容易に判明するならば、その「刷」の情報をEDフィールドに記録することができる。

その場合は、記録の根拠をNOTEフィールドに記録する。ただし、その他の情報により明らかな場合は記録する必要はない。

H2

タイトルページの裏や奥付では「刷」を意味する表示であっても、内容的に変更があったことが他の情報源、あるいは本文中等から容易に判明するならば、その「刷」の情報をEDフィールドに記録することができる。

体現形 (版/並列版表示)

Entities > Manifestation > designation of edition

designation of edition

CONDITION 並列言語で表示

A value of this element appears in the *source of information* in a parallel language or script.

OPTION

Record a value that appears in the language or script of a title proper.

OPTION

Record a value in the language or script that appears first.

OPTION

Record one or more values separately in the order indicated by the sequence, layout, or typography of the *source of information*.

OPTION 並列言語で表示

Record one or more of the parallel values separately as a Manifestation: [parallel designation of edition](#).

⇒NC PS：非適用（ただし、並列版表示は参加組織の選択）

F2 並列版表示

F2.1（版表示が2種以上の言語又は文字で表示されている場合(→AACR2 1.2A1 第6段落、1.2B5の任意部分、2.2B4の任意部分)）

それぞれをスペース、イコール、スペース(△=△)で結んで記録する。

ED:2nd ed. = 2. Auf l

⇒NC PS：適用（繰り返し不可のため個別記録ではないが複数を記録）

CM：4.2.2F2 ED

41

注記

Entities > Manifestation

Manifestation

elements

All Attribute Elements Relationship Elements

note on

[note on carrier](#)

[note on changes in carrier characteristics](#)

[note on copyright date](#)

[note on dimensions of manifestation](#)

[note on distribution statement](#)

[note on edition statement](#)

[note on extent of manifestation](#)

[note on identifier for manifestation](#)

[note on issue or part or iteration used as basis for id manifestation](#)

[note on manifestation](#)

[note on manufacture statement](#)

[note on numbering of sequence](#)

[note on production statement](#)

[note on publication statement](#)

[note on series statement](#)

[note on statement of responsibility](#)

[note on title](#)

CM:4.2.7D NOTE

4.2.7D【フィールド内容とデータ要素】

NOTEフィールドには、目録対象資料に関する注記をデータ要素として記録する。

記録されるデータ要素には次のものがある。

- ア) 他のどのフィールドにも記録できないが、記録しておくことが望ましいと目録作成機関が判断した事項
- イ) 他のフィールドに記録した事項で、更に補足・説明を加えることが望ましいと目録作成機関が判断した事項

42

最後に

- 体現形の記録である身近なNACISIS-CATを、新しい考え方であるLRMやRDAの各モデルや用語で表現し、理解を深めることに注力
 - 抽象的な言葉が並ぶLRMIは難しいという印象を受ける
 - Toolkitに日本語訳がないままで実務で使用していくのは英語ができない人にとってはかなり厳しい
 - 日本語訳があってもポリシーが提示されていなければ使っていけない
 - NCR2018からも、Toolkitに日本語訳が追加される希望は薄く感じる
- 新NACISIS-CATや来年度以降のNCR2018の適用など、NIIの動向に注目
- NCR2018の理解を深める必要性

逐次刊行物の捉え方を説明する

成城大学図書館 吉田

今回お話しする内容は以下のとおりです。

- RDAにおける逐次刊行物(雑誌)の定義
- 逐次刊行物(雑誌)の性質
- EXtention PLANによる分類
- 著作(work)の捉え方
- 著作物の関連付けの方法
- RDA以外での雑誌クリスタリングの事例について

参考：Two Presentations on Serials and Aggregates, RDA Preconference, 6.22.2018 (ppt)
IFLA図書館参照モデルー書誌情報の概念モデル
Introduction to Serials Cataloging with RDA

RDAにおける逐次刊行物(雑誌)の定義

A resource

- Issued in successive parts
- usually bearing numbering
- that has no predetermined conclusion (e.g., a periodical, a monographic series, a newspaper).

Includes resources that exhibit characteristics of serials, such as successive issues, numbering and frequency, but whose duration is limited (e.g., newsletters of events) and reproductions of serials.

[和訳]

以下のような特徴のリソース

- 連続した一部として刊行される
- 通常は巻号(通号)がふられている
- 創刊時に終号が決められていない(例: 定期刊行物、単行本、新聞)

「連続的に刊行される」「巻号が付与される」「一定の刊行頻度」など、雑誌の特徴を示しているものの、刊行期間が限定されているリソース(イベントのニュースレターなど)や雑誌の複製版を含みます。

逐次刊行物(雑誌)の性質

表現形の集合体現形(Aggregate Collection of Expression)であること

＝ 独立して作成された複数の表現体の集合を単一の体現形にまとめて刊行したもの



著作の集合体である雑誌においては、

出版者や編集者の意図(Intention)において「内容の共通性」が保たれているため、

雑誌が刊行されるたびに、編集の意図がそれぞれに介入する。

→ 将来に渡り変化する可能性を内包するため、変化を前提としたデータ構成である必要がある

＝ 「通時的著作」

EXTENTION PLANによる分類

作品の内容を拡張する意図を反映した“Extention Plan”がRDAではelementとして存在し、5つの分類で「通時的著作」が定義されています。

“static plan”＝「静的計画」

同時に具現化される1つまたは複数の異なる表現形によって実現される著作

“integrating determinate plan”＝「確定計画の統合」

確定した期間を持ち、ひとつの表現形によって実現される著作

“integrating indeterminate plan”＝「未確定計画の統合」

終期を予定せず、ひとつの明確な表現形によって実現される著作

“successive determinate plan”＝「連続確定計画」

確定した期間を持ち、複数の異なる表現形によって実現される著作

“successive indeterminate plan”＝「連続未定計画」

終期を予定せず、複数の異なる表現形によって実現される著作 → 雑誌の性質と合致

著作(WORK)の捉え方

WEM LOCK

ひとつの逐次刊行物著作(work)は、
ひとつの表現形(Expression)につき、ひとつの体現形(Manifestation)を
保持するものとして考えられる。

つまり
単一の号で多言語、多媒体の資料において整合性が見られたとしても、
将来的に完全に一致するものであることが担保されないため、
それぞれがひとつの独立した逐次刊行著作(work)として成立する。

しかし...

関連をもつ資料であるならば、体系的に検索できることが望ましい。

それぞれの著作を、どうやって関連させているのか？ →

著作物の関連付けの方法

クリスタリング (CLUSTERING)

作成機関が任意で付与することができる文字列 (NOMEN-STRING) を使用することで、「WORK CLUSTER」を形成し、あらゆる関連著作をグルーピングすることができる。

→
WEM LOCKにより、言語・媒体などの違いから別の著作と位置づけられた資料を1つのグループにまとめることができる。

ISSN-L

LINKING ISSNの略称。
異なる媒体による同一著作をひとまとめにすることを目的にした8桁の識別番号。
RDAにおいて、クラスタリングのキーとなるNOMEN-STRIG。

例) NEW YORK TIMES



RDA以外での雑誌クリスタリングの事例について 1

NACISIS-CAT

全国の大学図書館等が所蔵する学術文献(図書・雑誌)の情報が収録されている総合目録データベース。
参加図書館によるオンライン共同分担入力により、参加館の負担軽減、迅速な目録データ登録を可能としている。

変遷マップ → 「FID」と「BNHT」をかけあわせることで、雑誌の変遷を図で表現する

【変遷マップを構成するための2つの要素】

変遷ファミリーID (FID)

- ・ 8桁の数字でグルーピングする

Bibliographic History. Note (BNHT)

- ・ 「継続」「吸収」「派生」を識別する

【変遷タイプコード表】

以下では、コードのアルファベット順に変遷タイプコードを示す。

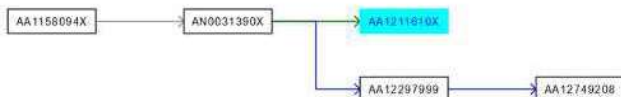
コード	変遷タイプ
AF	吸収前誌
AS	吸収後誌
CF	継続前誌
CS	継続後誌
SF	派生前誌
SS	派生後誌
?F	前誌(変遷関係不明)

例) 日本応用磁気学会誌

(FID : 41702900)

詳細

— 連続 — 吸収 — 派生



<

AA1158094X Transactions of the Magnetics Society of Japan. -- [English ed.]. -- Vol. 1, no. 1 (Nov. 2001)-v. 5, no. 4 (N
 AA1211610X まぐね = Magnetics Japan / 日本応用磁気学会 [編]. -- Vol. 1, no. 1 (2006) - 蒲巻1号 (2006). -- 日本応用磁
 AA12297999 Journal of the Magnetics Society of Japan / 日本磁気学会 [編]. -- Vol. 32, no. 1 (2008)-v. 39, no. 6 (2015)
 AA12749208 Journal of the Magnetics Society of Japan / 日本磁気学会 [編]. -- [CD-ROM版]. -- Vol. 40, no. 1 (2016) - =
 AN0031390X 日本応用磁気学会誌 = Journal of Magnetics Society of Japan. -- Vol. 1, no. 1 (1977.5)-v. 31, no. 6 (2007.11

日本応用磁気学会誌
Journal of Magnetics Society of Japan

日本応用磁気学会
ニホン オウヨウ シキ カクカイ

吸収前誌:1件 ↓ 継続後誌:1件 ↓ 派生後誌:1件 ↓

吸収前誌: 1件

Transactions of the Magnetics Society of Japan
[Magnetics Society of Japan] 2001-2005 [English ed.]
所蔵館22館

継続後誌: 1件

Journal of the Magnetics Society of Japan
日本磁気学会 [編]
日本磁気学会 2008.1-2015.11.
所蔵館22館

派生後誌: 1件

まぐね = Magnetics Japan
日本応用磁気学会 [編]
日本応用磁気学会 2006-
所蔵館27館

RDA以外での雑誌クリスタリングの事例について 2

The German Union Catalogue of Serials (ZDB)

ドイツ連邦カタログ (ZDB) は、ドイツ語圏の国全体で約 3,700 の機関が参加する全国的な雑誌データベースです。国内外の雑誌、新聞、単行本、その他の定期刊行物の書誌所蔵情報を収録しています。ベルリン州立図書館 - プロイセン文化遺産とドイツ国立図書館によって共同で運営および維持されています。ベルリン州立図書館はデータ処理と編集デザインを担当し、ドイツ国立図書館は技術開発と運用を担当しています。

Title relations → クラスタリングを図で確認することができます。

Holdings

Holdings overview

Holdings map

Title relations

Title relations:
predessors and successors, supplements and parallel editions.

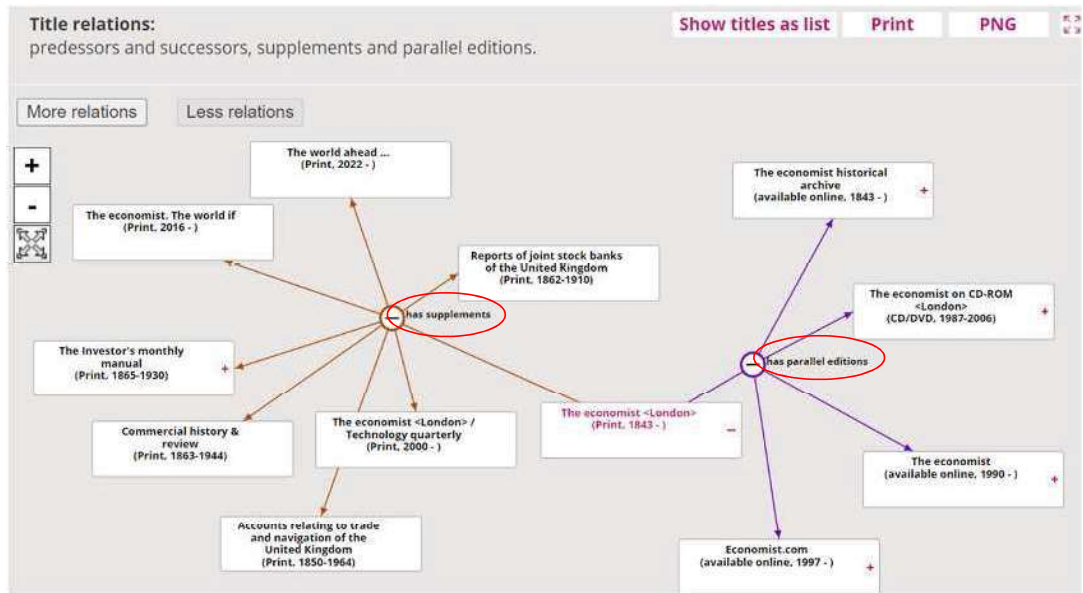
Show titles as list

Print

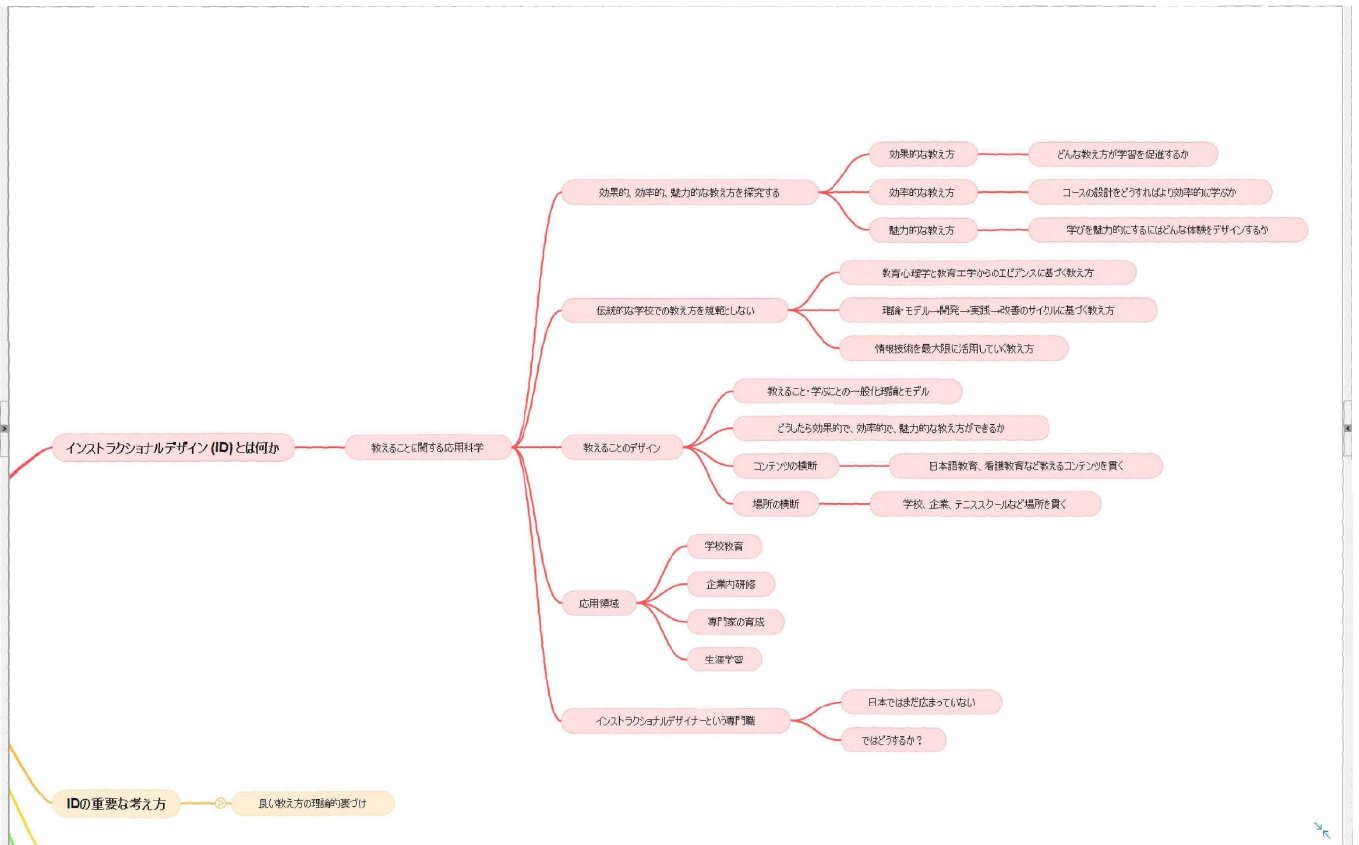
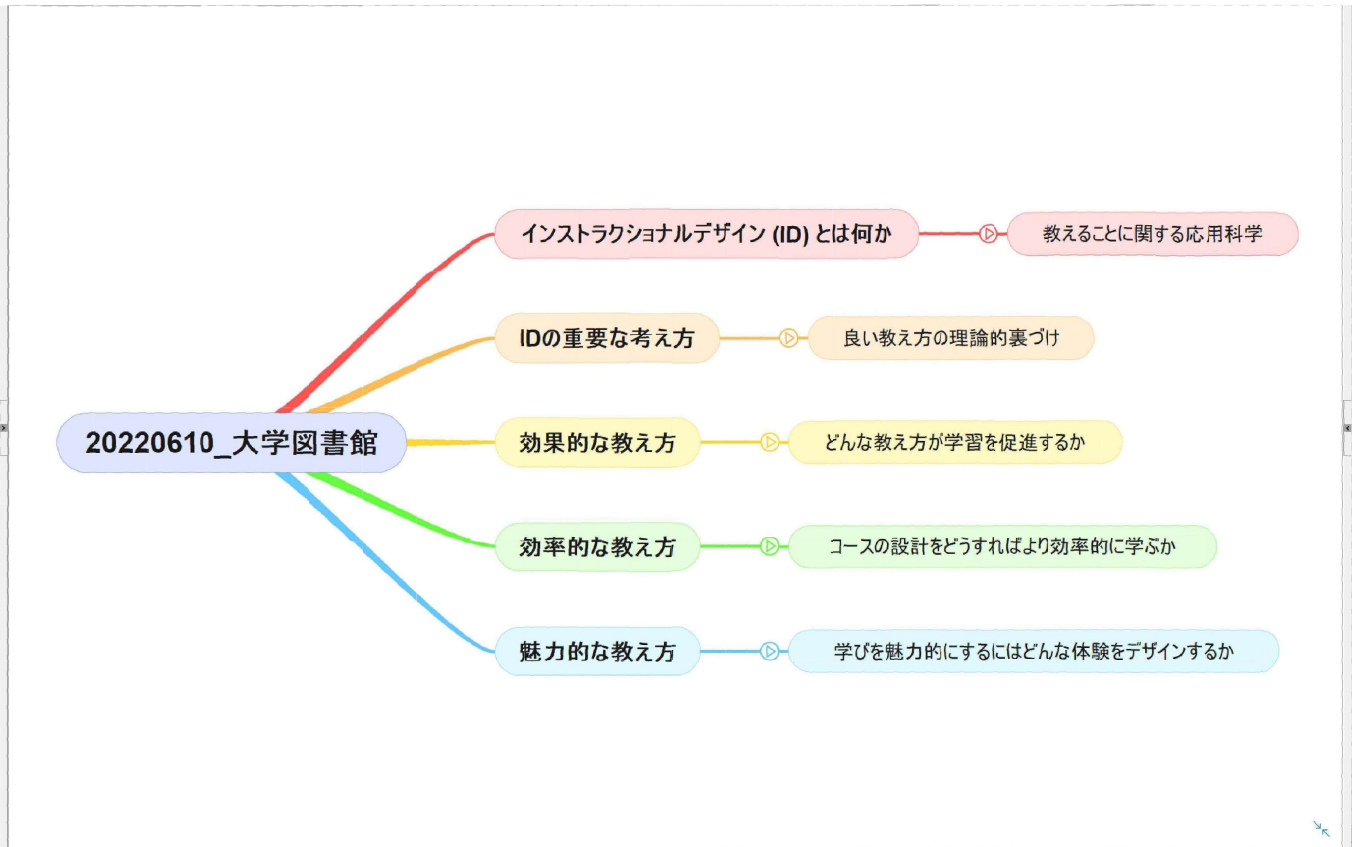
PNG

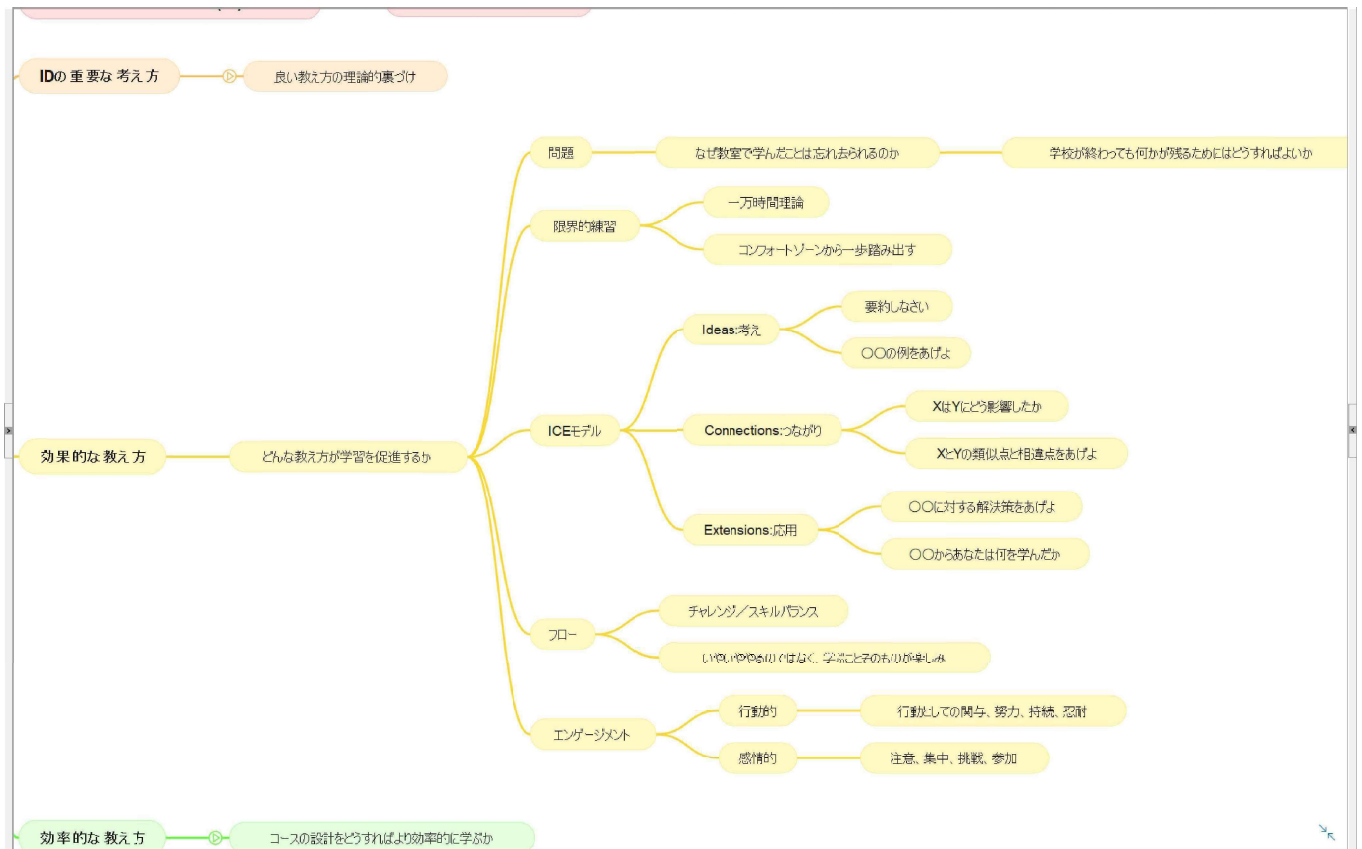
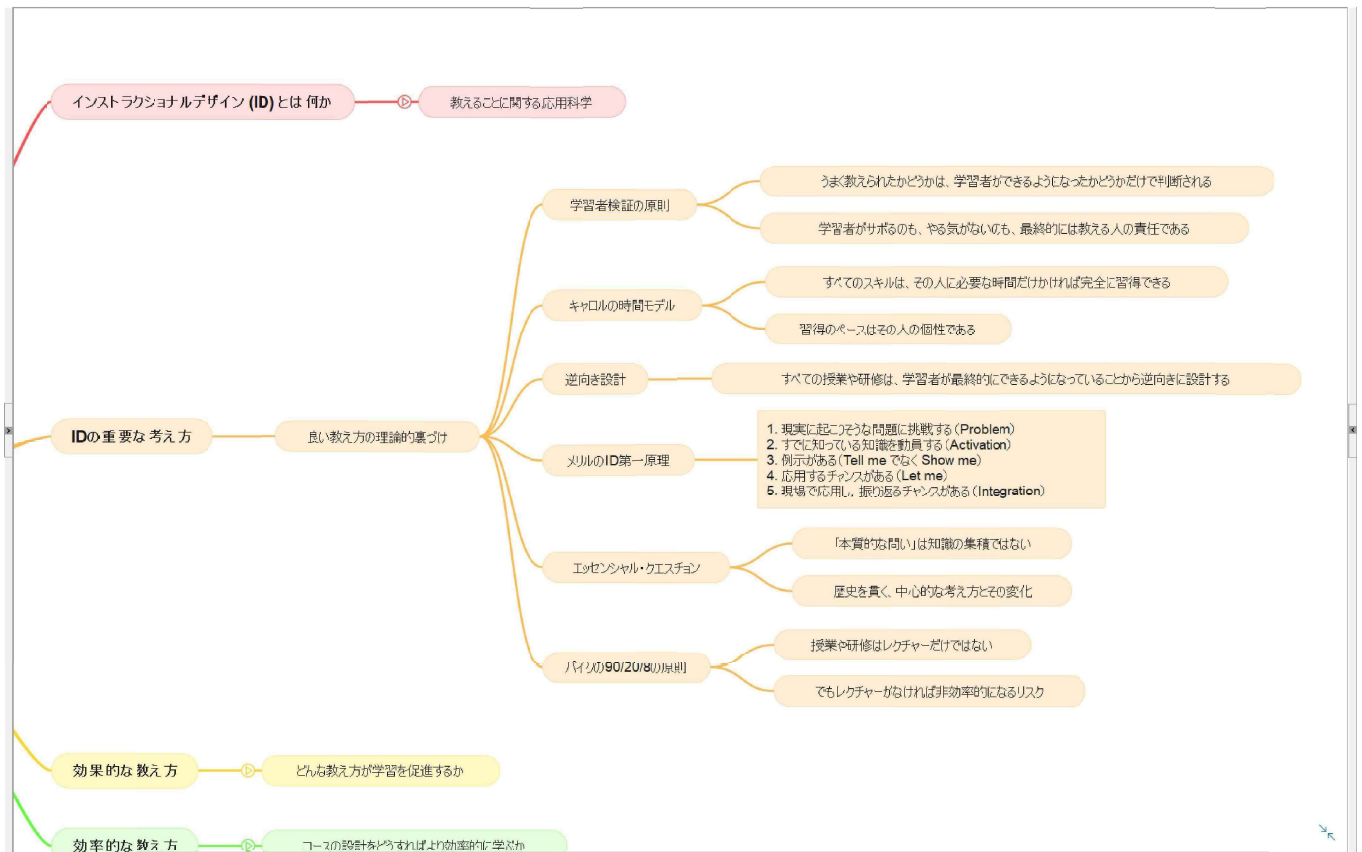
PDF

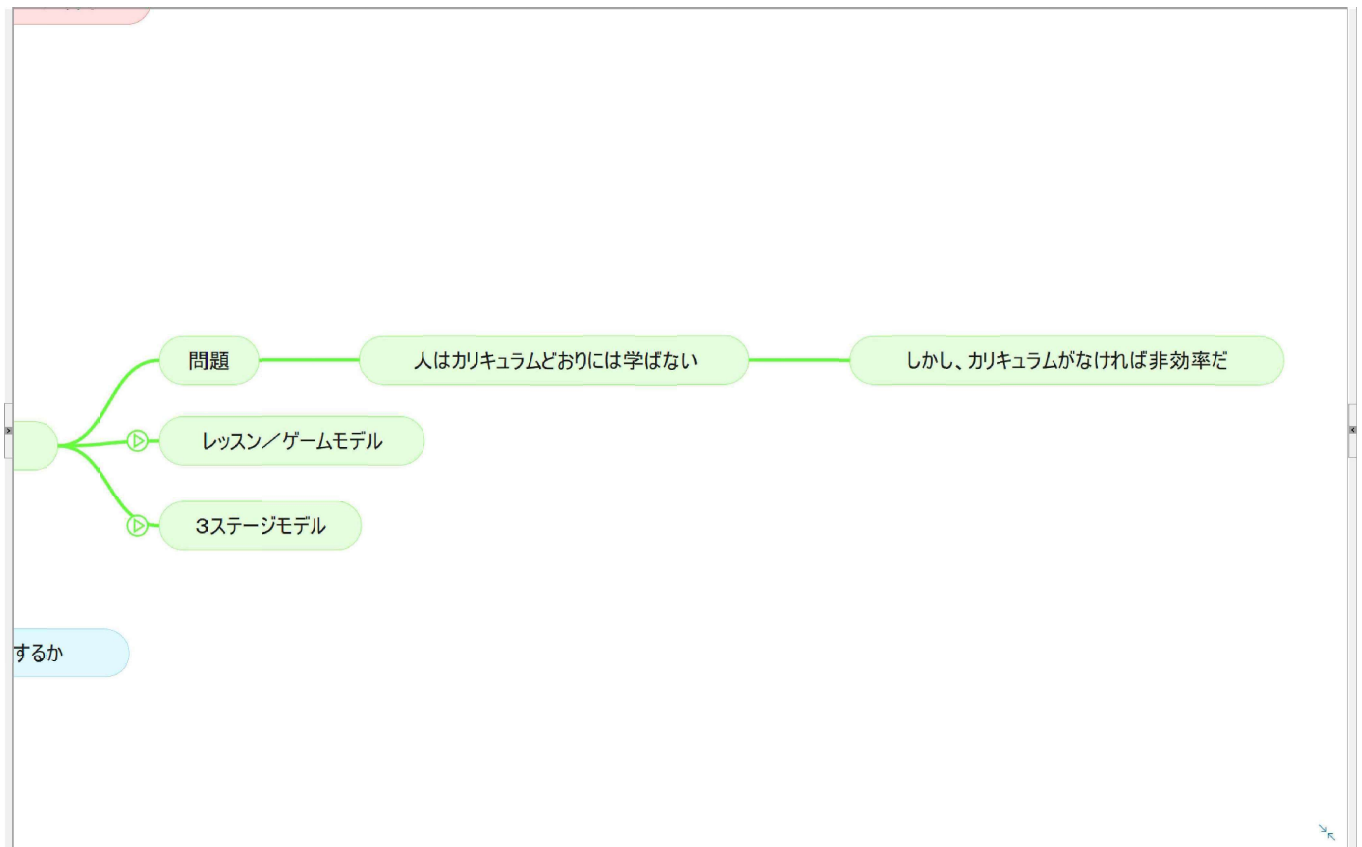
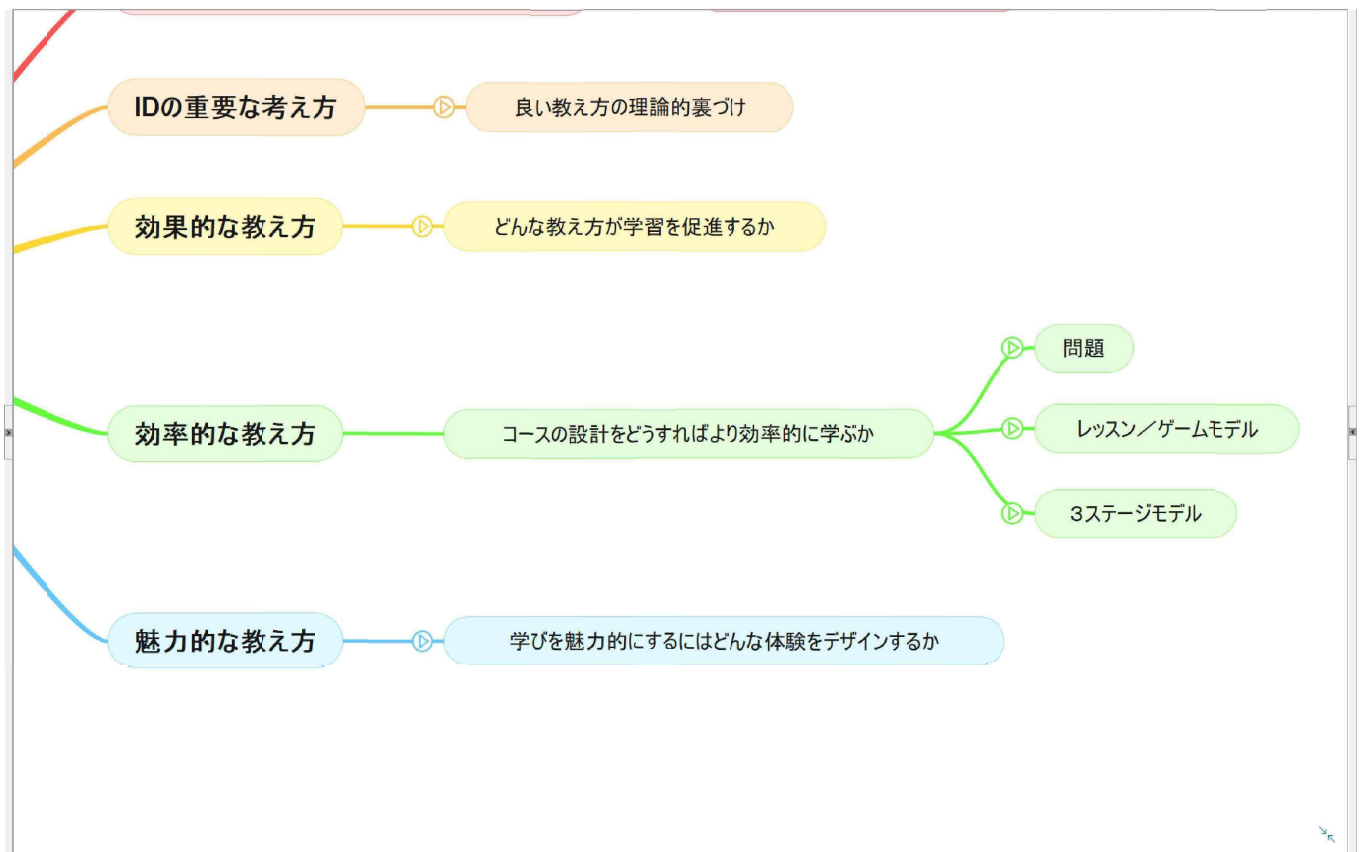
例) The Economist

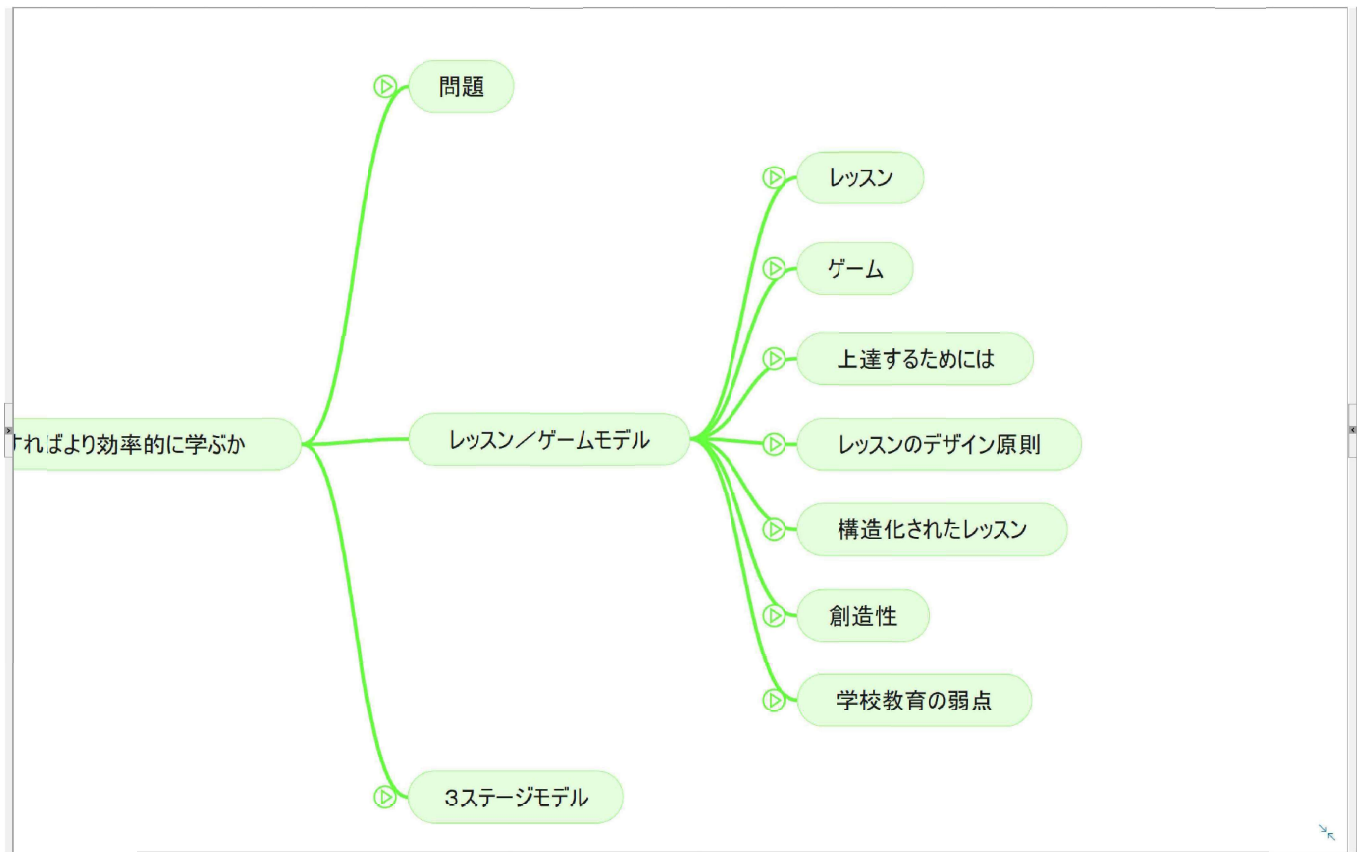


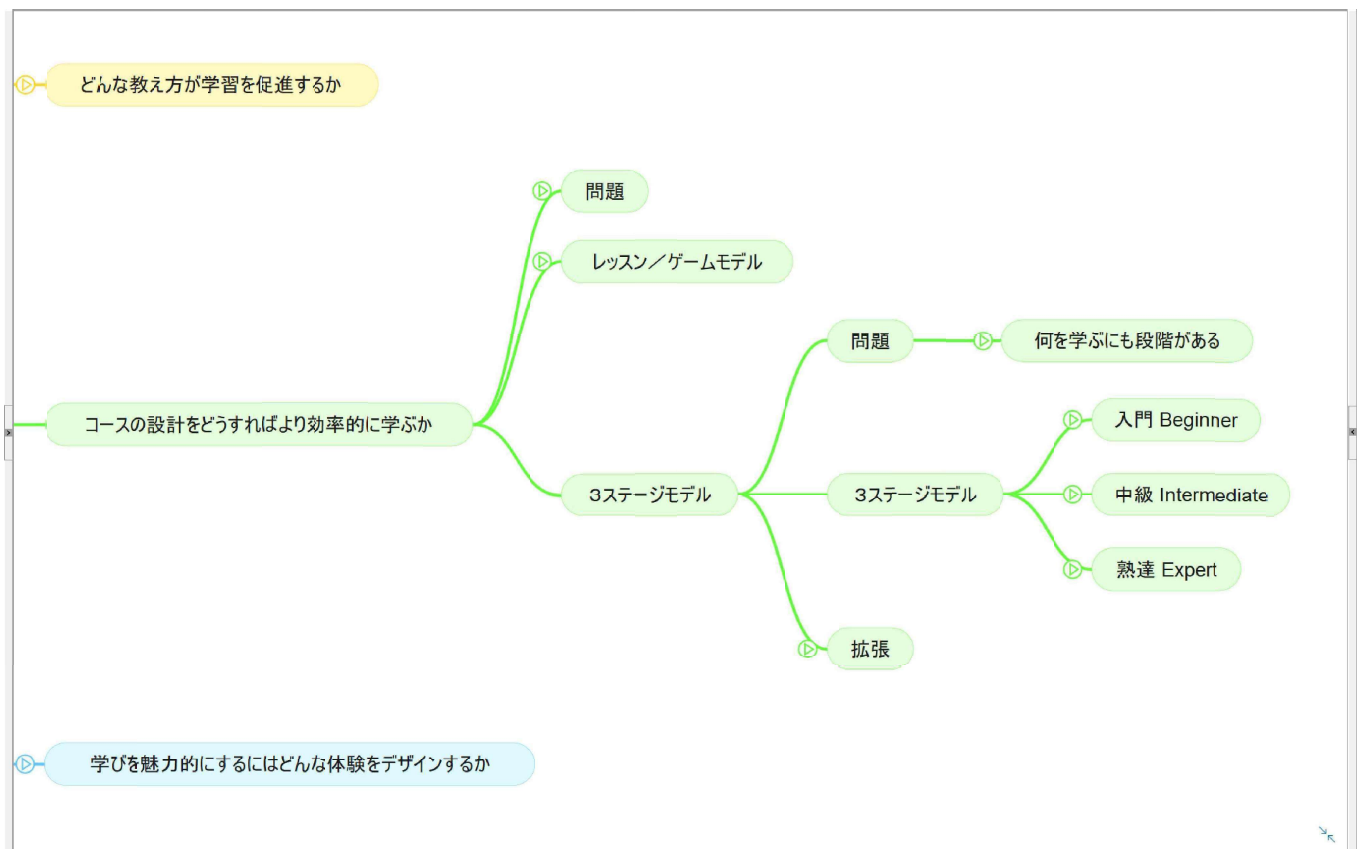
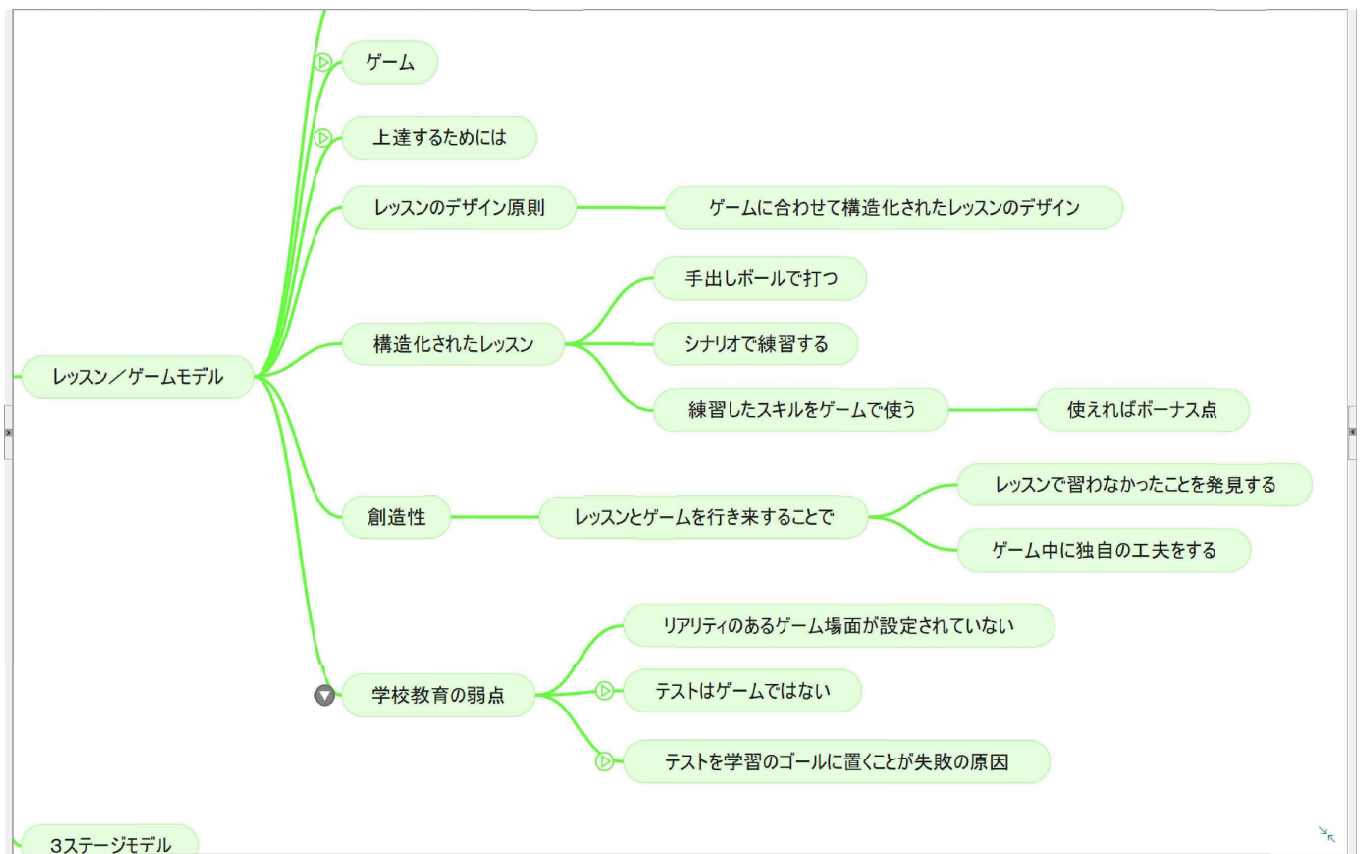
《別紙2：2022研究講演会資料》











モデル

問題

何を学ぶにも段階がある

どの段階にあるかによって最適な教え方が変わる

自分がどの段階にいるかは、上達のために何が重要かによって判断できる

3ステージモデル

▶ 入門 Beginner

▶ 中級 Intermediate

▶ 熟達 Expert

▶ 拡張

問題

3ステージモデル

▶ 入門 Beginner

ゴール

好きになってもらう

スモールステップ

たくさんの成功体験

他者と比べない

学ぶこと

典型例によって概念を学ぶ

Ideas

実行すること

遂行する

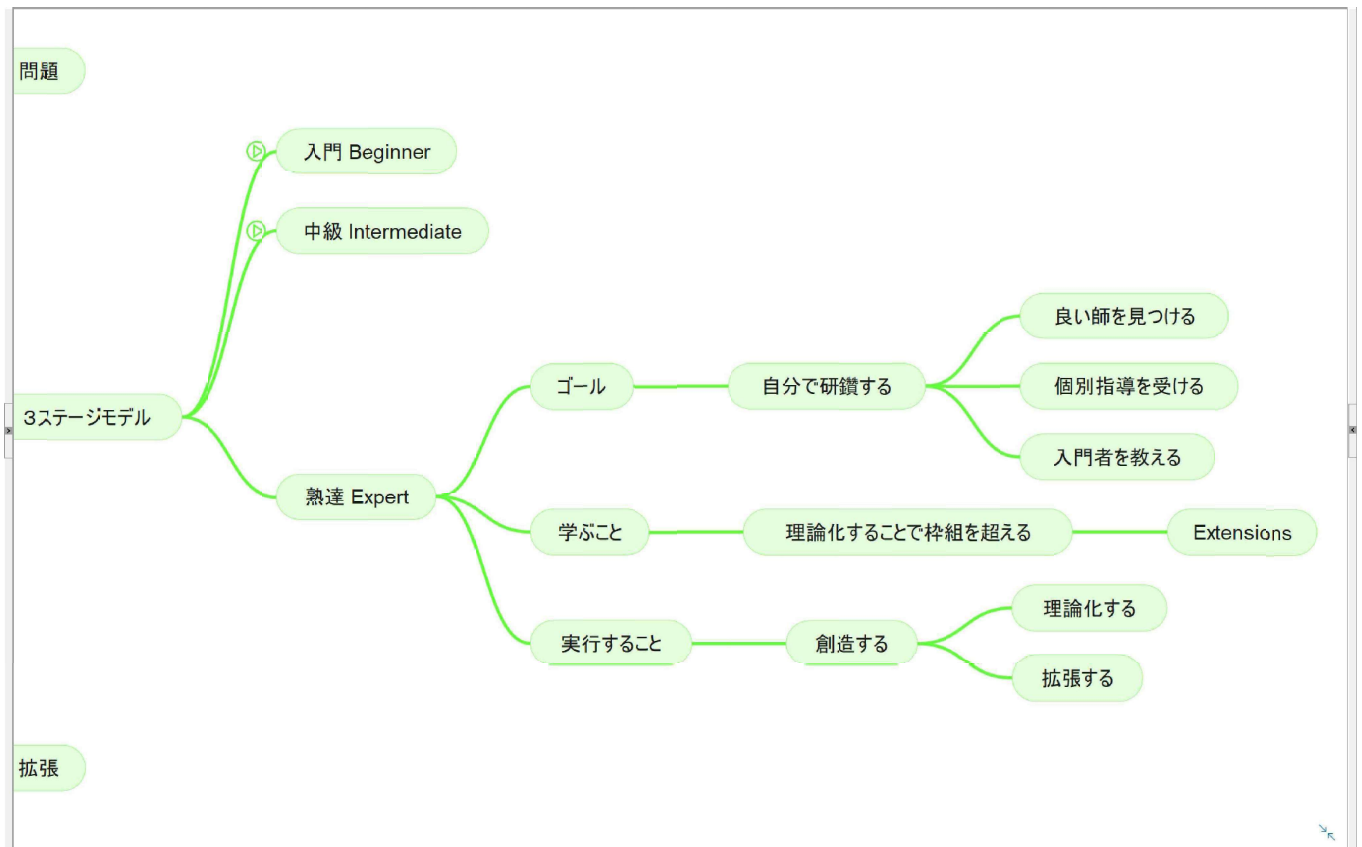
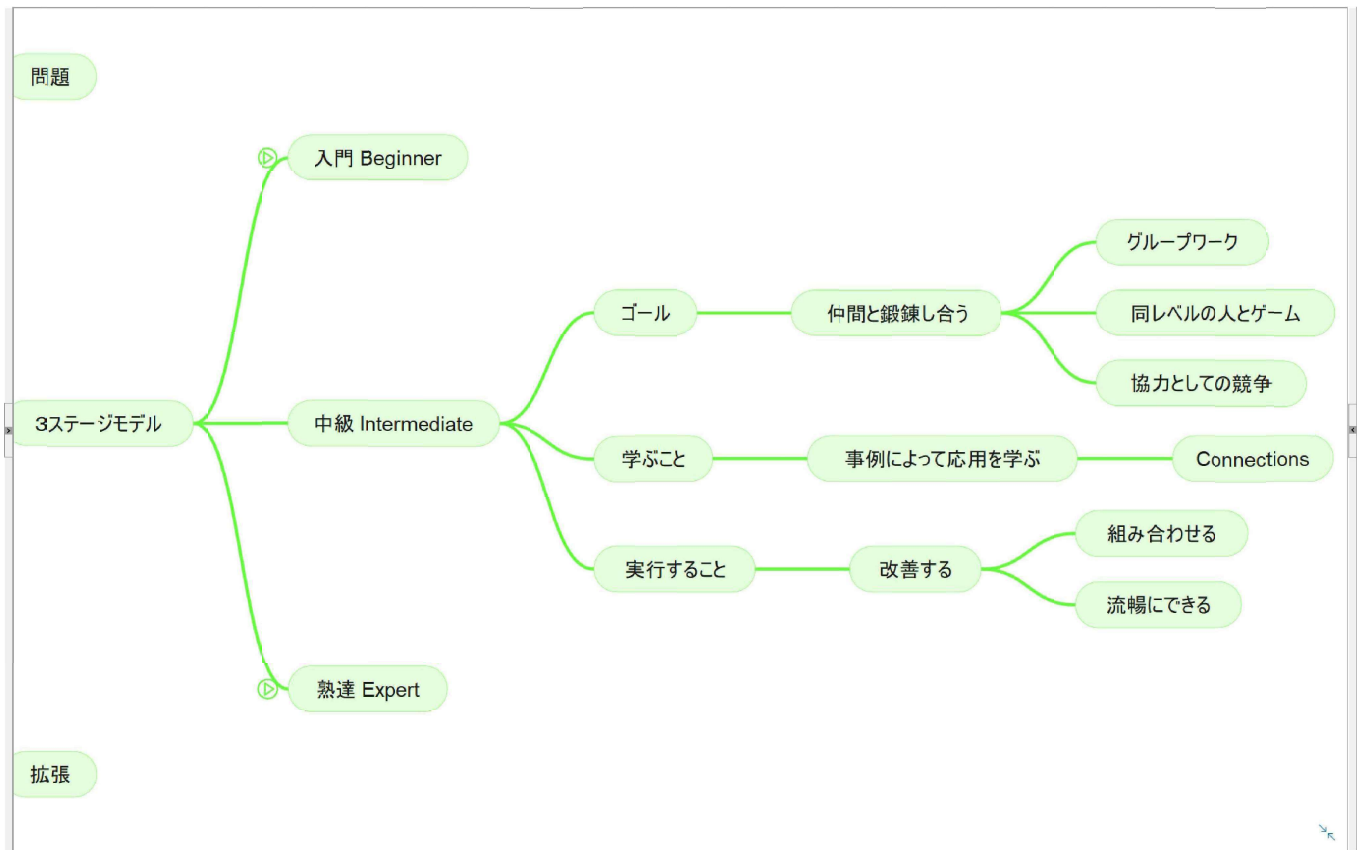
受け入れる

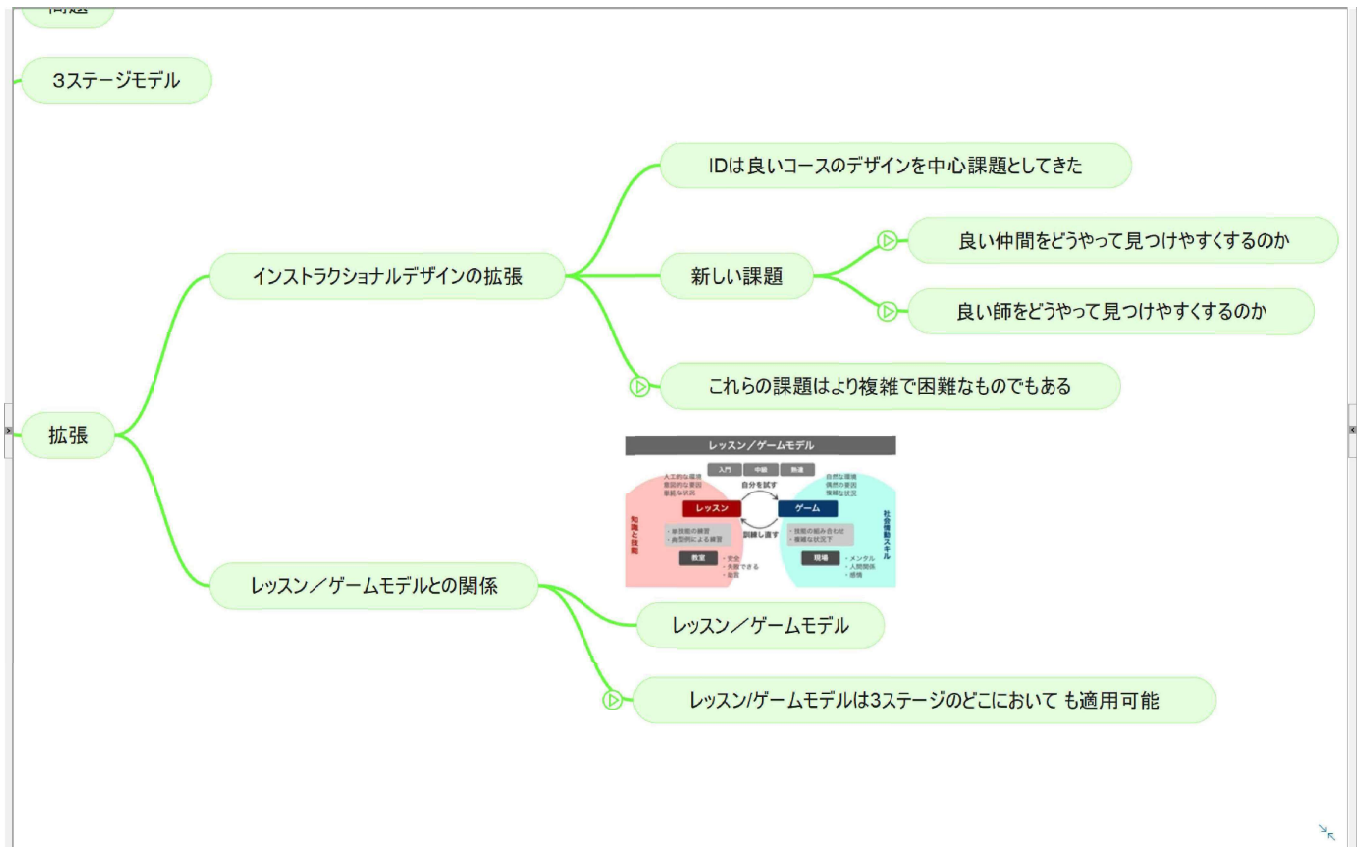
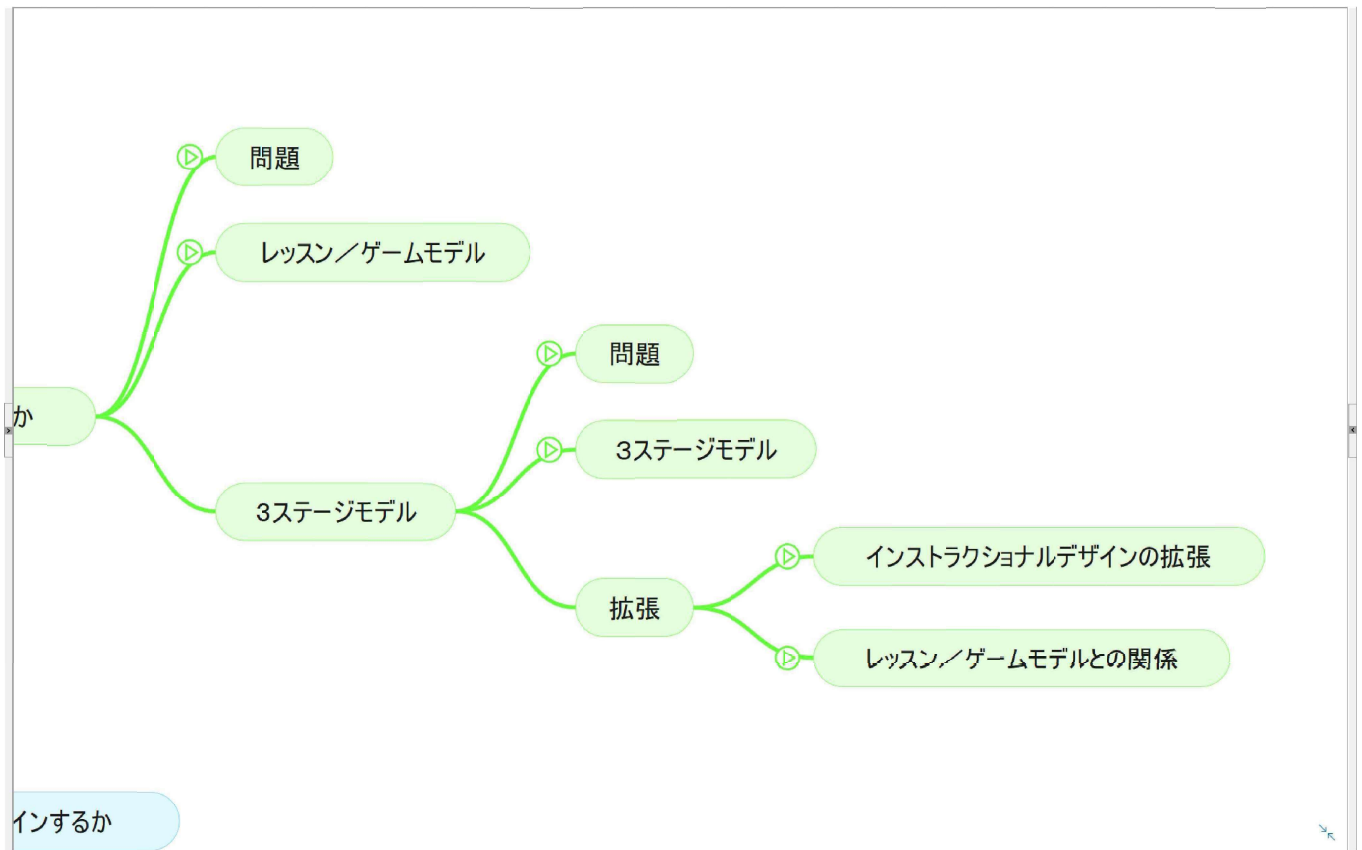
マネをする

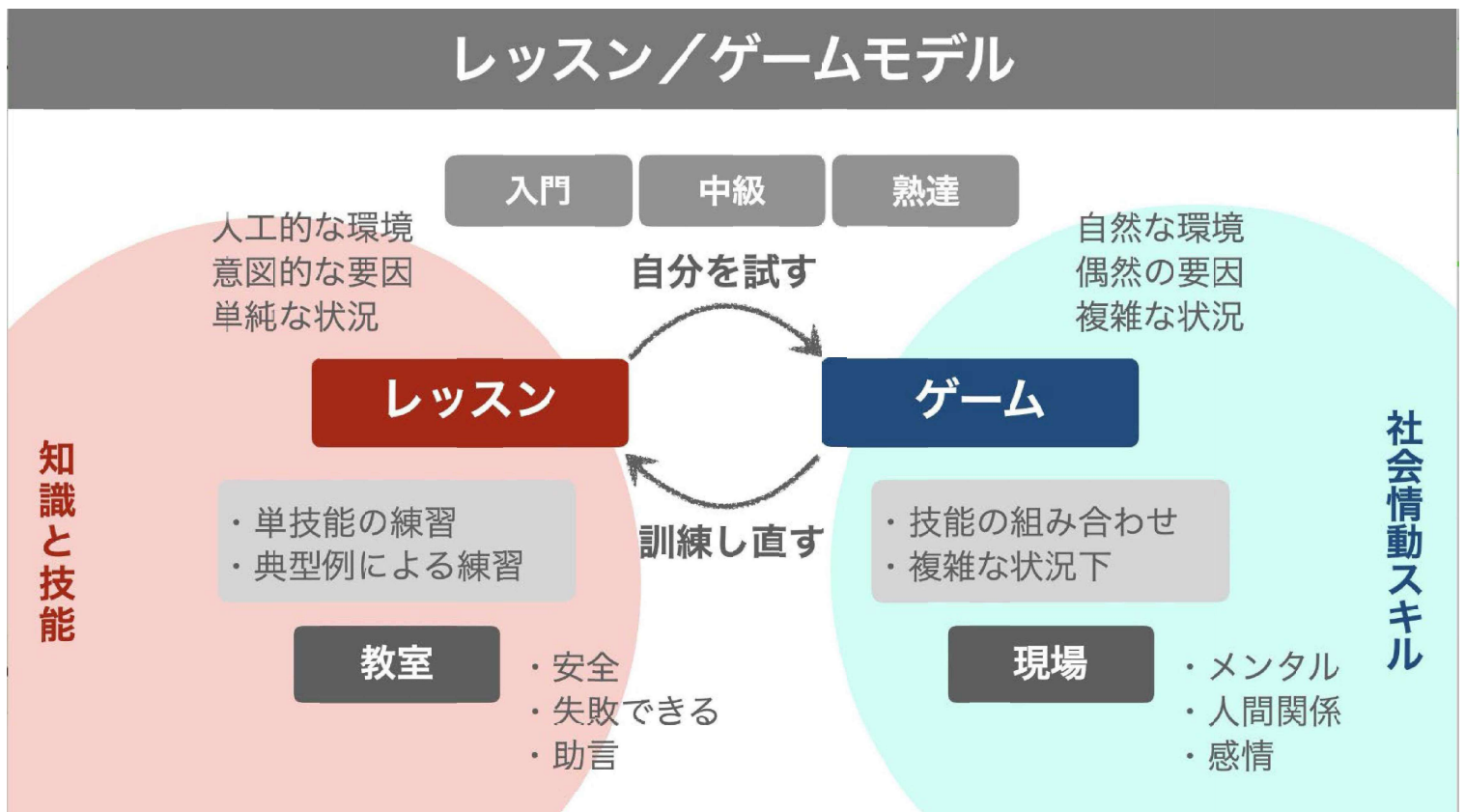
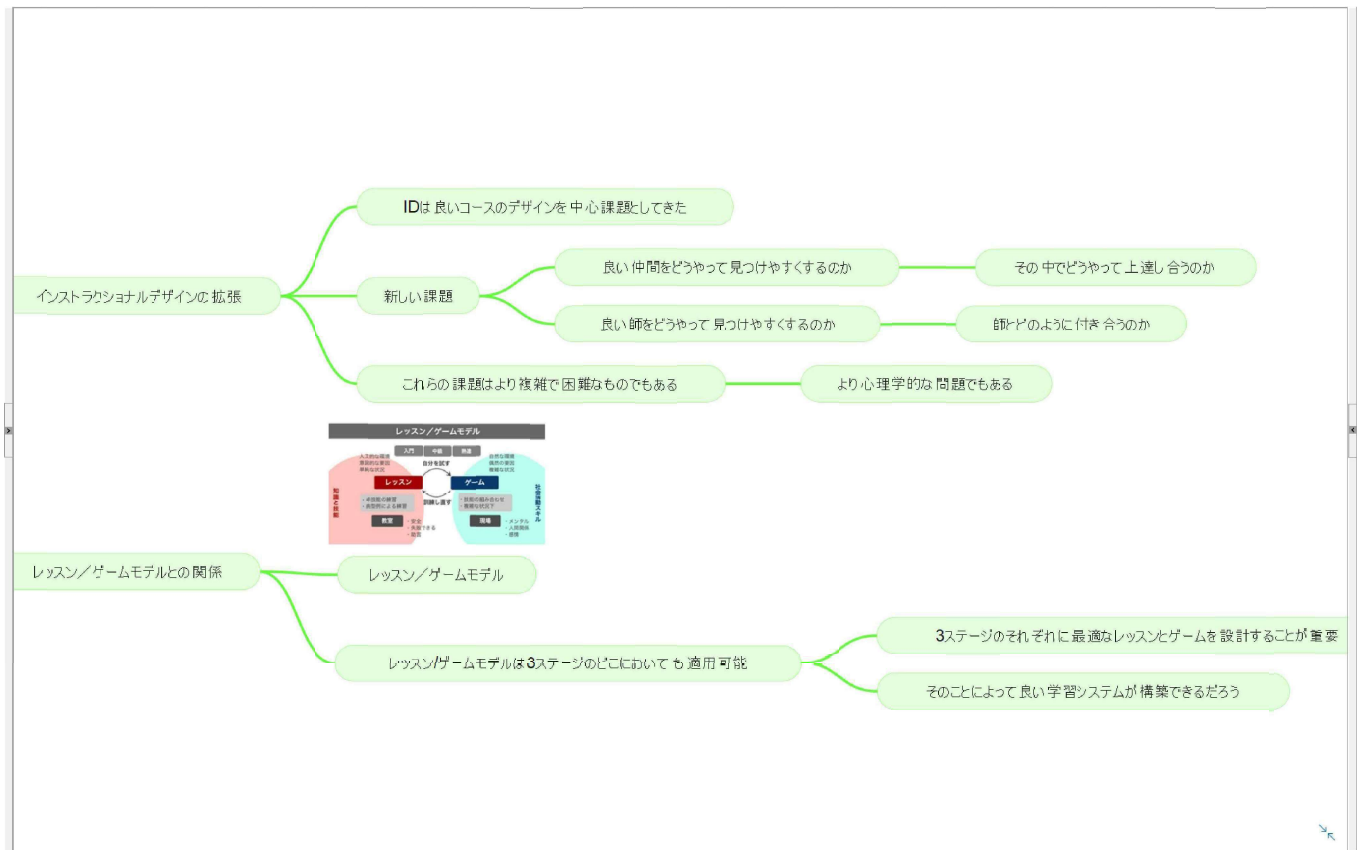
▶ 中級 Intermediate

▶ 熟達 Expert

▶ 拡張







コースの設計をどうすればより効率的に学ぶか

学びを魅力的にするにはどんな体験をデザインするか

問題

学び方を学ぶ

独学・独習の方法

仲間とともに学ぶ方法

コア概念を学ぶ

どんな教え方が学習を促進するか

コースの設計をどうすればより効率的に学ぶか

学びを魅力的にするにはどんな体験をデザインするか

問題

一人で学べるならそれが一番良いのではないか

学び方を学ぶ

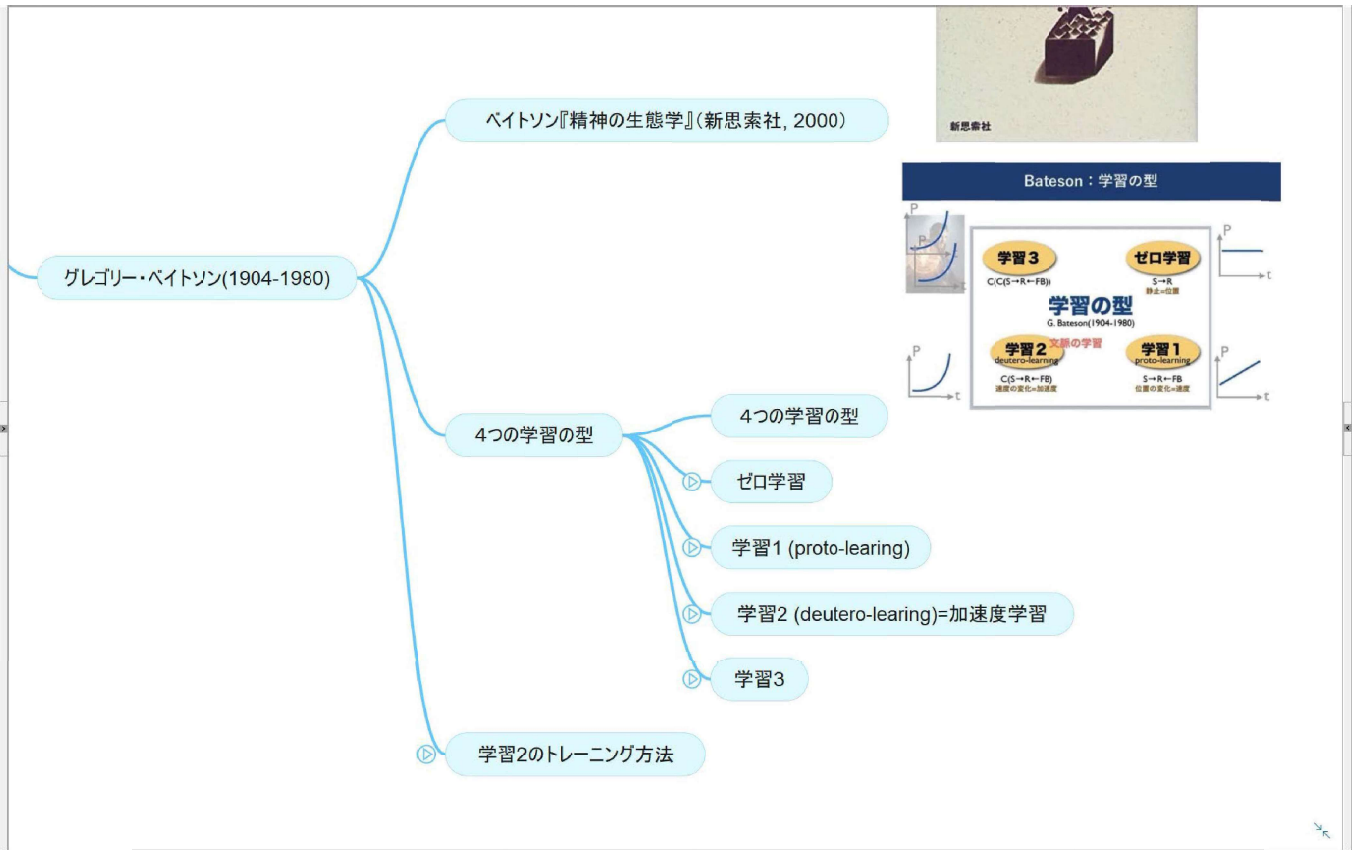
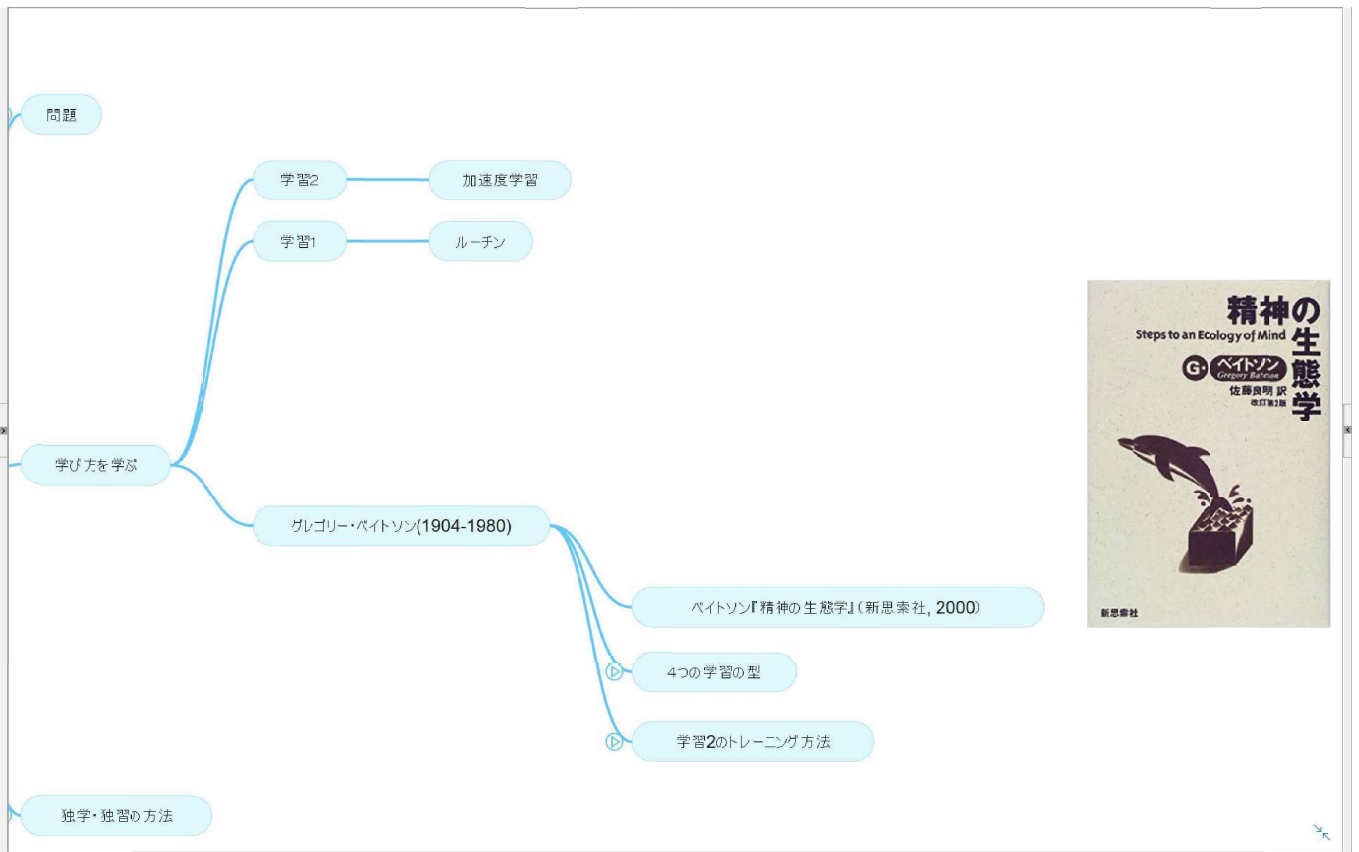
独学・独習の方法

自己満足で終わらないこと

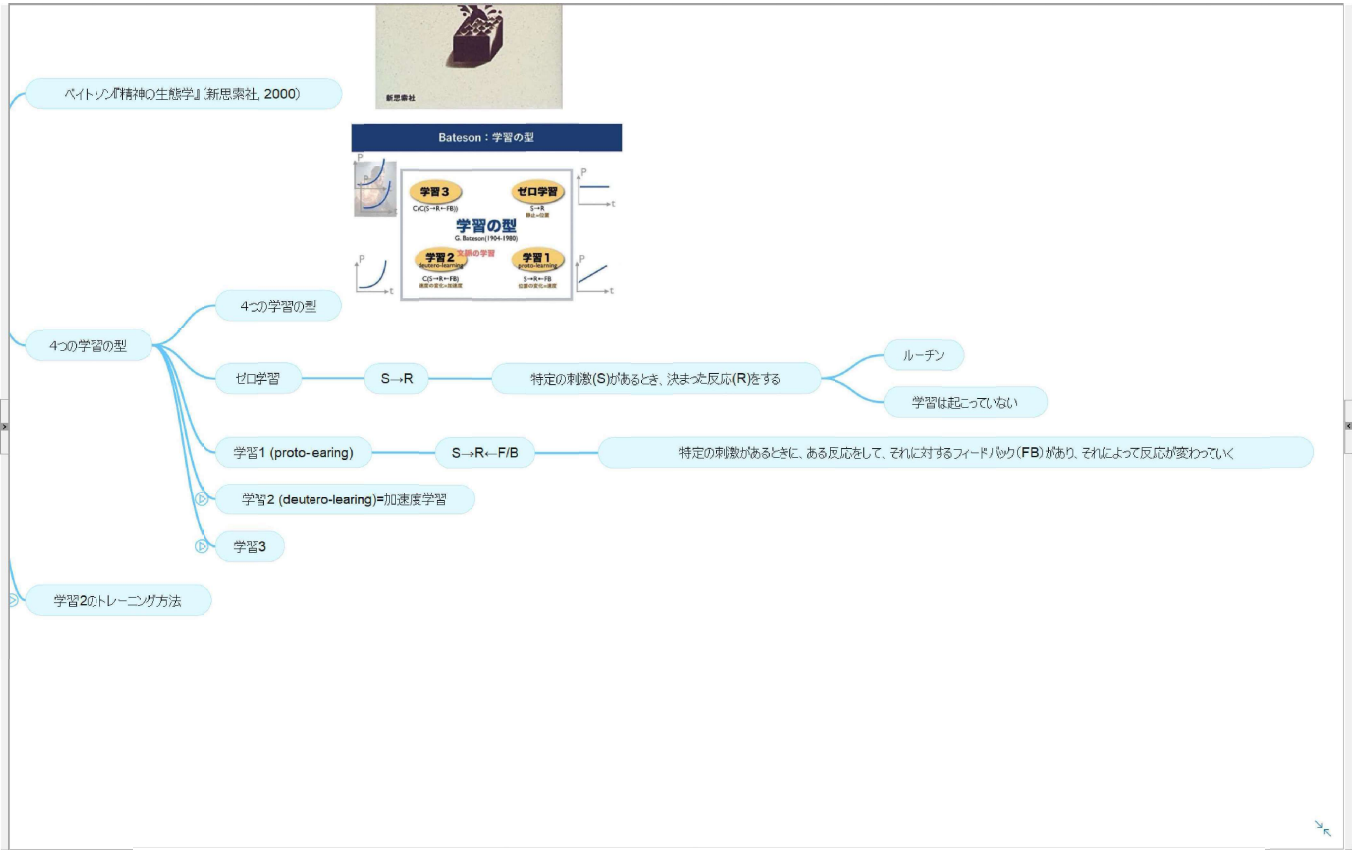
仲間とともに学ぶ方法

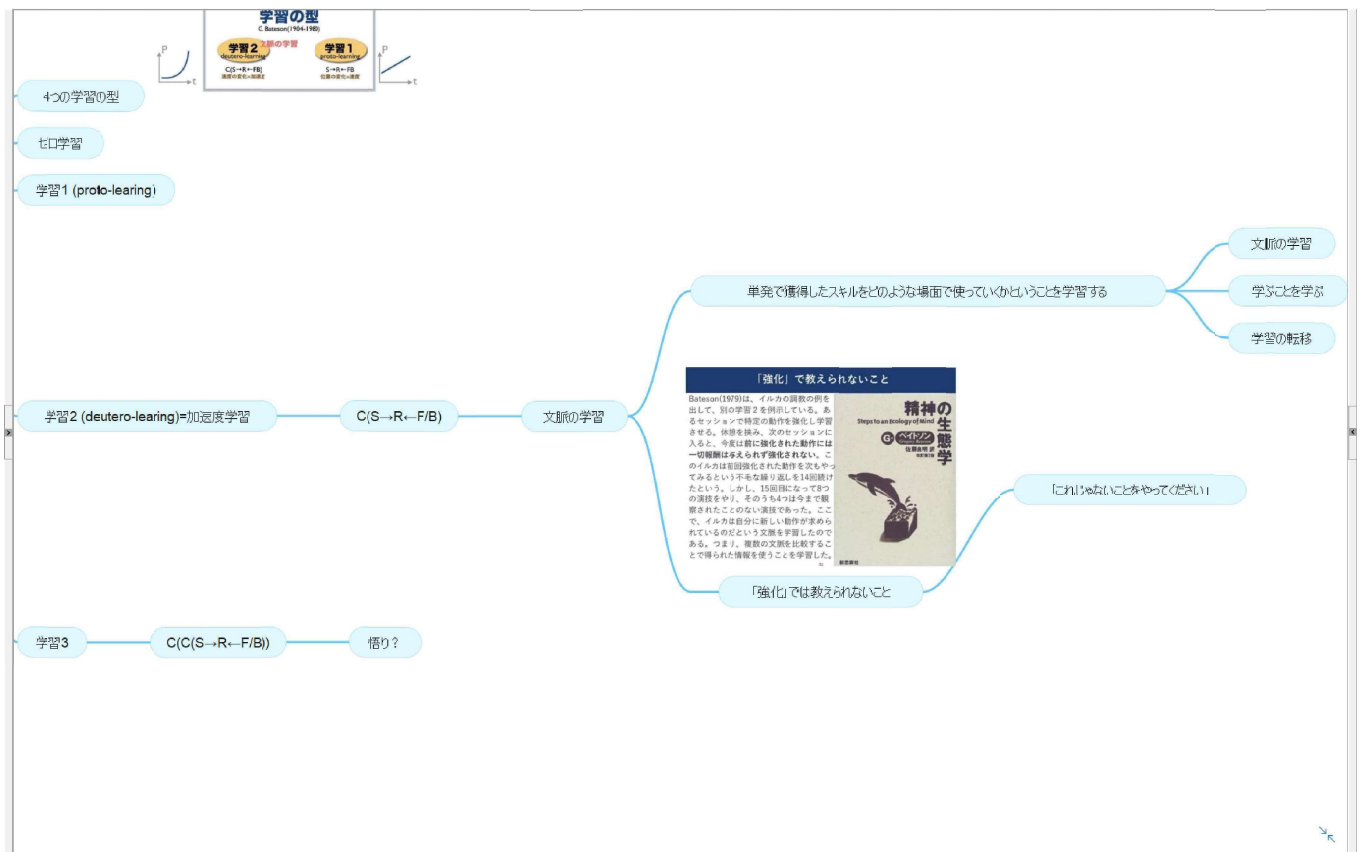
社会情動的スキルを学ぶ

コア概念を学ぶ



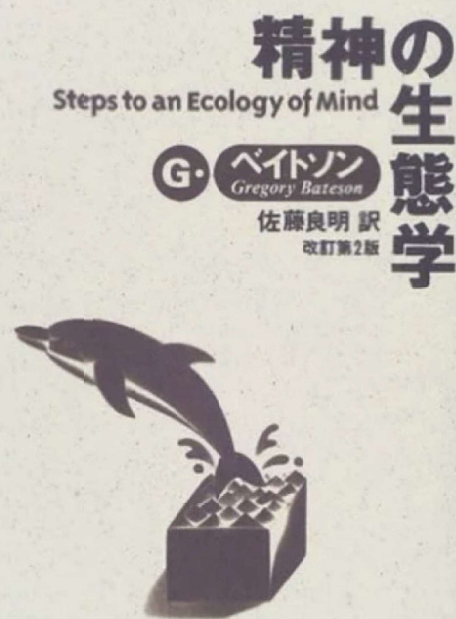
Bateson : 学習の型

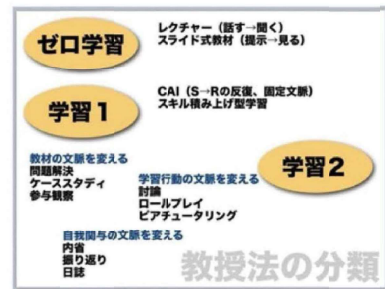




「強化」で教えられないこと

Bateson(1979)は、イルカの調教の例を出して、別の学習2を例示している。あるセッションで特定の動作を強化し学習させる。休憩を挟み、次のセッションに入ると、今度は前に強化された動作には一切報酬は与えられず強化されない。このイルカは前回強化された動作を次もやってみるという不毛な繰り返しを14回続けたという。しかし、15回目になって8つの演技をやり、そのうち4つは今まで観察されたことのない演技であった。ここで、イルカは自分に新しい動作が求められているのだという文脈を学習したのである。つまり、複数の文脈を比較することで得られた情報を使うことを学習した。





学習2のトレーニング方法

学習の型と教授法の対応

学習2とは

(1) 教材の文脈を変える

(2) 学習行動の文脈を変える

(3) 自我関与の文脈を変える

学習の型と教授法の対応

学習2とは

単独のスキルそのものの学習(学習1)ではなく、文脈の中で自分のスキルをどう選択し活かすかということの学習

個々のレポートをどこで活かせばいいのかという文脈の解釈力

(1) 教材の文脈を変える

複雑でリアルな問題を出して、それを解決しようとする(PBL)

現実のケースを取り上げて、ケーススタディをする

現場・フィールドに入り込んで、参加観察をする

(2) 学習行動の文脈を変える

当事者となって討論・議論をする

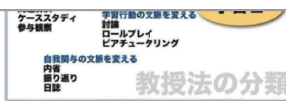
ロールプレイをして違う役割を演じてみる

自分の知っていることを相手に教えるピアチュータリングをする

(3) 自我関与の文脈を変える

自分が一体何を学んだのかということ振り返り、書く(省察)

体験したこと、考えたことをジャーナル(日誌)として書く



私立大学図書館協会東地区部会研究講演会

2022年6月10日(金) オンライン (立正大学図書館)

大学図書館でインストラクショナル デザインが必要とされる背景

学修支援・情報リテラシー教育の
観点を踏まえつつ

野末 俊比古 (青山学院大学)

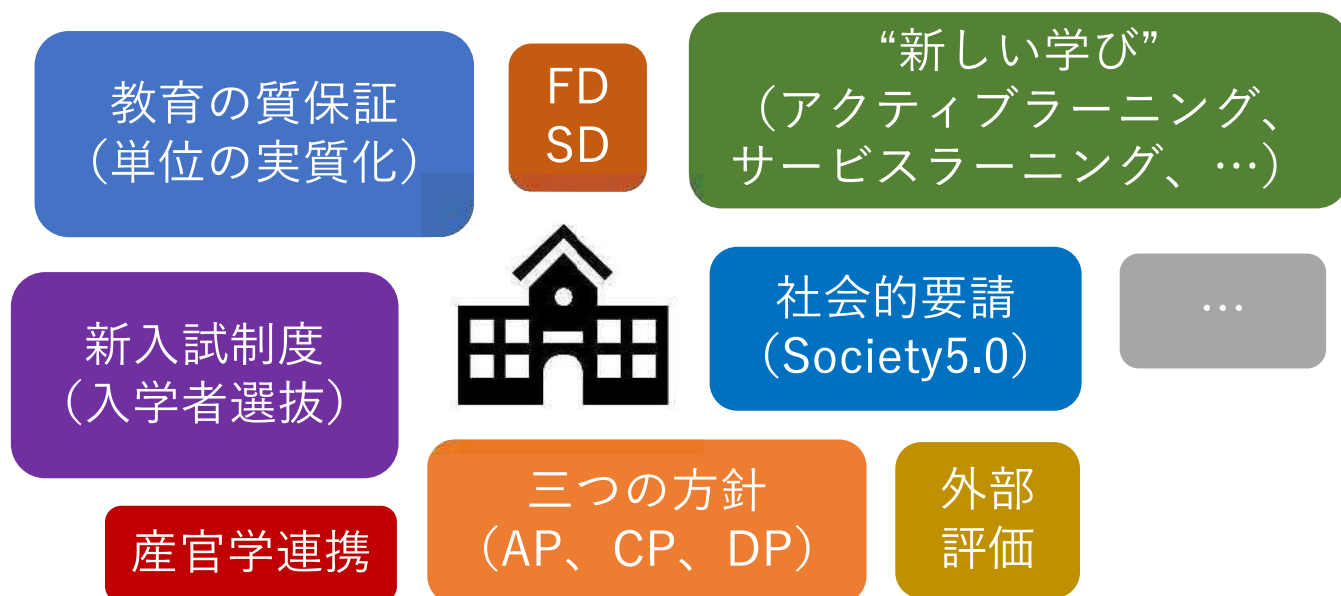
講師紹介

- ◆ 現職……青山学院大学教育人間科学部教授・
図書館長・アカデミックライティングセンター長・
革新技術と社会共創研究所副所長
- ◆ 職歴……学術情報センター助手、国立情報学研究所
客員准教授、シェフィールド大学客員准教授など
- ◆ 専門分野……図書館情報学、
教育情報学
- ◆ 研究関心……情報リテラシー
教育、学習資源論など

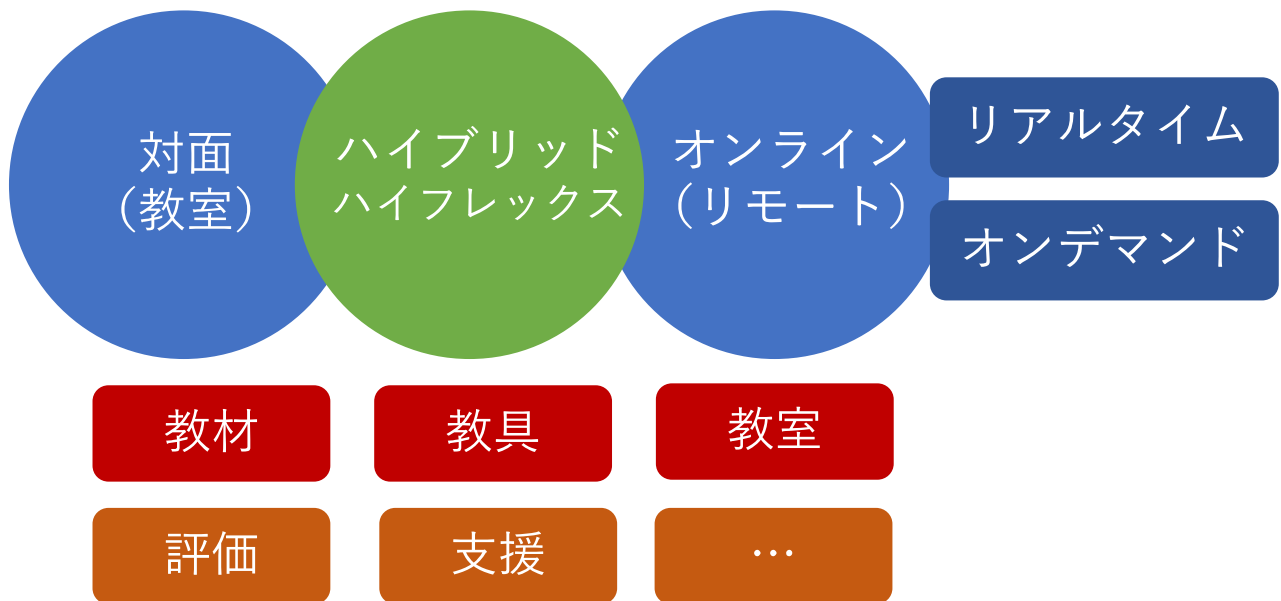
講演の趣旨・構成・形式

- ◆ 趣旨……大学図書館におけるインストラクショナルデザイン (ID) の位置づけ (情報リテラシー教育・学修支援の観点を踏まえつつ)
- ◆ 構成……大学 (教育)・大学生・大学図書館の動向・現状などを確認したうえで、図書館における ID について整理・検討する
- ◆ 形式……「イマキク」を併用 (PC やスマホなどを利用)

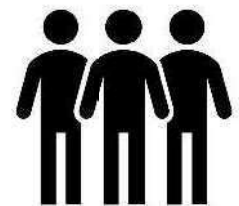
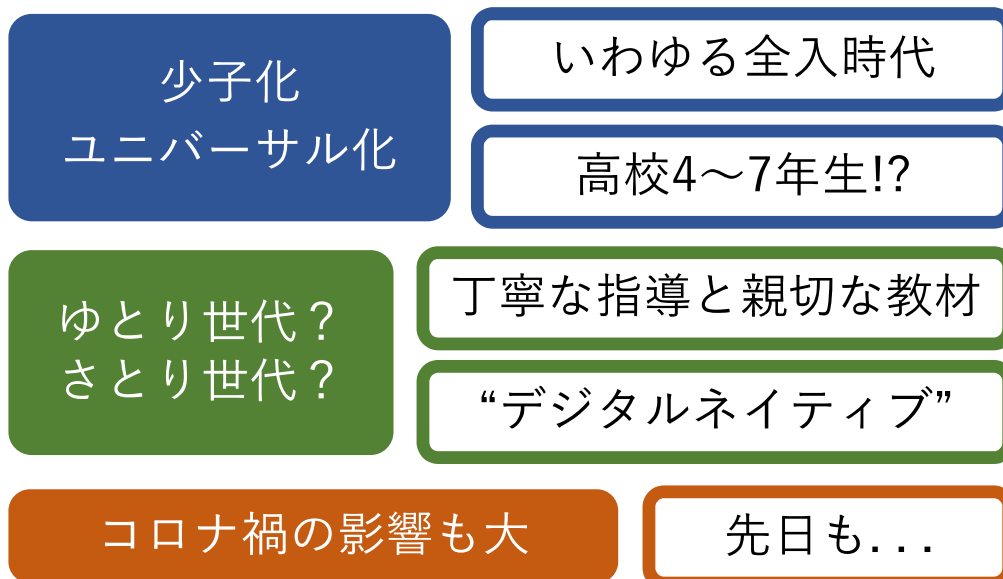
大学教育が変わる？



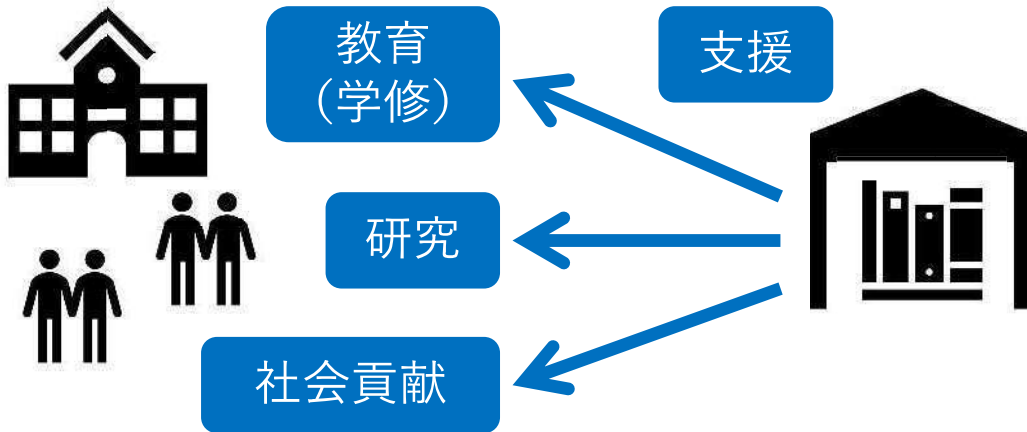
コロナ禍を経て —授業のオンライン化—



最近の大学生は ...



大学図書館に求められるもの – 学修支援



大学図書館に求められるもの – 学修支援



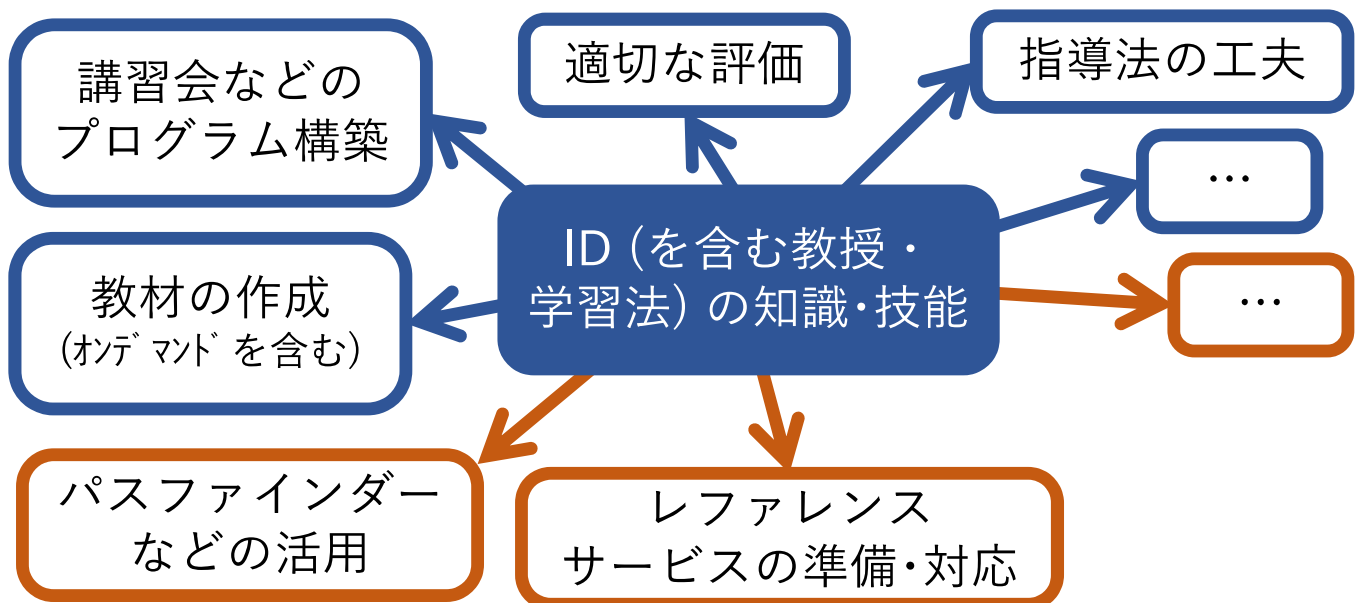
大学図書館における ID

(1) 情報リテラシー教育に活かす

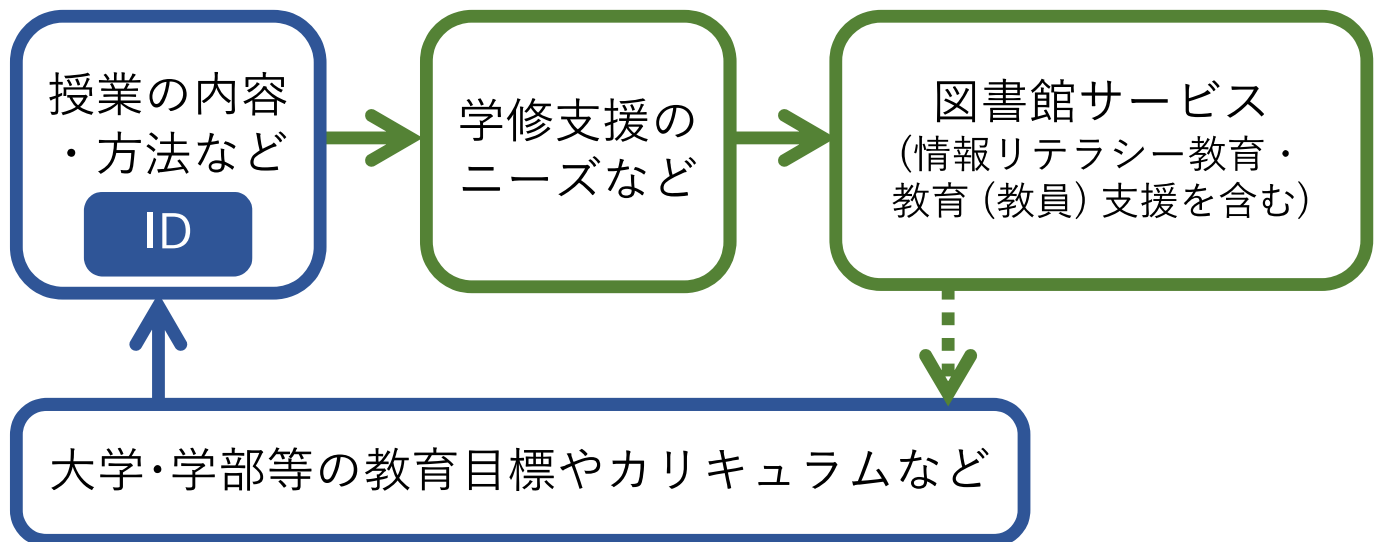
(2) サービスの最適化・再構築につなげる

(3) さらなる応用・展開をはかる

(1) 情報リテラシー教育に活かす



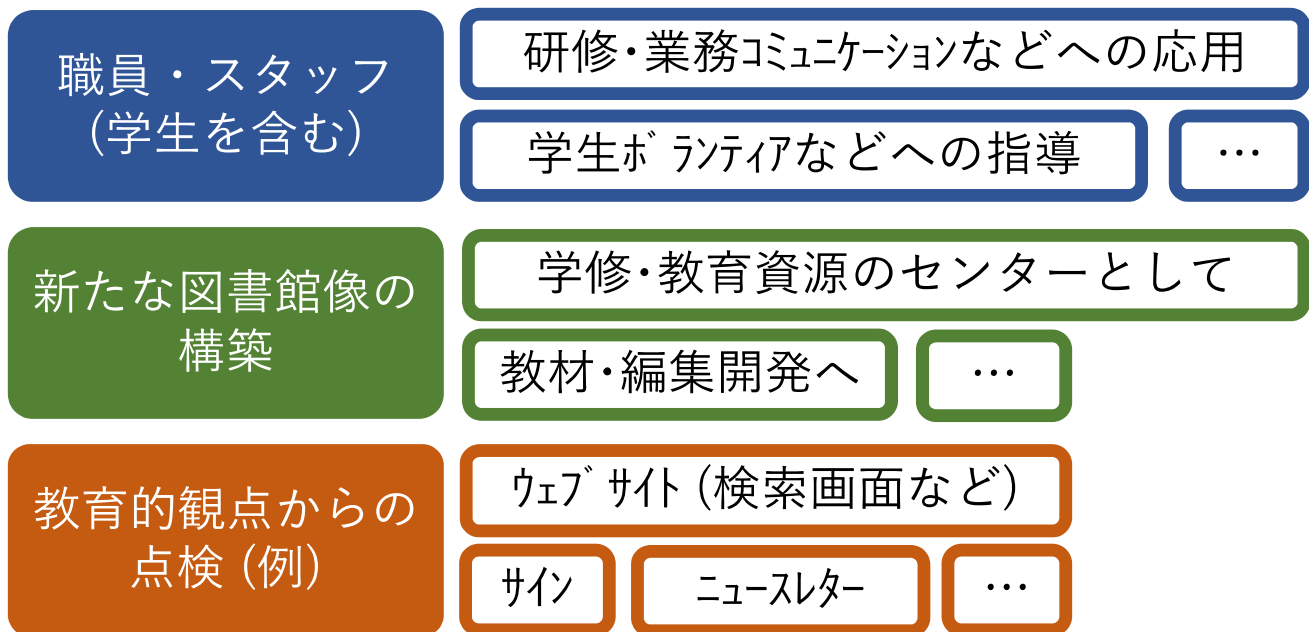
(2) サービスの最適化・再構築につなげる



“教育”の場としての図書館 - 四つの資源



(3) さらなる応用・展開をはかる



ありがとうございました

◆ ご質問・ご意見をいつでも歓迎いたします
tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

◆ 参考文献 (一部)

- ・ 向後千春『上手な教え方の教科書』技術評論社, 2015
- ・ 飯尾淳『オンライン化する大学』樹村房, 2021
- ・ NII「学術情報リテラシー研修」2013～15年度教材
[<https://contents.nii.ac.jp/hrd/literacy>]
- ・ 拙稿「情報リテラシー教育の『これまで』と『これから』」『情報の科学と技術』
vol.64, no.1, 2014, p.2-7

大学図書館でのインストラクショナルデザイン活用事例

図書館TA(Cuter)と協働した 「レポートの書き方講座」における インストラクショナルデザインの活用

九州大学附属図書館
利用者サービス課 参考調査係 兵藤 健志
学術サポート課 学習・研究支援係 星子 奈美

2022年6月10日(金)
私立大学図書館協会東地区部会研究講演会

本日の内容

1. 図書館TA(Cuter)との協働による学習支援
2. 2014-2015年 インストラクショナル・デザインの習得と、レポートの書き方講座の設計
3. 2021年 コロナ禍における講座の進化
(ADDIEモデルによる改定)

本日の内容

1. 図書館TA (Cuter) との協働による学習支援
2. 2014-2015年 インストラクショナル・デザインの習得と、レポートの書き方講座の設計
3. 2021年 コロナ禍における講座の進化 (ADDIEモデルによる改定)

九州大学の概要



1903年 京都帝国大学福岡医科大学 創立
 1911年 九州帝国大学 創立
 2003年 九州芸術工科大学と統合
 2005年 伊都キャンパス開校
 2018年 伊都キャンパスへの統合移転完了

■ 12学部・18学府・17研究院・5研究所・病院
 ■ 学部・大学院生 約1万9,000人
 (うち、留学生 約2,300人)
 ■ 教職員 約8,000人

九州大学附属図書館
Kyushu University Library



中央
図書館

- ・人文社会系
- ・基幹教育関係

伊都
イースト



理系
図書館

- ・自然科学系
- ・情報系

伊都
ウエスト

医学図書館

- ・医学系
- ・生命科学系

病院

芸術工学図書館

- ・芸術
工学系

大橋

筑紫図書館

- ・総合
理工学府

筑紫

2018年10月 キャンパス移転完了・新中央図書館開館



図書館TA (Cuter)

「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」において定められた、全学生を対象とする正課外での学習等の教育支援業務を行う
アドバンスド・ティーチング・アシスタント(ATA)

歴代Cuterの
 実人数 **98名**

2022年4月1日現在

計18名

中央図書館 6名	理系図書館 10名	医学図書館 2名
人文科学府 2名 人間環境学府 2名 法学府 2名	理学府 4名 数理学府 1名 システム生命科学府 2名 工学府 1名 生物資源環境科学府 2名	医学系学府 2名



採用時の評価基準として、国際性や英語力を重視
 国際志向の強い日本人学生、および留学生を積極的に採用

2012/03 図書館学習サポーター(Cuter)活動開始 = ピアサポート導入

- 学内公募型「教育の質向上支援プログラム(EEP)」による図書館プロジェクトの一環
- 附属図書館+付設教材開発センター+大学院ライブラリーサイエンス専攻による取組

2015/12 「九州大学ティーチング・アシスタント実施要項」改正

- Cuterが全学生を対象とした授業外学習等の教育支援業務を行うTAとして正式に位置付けられ、大学の教育制度の中に組み込まれた
- **図書館TA(Cuter)に改称**

2018/03 EEPの終了 → 活動財源の確保が課題に

2018/10 大学移転完了・附属図書館事務部改組

- EEPの取組と成果を引き継ぐために、**学術サポート課を新設**
- 「**学習・教育支援WG**」による監督・指導体制の整備

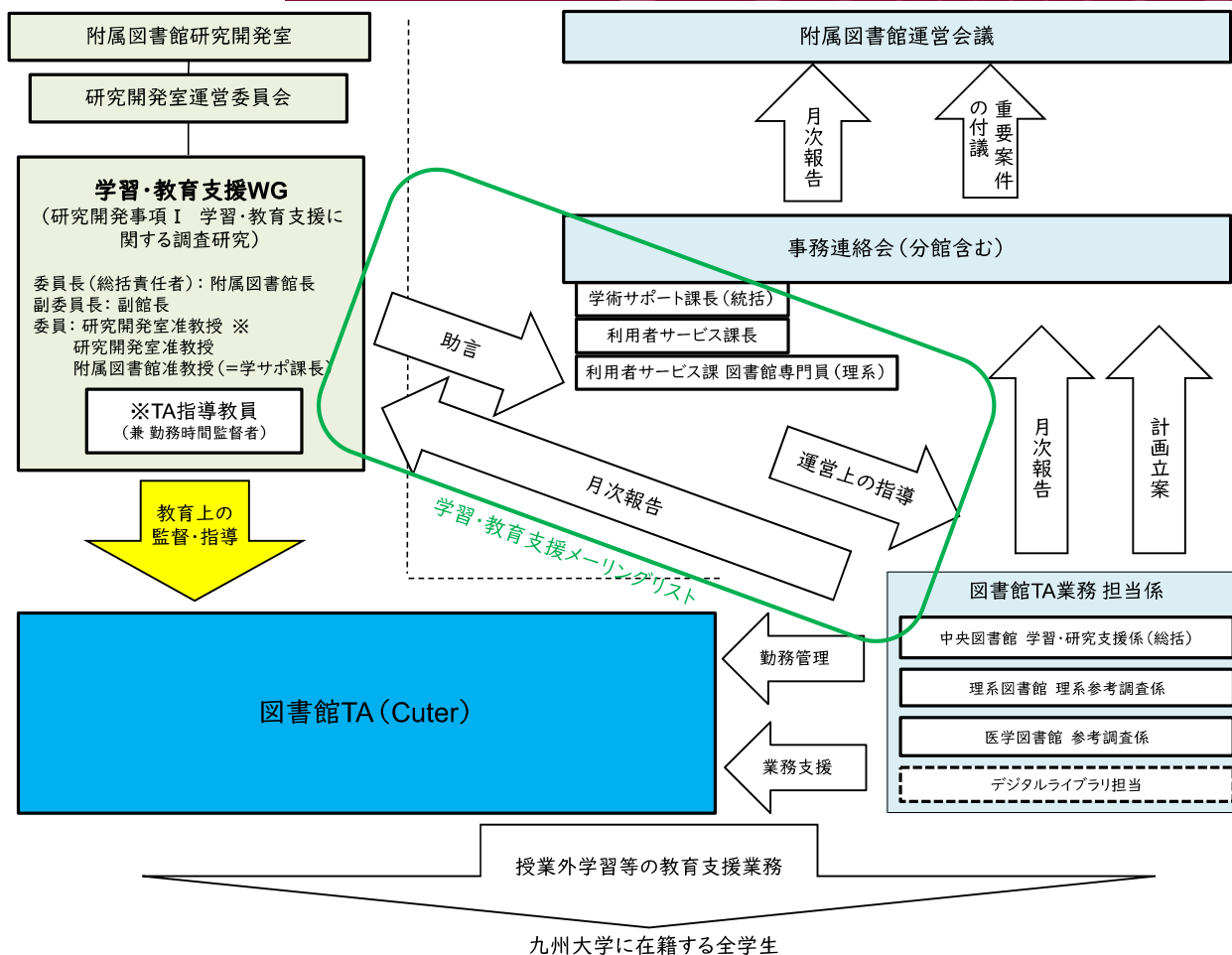


2019年度～ 必要経費の大部分が全学TA経費から措置開始

2019/10 九州大学の新しいTA制度開始

- 学内TA用eラーニング教材を図書館職員とCuterが協働で作成
- 図書館TA(Cuter)は、**Advanced TA (ATA)** の位置づけに

2021/06 令和3年度国立大学図書館協会賞を受賞



1 学習相談デスク



2 学習ガイド作成



3 講習会

学部1年生向け

- ・レポートの書き方講座
- ・実験レポート講座
- ・プレゼン講座



4 学際交流イベント



コンセプト

- 新入生にレポートの書き方を理解してもらう
- 講座を通じて図書館TA(Cuter)自身が成長する

講座の特徴

- 図書館TA(Cuter)が講師を務める
 - ✓ 基本的な講義内容を共有することで、講座の質を担保
 - ✓ 一方で、図書館TA(Cuter)のそれぞれの専門性を付加することで、講座の独自性を向上
- 一方向の講義ではなく「だめだめレポート」を修正する作業により、双方向性を持たせる

講座のGoal

1. 私たち(大学生)がレポート課題に取り組む意味を理解する
2. レポートを書き始めるまでの手順を知る(準備8割!)
3. 「良い」レポートを書くために押さえない3つのポイントを理解する(アウトライン、パラグラフ・ライティング、引用・参考文献の取り扱い)

これまでの経緯

- 2014年から毎年開催し、常に改善を加えている
 - ✓ ADDIEモデルを用いた講座のブラッシュアップ
 - ✓ 2021年はオンラインで初開催
- これから詳細をご説明します

本日の内容

1. 図書館TA(Cuter)との協働による学習支援
2. 2014-2015年 インストラクショナル・デザインの習得と、レポートの書き方講座の設計
3. 2020-2021年 コロナ禍における講座の進化(ADDIEモデルによる改定)

背景

- 2014年度 九州大学で**基幹教育がスタート**
 - 旧カリキュラムでは授業の中でほぼ一年生全員に図書館ガイダンスを実施できていた
 - 新カリキュラムではその機会が無くなることに。

新たな初年次教育と どう連携していくか・・・

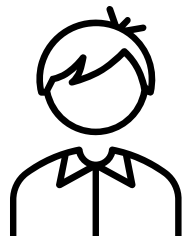
基幹教育がはじまって



教員の声

そろそろ授業で第1回のレポートを課すのですが、レポート執筆支援関係のセミナーや学習支援は、図書館で行われていますか？

基幹教育がはじまって



Cuterの声

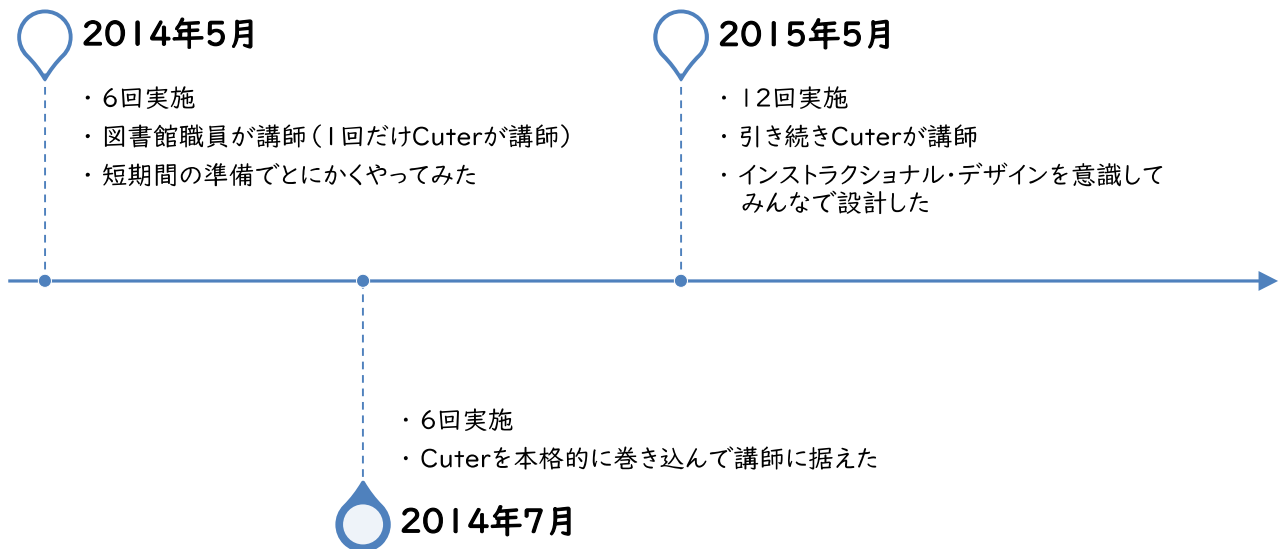
(1年生から相談を受けたので)
文献を紹介しつつ、レポートの書き
方の概略、テーマの選び方などを一
通り説明しましたが、色々と戸惑って
いる様子でした

レポートの講習会が必要?!



CHALLENGE

図書館でレポートの書き方講座を開始

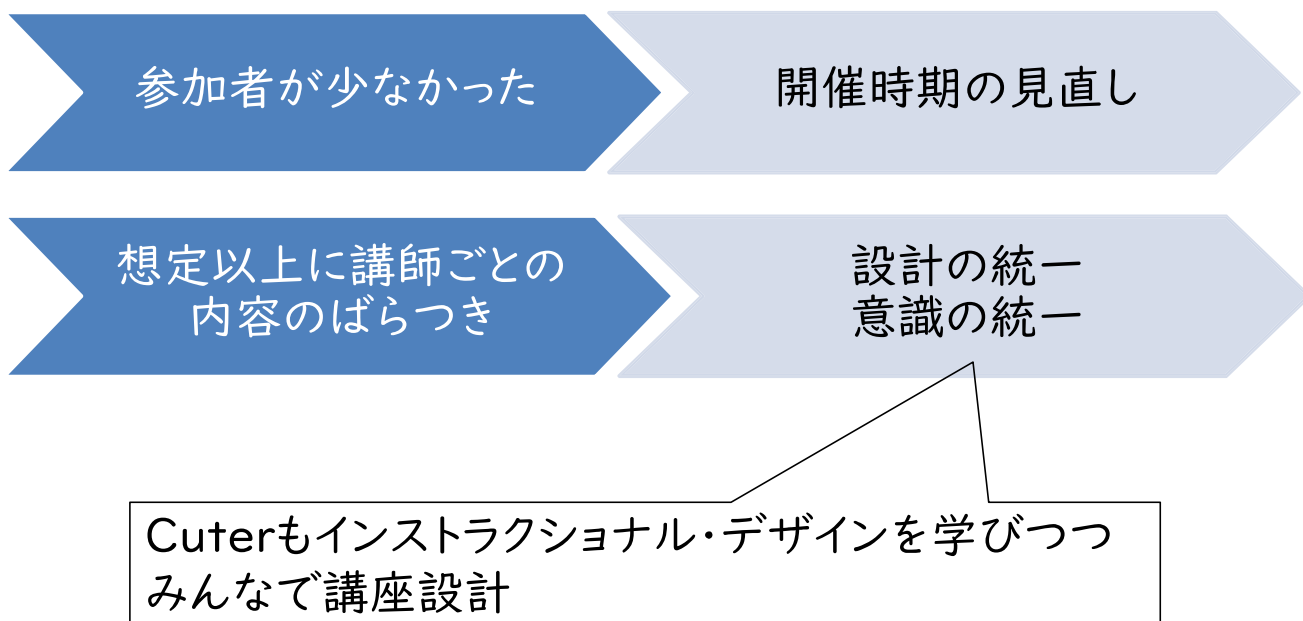


2014年7月のレポートの書き方講座

- ・ 概要
 - ・ 6回実施でCuter 6名が講師
 - ・ 想定： 共通的な内容 + 各講師の裁量
- ・ 実際にやってみて浮き彫りになった課題
 - ・ 参加者が少なかった
 - ・ 想定以上に講師ごとの内容のばらつき



2015年度の実施に向けて



本学での研修実施履歴

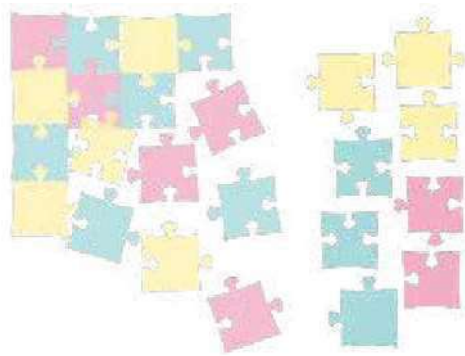
年度	テーマ
2011年度	インストラクショナル・デザイン
2012年度	動機づけデザイン
2013年度	基幹教育、アクティブラーニング
2014年度	学習科学、ジグソー法、インストラクショナル・デザイン

ただし、これらは図書館職員が対象で
Cuterは受講していない

Cuterにどう学んでもらったか

- インストラクショナル・デザインの知識習得を一過性のもものとせず、講座内容に反映させたい
- みんなで考えたこととして、設計や意識を統一したい

知識構成型
ジグソー法で
やってみた



知識構成型ジグソー法

- 協調学習。一人一人に役割。深い学び。
- 流れ
 - STEP.0 問いを設定する
 - STEP.1 自分のわかっていることを意識化する
 - STEP.2 エキスパート活動で専門家になる
 - STEP.3 ジグソー活動で交換・統合する
 - STEP.4 クロストークで発表し、表現を見つける
 - STEP.5 一人に戻る

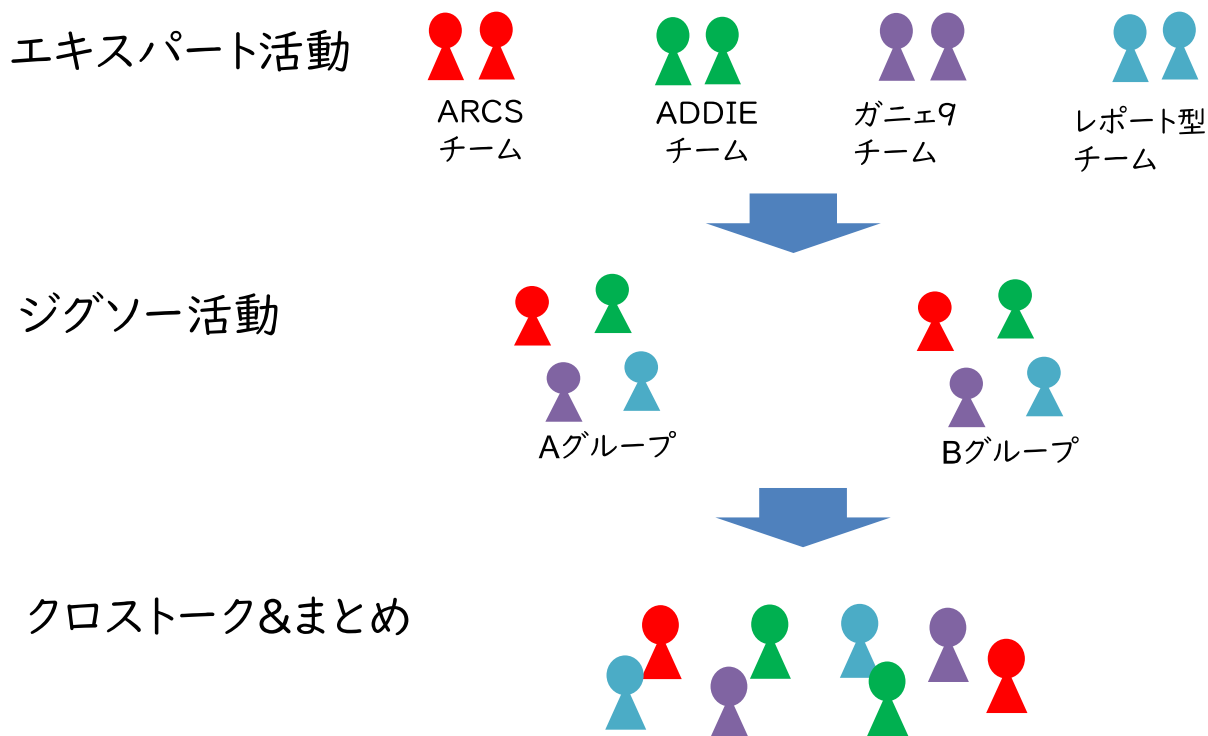
一般社団法人教育環境デザイン研究所. 知識構成型ジグソー法.

<https://ni-coref.or.jp/archives/5515> (参照 2022-05-23)

問いの設定

- 4つの観点から、レポートの書き方講座をどのように設計すればもっとよくなるのかを考える。
 - ① ARCSモデル
 - ② ADDIEモデル
 - ③ ガニエの9教授事象
 - ④ レポートの型

各活動(知識構成型ジグソー法)



エキスパート活動：ARCSチーム

- Attention おもしろそうだな
 - 私服授業、生徒及び講師の多様性、先輩
- Relevance やりがいありそうだな
 - 単位、学友
- Confidence やればできそうだな
 - 受験合格
- Satisfaction やってよかったな
 - 成績A

エキスパート活動：ADDIEチーム

- Analysis 分析
 - どんな人が対象なのか
 - レポートの書き方に不安がある大学1年生
 - どんな課題を抱えているのか
 - どんな構成でレポートを書けばいいのかわからない
 - 達成すべき目標は何か
 - 講義の後に自分でレポートが作成できるようになること

エキスパート活動:ADDIEチーム

- Design 設計
 - 先ほどの分析をふまえた上で設計を行う
 - レポートの書き方に不安がある
 - 書き方さえわかれば簡単にかけるもの
 - どんな構成でかけばいいのか分からない
 - サンプルレポートを提示する
 - 講座の中で書き方をシミュレーションする
 - 自分でレポートが書けるようになるには
 - その場で実際に書いてもらって、添削するのが理想だけど、90分という時間と人数を考えると難しい?

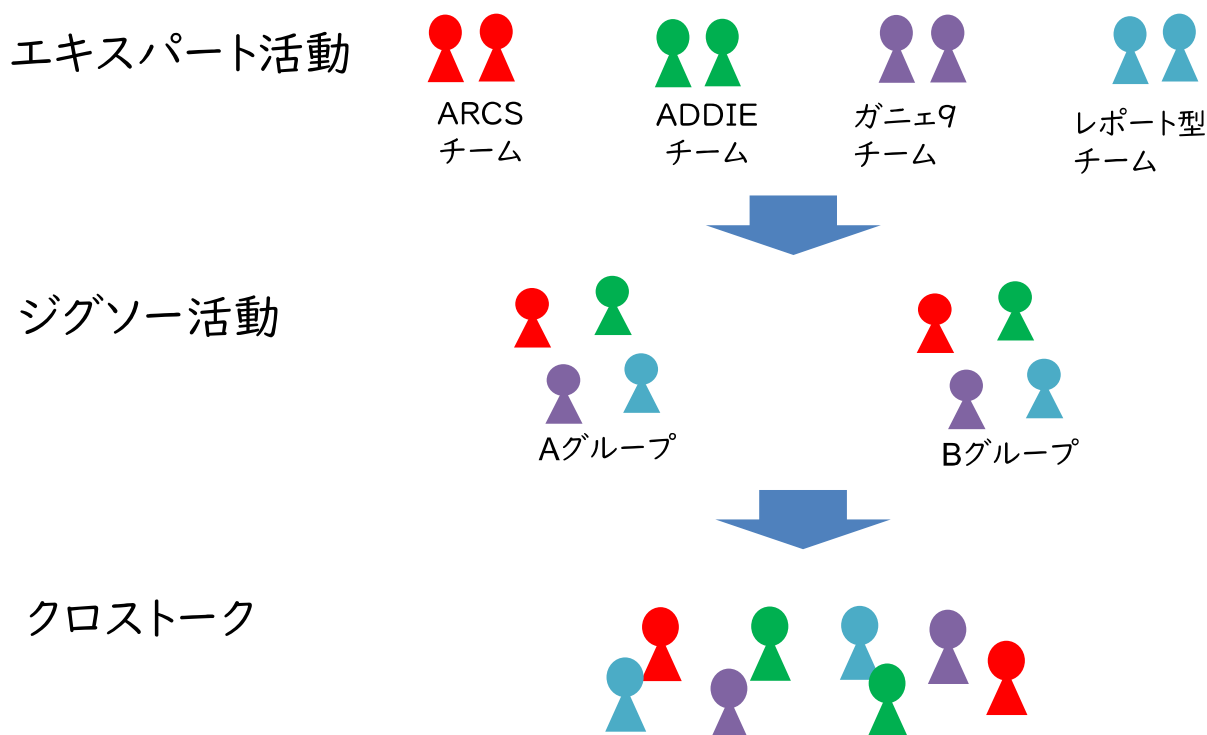
エキスパート活動:ADDIEチーム

- Develop 開発
 - それぞれのプレゼンの個性は残しつつ、必ず共有しておかないといけない部分を共有する
 - サンプルレポートを作成する
- Implement 実行
 - 事前に時間配分がきちんとできるか練習をする
 - Cuterの存在をアピールし、質問があればいつでもきていいことを周知する
- Evaluate 評価
 - アンケートを実施し、参加者からの意見を聞く。
 - 可能であれば、Cuterまたは図書館職員が講座に参加し、フィードバックを行う。

エキスパート活動:ガニエの9教授事象チーム

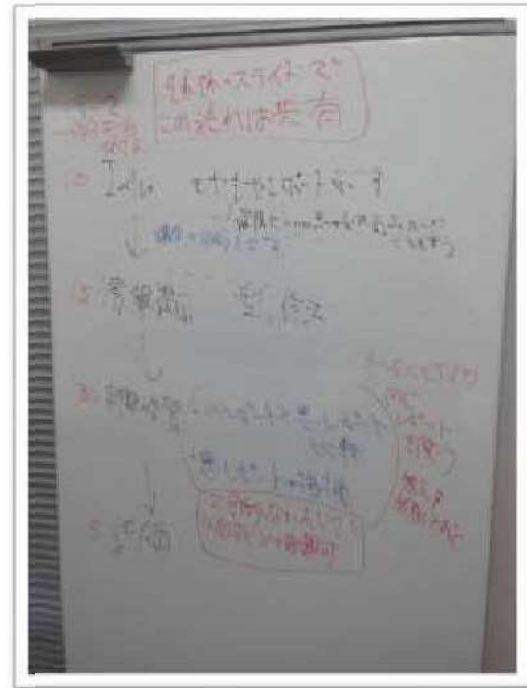
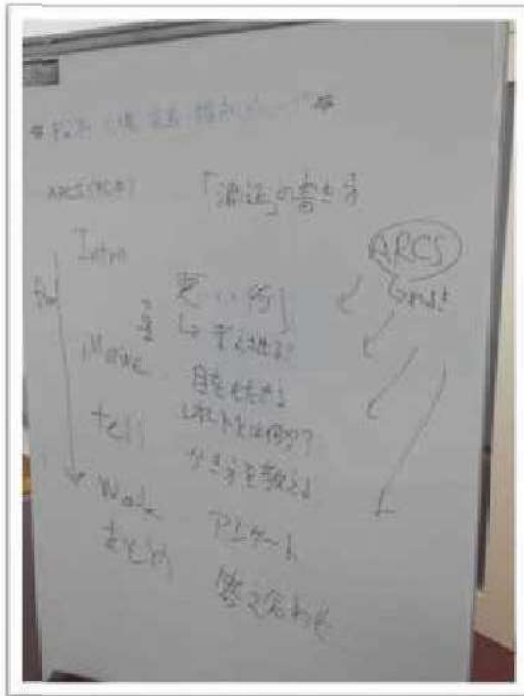
9つの働きかけ	レポート講座の場合
1.学習者の注意を獲得する	悪いレポートを見せて何が悪いのか考えさせる
2.授業の目標を知らせる	どこがどう違うから良いのか?どうすればよくなるのか が課題であることを知らせる
3.前提条件を思い出させる	レポートとはそもそもなんなのか?種類は?レポートの目的
4.新しい事項を提示する	良いレポートが書ける具体的な方法、手順を教える
5.学習の指針を与える	例を示し、使い方、方法をよりわかりやすく伝える
6.練習の機会をつくる	実際にパソコンで特定の本を検索させてみる 悪いレポートの何が悪かったかを考えさせる or グループ内で発表を行う
7.フィードバックを与える	答えを教えて確認させる。間違えた人にはなぜ間違ったのか を教える or グループ内で評価をもらうとか
8.学習の成果を評価する	簡単なテスト or アンケートを実施し、達成度を調べる。 うまくできない人には別個で対応する
9.保持と転移を高める	レポート講座を定期的に行う

各活動(知識構成型ジグソー法)



ジグソー活動&クロストーク

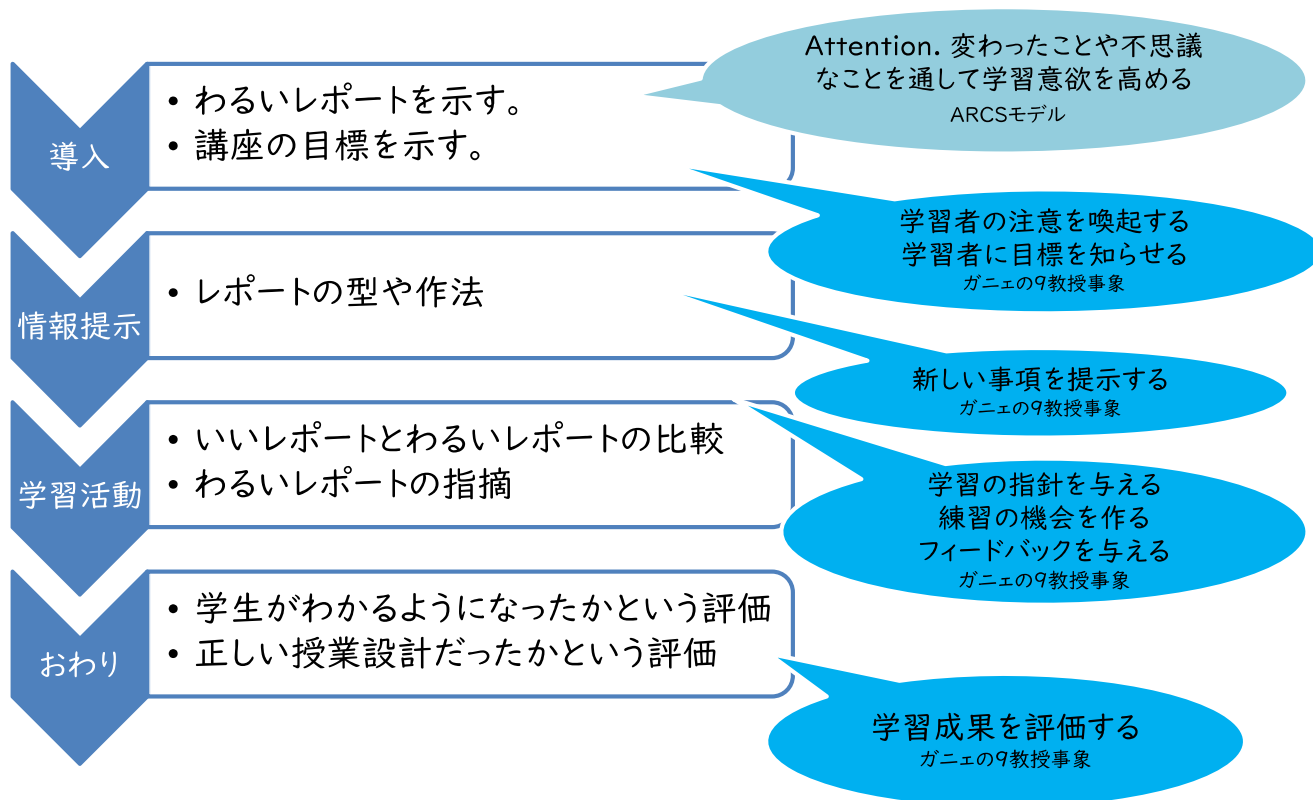
2015年1月16日 10:30-12:00



2015年1月16日 時点でのまとめ

- ガニエの9教授事象を参照して講座の基本的なフローを作成し共有
- 基本的なフローに動機づけ等の観点から肉付け

2015年1月16日 時点でのまとめ



その後の準備

- 引き続きCuter中心に詳細設計、教材開発、リハーサル
- 絶えず見直し



本番 ~ 評価



- 本番
- 2015年5月
 - 12回実施
 - Cuter 11名が講師

- 評価
- アンケート
 - 反省会

受講者アンケート

2014年7月 (5:とてもあてはまる、4:あてはまる、3:どちらともいえない、2:あまりあてはまらない、1:全くあてはまらない)

Q.	平均値
1. 全体的にこの講座の内容は期待したとおりだった	4.4
2. 講座の時間の長さは短かった	2.8
3. 講座の進むスピードは適切であった	4.4
4. 講師の話し方は聞き取りやすかった	4.6
5. 講義内容は参考になった	4.6
6. 配布資料は分かりやすかった	4.6

2015年5月 (5:非常にそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:まったくそう思わない)

Q. 講座の内容についてお答えください。	平均値
1. 本日の講座の内容は、あなたにとって期待通りのものであった。	4.2
2. 講座の時間の長さは、今回の主旨と照らしてふさわしいものだった。	4.2
3. 講師の説明やスライドの説明はわかりやすかった。	4.4
4. 講師の声の大きさや話すスピードなどは適切だった。	4.4
5. 配布された資料はレポートの書き方を学ぶ上でわかりやすかった。	4.4

Q. 今回の講座はお役に立ちましたか?	平均値
1. 講座の内容は良いレポートの書き方を理解することに役立った。	4.4
2. 講座の内容によって、今後レポートを書く際の不安が解消された。	3.6
3. 大学において課題としてレポートを書くということの意味が理解できた。	4.1
4. 講座の内容は、レポートを書く際の手順を理解することに役立った。	4.5
5. 講座の内容は「パラグラフ・ライティング」や「参考文献の引用の仕方」など、レポートを書くためのテクニックを身につけるうえで参考になった。	4.3
6. 配布されたチェックリストは、今後もレポートを書く際に役に立ちそうである。	4.6

まとめ：インストラクショナル・デザインの活用

- インストラクショナル・デザインを一から厳密に適用したわけではない。
- これまでの講座に足りなかったものは何かという視点。
- 比較的容易にできそうなところをかいつまんで講座に反映していった。

まとめ：得られたもの

- 講座の枠組みの統一
- 学習効果を上げるための改善が明確に
- 学習支援に理論的な裏付けという経験
- Cuterの成長

補足

- 図書館職員の役割
 - Cuter人員管理&監督
 - インストラクショナル・デザイン等についてCuterが学ぶための参考資料を提供
 - 大枠から外れないように、打ち合わせやリハーサルで助言
- 教員との連携
 - 広報や動機づけの面からの助言
 - 図書館内での学習支援プロジェクトでの定期チェック
 - 2016年には講座を見学された教員の助言によりグループワークを採用したりなど

補足

- 他の事例
 - 学習目標の設定、動機付けデザイン

兵藤健志, 天野絵里子, 中園晴貴. 大学図書館活用セミナーをリデザインする: インストラクショナル・デザインを意識した図書館ガイダンスの取り組み. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2012, 2011/2012, pp. 24-31.
<https://doi.org/10.15017/24952>
 - ゲーム教材、スマホ、動機付けデザイン

井川友利子, 工藤絵理子, 野原ゆかり, 金子晃介, 山田政寛. スマートフォンを活用した大学図書館ゲーム教材の開発 -ARCSモデルに基づく自発的学習の動機付けを目指して-. 日本教育工学会研究報告集. 2015, 15(1), pp. 301-305.

本日の内容

1. 図書館TA (Cuter) との協働による学習支援
2. 2014-2015年 インストラクショナル・デザインの習得と、レポートの書き方講座の設計
3. 2021年 コロナ禍における講座の進化 (ADDIEモデルによる改定)

2019年4月実施時

受講者数 539名 (1年生の約2割が受講)



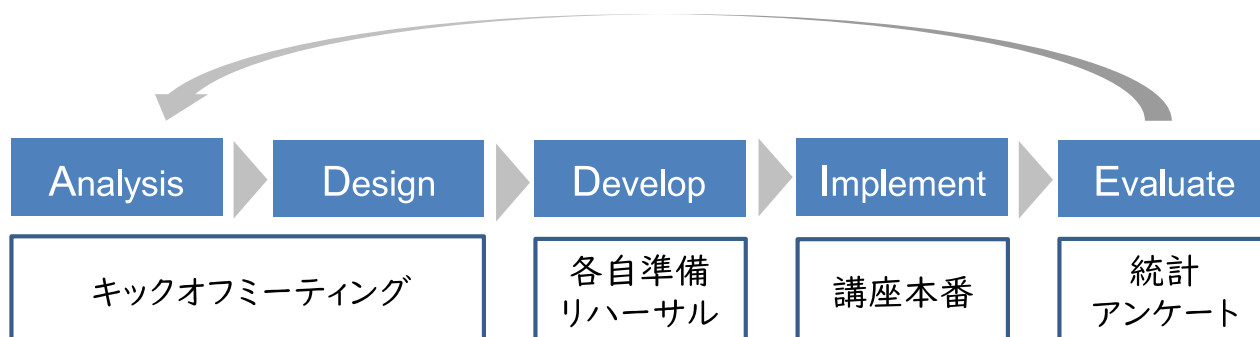
定員100名の教室が満席に

新型コロナウイルス感染症拡大の影響

2019年度	2020/02	新型コロナウイルス感染症の拡大
	2020/03/25	2020年度レポートの書き方講座 開催中止 を決定
2020年度	2020/04/06	eラーニング教材用の動画撮影
	2020/05/01	eラーニング教材 の公開
	2021/03/02	2021年度に向けて、キックオフミーティング で2時間の議論。講師担当者が各自で 準備開始
2021年度	2021/04	初の オンラインレポート講座 を開催 (2021.4.19-2021.4.23)

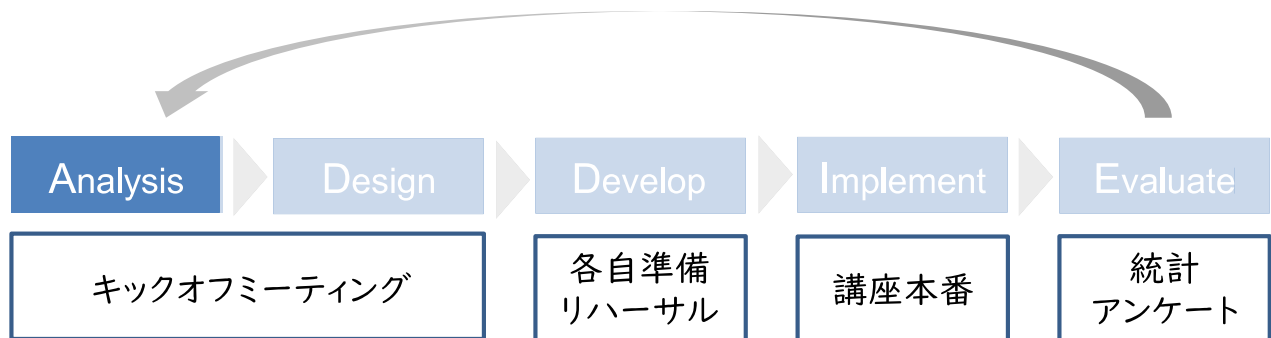
講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



Analysis 状況分析と認識の共有

目的

「1年生がレポートを書けるようになる」という講座の目的を、オンラインでも達成したい

課題

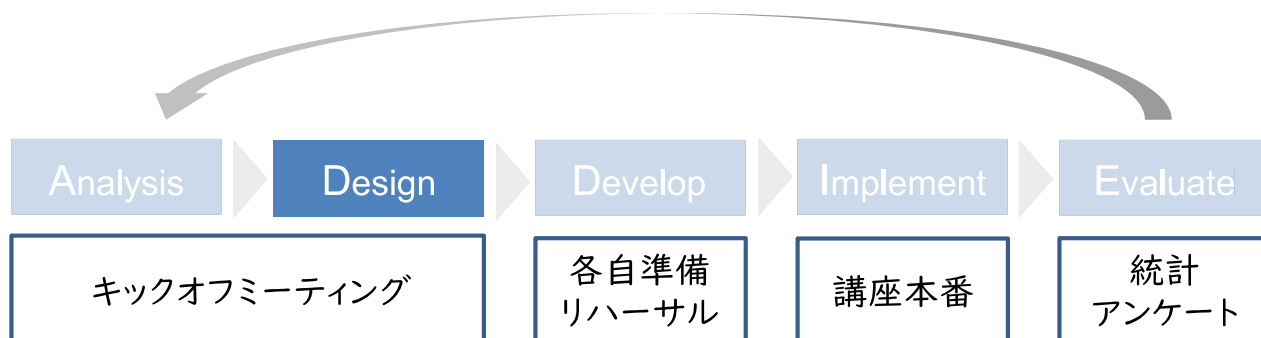
対面と同じ方法では実施が難しい点がある

理想

2020年度の遠隔授業の経験から得たノウハウ、オンラインならではの利点を生かす

講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



Design 講座をどう設計するか

アイスブレイク

- ✓ オンラインでもやった方が良い？
- ✓ やるならどんな方法で？

- 緊張をほぐす時間はオンラインでも必要
- 匿名で気軽に質問できるSlidoを使う

演習

- ✓ 参加者間の話し合いは？
- ✓ サンプルレポートの評価方法は？

- 参加者間の話し合いの時間は設けない
- 評価には、Zoomの投票機能を使う

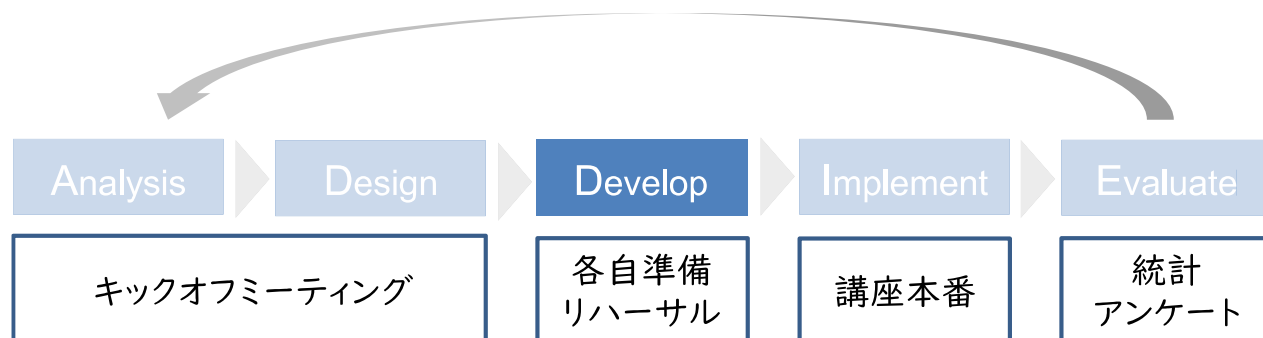
質疑応答

- ✓ オンラインで質問するのはハードルが高い
- ✓ Cuterとして1年生にしてあげられることはないか

- アイスブレイクで使用したSlidoを質疑応答でも活用する
- レポートの書き方だけでなく、大学生活全般に関する質問を受け付ける

講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



Develop 各自準備・リハーサル

キックオフ(2021/03/02)終了後

講師&サポートが各自で準備開始

不明な点は業務連絡用のSlackで随時質問

→経験のあるCuter、図書館職員が回答

リハーサル(2021/04/07)

実際の講習環境の確認

講師&サポート…会場で開始～終了の流れを確認

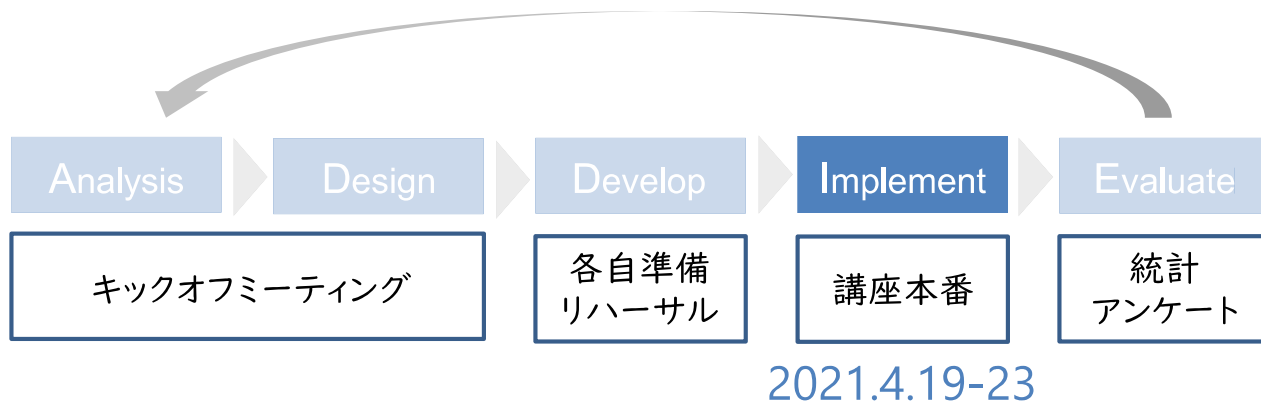
その他関係者…リモートで音声などチェック

リハーサル～本番まで

講師&サポーターが各自で最終調整

講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



Implement 講座本番

会場：中央図書館グループ学習室



講師PC



サポートPC



図書館職員PC1



図書館職員PC2

表示名
@Zoom

講師の名前 (Cuter)
例: 九大 花子 (Cuter)

サポートの名前 (Cuter)
例: 伊都 九太 (Cuter)

学習・研究支援係1 (運営)

学習・研究支援係2 (運営)

役割

- このPC画面を共有しながら講義を進行

- 音の途切れがないか、Slidoに質問は来ているかなどをチェック

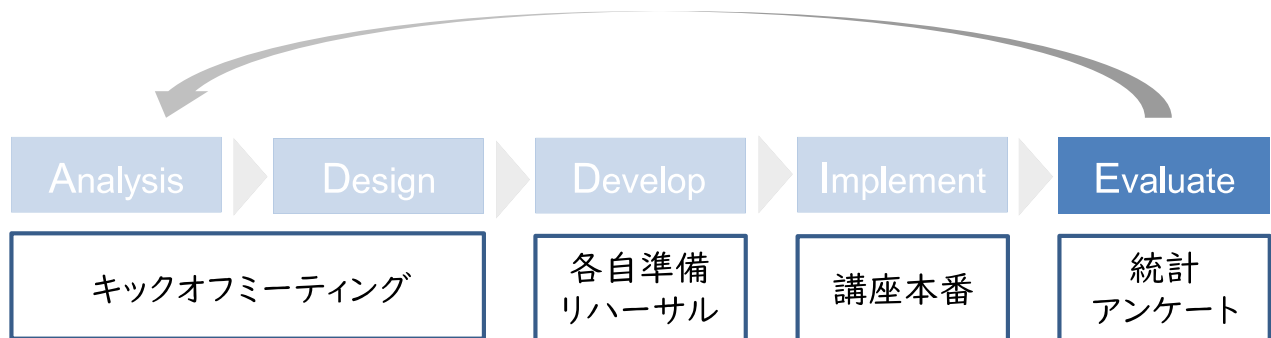
- チャットにアンケートやSlidoへのリンクを貼る
- 演習で投票を行うならこのPCから
- ミュートになっていない参加者を強制ミュート
- 記録用レコーディング

- 講師PCでトラブルが起きた場合の予備
- 講義用のスライドをあらかじめ保存しておく
- 何事もなければ、講師がSlidoの質問を見る



講座のオンライン化をADDIEモデルで検討

ADDIEモデル



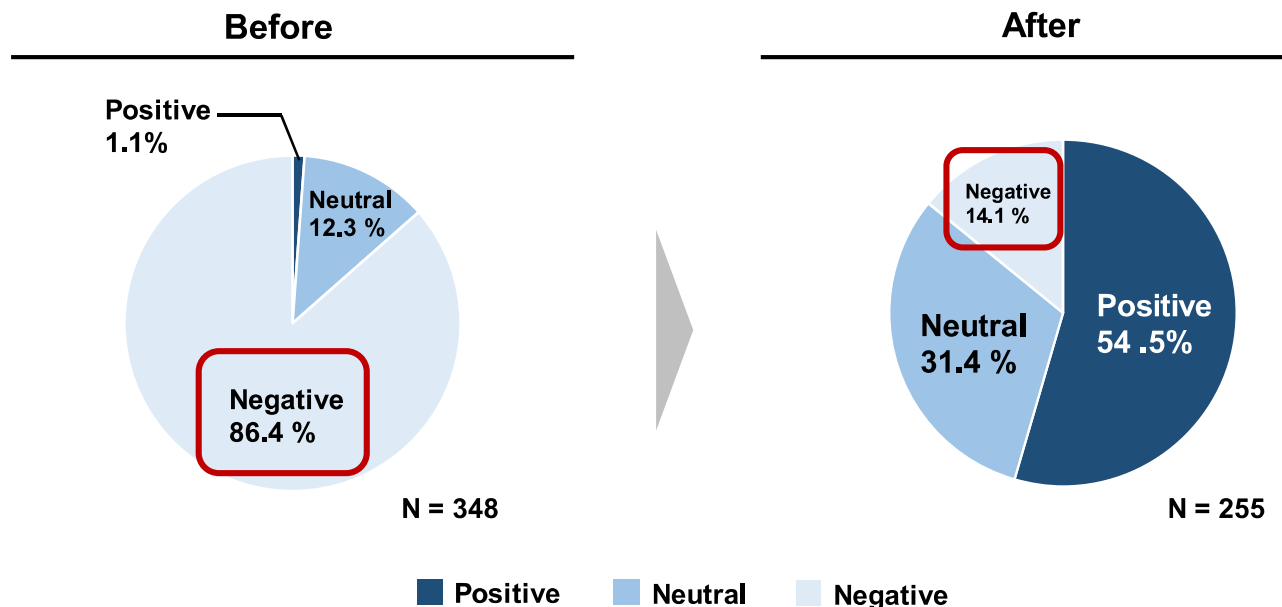
Evaluate 受講者数の推移



Evaluate アンケートの評価

[分析期間：2021/4/19～2021/4/23]

受講後、レポートに対するNegativeなイメージが激減 **86.4% → 14.1%**



Evaluate アンケートの評価

Q. 講座の内容についてお答えください。	2021 平均値	2019 平均値
Q1.本日の講座の内容は、あなたにとって期待通りのものであった。	4.37	4.33
Q2.講座の時間の長さは、今回の主旨と照らしてふさわしいものだった。	4.30	4.19
Q3.講師の説明やスライドの説明はわかりやすかった。	4.61	4.60
Q4.講師の声の大きさや話すスピードなどは適切だった。	4.56	4.61
Q5.配布された資料はレポートの書き方を学ぶ上でわかりやすかった。	4.61	4.48

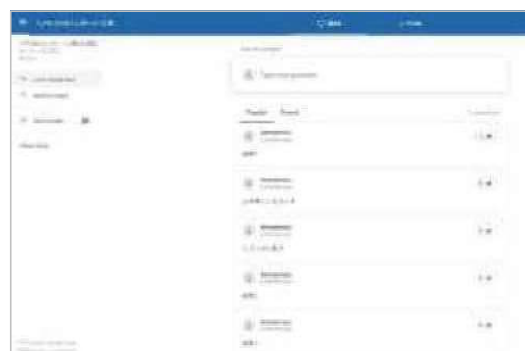
Q. 今回の講座はお役に立ちましたか？	2021 平均値	2019 平均値
Q1.講座の内容は良いレポートの書き方を理解することに役立った。	4.58	4.56
Q2.講座の内容によって、今後レポートを書く際の不安が解消された。	3.96	3.82
Q3.大学において課題としてレポートを書くということの意味が理解できた。	4.23	4.17
Q4.講座の内容は、レポートを書く際の手順を理解することに役立った。	4.60	4.57
Q5.講座の内容は「パラグラフ・ライティング」や「参考文献の引用の仕方」など、レポートを書くためのテクニックを身につけるうえで参考になった。	4.49	4.48
Q6.配布されたチェックリストは、今後もレポートを書く際に役に立ちそうである。	4.49	4.52

5:非常にそう思う、4:ややそう思う、3:どちらとも言えない2:あまりそう思わない、1:まったくそう思わない

Evaluate アンケートの評価

Slidoで届いた質問例

- レポートはどのくらい前から準備すればいいか
- 学部1年生のときにしておくといことは
- 留学はしたほうがいいか
- オススメのアルバイトは何ですか



Slido

<https://www.sli.do/jp>

Slidoに対する感想

- 適宜、受講生が質問できるようにSlidoを開いていたのは良いと思いました。
- Slidoというアプリで質問を匿名で受け付けてもらったことがとてもよかったです。
- 講座後のカジュアルな質問OKな質問タイムがよかった。
- Slidoでの質問に丁寧に答えていただいたことがとてもよかったです。
- 十分な質疑応答の時間をとっていただいたので、今まで疑問に思っていたことを解消できてよかったです。

2014-2015年 講座設計

みんなでインストラクショナル・デザインに取り組んだことで、異なる講師間でも統一が図れ、その後の改善もしやすくなった

2021年 オンライン化

コロナ禍におけるオンライン開催にあたっても講座の見直しにADDIEモデルを用い対面形式の講座と変わらない高評価を得た

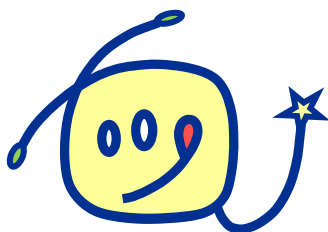
向後千春. 『上手な教え方の教科書-入門インストラクショナルデザイン-』.
2015, 技術評論社.

兵藤健志, 渡邊由紀子. 図書館職員をハブとした情報リテラシー教育の展開
—九州大学の実践をもとに—. 大学図書館研究. 2017, (105), pp. 50-60.
<https://doi.org/10.20722/jcul.1469>

星子奈美, 渡邊由紀子. 図書館TAとともに創るパスファインダー:九州大学
附属図書館のWeb学習ガイドCute.Guidesを例に. 九州大学附属図書館
研究開発室年報. 2020, 2019/2020, pp. 27-36.
<http://hdl.handle.net/2324/4061015>

渡邊由紀子. COVID-19下の大学図書館におけるレファレンスサービスの拡充
—九州大学附属図書館の実践例から. 情報の科学と技術. 2021, 72(1),
pp. 12-17. https://doi.org/10.18919/jkg.72.1_12

ありがとうございました！



附属図書館 学術サポート課 学習・研究支援係
toesupport@jimu.kyushu-u.ac.jp

電子図書館サービスLibrariE 活用事例

2022.10.17 私立大学図書館協会東地区部会 研修会

文教大学附属図書館 蔵本 祐史



BUNKYO UNIVERSITY

LibrariE導入の経緯

 文教大学

当館の電子書籍提供(主なもの)

【学術系】

KinoDen / Maruzen eBook Library /
ebook collection(EBSCOhost) / eBook Central(ProQuest)

【読み物系】

LibrariE(文教大学電子図書館) / Infobase



LibrariEの製品的特長

【コンテンツ利用】

- △電子書籍プラットフォーム
 - 電子図書館システム
- 貸出を経て、一定期間特定の利用者が資料を占有

【コンテンツ】

- ・一般和書の収録が豊富
- ・52回/2年のライセンス契約がメイン (最近は買い切りも)

【選書】「選書オーダリングシステム」で選書

【認証】ID/PWで認証

提供開始までの時系列

- 2018.11 越谷・湘南図書館で製品トライアル
- 2019.1.28 本学「文教サポーターズ募金」使途の打診
当該募金での電子書籍購入を決定
- 2019.2 LibrariE導入決定
- 2019.3-4 準備期間(コンテンツ選定・利用者登録・画面設定)
- 2019.5 「文教大学電子図書館」として学内者に提供開始

導入経費の性格

【文教サポーターズ募金】(事業報告書より抜粋)

この募金は学生等の保護者を中心に依頼し、指定の学校に子どもが在籍している間に見えるもの・使えるものの整備・購入に充てることを目的に募ったものである。

【寄附金の管理部署からの指定】

- ・テーマを絞ったコンテンツ選定
- ・全学部を対象としたテーマ設定
- ・6月には寄附者向けの報告冊子を作成

LibrariEを選定した理由

【コンテンツ面】

- ・専門的なものよりは教養的なもの/読み物的なもの
- ・すでに導入されている電子書籍と差別化できるもの

【アクセス面】

学生の学外からのアクセスの分かりやすさ
※当館は学認等の統一認証未導入

【その他】

- ・コレクション構築と切り離して考えやすい(ライセンス契約)
- ・学生/寄附者への訴求力

導入時の検討事項①

【認証関連】

LDAP認証 / 図書館システム連携 / 学認 / ローカル認証

→ローカル認証(独自にLibrariEにID/PWを登録)を選択
準備期間の短さや費用等が理由

※2021年度からは図書館システム連携での認証に移行

(ローカル認証の課題)

- ・LibrariEで保持する利用者情報の少なさ
ID / PW / 有効期間 / 利用者グループ / 生年月日 / 性別
- ・利用者情報の更新(特に編入者・年度途中採用者)

導入時の検討事項②

【図書館システムへの書誌登録】

年度途中でのコンテンツ追加を想定していたため、
ライセンス切れ資料の管理などの煩雑さから断念

※図書館システム連携により現在は解消

【貸出・予約条件設定】

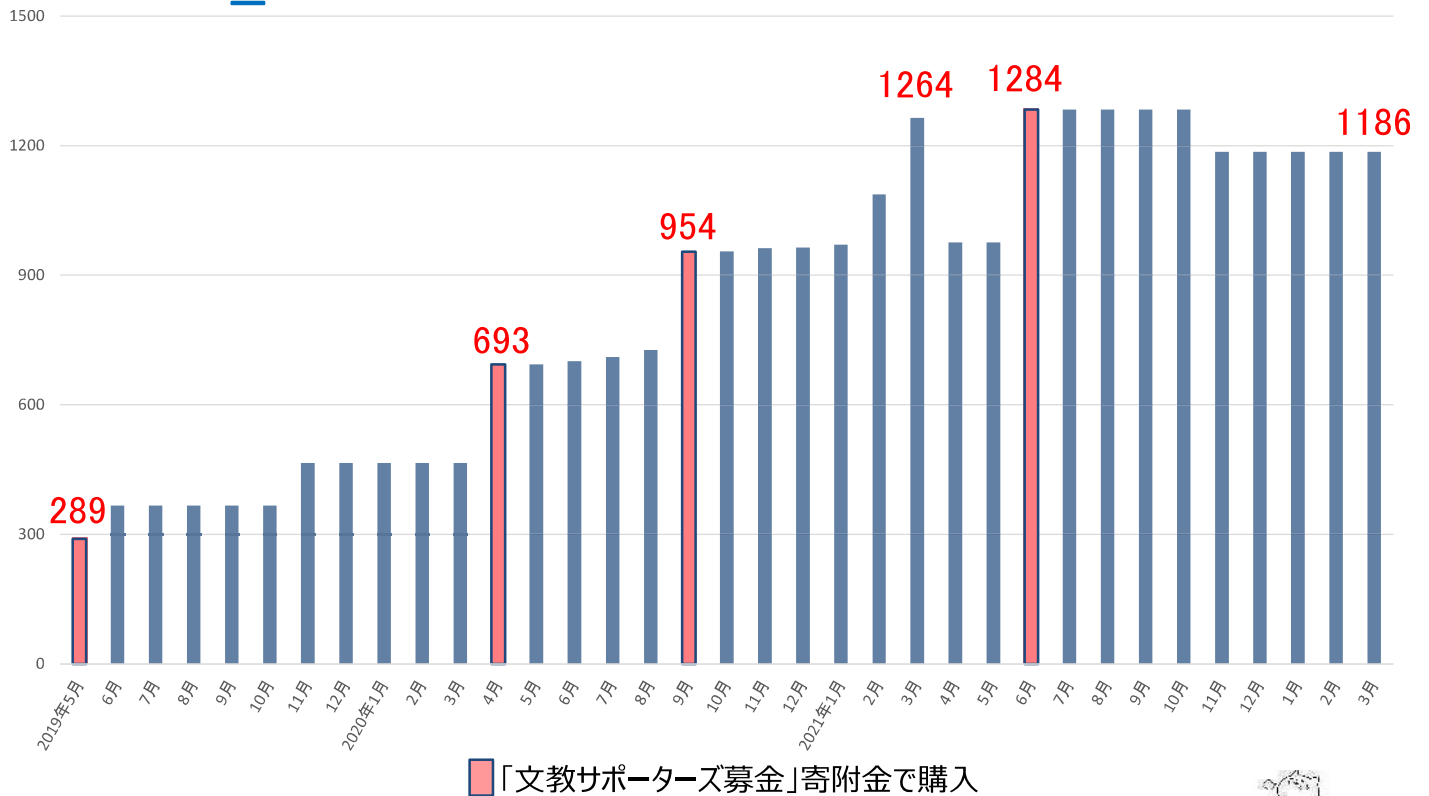
【画面設定】

ロゴ・トップ画像の用意、ジャンル・特集の設定

【コンテンツ選定】

寄附金管理部署と調整のうえテーマ決定。289点でスタート。

LibrariE_閲覧可能コンテンツ数



コロナ禍対応

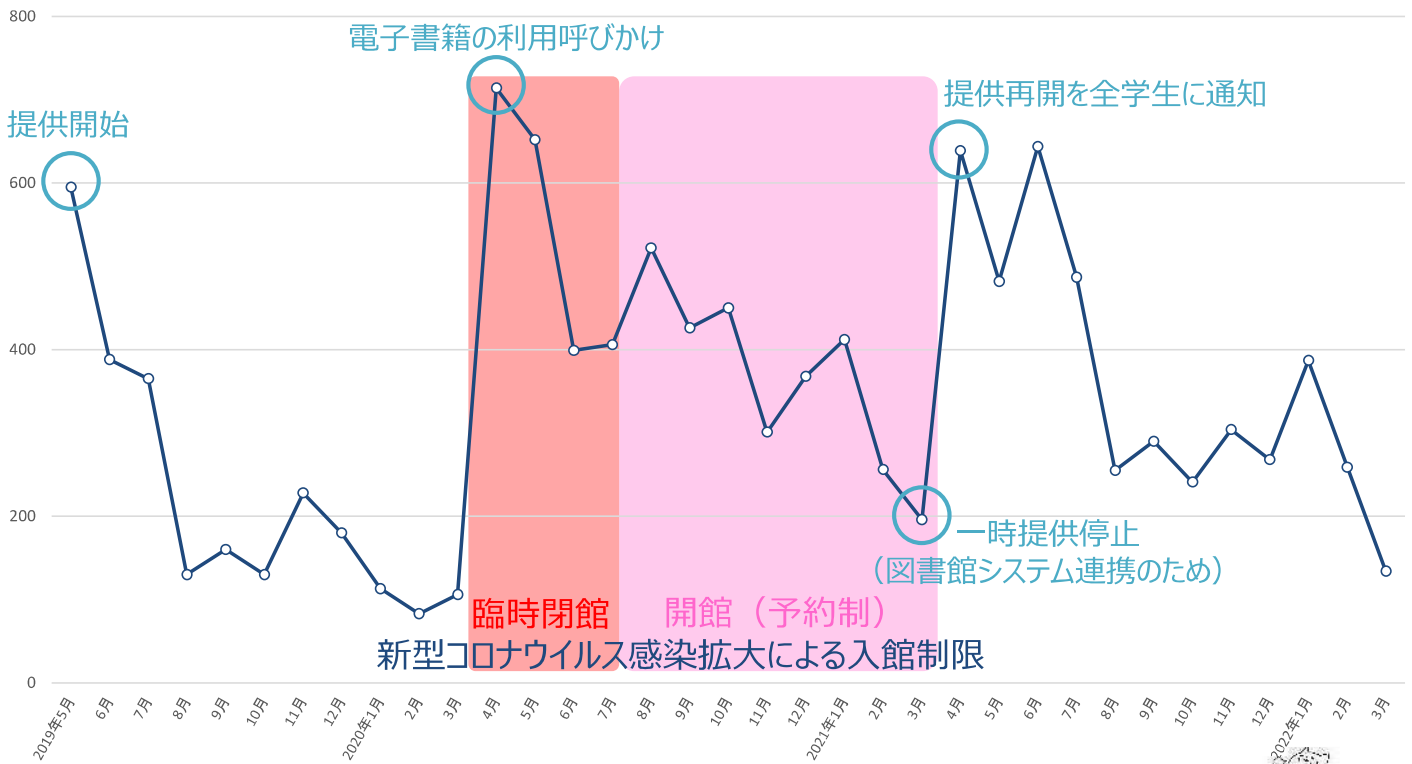
【資料郵送提供の代替】

資料郵送提供の業務フローの中に、
電子書籍(所蔵/非所蔵を問わず)の有無の確認を盛り込み、
代替可能なものは優先的に電子書籍で提供。

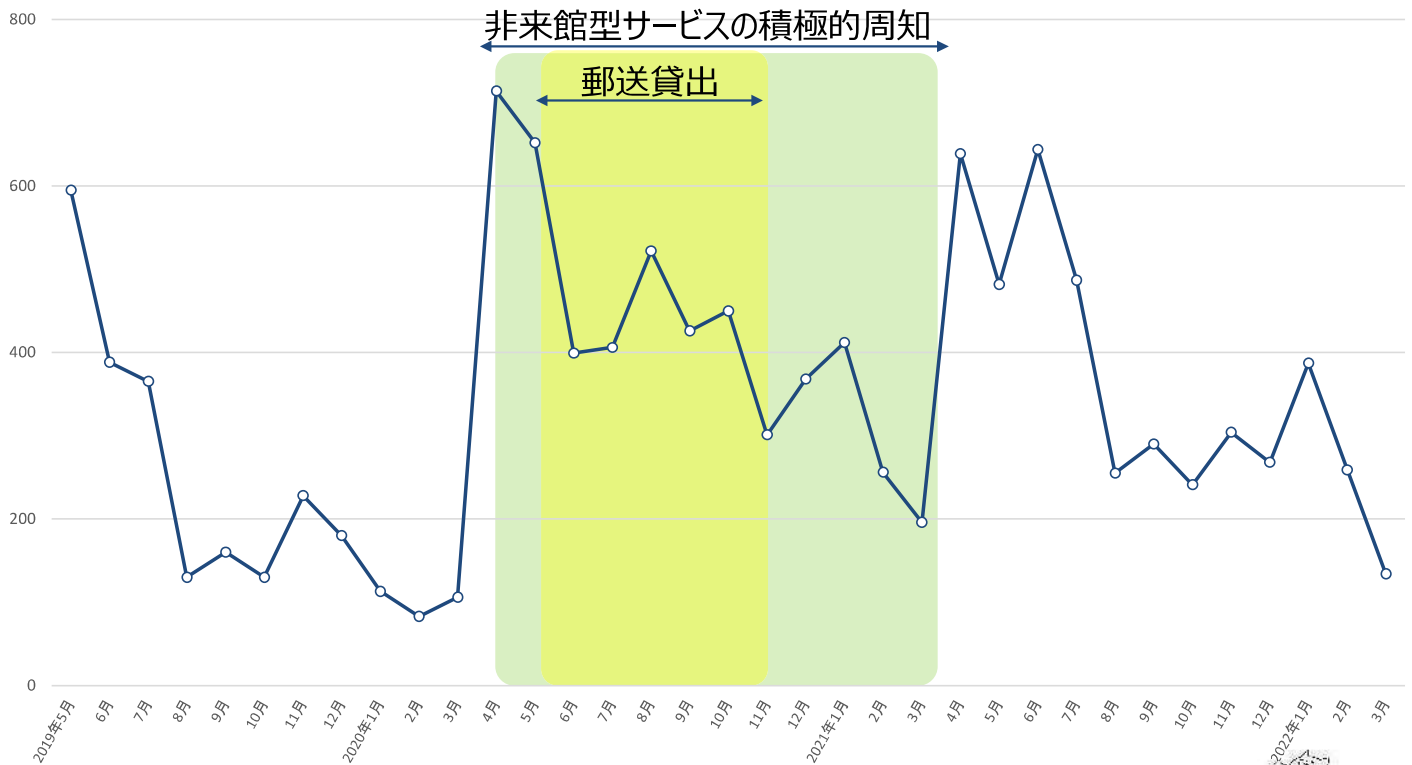
【オンライン学生選書】

2020年度。湘南・越谷キャンパスで「選書オーダリングシステム」
を利用した学生選書を実施。

LibrariE_ログイン数



LibrariE_ログイン数



本学での学内者広報

【B!bb's】

本学学生向けのウェブ情報掲示板

- ・個人/所属単位で情報を通知できる。
- ・通知内容は大学メールアドレスに転送される。
- ・大学からの重要な通知はここに流れる。

広報はB!bb'sをベースに他の媒体を組み合わせる実施

ポップ

タイトル・書影・QRコードを記載。ポップとして書架に設置。

- ・(東京あだち)開設すぐの空きが目立つ書架に配置
- ・QRコードからすぐにアクセスできる



LibrariEの利用シーンを想定しての広報

「スマホでの利用」「図書館の外で」を前提に

- 館内貸出用充電器にチラシを封入
→必ずスマホを手にするタイミング
- 学食の紙ナプキンで宣伝
→一番スマホを使いそうな場所
- 図書館エントランス外側への掲示
→学生の待ち合わせ場所



その他の工夫(特に導入初年度)

- コンテンツ追加は学生の飽きるタイミングで
→追加のタイミングでB!bb'sに通知
- ファーストビューになるべく変化を
→新着図書や特集の順番の入れ替え、トップページ画像の差し替え
- 特定の教員・部署への個別連絡
→英語リーダー、就職関連資料

最近の広報展開

- ・大判ポスターの掲示
- ・名刺サイズのポップ配布 (OPAC端末/カウンター)



今後の課題

今後の課題

【LibrariEについて】

- ・学部・キャンパスによる利用度のばらつき
- ・広報の効果測定
→ 効率的で継続の容易な広報手段の検討
- ・適切なコンテンツ規模の設定
- ・利用度の目標設定

【電子書籍全体について】

- ・統一的な利用者アクセス(特に学外から)



ご清聴ありがとうございました。

個別にお聞きになりたいことがあれば、お問い合わせください。

【文教大学東京あだち図書館 情報サービス係】

Email : ref@stf.bunkyo.ac.jp

慶應義塾大学における DDAの取り組み

私立大学図書館協会東地区部会研修会

2022.10.17

慶應義塾大学メディアセンター本部

藤本優子

慶應義塾大学メディアセンター紹介

- 慶應義塾大学
 - 1858年創立の私立大学
 - 首都圏6キャンパス（三田、日吉、信濃町、矢上、湘南藤沢、芝共立）
 - 10学部14研究科、学生数33,437人
 - 82か国・地域からの留学生（数字は2022年5月現在）
- 慶應義塾大学メディアセンター
 - 各キャンパスにメディアセンター（図書館）がある
 - それぞれのメディアセンターが予算と選書権限をもつ
 - メディアセンター本部は業務支援と調整を行う組織

慶應で導入している電子書籍の購入・契約モデル

- 買切
一度の支払いで、恒久アクセス権を得る
例：ScienceDirect eBooks、Springer Nature eBooks、Maruzen eBook Library
- サブスクリプション
年間購読（アクセス権購入）。契約を中止するとアクセス権は残らないが、多くのコンテンツを比較的安価に利用できる。
例：Ebook Central Academic Complete
- EBA (Evidence Based Acquisition)
一定期間トライアルを行い、利用状況を参考に恒久アクセス権を得るコンテンツを図書館が決める。トライアル中は同時アクセス無制限、ダウンロード可、新刊随時追加等、利用条件は版元により様々。
例：Cambridge University Press eBook Collection
- DDA (Demand-Driven Acquisition)

DDAとは

- Demand-Driven Acquisition
リクエスト型購入方式をとる、電子書籍選書形態の一つ。
PDA (Patron-Driven Acquisition) ともいう。(中略)
利用が一定数または一定時間に達した場合に購入が行われる。
(以下略)
(図書館情報学用語辞典第5版より)
- 慶應では、Mediated Demand-Driven Acquisitionとし、利用者からのリクエストを受けて、図書館員が調整した上で (Mediated) 購入を決める。

DDAで利用しているプラットフォーム ProQuest Ebook Central (洋書)

- ProQuest社(Part of Clarivate)が提供するプラットフォーム
- 195万点の多言語の学術書を提供し、うち147万点を5分間、試し読み可
(冊数は2022年9月現在)
- 同時アクセスは1User、3Users、Non-Linear、Unlimitedから選択可
- PDFダウンロードの可否や範囲はコンテンツによる



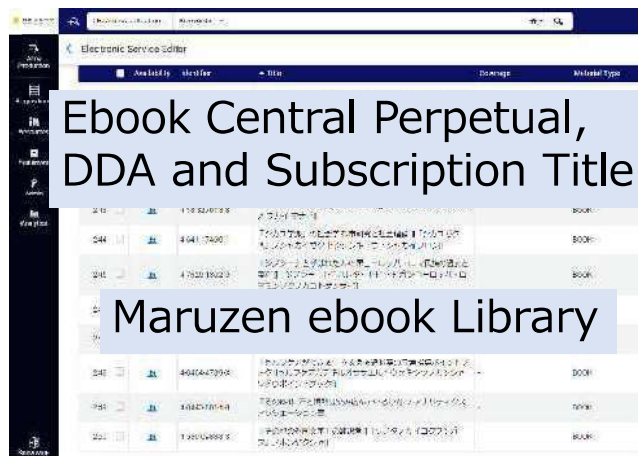
DDAで利用しているプラットフォーム Maruzen eBook Library (和書)

- 丸善雄松堂株式会社が提供する電子書籍プラットフォーム
- 15万タイトル以上のコンテンツを提供
(冊数は2022年10月現在)
- 5分間の試し読み可
- 同時アクセス1または3
- PDFまたはリフロー形式
- PDFダウンロード可否や範囲はコンテンツによる



図書館システム（Alma）での登録と管理

- Ex Libris社のクラウド型図書館システムAlmaに利用可能タイトルを登録している。（試読可能なタイトルを含む）
- 購入済みタイトルについては、購入したメディアセンターや同時アクセス数等も記録。
- 電子書籍のデータは、AlmaのCentral KnowledgeBase（CKB）を利用



KOSMOSでの提供と利用者のアクセスの流れ

- Ex Libris社のPrimoVEを使用
- Almaに登録することによりKOSMOSに表示される。
- 購入済みタイトルだけではなく、DDA対象タイトルも検索可能。
- 利用者はKOSMOSから所蔵資料と同じように未購入資料も検索し、試読やリクエストができる。



研究や学習に必要な学術情報を探し、入手するための検索システムKOSMOS

KOSMOSで検索

The screenshot shows the KOSMOS search interface. At the top, there are navigation links: 新刊検索, 雑誌検索, データベース, 図書館HOME, コピー取寄せ, 引用リンク, and ログイン. The search bar contains '電子図書館 電子書籍'. Below the search bar, there are filters: '全ての資料', '検索語を含む', and '項目を特定しない'. A yellow banner indicates 'ログインして全てのサービスを利用する'. The search results show a list of items, with the first item highlighted: '電子図書館・電子書籍貸出サービス:調査報告2014 / 植村八潮, 野口武悟編著; 電子出版制作・流通協議会著'. The item details include the authors, publisher, and date.

電子書籍も紙の書籍も検索可能

This section compares search results for paper and electronic books. Item 1 is a paper book: '電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告. 2021, Afterコロナをみずえて / 植村八潮, 野口武悟, 長谷川智信, 電子出版制作・流通協議会編著'. It is labeled '紙の書籍'. Item 2 is an electronic book: '電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2021 Afterコロナをみずえて 樹村房'. It is labeled '電子書籍' and has a red box around the text 'オンラインで利用可'.

詳細画面でフルテキストへのリンクをクリック

圖書
電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2021 Afterコロナをみずえて
樹村房
2021
検索範囲：所蔵資料と電子資料
オンラインで利用可 >

トップ
書誌を保存する
書誌を保存する:
オンラインで見...
詳細
リンク

EXCEL / CSV
MENDELEY
ENDNOTE
BISTEX
RIS
REFWORKS (SFC)
印刷

引用
固定リンク
QR
E-MAIL

オンラインで見る
フルテキストの有無
Maruzen eBook Library
利用条件を表示

購入済みの場合は「購入済/Purchased」の表示

圖書
電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2021 Afterコロナをみずえて
樹村房
2021
検索範囲：所蔵資料と電子資料
オンラインで利用可 >

トップ
書誌を保存する
書誌を保存する:
オンラインで見...
詳細
リンク

EXCEL / CSV
MENDELEY
ENDNOTE
BISTEX
RIS
REFWORKS (SFC)
印刷

引用
固定リンク
QR
E-MAIL

オンラインで見る
フルテキストの有無
Maruzen eBook Library
購入済/Purchased
利用条件を表示

Maruzen eBook Libraryにアクセス



トップへ戻る

Afterコロナをみすえて

閲覧

購入済みの場合には、「閲覧」が表示される。ここをクリックして本文へアクセス。

著編者 榎村、八瀬/野口、武信/長谷川、智信 (編)
出版社/提供元 樹村房
出版国 日本
言語 日本語
出版年月 2021/12
ページ数 10p,192p
ISBN 9784883673599
eISBN 9784883679539
ジャンル 総記 > 総記 > 図書館情報学
NDC分類1 010.21
件名 電子図書館
コンテンツID 3000122745
新規ご購入後のDL 可(60ページ)
可否

ダウンロード: 可 Q 同時接続数: 1

利用条件の表示

Maruzen eBook Libraryにアクセス



トップへ戻る

With/Afterコロナの図書館 2020 (電子図書館)

試読 | リクエスト

購入していないコンテンツには、「試読」と「リクエスト」が表示される。

著編者 榎村、八瀬/野口、武信/電子出版
出版社/提供元 樹村房
出版国 日本
言語 日本語
出版年月 2020/12
ページ数 11p,205p
ISBN 9784883673476
eISBN 9784883679559
ジャンル 総記 > 総記 > 図書館情報学
NDC分類1 010.21
件名 電子図書館
コンテンツID 3000122744
新規ご購入後のDL 可(60ページ)
可否

「試読」は、試し読みが可能なコンテンツのみに表示される。

ダウンロード: 不可 Q 同時接続数: 1

「試読」で5分間の試し読みが可能



With/Afterコロナの図書館 2020

試読 リクエスト

著者 植村, 八潮/野口, 眞
出版社/提供元 桜村房
出版国 日本
言語 日本語

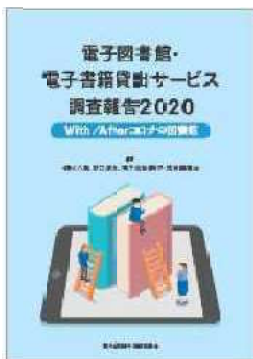
ページ数 11p,205p
ISBN 9784883673476
eISBN 9784883679553

電子図書館・電子書籍貸出サービス

リクエスト申込

5分経過すると、リクエスト画面が表示される

「リクエスト」からメディアセンターに購入希望を出す



With/Afterコロナの図書館 2020

試読 **リクエスト**

著者 植村, 八潮/野口, 眞
出版社/提供元 桜村房
出版国 日本
言語 日本語

出版年月 2020
ページ数 11p,205p
ISBN 9784883673476
eISBN 9784883679553

リクエスト申込

ごちから電子ブックの購入希望を出すことができます。
希望理由はできるだけ詳細に、検索・研究との関連があれば、便宜名・指導教員名も入力してください。
メディアセンターが1週間程度で購入の可否を決め、お知らせします。

書名 With/Afterコロナの図書館 2020 (電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告)

申込者氏名 ※必須

メールアドレス ※必須

所属・キャンパス ※必須

学部・学科 ※必須

学籍番号 教職員番号 ※必須

希望理由 (研究・授業との関わり等) ※必須

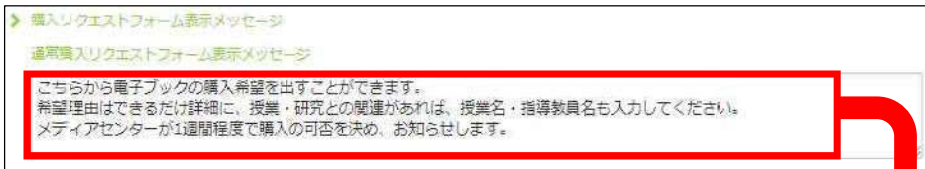
備考

送信 キャンセル

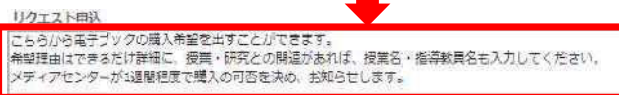
試読をせずに、直接リクエストを出すことも可能

管理者機能の活用①

利用者向けリクエスト画面の文言をカスタマイズ



電子書籍の購入希望であることを明記



所属、学籍番号、希望理由を
必須項目に設定

書名 未定電子書籍ビジネス読書論片書2011

申込者氏名 ※必須

メールアドレス ※必須

所属・キャンパス 選択して下さい ※必須

学部・学科 ※必須

学籍番号・教職員番号 ※必須

希望理由(研究・授業との関わり等) ※必須

5. メディアセンターでの選書・承認の流れ

リクエストがメディアセンターにメールで届く

利用者が所属するキャンパスのメディアセンターの
担当者が選書基準に従って購入可否を決定

キャンパスをまたぐ複数の利用者からリクエストが
届いた場合には、メディアセンター間で調整する

MeL管理者画面から承認/謝絶処理と利用者への連絡を行う

管理者画面でのメディアセンターでの承認作業

承認情報を入力してください

承認/否認/保留: 承認

通信欄:

本体価格: 選択して下さい ※必須
※表示価格に別途消費税がかかります。

Fund Code: 選択して下さい ※必須

通知メール送信対象のリクエストを選択してください

メール送信	リクエストID	コンテンツID	承認状況
<input type="checkbox"/>			承認済み
<input type="checkbox"/>			承認待ち

利用者向けメール文言: 慶應義塾大学メディアセンターです。リクエストいただいた書籍を購入いたしました。

内容確認へ

本体価格欄で同時アクセス数を選択

Fund Code (予算コード) を選択

リクエスト管理画面から承認情報入力画面へ

利用者向けメール文言を入れて承認すると、コンテンツが利用できるようになる

管理者機能の活用② 管理者向け情報のカスタマイズ

購入リクエスト設定

承認情報項目設定

設定1利用

必須

項目名称: Fund Code

コード: 名称

MIT_1: Nita

MIT_2: Nita_BUN

MIT_3: Nita_Kz=

MIT_4: Nita_S-HQ

MIT_5: Nita_HOU

設定を保存

承認/否認/保留: 承認

通信欄:

本体価格: 選択して下さい ※必須
※表示価格に別途消費税がかかります。

Fund Code: 選択して下さい ※必須

通知メール送信対象のリクエストを選択してください

メール送信	リクエストID	コンテンツID	承認状況
<input type="checkbox"/>			承認済み
<input type="checkbox"/>			承認待ち

利用者向けメール文言: 慶應義塾大学メディアセンターです。リクエストいただいた書籍を購入いたしました。

内容確認へ

各メディアセンターのFund Code (予算コード) を入力。月締めで予算ごとに支払う。

設定したメール文言を承認画面に表示。送信時に変更可能。

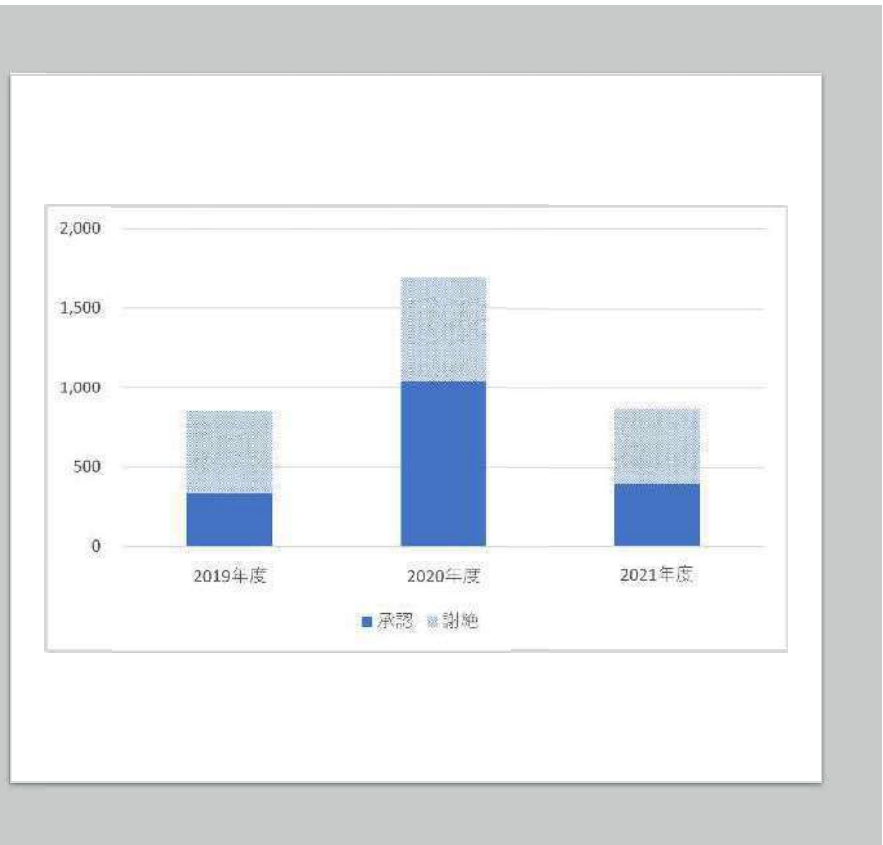
図書館で選書したコンテンツも購入可能

商品検索から管理者用の購入画面へ

「購入」を押し、購入するキャンパスを選択して送信すると、リクエストとして追加される

リクエスト件数と購入可否内訳 (2019～2021年度)

- 2020年度のリクエスト数は2019年度の約2倍に増加
- コロナ禍の選書方針の変更により、リクエストの承認割合も増加
- 2020年度に届いたリクエストのうち、承認・購入した割合は約6割
- 2021年度は例年並みに戻った



リクエストからみる電子書籍の利用

- 利用の目的
 - ✓論文執筆・研究
 - ✓授業（参考文献、レポート作成、試験勉強、予習・復習）
 - ✓興味のある事柄や語学の勉強、将来に向けての自学自習
 - ✓教養
 - ✓就活や資格取得

いつも誰かが借りていて、複数人待つ必要がある

紙の資料を所蔵していないから

キャンパスに行けない

オンライン授業で使いたい

オンラインで読みたい

利用件数

(2019～2021年度)

- 2020年度は2019年度と比べて約2.5倍増
- 2020年5月は前年度の5倍以上の利用数
- 2020年10月～2021年1月にかけて、アクセス拡大キャンペーンが実施された
- 2021年度は電子書籍が定着したことによる増加か



DDAのメリットと課題

メリット

- 資料が利用できるようになるまでのスピードが速い
- KOSMOSに登録することで、資料検索からリクエストまで一連の流れの中でできる。また、利用促進につながる。
- 利用者のニーズに合致した選書が可能（Just in Time）

課題

- 電子書籍プラットフォームでのリクエスト=図書館への購入希望である、ということがわかりにくい
- 利用者に対するサポートが必要（検索結果やアクセス方法）
- 全学的な選書方針や予算の在り方の検討

図書館向け電子書籍の課題

コンテンツ・管理面

- 購入可能な和書コンテンツの不足
- 提供されるタイミング
- 図書館システムに提供される書誌データの精度や質の向上
- 購読モデルや同時アクセス数の選択肢の不足

利用面

- 利用時の条件の緩和
- プラットフォームの使い勝手や機能の改善

早慶和書電子化推進コンソーシアム

- 2021年5月、早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターで「早慶和書電子化推進コンソーシアム」を立ち上げ
- 和書の電子書籍における諸問題に対する認識を早慶で共有し、複数の電子書籍プラットフォーマーおよび出版社に要望を伝えた
- 2022年10月から、早慶に向けてコンテンツ提供が開始される
- 最終的には、早慶だけのプロジェクトとして終わらせるのではなく、大学図書館に向けた和書の電子書籍の新たなビジネスモデルの構築を目指す

詳細は、プレスリリースをお待ちください

参考文献

- MediaNet No.25 (2018)
特集「電子ブック：試読型選書システム（DDA）を導入して」
<https://www2.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/article/toc/025.html>
- 大学図書館研究 No.119 (2021)
Almaによる和書の電子書籍の管理と提供：Maruzen eBook Libraryを例に
<https://doi.org/10.20722/jcul.2125>

参考文献

- Ebook Central Case Study
Mediated DDAがメディアセンターにもたらした効果
慶應義塾大学メディアセンター
<https://fs.hubspotusercontent00.net/hubfs/5176202/APAC/Japan/336-12823-16468%20MDDA%20Case%20Study-Keio%20Uni-Jap-web-1.pdf>
- 電子図書館・電子書籍サービス調査報告2022
慶應義塾大学メディアセンターの事例
2022年刊行予定

ご清聴ありがとうございました

デジタル出版市場の現状と 流通事情について



HON.jpのビジョン

**本（HON）のつくり手を
エンパワーメントすること
により、創造性豊かな
社会を実現する。**

HON.jp News Blog とは？

<https://hon.jp/news/>

HON.jp News Blogは、紙だけでなくデジタル出版も含めた、広い意味での本（HON）のつくり手をエンパワーすることを目的とし、国内外のさまざまな事例を紹介し、意見を交換し、仮説を立て、新たな出版へ踏み出す力を与えるメディアです。



2021年10月28日の記事

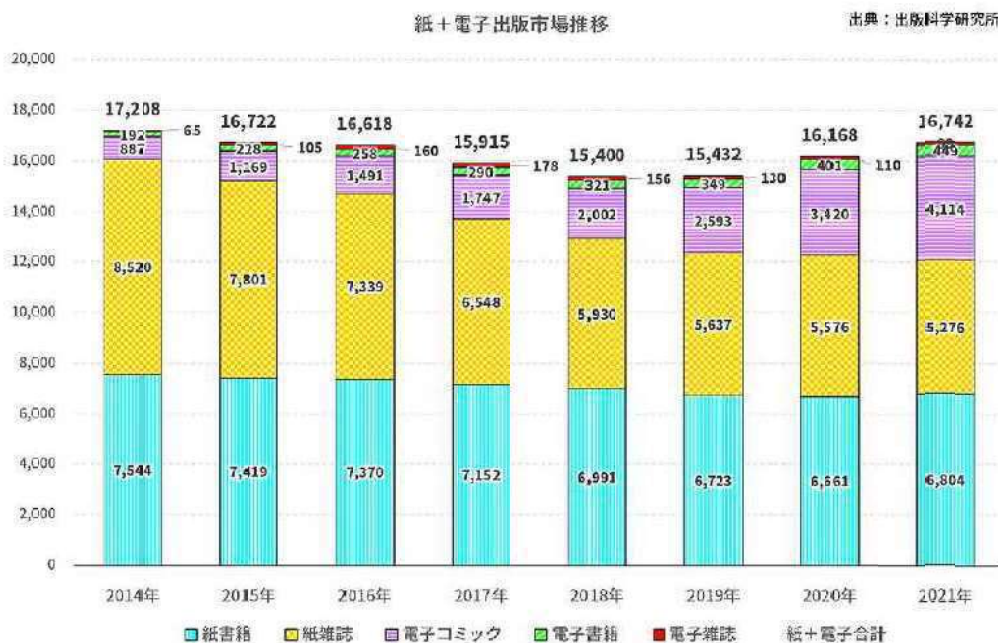


<https://hon.jp/news/1.0/0/31582>

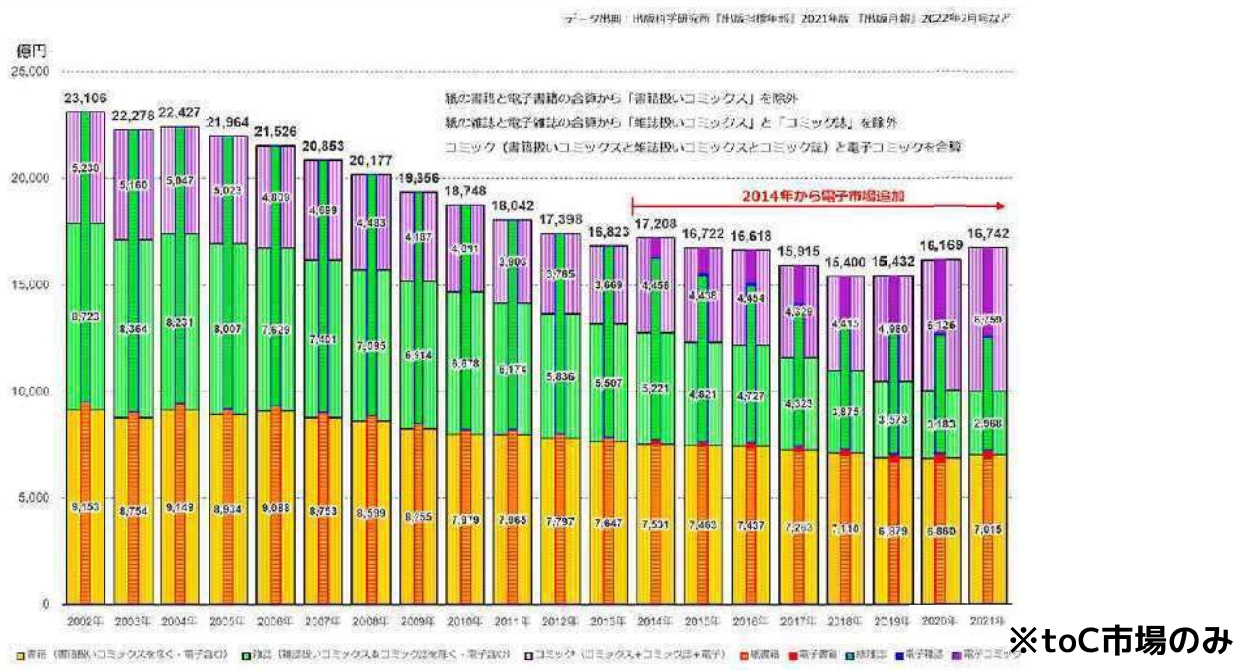


1. 出版市場のいま
2. 出版市場に含まれない領域
3. 電子図書館（電子書籍貸出サービス）のいま

出版市場推移



コミックを別にした市場推移



大手出版社は空前の好決算

- 講談社：売上高1707億7400万円
当期純利益155億5900万円（2021年11月期）
- 小学館：売上高1057億2100万円
当期純利益59億9500万円（2022年2月期）
- KADOKAWA：売上高2212億0800万円
当期純利益140億7800万円（2022年3月期）
- 集英社：売上高約1951億9400万円
当期純利益268億4500万円（2022年5月期）

伝統的な出版領域の割合は減っている

- 講談社：事業収入 910億2800万円（53.3%）
うちデジタル関連収入 704億円（41.2%）
- 小学館：デジタル収入 382億8700万円（36.2%）
著作権収入等 78億6400万円（10.6%）
- KADOKAWA：出版（電子書籍含む）以外（映像、ゲーム、ウェブ等） 882億3600万円（39.9%）
- 集英社：事業収入 1261億5700万円（64.6%）
うちデジタル 602億4100万円（30.9%）

デジタル化による恩恵（製造・流通）

- 印刷・製本コストがかからない
（紙は発行部数にもよるが、おおむね定価の20～30%が印刷・製本コスト）
- 物流コストや時間がかからない

著者	出版社				取次	書店
印税	編集制作	印刷製本	広告宣伝	利益	物流	販売

デジタル化による恩恵（流通）

- 「返本」リスクがない
- 場所をとらない（保管コスト）
- 絶版になる可能性が低い



朝日新聞記事（2009年6月22日）

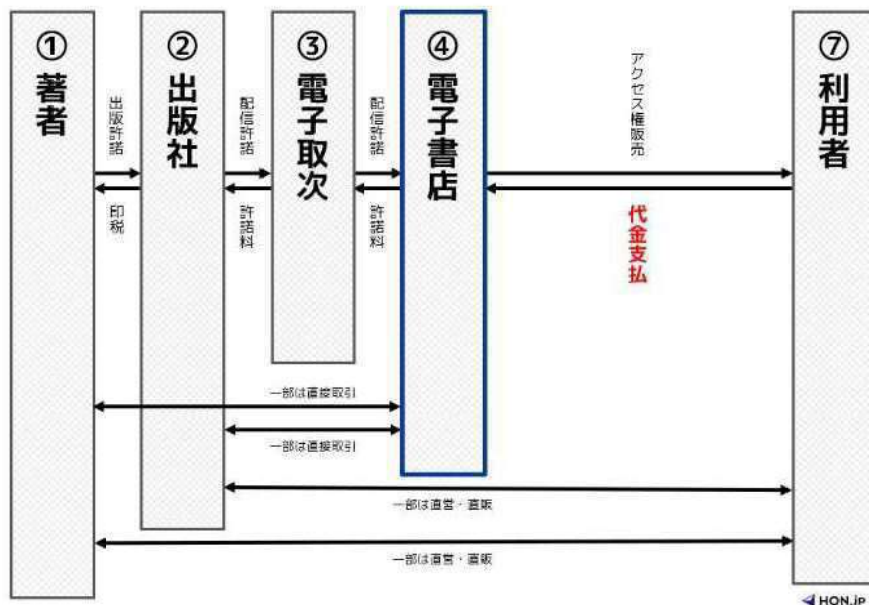
『出版業界の流通革命？返品改善へ「責任販売制」広がる』

<http://book.asahi.com/news/TKY200906210201.html>

→ 10年以上経つが、ほとんど広がっていないのが現状

電子書店の流通経路

電子書店におけるコンテンツの流通経路とプレイヤー



1. 出版市場のいま
2. 出版市場に含まれない領域
3. 電子図書館（電子書籍貸出サービス）のいま

『出版指標年報』の統計の読み方

2019年版まで

本書の統計の読み方

- ① この統計は、取次ルート（弘済会・即売卸売業者を含む）を経由した一般出版物を対象にその流通動態を推計したもので、日本の全出版物を対象にしたものではない。したがって、検定教科書、直販ルート（一部の雑誌を除く）の出版物および一般市販されない官庁出版物等は含んでいない。
95年7月に公正取引委員会が発表した「事業者アンケート調査」によると、流通経路別の販売比率は、取次ルート（弘済会・即売卸売業者を含む）が書籍の7割近く、雑誌の9割強を占めている。
- ② この統計数値は、小売りベース（最終需要者が購入する価格）のものである。ただし、消費税は含んでいない。
- ③ この統計の年計数値は、年度ではなく暦年（1～12月）のものである。

2020年版から

本書の統計の読み方

- ① この統計は、取次ルート（弘済会・即売卸売業者を含む）を経由した一般出版物を対象にその流通動態を推計したもので、日本の全出版物を対象にしたものではない。したがって、検定教科書、直販ルート（一部の雑誌を除く）の出版物および一般市販されない官庁出版物等は含んでいない。
- ② この統計数値は、小売りベース（最終需要者が購入する価格）のものである。ただし、消費税は含んでいない。
- ③ この統計の年計数値は、年度ではなく暦年（1～12月）のものである。

“95年7月に公正取引委員会が発表した「事業者アンケート調査」によると～”以下の記述が消えた。

『出版指標年報』の電子出版市場

⑧ 電子出版の市場統計は、出版社、電子書籍ストア、電子取次会社へのヒアリングを基に推計し、小売り額としての販売金額（読者が支払った金額、税抜）を算出した。

- 徹底的な秘密主義のECストア（大手）で売れた額がわからない
- ブラックボックスは、他社からのヒアリングで埋めるしかない
- ヒアリング対象外の数字が抜ける



同人誌（紙）

		(単位：百万円、%)				
分野	算出ベース	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度予測
アニメ	制作事業者売上高ベース 前年度比	268,000 107.2	290,000 108.2	300,000 103.4	275,000 91.7	280,000 101.8
同人誌	小売金額ベース 前年度比	79,703 100.0	87,000 102.9	85,500 104.3	71,300 86.0	80,000 107.7
プラモデル	国内出荷金額ベース 前年度比	27,500 100.0	27,800 101.1	29,200 105.0	38,300 131.2	45,000 117.5
フィギュア	国内出荷金額ベース 前年度比	31,900 99.7	31,000 97.2	31,200 100.6	32,700 104.8	33,000 100.9
トール	国内出荷金額ベース 前年度比	11,100 104.7	11,400 102.7	11,500 101.8	10,200 87.9	9,800 96.1
鉄道模型	国内出荷金額ベース 前年度比	11,300 107.6	11,000 97.3	10,500 95.5	11,500 109.5	11,900 103.5
アイドル	ユーザー消費金額ベース 前年度比	215,000 119.0	240,000 111.6	261,000 108.8	140,000 53.6	150,000 107.1
ブロード	ユーザー消費金額ベース 前年度比	13,000 103.2	13,700 105.4	14,300 104.4	12,000 83.9	12,600 105.0
コスプレ衣装	国内出荷金額ベース 前年度比	35,500 93.6	35,500 97.3	35,000 98.6	24,000 68.6	26,000 108.3
メイド・コスプレ 関連グッズ	事業者売上高ベース 前年度比	11,400 102.7	11,600 101.8	11,900 102.6	8,800 73.9	9,300 105.7
ボーカロイド	小売金額ベース 前年度比	10,000 104.2	10,400 104.0	10,710 103.0	9,750 91.0	9,280 95.2
トイガン	国内出荷金額ベース 前年度比	8,000 101.3	8,400 105.0	8,500 101.2	9,000 105.9	9,200 102.2
サブカルゲーム	事業者売上高ベース 前年度比	10,400 104.0	10,500 101.0	10,500 100.0	8,600 81.9	8,000 93.0

注1.「ボーカロイド」は歌中、同人誌市場、フィギュア市場、トール市場、コスプレ衣装市場の一部に含まれるコンテンツがある。
注2. 2021年度は予測値

矢野経済研究所調べ



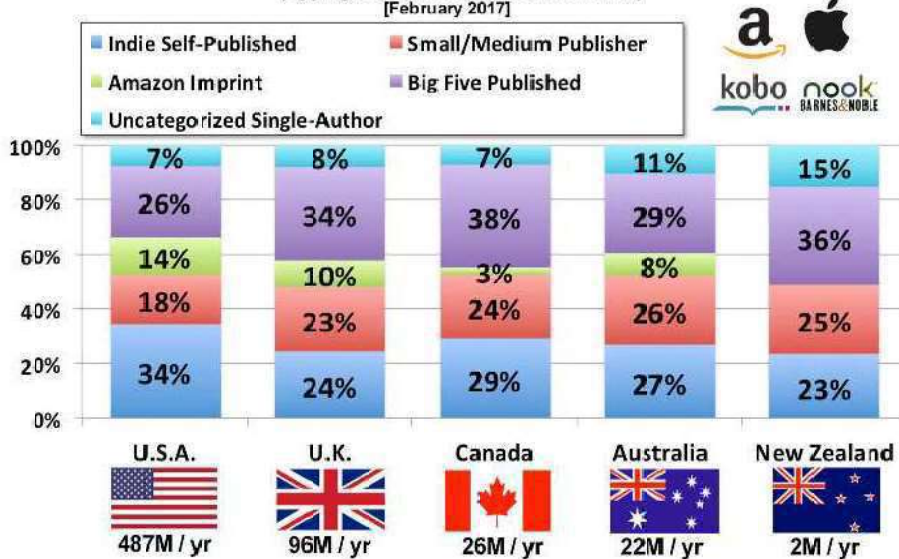
矢野経済研究所「オタク」主要分野別市場規模推移

投稿サイト・セルパブ・同人誌電子版等



Author Earnings (もう存在しない)

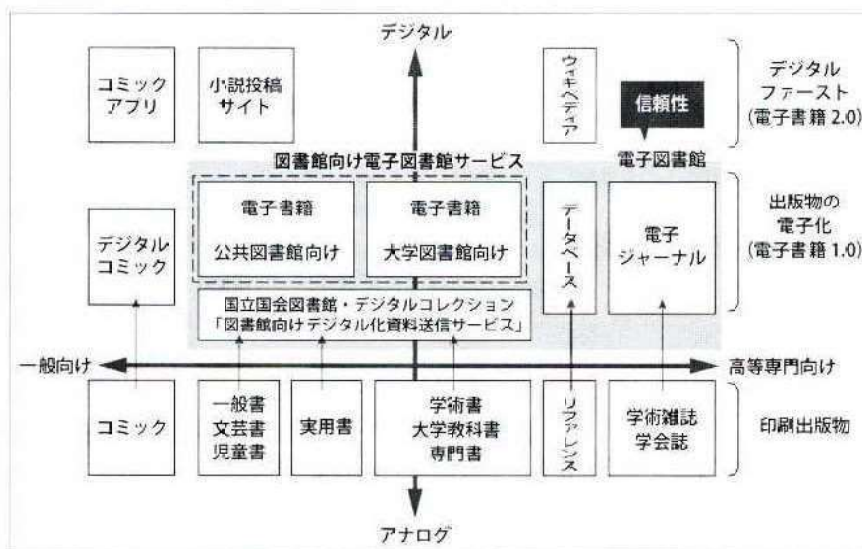
Each Country's Total Ebook Unit Sales Broken Down by Publisher Type
(aggregated across all ebook retailers)
[February 2017]



1. 出版市場のいま
2. 出版市場に含まれない領域
3. 電子図書館（電子書籍貸出サービス）のいま

図書館向け電子図書館サービス

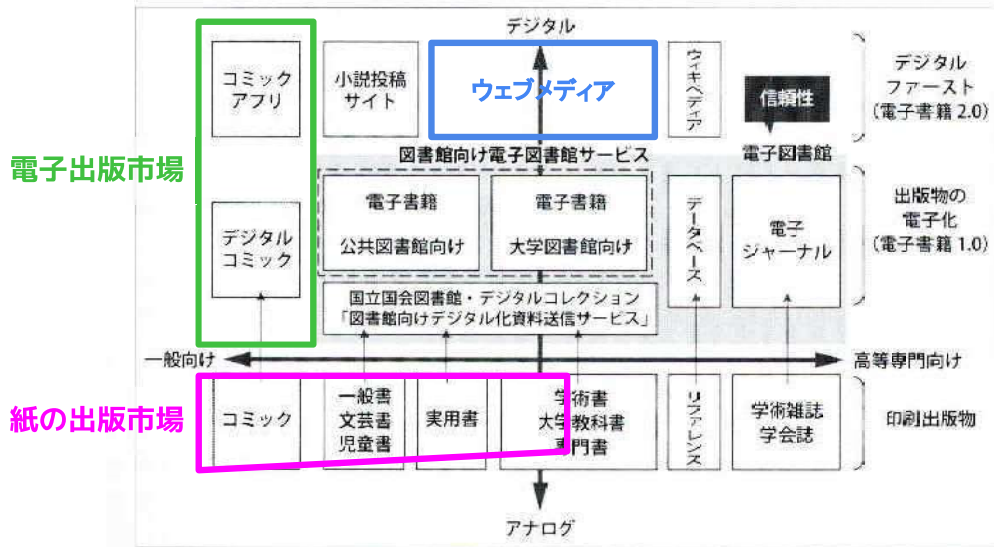
■資料 1.3 電子図書館が扱う電子書籍サービス



電流協『電子図書館・電子書籍貸出サービス 調査報告2021』より引用

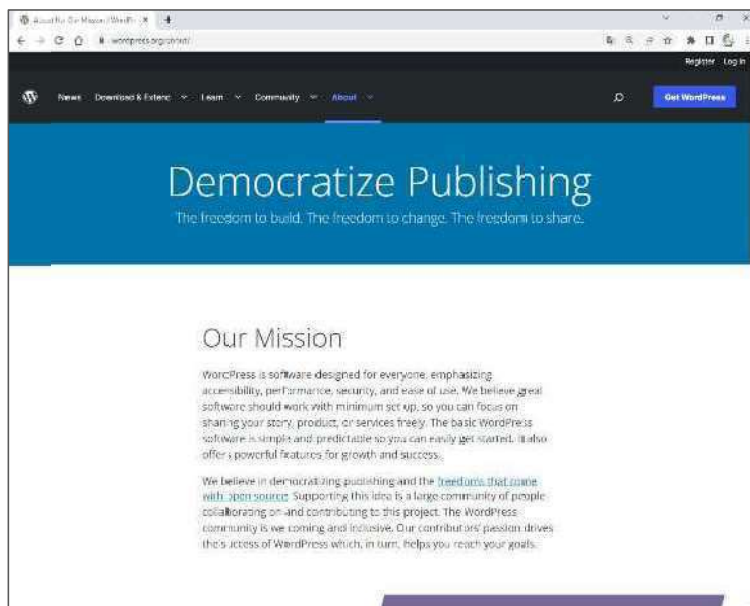
出版市場に含まれない領域

■資料 1.3 電子図書館が扱う電子書籍サービス



電流協『電子図書館・電子書籍貸出サービス 調査報告2021』より引用、加筆

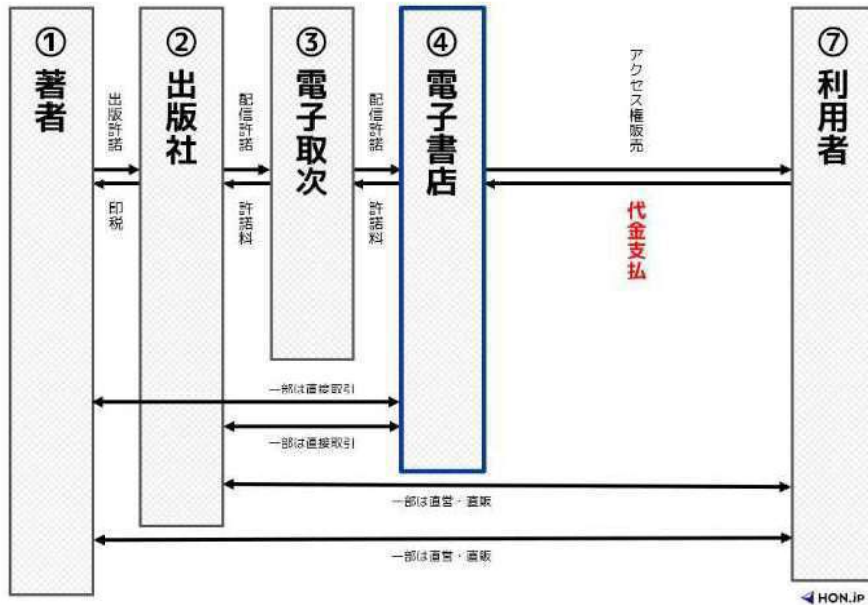
Democratize Publishing



<https://wordpress.org/about/>

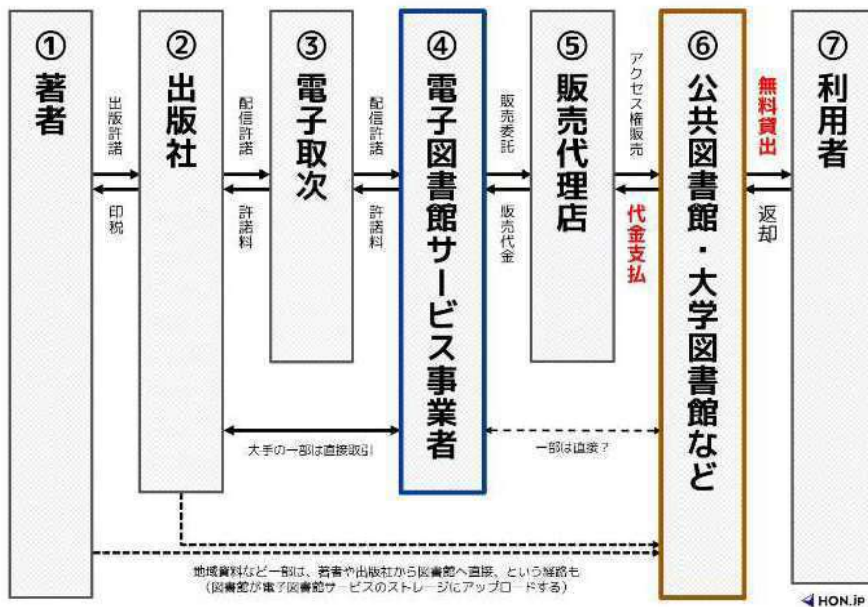
電子書店の流通経路（再）

電子書店におけるコンテンツの流通経路とプレイヤー



電子図書館サービスの流通経路

電子図書館サービスにおけるコンテンツの流通経路とプレイヤー



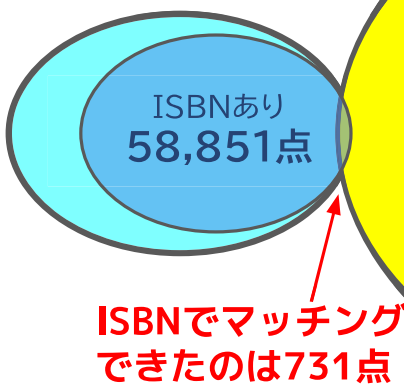
事業者別提供電子書籍コンテンツ数（和書）

事業者名	サービス名	2018年	2019年	2020年	2021年
図書館流通センター	TRC-DL	60,000	74,000	85,000	96,500
メディアドゥ	OverDrive	22,000	31,000	44,260	47,306
丸善雄松堂	Maruzen eBook Library	60,000	70,000	80,000	120,000
KCCS	ELCIELO	-	-	3,000	6,000
紀伊國屋書店	Kinoden	12,000	20,000	28,000	40,000
日本電子図書館サービス(JDLS)	LibrariE	40,000	52,000	61,000	74,000
Gakken	学研図書ライブラリー	80	80	80	900
EBSCO Japan	EBSCO eBooks	3,000	3,000	3,000	13,000
ポプラ社	Yomokka!	-	-	-	800

『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告2021』より。単位はタイトル数。各社の申告数値を集計しており、一部重複がある。2020年以降は「オーディオブックの電子書籍」を含む。パブリックドメインコンテンツ（青空文庫等）は除いた数値。

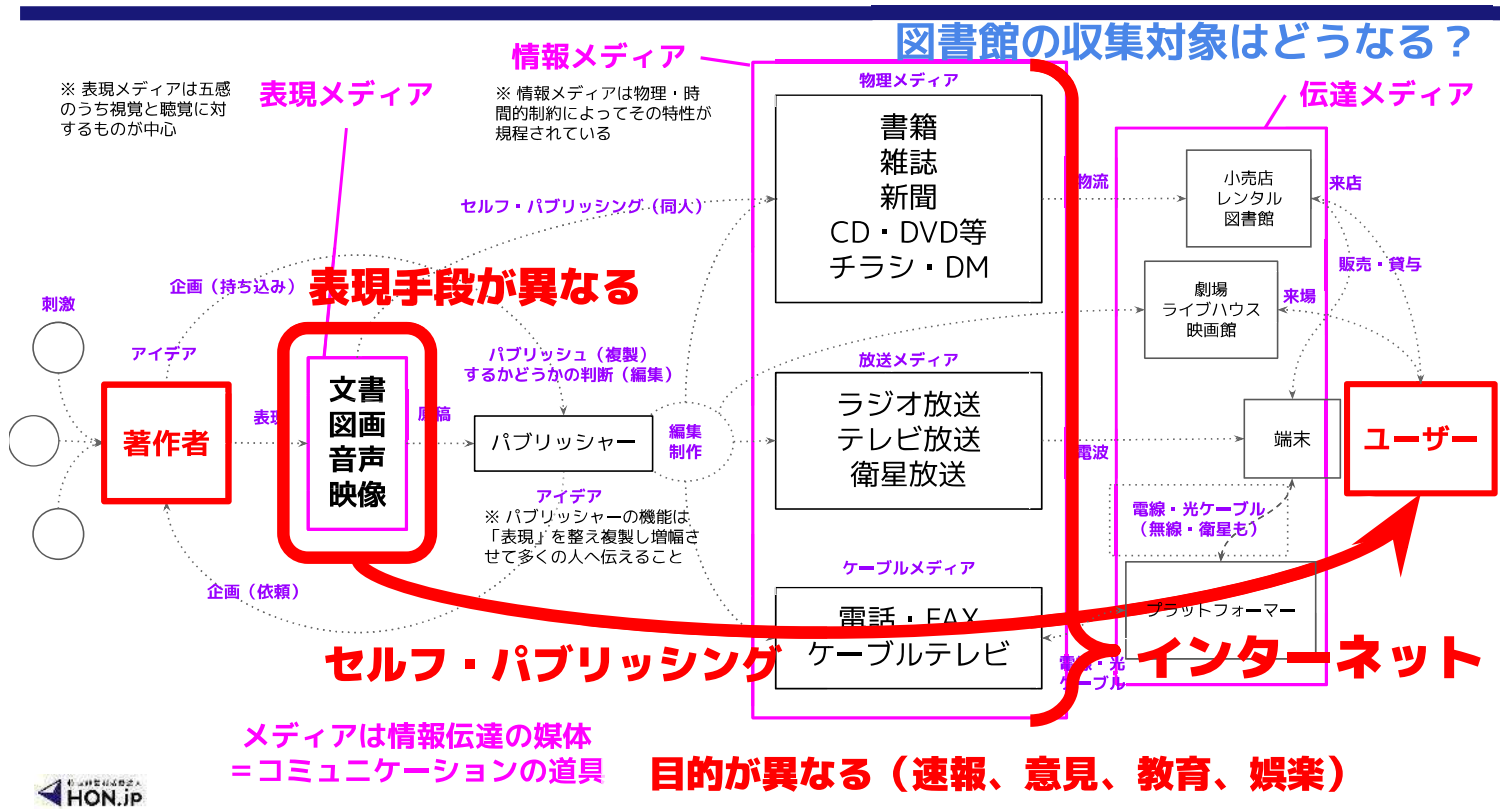
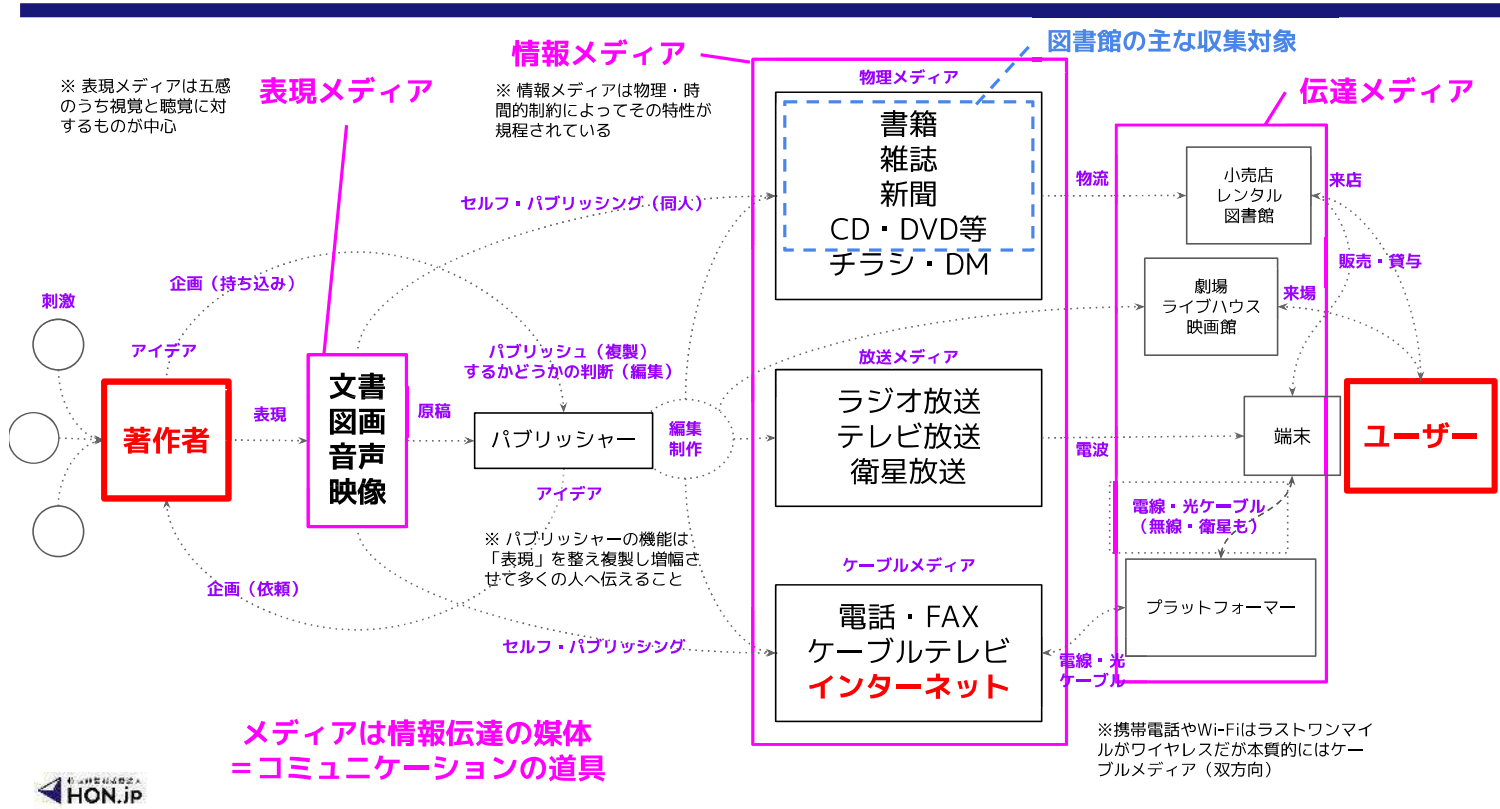
電子図書館と電子書店のラインアップ比較


Maruzen eBook Library
75,324点
(2021年12月時点)



ISBNあり
423,055点

BOOK☆WALKER
771,723点
(2021年10月時点)



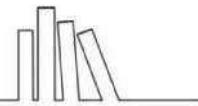


私立大学図書館協会東地区部会研修会
2022年10月17日



国立国会図書館の 個人向けデジタル化資料送信サービスとその周辺

国立国会図書館 利用者サービス部サービス企画課 福林靖博

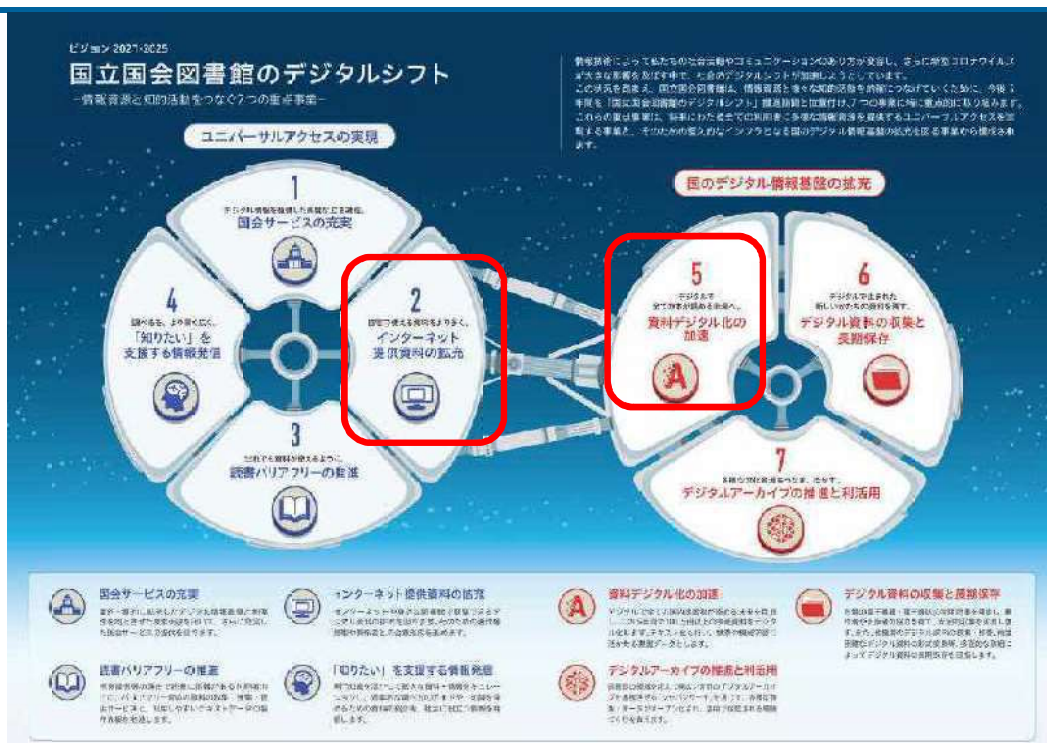


 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

本日の内容

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

- 国立国会図書館のビジョン
- 所蔵資料デジタル化の推進
- デジタル化資料の個人への送信
- デジタル化資料の利活用 全文テキストとイメージ
- ジャパンサーチ



所蔵資料デジタル化事業の経緯

2000年	資料デジタル化を開始。著作権処理を行いインターネットで公開（2～4万冊／年）
2008年	資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会発足
2009年	著作権法改正（NDLで保存目的のデジタル化が明確化）
2009～2011年	大規模デジタル化事業実施（2009年度、2010年度補正予算） 図書66万点、雑誌22万点、古典籍7万点、博士論文14万点、官報等のデジタル化実施。
2012年	著作権法改正（図書館等への絶版等入手困難な資料の送信が可能に）
2014年	図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）開始
2015年	災害関係資料のデジタル化（2014年度補正予算）図書約6万点、雑誌約2万点のデジタル化
2018年	著作権法改正（外国の図書館等へも絶版等入手困難な資料の送信が可能に）
2019年	外国の図書館等にも図書館向けデジタル化資料送信サービスを拡大 デジタル化内製の実験プロジェクト開始
2021年	国内刊行図書のデジタル化（2020年度補正予算）、資料デジタル化推進室の設置 「資料デジタル化基本計画2021-2025」の策定 著作権法改正（特に第31条第3項：絶版等資料の個人（家庭）への送信） 国内刊行図書のデジタル化（2021年度補正予算）
2022年	個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）開始 国立国会図書館デジタルコレクションリニューアル（12月予定）

資料デジタル化基本計画2021-2025

評価要素	<ul style="list-style-type: none"> 唯一性・希少性 資料の利用機会の拡大（インターネット公開や図書館・個人送信が見込まれるか） 資料の劣化状況、保存の緊急性 デジタル化への社会的・学術的ニーズ 国や世界の体系的なデジタルコレクション構築への貢献
対象資料	<p>日本で刊行された資料（外国刊行の日本語資料・日本関係資料も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書（2000年までに刊行されたもの）※官庁出版物はそれ以降も含む 雑誌（刊行後5年以上経過したもの） 古典籍資料 録音・映像資料 博士論文 他（憲政資料、日本占領関係資料、日系移民関係資料、地図、新聞<試行>）
利用提供	<ul style="list-style-type: none"> 「国立国会図書館デジタルコレクション」で提供 本文テキストデータの作成を推進し、全文検索を可能に デジタル化済み原資料は原則として利用停止 公開範囲：館内限定・図書館送信・インターネット公開

https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/digitization_plan2021.pdf

5

補正予算による所蔵資料デジタル化の加速

2020年度補正予算（第3号）

項目	概要
図書資料のデジタル化	1987年までに整理した国内刊行図書のデジタル化 約45億円 ※社会科学分野、人文科学分野の一部（大半が入手困難資料）
デジタル化設備の整備	館内で所蔵資料のデジタル化を行うためのブックスキャナ等導入
全文テキスト化の推進	デジタル化済み資料のOCRによる全文検索用のテキスト化 OCR精度向上に向けた研究開発
電子書庫機能の拡張等	ストレージ増強・国立国会図書館デジタルコレクションの改修

視覚障害者の方の
読み上げ用にも

2021年度補正予算（第1号）

項目	概要
図書資料のデジタル化	1987年までに整理した国内刊行図書のデジタル化 約37億円 ※人文科学分野、自然科学分野の一部（大半が入手困難資料）
全文テキスト化の推進	視覚障害者向け（読み上げ用）OCR処理プログラムの研究開発
電子書庫機能の拡張等	ストレージ増強・視覚障害者向けの全文テキストデータ提供機能の拡張

⇒成果の提供は2022年から段階的に

6

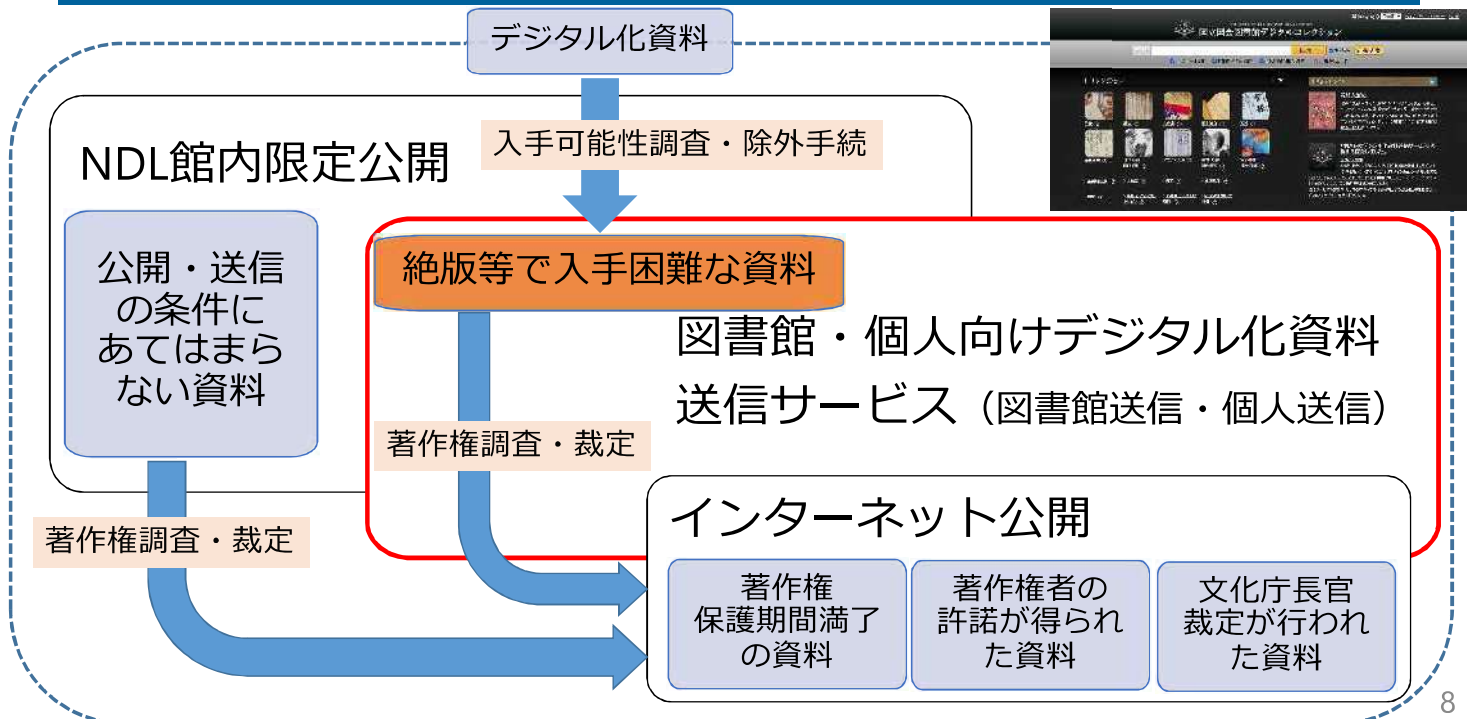
所蔵資料デジタル化事業の現況

資料	これまでの取組	インターネット公開	図書館/個人送信	NDL館内限定	合計	昨年度からの取組
図書	明治期以降、1968年までに受け入れた図書 震災・災害関係資料の一部（1968年以降に受け入れたものを含む。）	36万点	54万点	38万点	128万点	2000年までに刊行・受入したもの（対象：約170万冊） ※官庁出版物は2000年以降も含む ※5年間で100万冊以上のデジタル化を目指す
雑誌	明治期以降に刊行された雑誌（刊行後5年以上経過したもの）	2万点	82万点	51万点	135万点	刊行後5年以上経過した雑誌 →学協会等からデジタル化要望があるものを優先する。
博士論文	1990～2000年度に送付を受けた論文	2万点	13万点	2万点	16万点	1989年度以前に送付を受けたもの。
新聞	未提供	-	-	-	-	試行（日本新聞協会と合意したもの等。ただし、商用データベース等で提供されているものは対象外。）
その他	古典籍、地図、官報、録音・映像資料、憲政資料、日本占領関係資料等	19万点	4万点	10万点	31万点	（継続） 新たに、日系移民関係資料を追加
※2022年5月時点の提供点数		57万点	152万点	102万点	311万点	

<https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/index.html#situation>

7

個人送信対象資料の概念図



8

デジタル化資料の図書館への送信

2012年	著作権法改正（第31条第3項新設）→図書館等への絶版等入手困難な資料の送信が可能に	（2014年～）図書館送信サービス開始
2018年	同法改正（第31条第3項）→外国の図書館等へ絶版等入手困難な資料の送信が可能に	（2019年～）外国の図書館等に拡大
2021年	同法改正（第31条第3項ほか）→個人（家庭）への絶版等入手困難資料の送信が可能に	（2022年5月～）個人への送信サービス開始

対象資料	<ul style="list-style-type: none"> 絶版等の理由で入手困難な資料 NDLが入手可能性調査を行い市場で流通していないことを確認 ※ただし、漫画・絵本・商業出版による雑誌・管理委託著作物等は除外 出版者・著作権者等の申し出により一定の除外基準に該当するものを送信対象から除外
対象施設	<ul style="list-style-type: none"> 著作権法第31条に規定する「図書館等」 ＝公共図書館、大学図書館、国公立博物館・美術館、国公立の研究機関の図書館 公益法人設置の図書館（個別指定）、公益法人立の博物館・博物館相当施設 ※司書または司書に相当する職員の配置が必要 2019年度から外国の図書館にも送信開始（2018年著作権法改正） 関係者協議での合意に基づき、NDLによる要件確認・承認が必要
参加館数	国内1,364館＋海外5館（2022年6月1日現在）※国内：公立707館、大学621館、専門36館

「[国立国会図書館のデジタル化資料の図書館等への限定送信に関する合意事項](#)」に基づき運用

9

個人向けデジタル化資料送信サービス

- 「国立国会図書館による入手困難資料の個人送信に関する関係者協議会」で協議
- 2021年12月に「国立国会図書館のデジタル化資料の個人送信に関する合意文書」を公表

なぜ	<p>コロナ禍における研究者・学生等からの来館せず利用できる図書館サービスへのニーズの高まり ⇒出版者協議会、図書館休館対策プロジェクト、日本歴史学協会等からのデジタル化資料公開範囲拡大の要望 ⇒「知的財産推進計画2020」「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する報告書」</p>
いつ	2022年5月19日開始 （改正著作権法施行は2022年5月1日）
だれが	国立国会図書館
なにを	<p>国立国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版等により入手困難なもの ⇒図書館送信と同じ範囲（国立国会図書館による入手可能性調査及び出版者・権利者等による除外確認を経たもの。また、3月以内に復刊予定のものも除く） ⇒他の図書館から提供された、国立国会図書館未収かつ入手困難なデジタル化資料の提供も可能（*）</p>
だれに	<p>国立国会図書館登録利用者のうち国内在住かつ当該サービスの利用規約に同意した者 ⇒既に6万人超 ⇒氏名・現住所・生年月日が確認できる身分証明書による本人確認が必要。本登録のみ。 ⇒利用者登録は、来館・郵送・オンラインにより受付。 ※海外への送信は来年度以降に検討予定。</p>
どのように	<p>利用者がID・PWにより「国立国会図書館デジタルコレクション」にアクセス ⇒国立国会図書館オンラインへのログイン時に利用規約への同意が必要。 ⇒学校図書室等の公の施設で100インチ以下のディスプレイを用いてデジタル化資料を見せることも可能。 ⇒当面はストリーミング（閲覧）のみ。プリントアウト（制限なし）は2023年1月から開始予定。 ⇒2022年12月にデジタルコレクションを全面リニューアル予定。デジタル化資料の本文の検索も可能となる予定。</p>
いくらで	無料

10

(*）国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業へのご協力をお願い <https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/data-acceptance.html>

個人送信サービスの流れ

※2022年12月に全面リニューアル予定

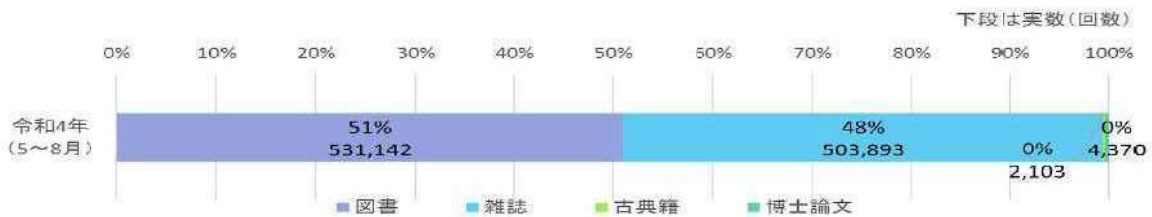


11

参考

個人送信サービスの利用状況

資料種別による利用割合（8月時点）



主題別による利用割合及び利用回数（図書）（8月時点）



日本十進分類法の类目別に集計すると、歴史・地理分野と芸術分野の利用が、提供割合に比して多い。（図書館送信サービスと同様の傾向）

12

- NDL未収、かつ絶版等により入手困難資料となっている資料について公共図書館・大学図書館等がデジタル化したデータを当館にご提供いただき、国立国会図書館デジタルコレクションのデジタル化資料として長期にわたって保存するとともに、オンラインでの幅広い利用に供することを旨とするもの。
- 収集したデジタル化データは国立国会図書館デジタルコレクションを通じて、各資料に応じた範囲で利用提供。
⇒図書館・個人への送信が可能。
- 著作権法第31条1項3号に基づく。
- 「国民の情報アクセスを確保する観点から…望ましい」

「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する報告書」（令和3年2月）
「国立国会図書館のデジタル化資料の個人送信に関する合意文書」（令和3年12月3日）



13

デジタル化資料の全文テキストデータ

(2021年度の取組)

- 「国立国会図書館デジタルコレクション」搭載のほぼ全てのデジタル化資料（約2億2300万画像コマ）の全文テキスト化（検索用）
- オープンソースとして公開可能なOCR処理プログラムの研究開発

(2022年度以降の取組)



1. 全文検索サービス（スニペット表示も）の提供

- NDLラボ上の「次世代デジタルライブラリー」で実験後、「国立国会図書館デジタルコレクション」で247万点分の全文テキストデータを提供（2022.12～）

2. 視覚障害者等向け（読み上げ用）のOCR処理プログラムの研究開発

- 市場で流通しているものを除外のうえ、視覚障害者等用データ送信サービスから提供

3. プログラム&データセットの公開（NDLラボ/GitHub）

- CC BYでOCR処理プログラムを公開 ⇒OCRの更なる精度向上へ
- 膨大なテキストデータの提供 ⇒様々な研究活動へ

4. テキストデータの効果的な利用提供方法の調査研究

- 資料中の図版キャプションの自動抽出による「キャプション検索」、1行単位の「類似文章検索」など
⇒NDLラボ上で実験公開。5月にNDL Ngram Viewer公開（デジタル化資料本文中に特定検索語が表れる頻度を列挙し、時系列で可視化） <https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/>



<https://lab.ndl.go.jp/dl/>

- 2019年3月公開、2020年3月リニューアル
- 実験サービス
- 検索対象：
国立国会図書館デジタルコレクション
(<https://dl.ndl.go.jp/>)でウェブ公開している著作権保護期
間満了の図書・古典籍資料、約33万6千点
本文も検索可能



参考 視覚障害者等へのテキストデータ提供

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）（R元）
⇒「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（R2）
（対象期間：R2～R6）

視覚障害者等用データ送信サービス

依頼による学術文献テキストデータ製作
校正済データ51タイトル
未校正データ123タイトル /FY2021



NDL
「障害者サービス実施計画 2021-2024」

FY2022～（予定）未校正テキストデータ
247万件から 市販アクセシブル電子書籍等除く

NDLイメージバンク

<https://rnavi.ndl.go.jp/imagebank/>

- 国立国会図書館所蔵の浮世絵、雑誌、図書などから、選りすぐりのビジュアル資料を紹介するオンライン展示。
- 歌川広重や川瀬巴水の描いた美しい日本の風景画や、大正ロマンを象徴する画家竹久夢二の描く可憐な美人画の人気作のほか、雛祭り、お花見、花火など四季の風物を描いた江戸の浮世絵、文様・図案・デザイン等も多数収録。
- 著作権保護期間を満了した画像を利用しているので、年賀状、オリジナルグッズづくりなど、様々な用途に活用可能。



17

ジャパンサーチ：概況

● デジタルアーカイブの検索・閲覧・活用基盤

さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携し、我が国の多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索・閲覧・活用

- **36**連携（つなぎ役）機関から、**185**データベース・メタデータ約**2,600**万件を検索可能（2022年9月現在）
- **国全体の取組**
運用主体：デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会（事務局：内閣府）
システムの開発・運用担当：国立国会図書館
- **実験的な技術の取込**

類似のサムネイル画像の検索
ローマ字読みの自動生成



ジャパンサーチトップ画面
<https://jpsearch.go.jp/>

18



「キュレーション学習」の特徴⑦

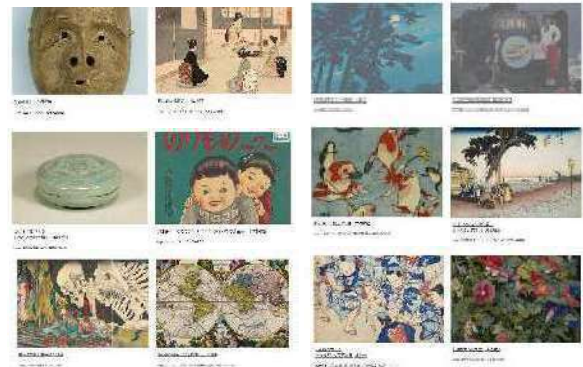
- ①通常の講義授業→
 - ②教科書をもとに→
 - ③自由に「問い」を立て→
 - ④「問い」を構造化→
 - ⑤キュレーション→
 - ⑥議論→
 - ⑦発表
- というサイクルを通年カリキュラムに則して実施。



大井 将生（東京大学大学院情報学環・学際情報学府渡邊英徳研究室）「ジャパンサーチ活用機能の利用事例報告」
(<https://jpsearch.go.jp/static/pdf/event/useevent2021/2.pdf>)

東京農工大学 博物館学芸員実習

長岡造形大学 博物館概論2021（オンライン授業）



勝手気ままに企画展！

<https://sites.google.com/st.nagaoka-id.ac.jp/gairon-2021/%E5%B1%95>



齊藤 有里加（東京農工大学科学博物館 特任助教）
博物館資料のジャパンサーチ掲載と学芸員実習における活用事例
<https://jpsearch.go.jp/static/pdf/event/cooperation202109/05.pdf>

参考

NDLのサービスの見取り図



参考

図書館等公衆送信サービスのイメージ (想定)

